

## IV 区民向け調査結果

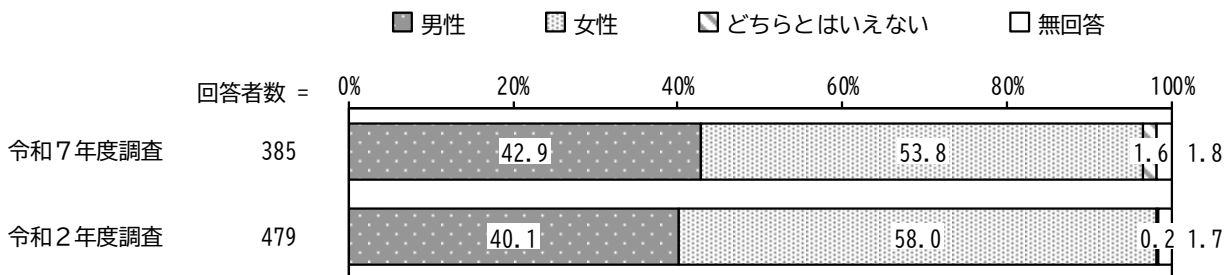


## (1) 回答者属性

### 問1 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

「男性」の割合が42.9%、「女性」の割合が53.8%、「どちらともいえない」の割合が1.6%となっています。

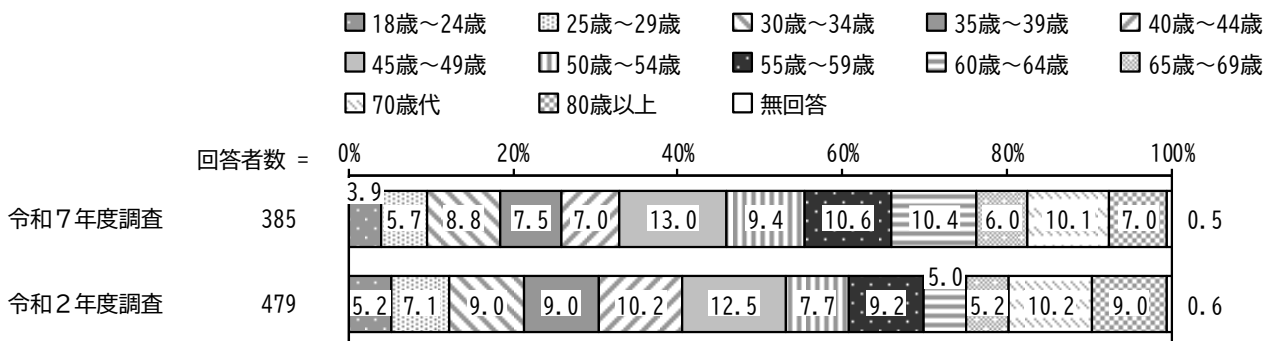
令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



### 問2 あなたの年齢を教えてください。(○は1つ)

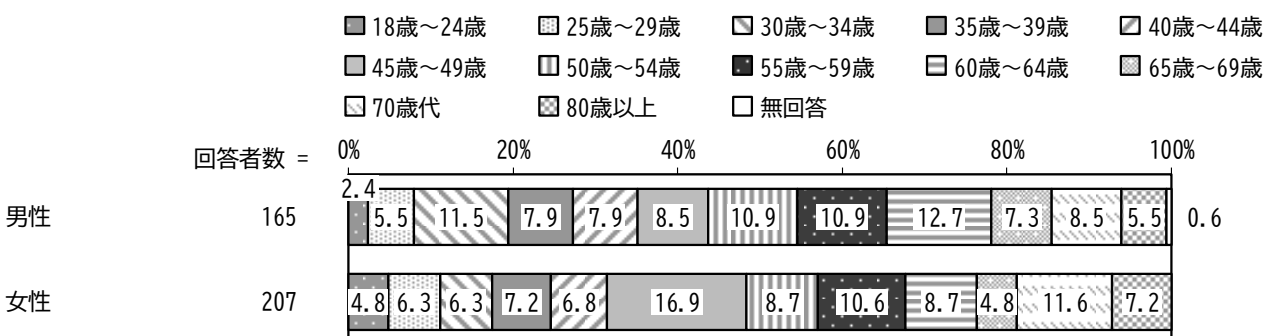
「45歳～49歳」の割合が13.0%と最も高く、次いで「55歳～59歳」の割合が10.6%、「60歳～64歳」の割合が10.4%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「60歳～64歳」の割合は令和2年度調査が5.0%であるのに対し、令和7年度調査で10.4%と、5.4ポイント増加しています。



### 【性別】

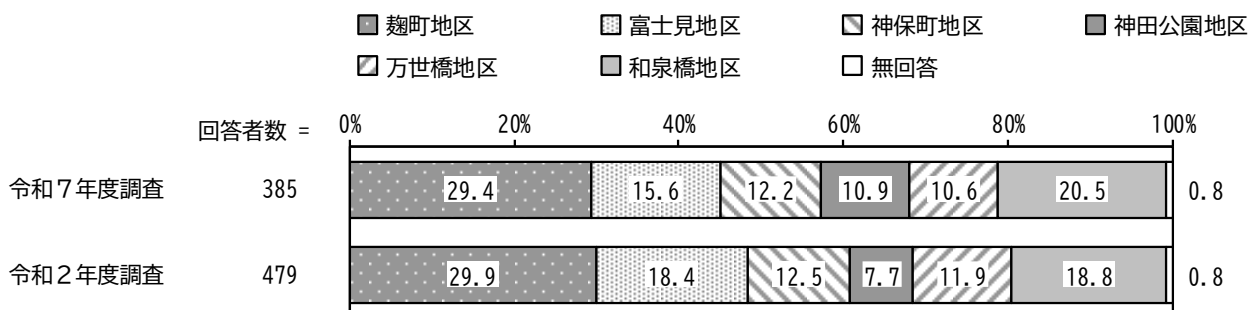
性別にみると、「30歳～34歳」の割合は男性が11.5%、女性が6.3%と、男性の方が5.2ポイント多く、「45歳～49歳」の割合は男性が8.5%、女性が16.9%と、女性の方が8.4ポイント多くなっています。



### 問3 あなたはどの地域にお住まいですか。(○は1つ)

「麴町地区」の割合が29.4%と最も高く、次いで「和泉橋地区」の割合が20.5%、「富士見地区」の割合が15.6%となっています。

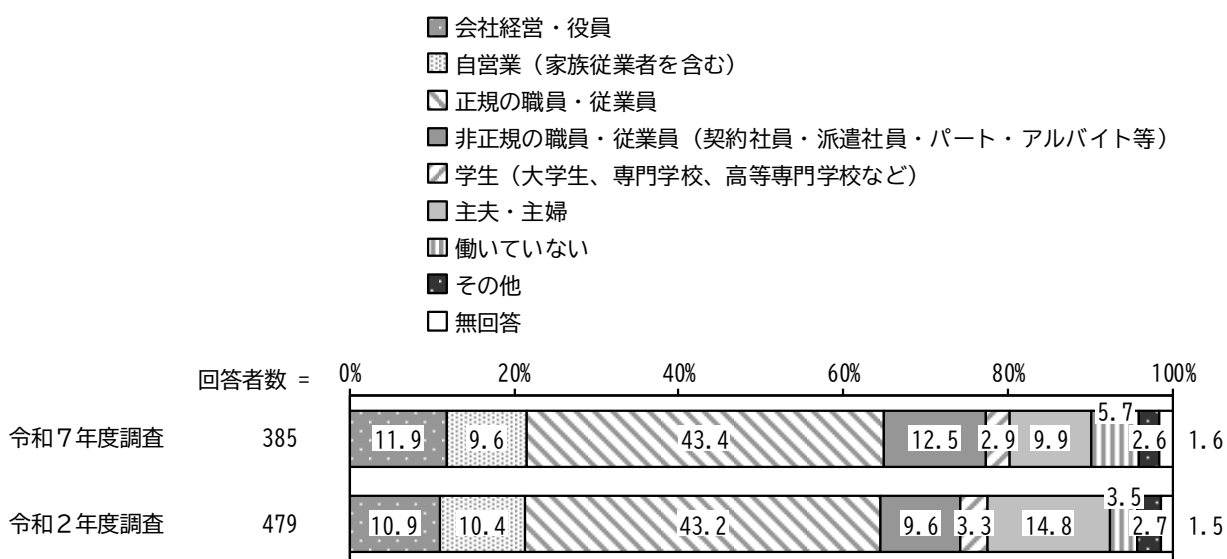
令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



### 問4 あなたのご職業を教えてください。(○は1つ)

「正規の職員・従業員」の割合が43.4%と最も高く、次いで「非正規の職員・従業員（契約社員・派遣社員・パート・アルバイト等）」の割合が12.5%、「会社経営・役員」の割合が11.9%となっています。

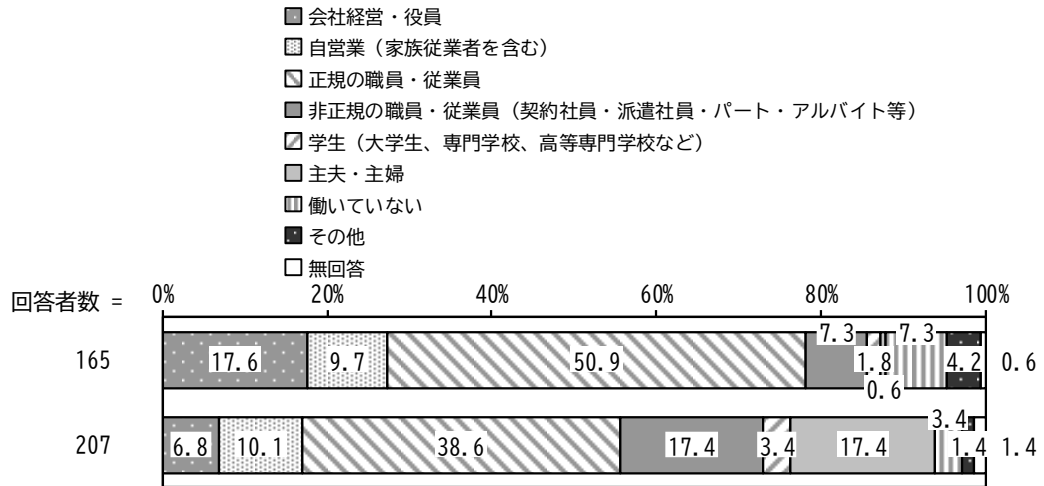
令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



※令和2年度調査では、「正規の職員・従業員」が「正社員・正規職員」、「非正規の職員・従業員（契約社員・派遣社員・パート・アルバイト等）」が「非正規職員（契約社員・派遣社員・パート・アルバイト等）」、「主夫・主婦」が「無職の主夫・主婦」、「働いていない」が「その他の無職」となっていました。

【性別】

性別にみると、「会社経営・役員」の割合は男性が17.6%、女性が6.8%と、男性の方が10.8ポイント多く、「正規の職員・従業員」の割合は男性が50.9%、女性が38.6%と、男性の方が12.3ポイント多くなっています。「非正規の職員・従業員（契約社員・派遣社員・パート・アルバイト等）」の割合は男性が7.3%、女性が17.4%と、女性の方が10.1ポイント多く、「主夫・主婦」の割合は男性が0.6%、女性が17.4%と、女性の方が16.8ポイント多くなっています。

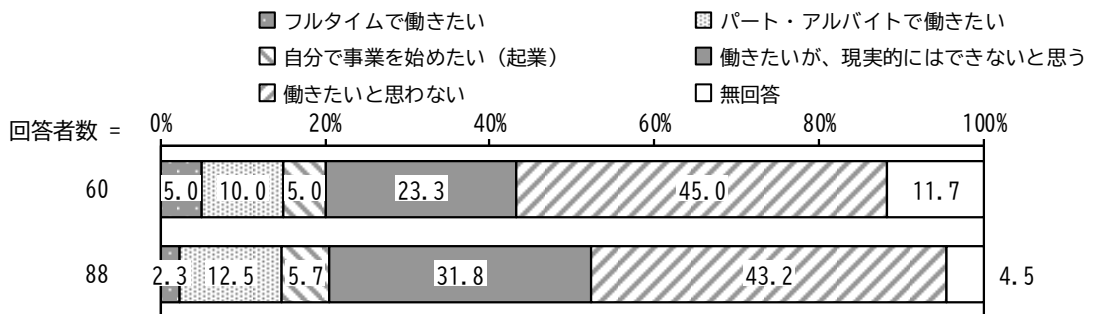


問4で「主夫・主婦」「働いていない」を選択した方にお聞きします。

付問4-1 あなたは今後、働きたいと思いますか。(○は1つ)

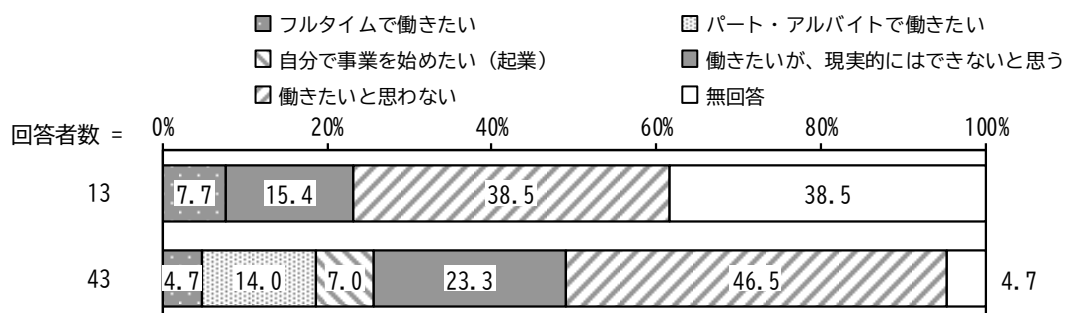
「働きたいと思わない」の割合が45.0%と最も高く、次いで「働きたいが、現実的にはできないと思う」の割合が23.3%、「パート・アルバイトで働きたい」の割合が10.0%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「働きたいが、現実的にはできないと思う」の割合は、令和2年度調査が31.8%であるのに対し、令和7年度調査で23.3%と、8.5ポイント減少しています。



【性別】

性別にみると、「パート・アルバイトで働きたい」の割合は男性が0.0%、女性が14.0%と、女性の方が14ポイント多く、「自分で事業を始めたい (起業)」の割合は男性が0.0%、女性が7.0%と、女性の方が7ポイント多く、「働きたいが、現実的にはできないと思う」の割合は男性が15.4%、女性が23.3%と、女性の方が7.9ポイント多く、「働きたいと思わない」の割合は男性が38.5%、女性が46.5%と、女性の方が8ポイント多くなっています。

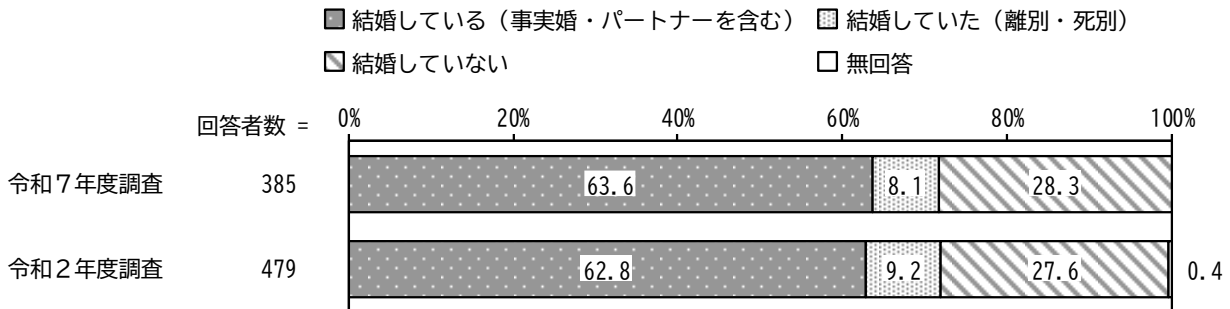


## (2) 家族について

### 問5 あなたは結婚していますか。(○は1つ)

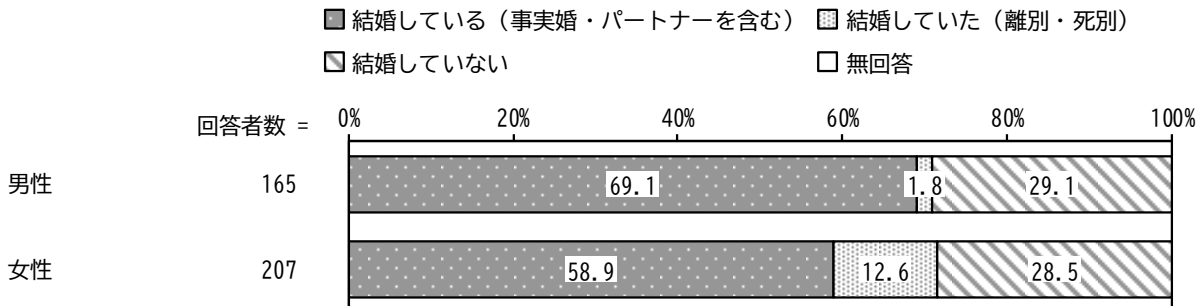
「結婚している（事実婚・パートナーを含む）」の割合が63.6%、「結婚していた（離別・死別）」の割合が8.1%、「結婚していない」の割合が28.3%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



#### 【性別】

性別にみると、「結婚している（事実婚・パートナーを含む）」の割合は男性が69.1%、女性が58.9%と、男性の方が10.2ポイント多く、「結婚していた（離別・死別）」の割合は男性が1.8%、女性が12.6%と、女性の方が10.8ポイント多くなっています。

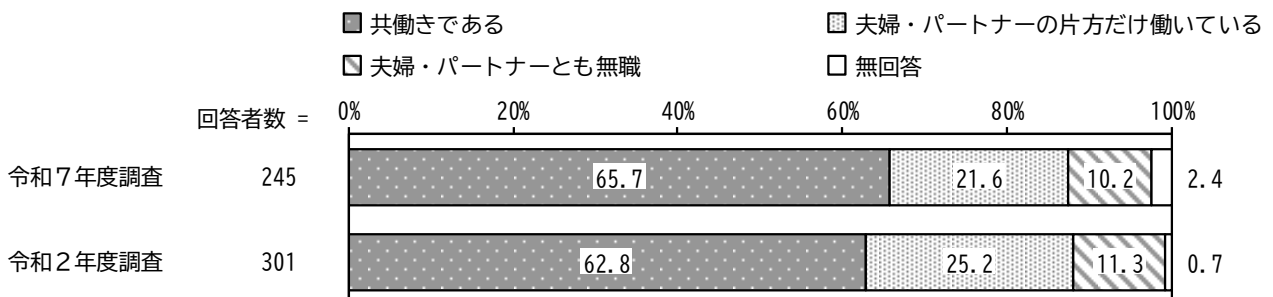


問5で「結婚している（事実婚・パートナーを含む）」を選択した方にお聞きします。

### 付問5-1 あなたは共働きですか。(○は1つ)

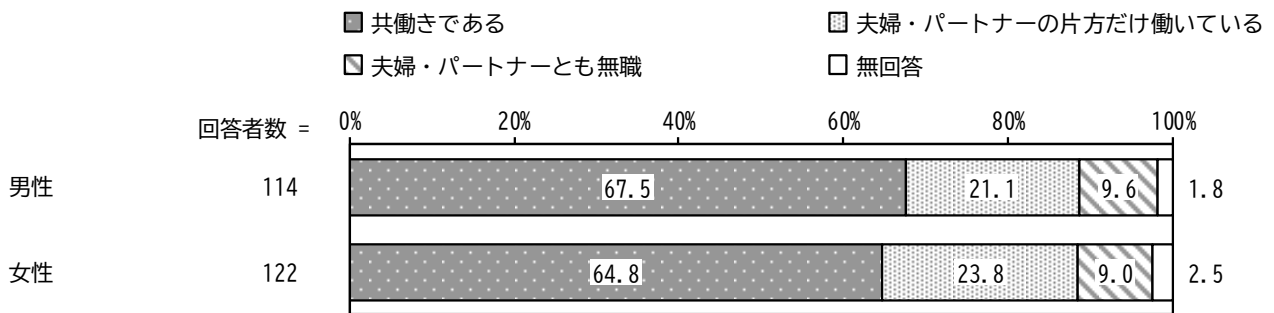
「共働きである」の割合が65.7%、「夫婦・パートナーの片方だけ働いている」の割合が21.6%、「夫婦・パートナーとも無職」の割合が10.2%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「共働きである」の割合は令和2年度調査が62.8%であるのに対し、令和7年度調査が65.7%と、2.9ポイント増加しています。



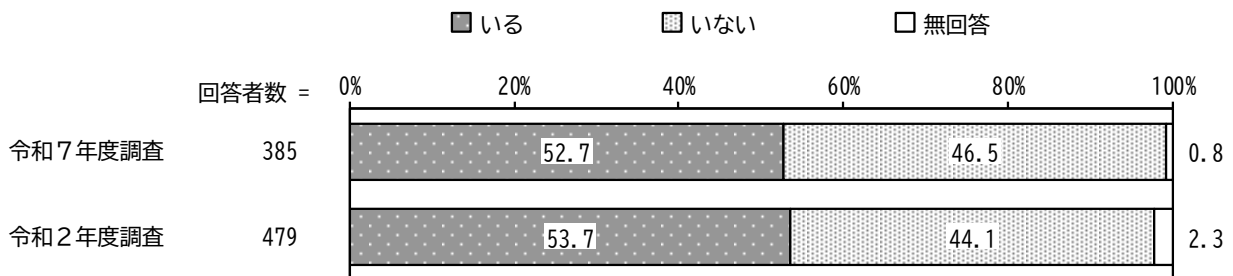
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



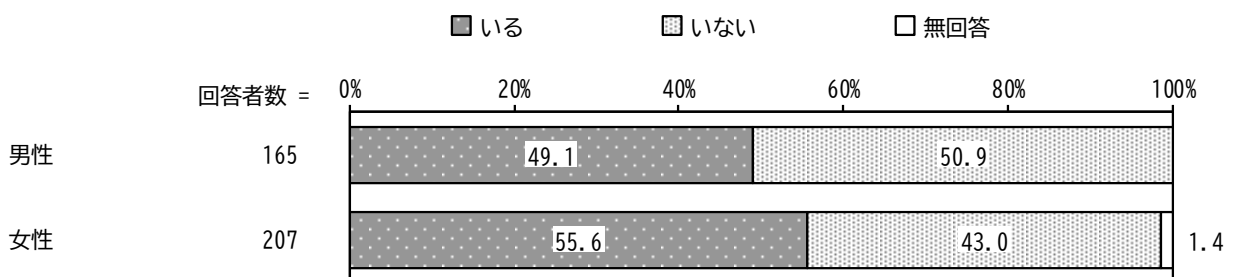
問6 あなたは、お子さんがいますか。(○は1つ)

「いる」の割合が52.7%、「いない」の割合が46.5%となっています。  
令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

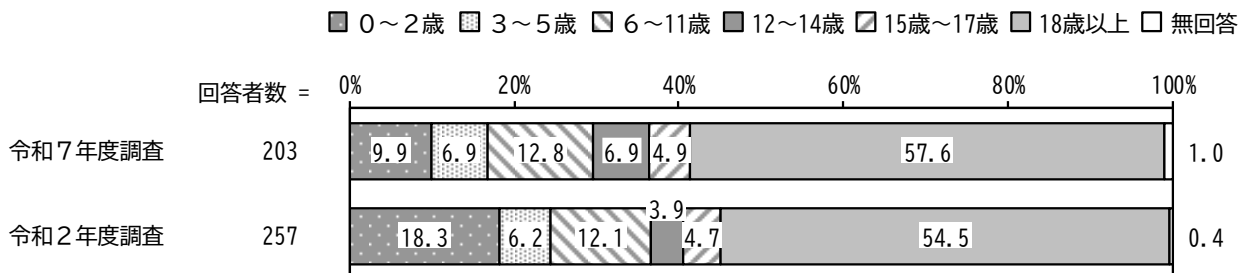
性別にみると、「いない」の割合は男性が50.9%、女性が43.0%と、女性の方が7.9ポイント多くなっています。



問6で「いる」を選択した方にお聞きします。

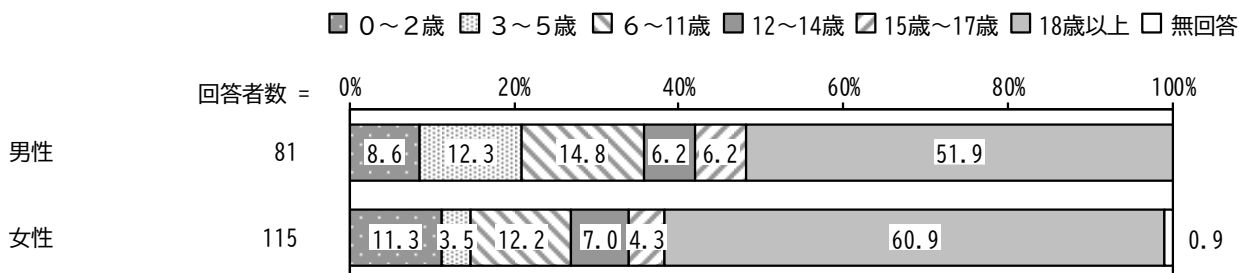
付問6-1 年齢が一番下のお子さんはおいくつですか。令和7年4月1日時点での年齢をお答えください。(〇は1つ)

「18歳以上」の割合が57.6%と最も高く、次いで「6～11歳」の割合が12.8%となっています。令和2年度調査と比較すると、「0～2歳」の割合は令和2年度調査が18.3%、令和7年度調査が9.9%と、8.4ポイント減少しています。



【性別】

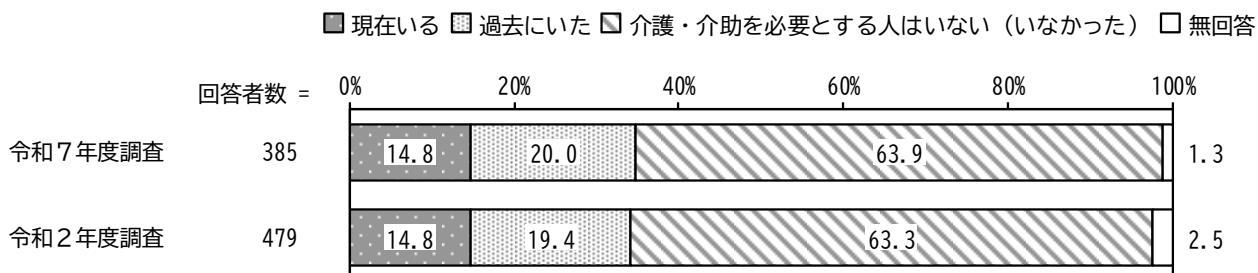
性別にみると、「3～5歳」の割合は男性が12.3%、女性が3.5%と、男性の方が8.8ポイント多く、「18歳以上」の割合は男性が51.9%、女性が60.9%と、女性の方が9ポイント多くなっています。



問7 あなたのご家族・ご家庭には、介護・介助を必要とする方はいますか。または過去にいましたか。(〇は1つ)

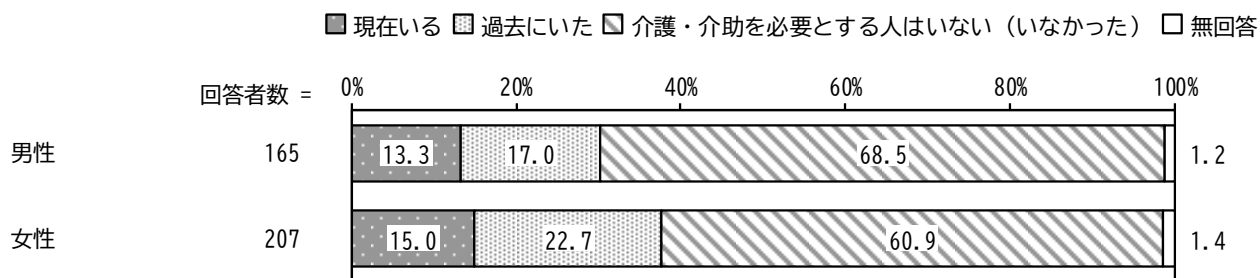
「現在いる」の割合が14.8%、「過去にいた」の割合が20.0%、「介護・介助を必要とする人はいない(いなかった)」の割合が63.9%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別にみると、「介護・介助を必要とする人はいない（いなかった）」の割合は男性が 68.5%、女性が 60.9%と、男性の方が 7.6 ポイント多く、「過去にいた」の割合は男性が 17.0%、女性が 22.7%と、女性の方が 5.7 ポイント多くなっています。

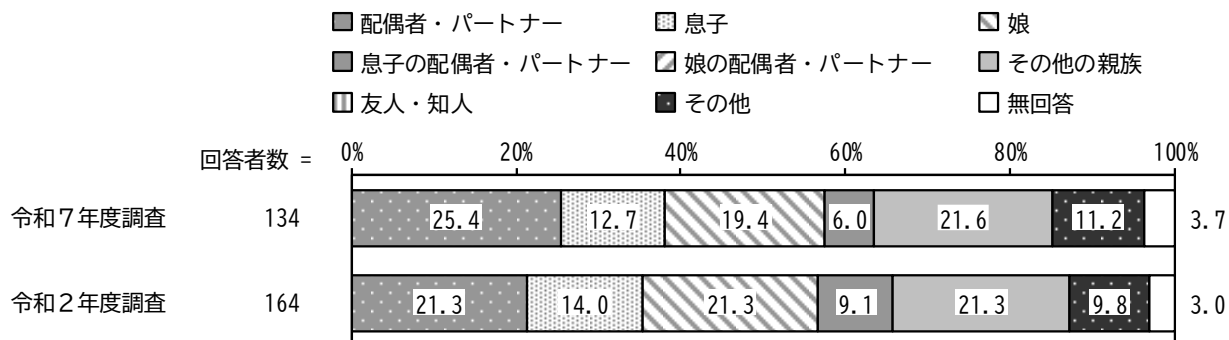


問7で「現在いる」「過去にいた」を選択した方にお聞きします。

付問7-1 その方を主に介護・介助しているのは、介護・介助を受けている方から見てどなたですか。(〇は1つ)

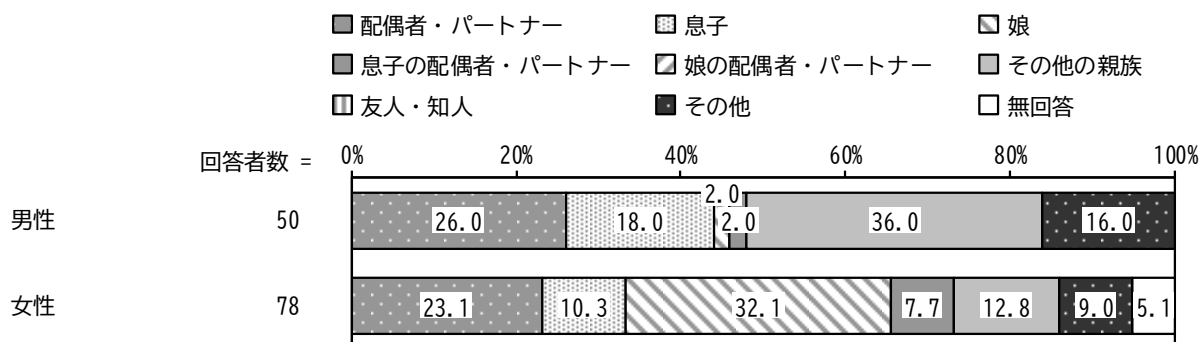
「配偶者・パートナー」の割合が 25.4%と最も高く、次いで「その他の親族」の割合が 21.6%、「娘」の割合が 19.4%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「配偶者・パートナー」の割合は令和2年度調査が 21.3%であるのに対し、令和7年度調査が 25.4%と、4.1 ポイント増加しています。一方、「息子の配偶者・パートナー」の割合は令和2年度調査が 9.1%であるのに対し、令和7年度調査が 6.0%と、3.1 ポイント減少しています。



【性別】

性別にみると、「息子」の割合は男性が 18.0%、女性が 10.3%と、男性の方が 7.7 ポイント多く、「その他の親族」の割合は男性が 36.0%、女性が 12.8%と、男性の方が 23.2 ポイント多くなっています。「娘」の割合は男性が 2.0%、女性が 32.1%と、女性の方が 30.1 ポイント多く、「息子の配偶者・パートナー」の割合は男性が 2.0%、女性が 7.7%と、女性の方が 5.7 ポイント多くなっています。



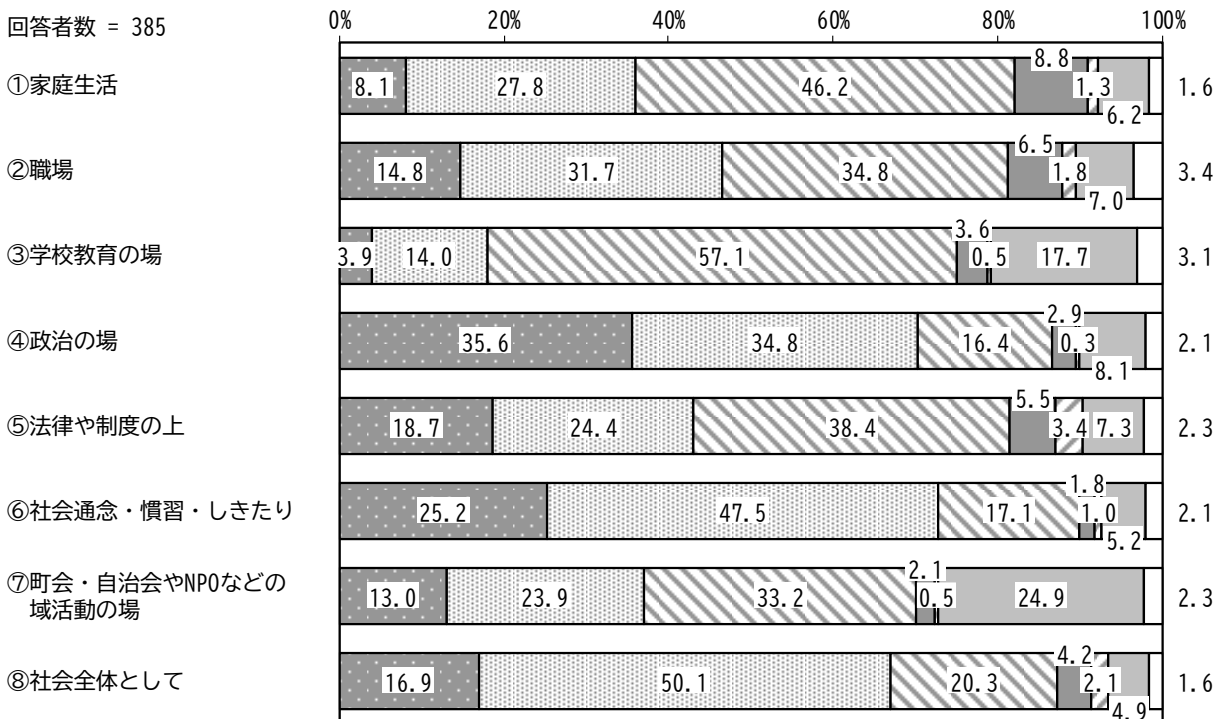
### (3) 日頃の生活について

問8 あなたは、次の分野①～⑧について、性別の違いによって立場の強さが異なると思いますか。(それぞれの項目について○は1つずつ)

『⑥社会通念・慣習・しきたり』で「男性の方が非常に優遇されている（強い立場にある）」と「どちらかと言えば男性の方が優遇されている（強い立場にある）」を合わせた“男性優遇”が72.7%と高く、『③学校教育の場』で「平等だと思っている」が57.1%と高く、『①家庭生活』で「どちらかと言えば女性の方が優遇されている（強い立場にある）」と「女性の方が非常に優遇されている（強い立場にある）」を合わせた“女性優遇”が10.1%と高くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている（強い立場にある）
- ▨ どちらかと言えば男性の方が優遇されている（強い立場にある）
- ▩ 平等だと思っている
- どちらかと言えば女性の方が優遇されている（強い立場にある）
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている（強い立場にある）
- 分からない
- 無回答

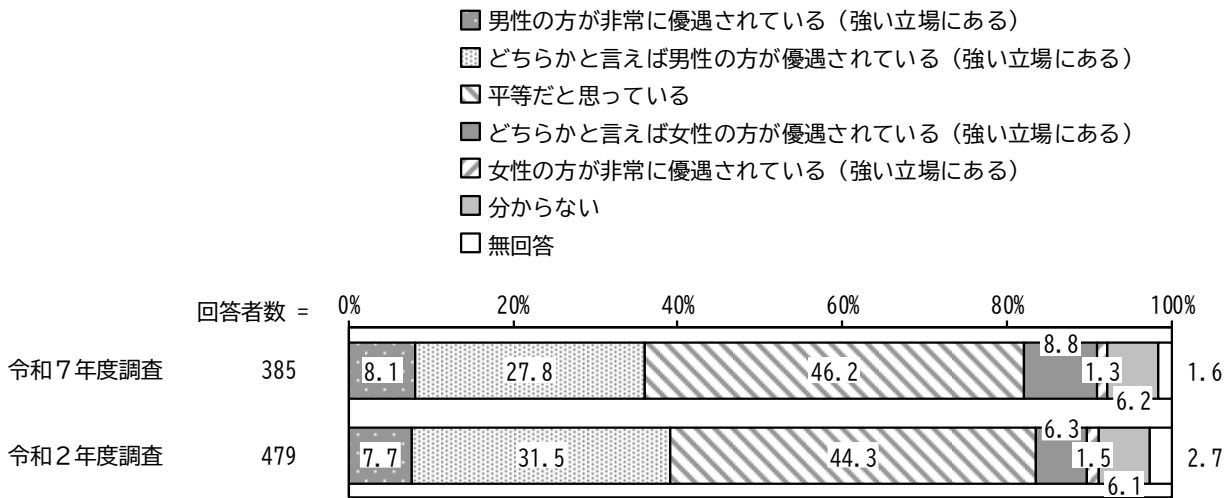
回答者数 = 385



①家庭生活

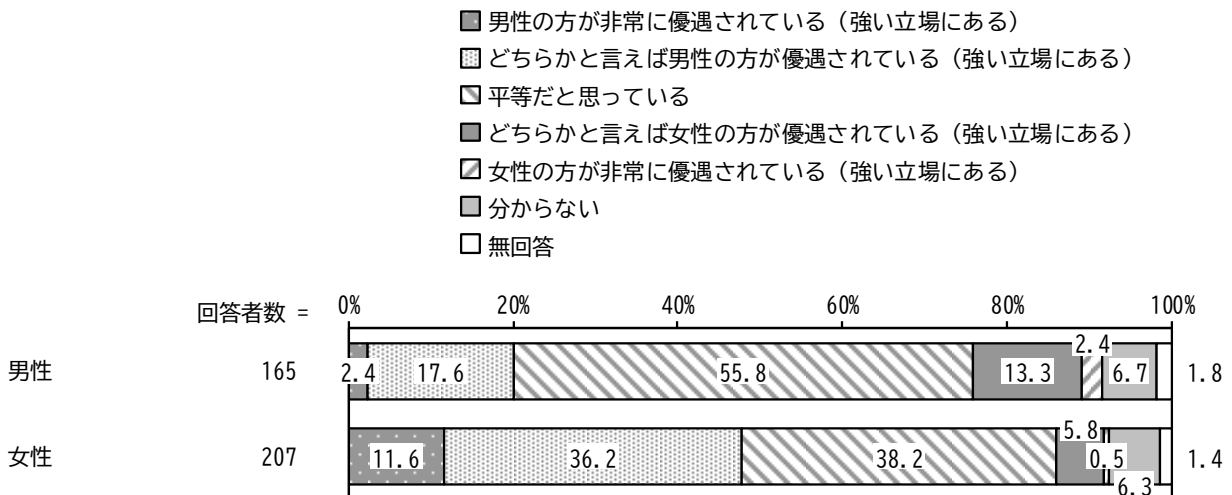
【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、“男性優遇”の割合は令和2年度調査が39.2%であるのに対し、令和7年度調査が35.9%と、3.3ポイント減少しています。



【性別】

性別にみると、「平等だと思っている」は男性が55.8%、女性が38.2%と、男性の方が17.6ポイント多く、“女性優遇”は男性が15.7%、女性が6.3%と、男性の方が9.4ポイント多く、“男性優遇”の割合は男性が20.0%、女性が47.8%と、女性の方が27.8ポイント多くなっています。



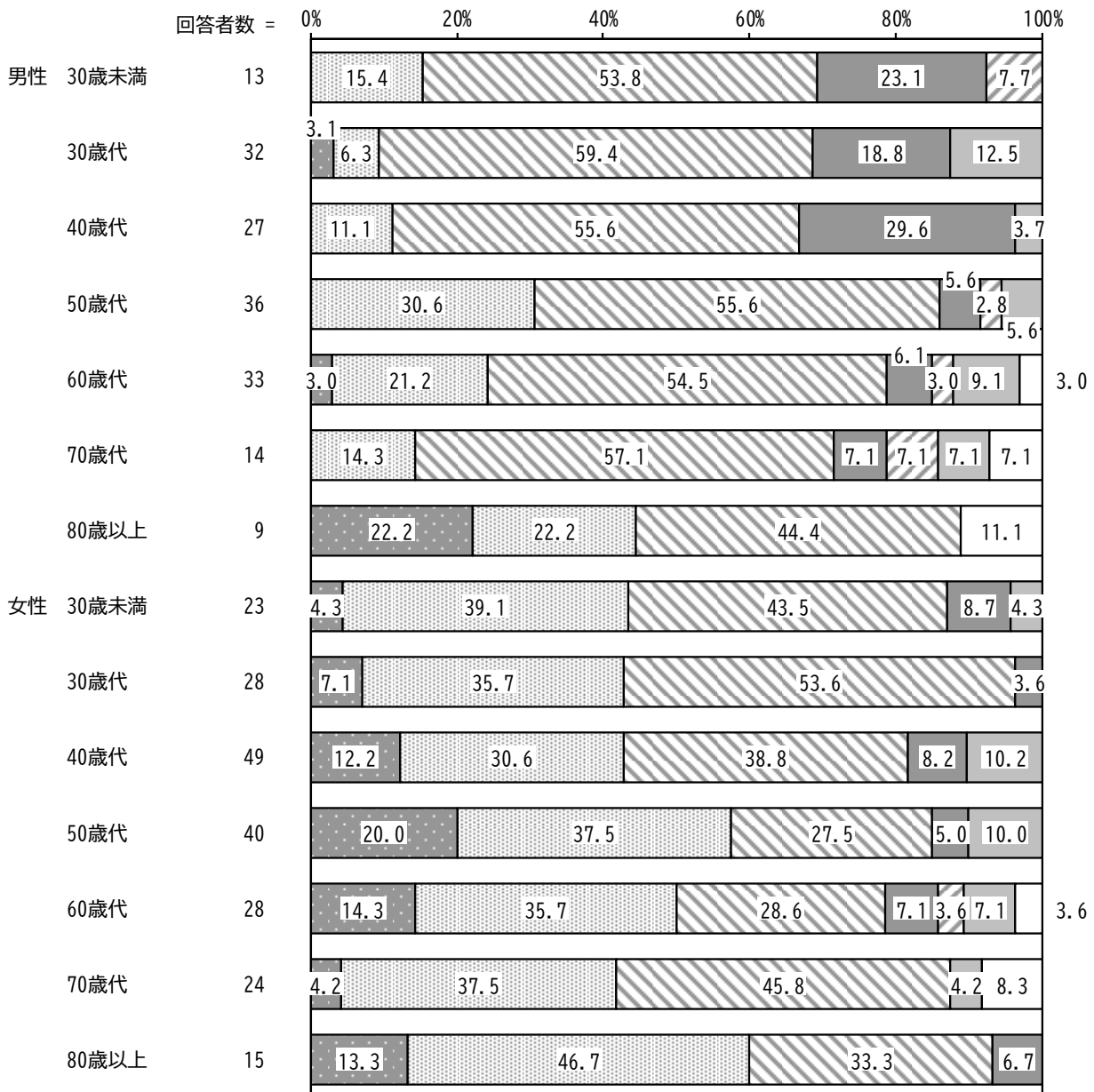
【性・年代別】

性・年代別にみると、“男性優遇”の割合は全体が35.9%であるのに対し、女性50歳代が57.5%、女性80歳以上が60.0%と、20ポイント以上多くなっています。

「平等だと思っている」の割合は全体が46.2%であるのに対し、男性30歳代が59.4%、男性70歳代57.1%と、10ポイント以上多くなっています。

“女性優遇”の割合は全体が10.1%であるのに対し、男性30歳未満が30.8%、男性40歳代が29.6%と、19ポイント以上多くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている（強い立場にある）
- ▨ どちらかと言えば男性の方が優遇されている（強い立場にある）
- 平等だと思っている
- どちらかと言えば女性の方が優遇されている（強い立場にある）
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている（強い立場にある）
- 分からない
- 無回答

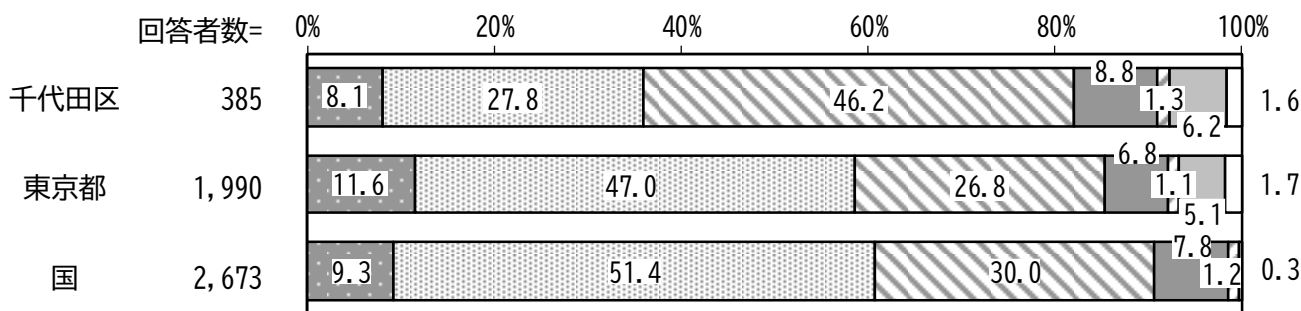


【東京都・国との比較】

東京都・国の調査と比較すると、“男性優遇”の割合は千代田区が35.9%であるのに対し、東京都調査が58.6%、国調査が60.7%と、千代田区の方が（東京都：22.7ポイント、国：24.8ポイント）少なくなっています。

「平等だと思っている」の割合は千代田区が46.2%であるのに対し、東京都調査が26.8%、国調査が30.0%と、千代田区の方が（東京都：19.4ポイント、国：16.2ポイント）多くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている（強い立場にある）
- ▨ どちらかと言えば男性の方が優遇されている（強い立場にある）
- ▩ 平等だと思っている
- どちらかと言えば女性の方が優遇されている（強い立場にある）
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている（強い立場にある）
- 分からない
- 無回答



※国の調査では「分からない」の選択肢設定なし

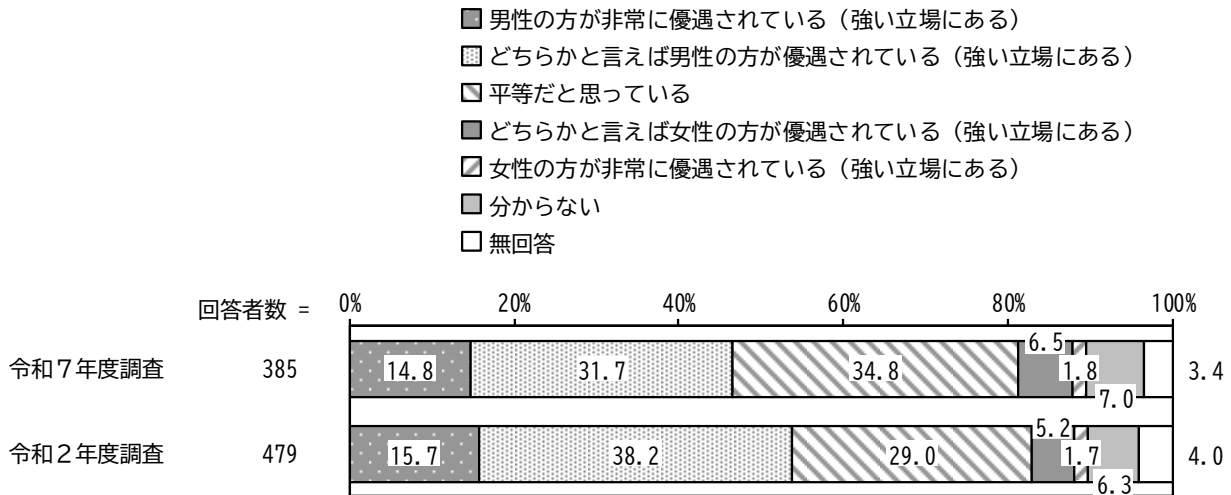
※東京都：「男女平等参画に関する世論調査」

国：「男女共同参画社会に関する世論調査（令和6年9月調査）」

## ②職場

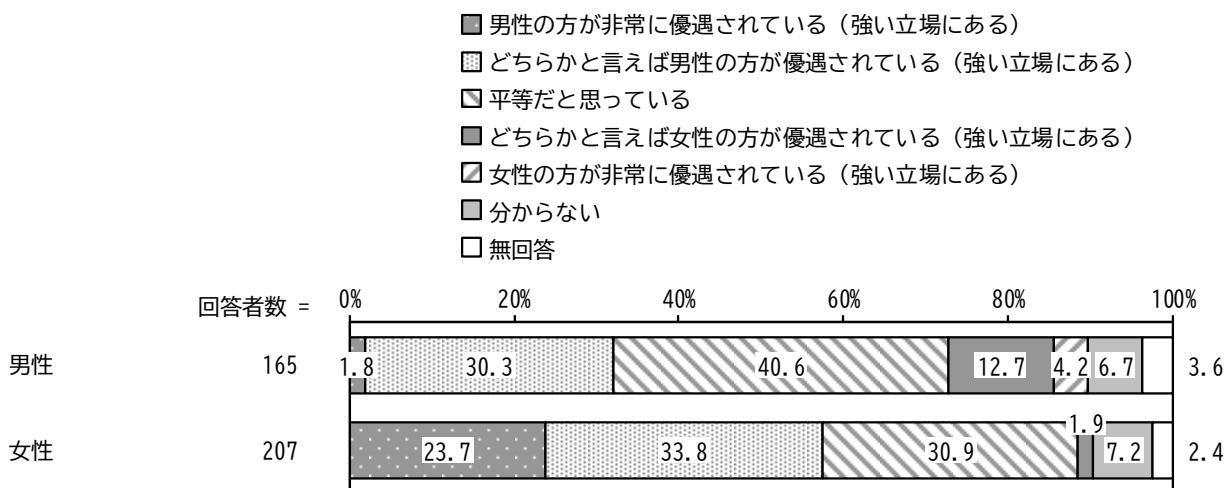
### 【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、「平等だと思っている」の割合は、令和2年度調査が29.0%であるのに対し、令和7年度調査が34.8%と、5.8ポイント増加しています。一方、“男性優遇”の割合は、令和2年度調査が53.9%であるのに対し、令和7年度調査が46.5%と、7.4ポイント減少しています。



### 【性別】

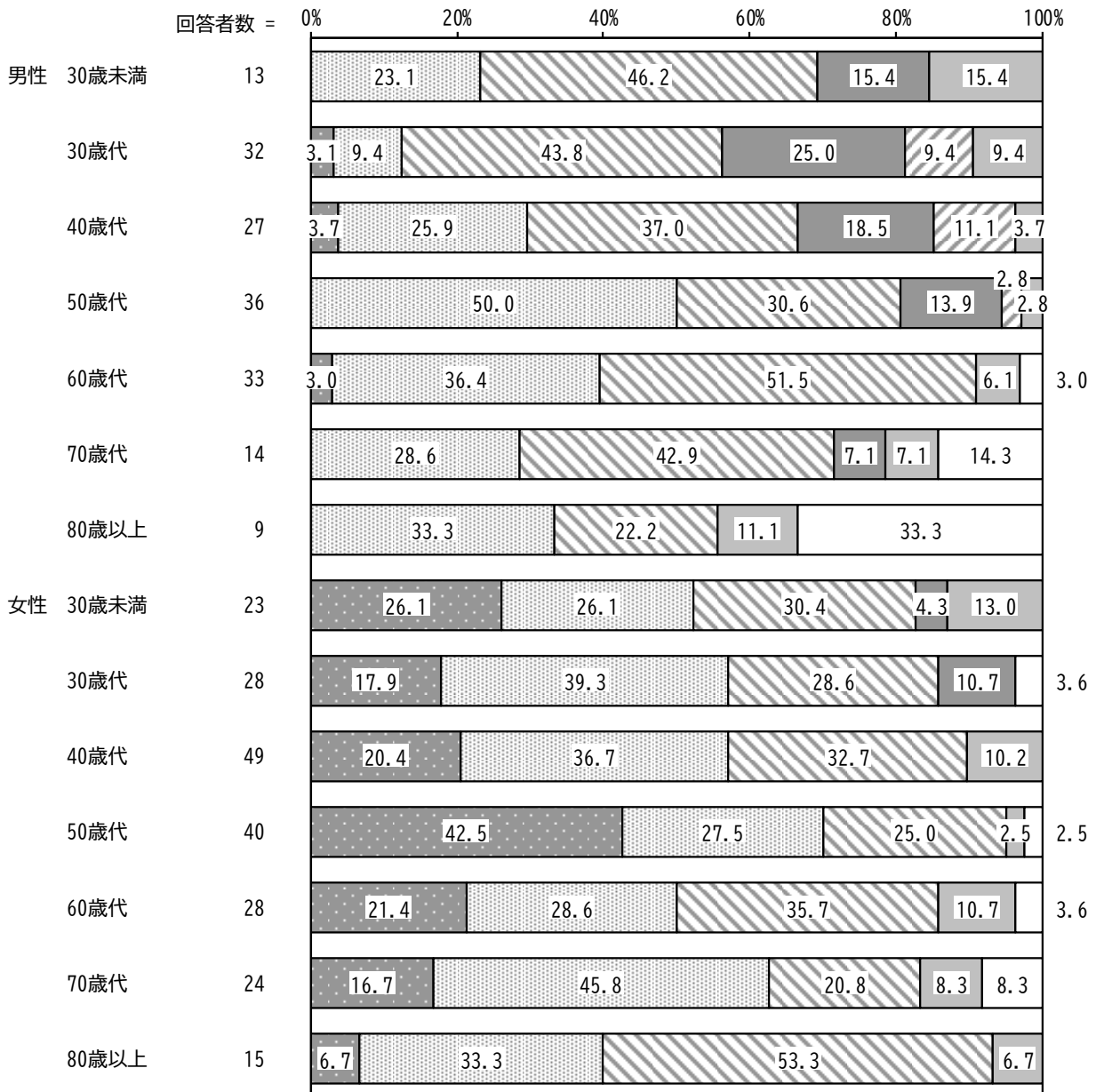
性別にみると、「平等だと思っている」の割合は、男性が40.6%、女性が30.9%と、男性の方が9.7ポイント多く、“女性優遇”の割合は、男性が16.9%、女性が1.9%と、男性の方が15ポイント多く、“男性優遇”の割合は、男性が32.1%、女性が57.5%と、女性の方が25.4ポイント多くなっています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、男性では60歳代から30歳代まで年代が下がるほど“女性優遇”の割合が高くなっています。また、“男性優遇”の割合は、全体が46.5%であるのに対し、女性50歳代が70.0%と、23.5ポイント多くなっています。

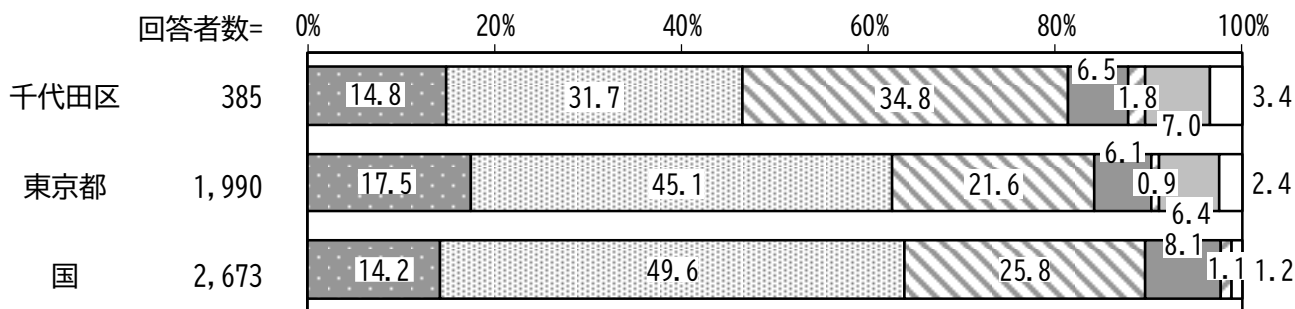
- 男性の方が非常に優遇されている（強い立場にある）
- ▨ どちらかと言えば男性の方が優遇されている（強い立場にある）
- ▩ 平等だと思っている
- どちらかと言えば女性の方が優遇されている（強い立場にある）
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている（強い立場にある）
- 分からない
- 無回答



【東京都・国との比較】

東京都・国の調査と比較すると、「男性優遇」の割合は、千代田区が46.5%であるのに対して、東京都調査が62.6%、国調査が63.8%と、千代田区の方が（東京都：16.1ポイント、国：17.3ポイント）少なく、「平等だと思っている」の割合は、千代田区が34.8%であるのに対して、東京都調査が21.6%、国調査が25.8%と、千代田区の方が（東京都：13.2ポイント、国：9ポイント）多くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている（強い立場にある）
- ▨ どちらかと言えば男性の方が優遇されている（強い立場にある）
- ▩ 平等だと思っている
- どちらかと言えば女性の方が優遇されている（強い立場にある）
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている（強い立場にある）
- 分からない
- 無回答



※国の調査では「分からない」の選択肢設定なし

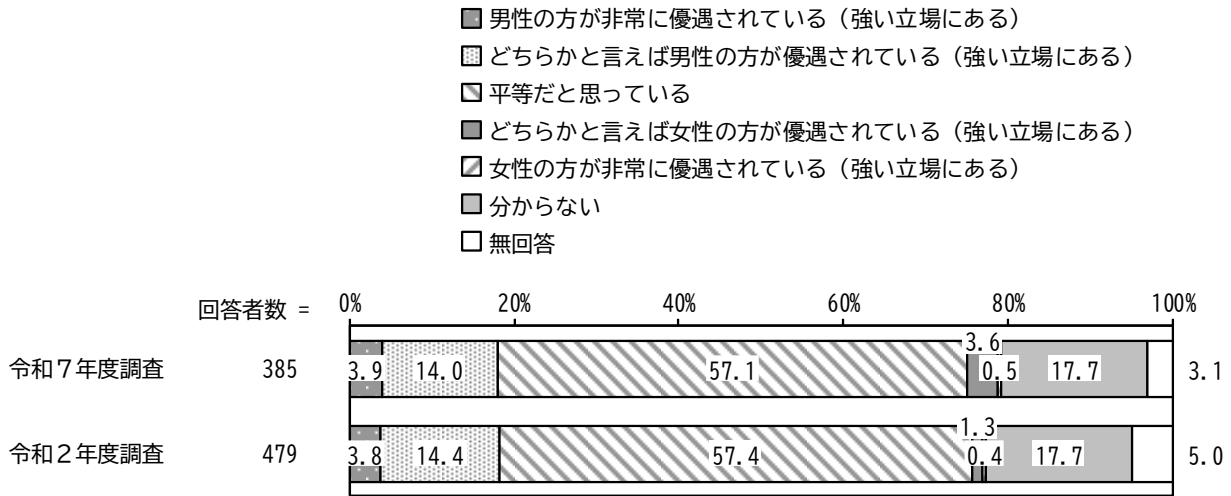
※東京都：「男女平等参画に関する世論調査」

国：「男女共同参画社会に関する世論調査（令和6年9月調査）」

### ③学校教育の場

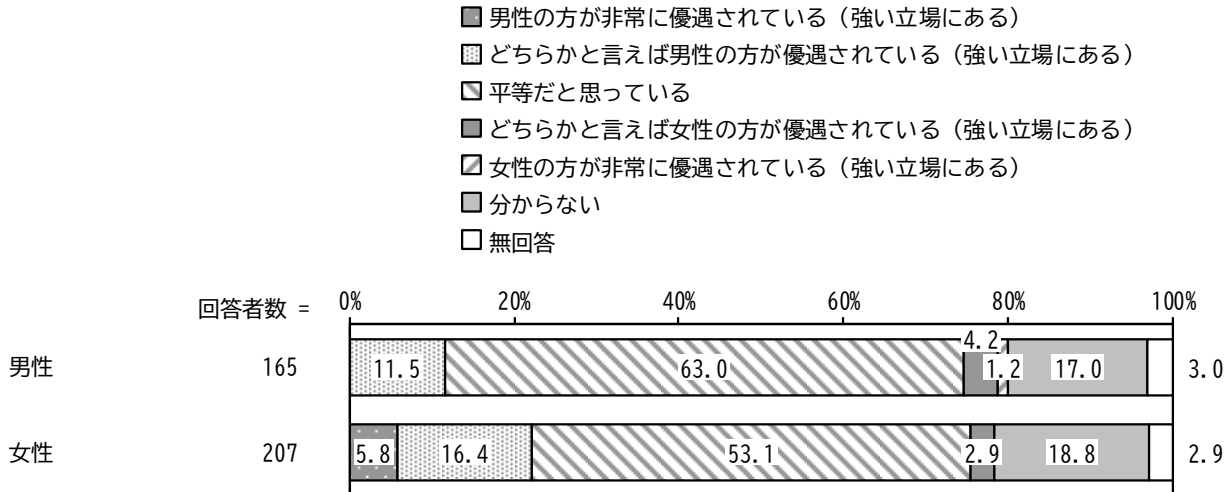
#### 【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



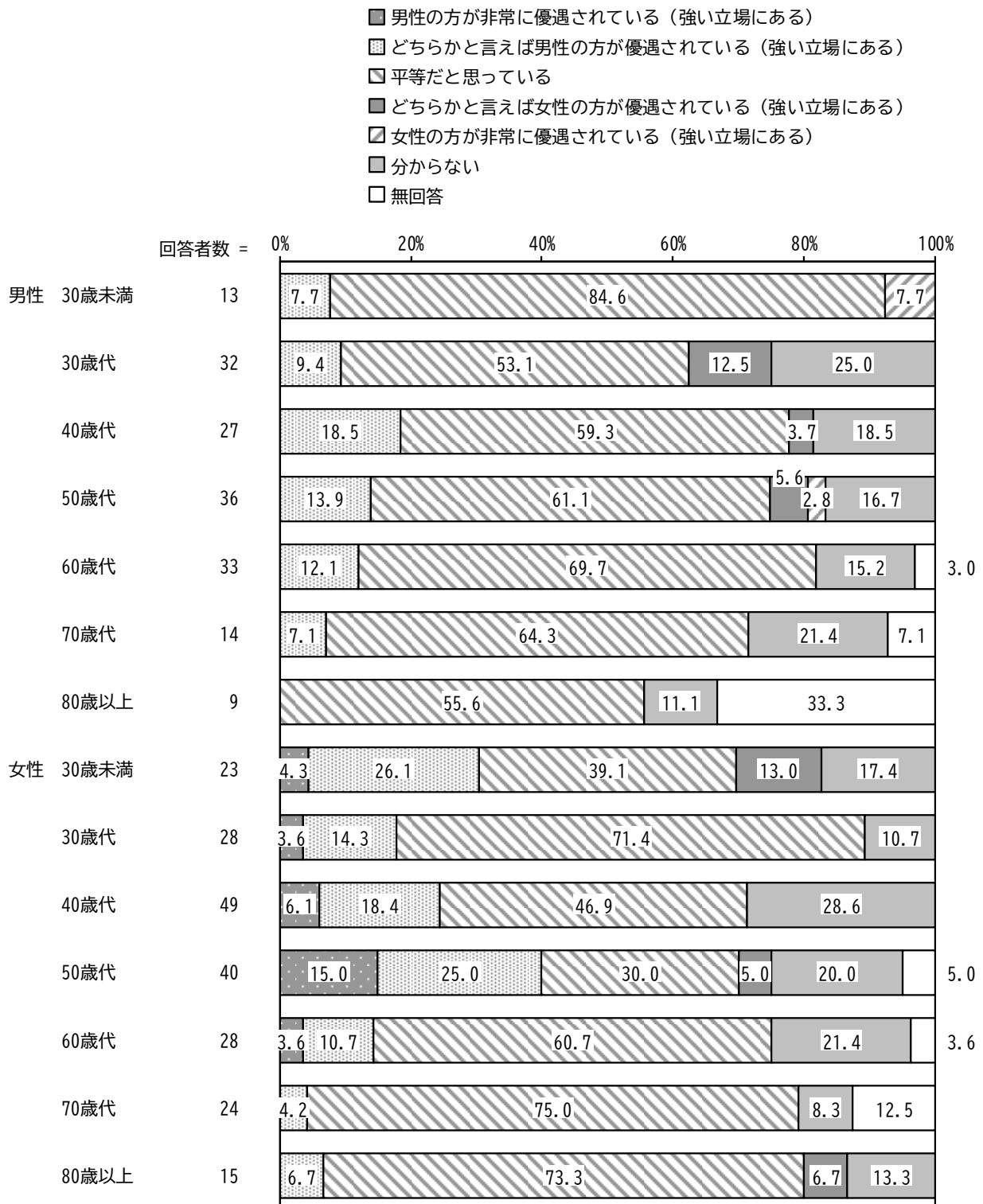
#### 【性別】

性別にみると、「平等だと思っている」の割合は、男性が63.0%、女性が53.1%と、男性の方が9.9ポイント多く、“男性優遇”の割合は、男性が11.5%、女性が22.2%と、女性の方が10.7ポイント多くなっています。



【性・年代別】

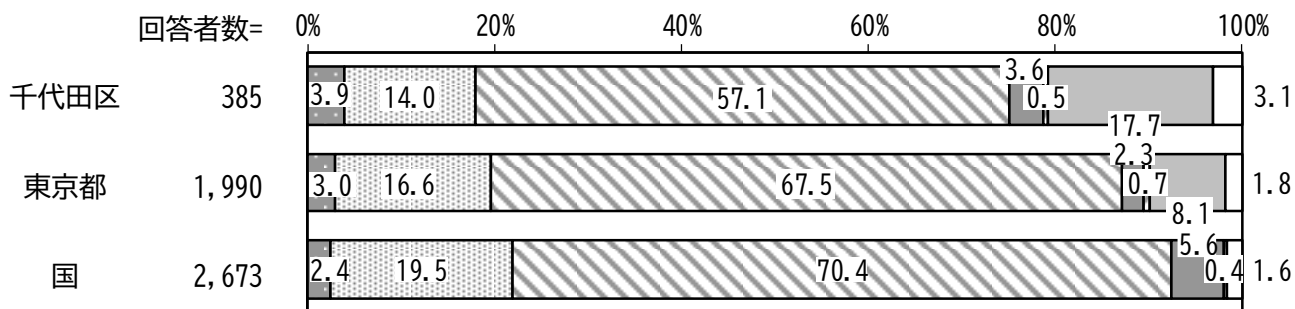
性・年代別にみると、男性では 80 歳以上から 40 歳代まで年代が下がるほど“男性優遇”の割合が高くなっています。また「どちらかと言えば男性の方が優遇されている（強い立場にある）」の割合は、全体 14.0%であるのに対し、女性 50 歳代が 25.0%と、11 ポイント多くなっています。



【東京都・国との比較】

東京都・国の調査と比較すると、「平等だと思っている」の割合は、千代田区が57.1%であるのに対して、東京都調査が67.5%、国調査が70.4%と、千代田区の方が東京都に対して10.4ポイント、国に対して13.3ポイント) 少なくなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている（強い立場にある）
- ▨ どちらかと言えば男性の方が優遇されている（強い立場にある）
- 平等だと思っている
- どちらかと言えば女性の方が優遇されている（強い立場にある）
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている（強い立場にある）
- 分からない
- 無回答



※国の調査では「分からない」の選択肢設定なし

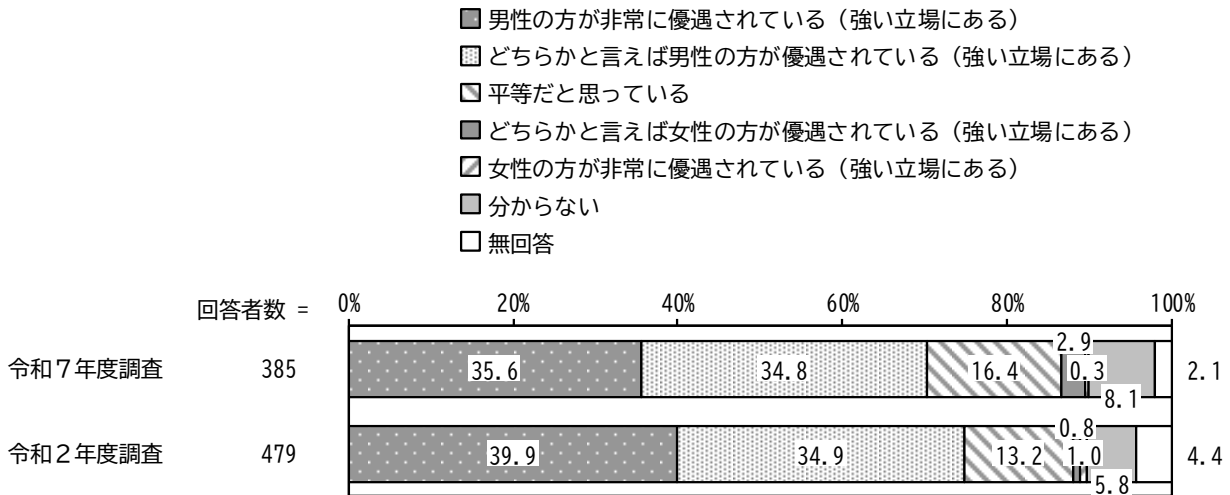
※東京都：「男女平等参画に関する世論調査」

国：「男女共同参画社会に関する世論調査（令和6年9月調査）」

#### ④政治の場

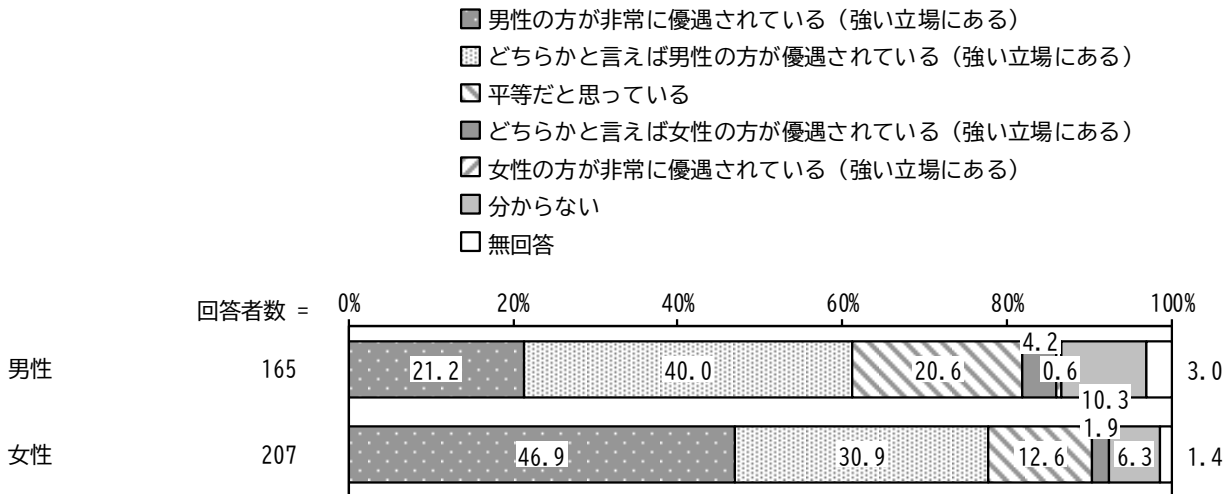
##### 【経年比較】

「平等だと思う」の割合は、令和2年度調査が13.2%であるのに対し、令和7年度調査が16.4%と、3.2ポイント増加しています。一方、“男性優遇”の割合は、令和2年度調査が74.8%であるのに対し、令和7年度調査が70.4%と、4.4ポイント減少しています。



##### 【性別】

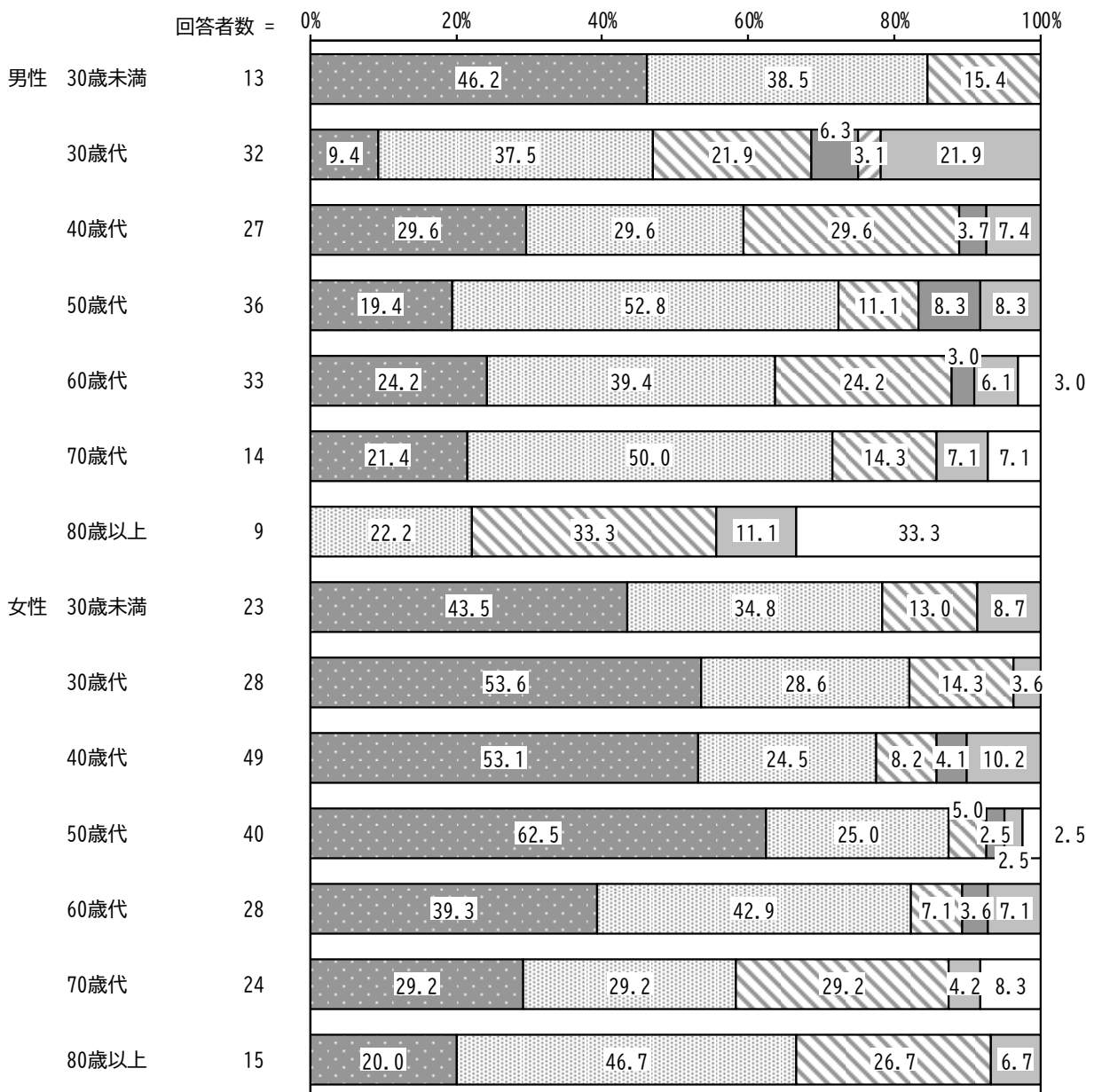
性別にみると、「平等だと思っている」の割合は、男性が20.6%、女性が12.6%と、男性の方が8ポイント多く、“男性優遇”の割合は、男性が61.2%、女性が77.8%と、女性の方が16.6ポイント多くなっています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、“男性優遇”の割合は全体が70.4%であるのに対し、男性30歳未満が84.7%、女性50歳代が87.5%と、14ポイント以上多く、「平等だと思っている」の割合は、全体が16.4%であるのに対し、男性40歳代が29.6%、女性70歳代が29.2%、女性80歳以上が26.7%と、10ポイント以上多くなっています。

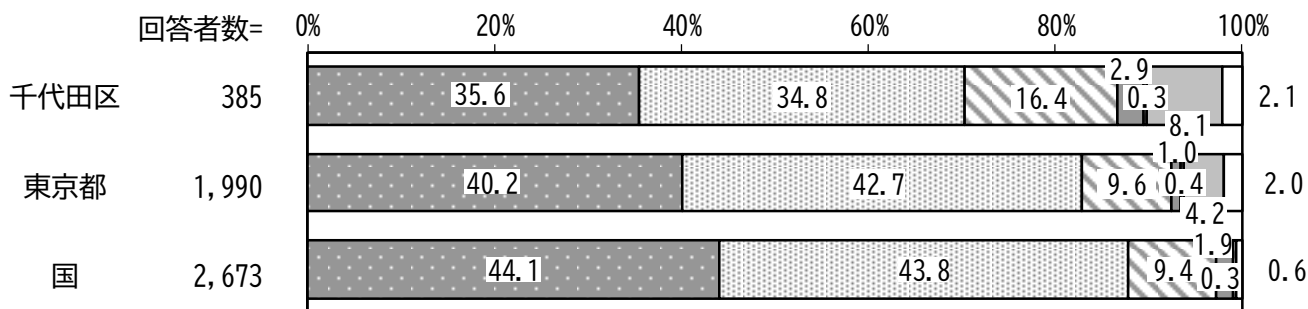
- 男性の方が非常に優遇されている（強い立場にある）
- ▨ どちらかと言えば男性の方が優遇されている（強い立場にある）
- 平等だと思っている
- どちらかと言えば女性の方が優遇されている（強い立場にある）
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている（強い立場にある）
- 分からない
- 無回答



【東京都・国との比較】

東京都・国の調査と比較すると、「男性優遇」の割合は、千代田区が70.4%であるのに対して、東京都調査が82.9%、国調査が87.9%と、千代田区の方が（東京都：12.5ポイント、国：17.5ポイント）少なく、「平等だと思っている」の割合は、千代田区が16.4%であるのに対して、東京都調査が9.6%、国調査が9.4%と、千代田区の方が（東京都：6.8ポイント、国：7ポイント）多くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている（強い立場にある）
- ▨ どちらかと言えば男性の方が優遇されている（強い立場にある）
- ▩ 平等だと思っている
- どちらかと言えば女性の方が優遇されている（強い立場にある）
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている（強い立場にある）
- 分からない
- 無回答



※国の調査では「分からない」の選択肢設定なし

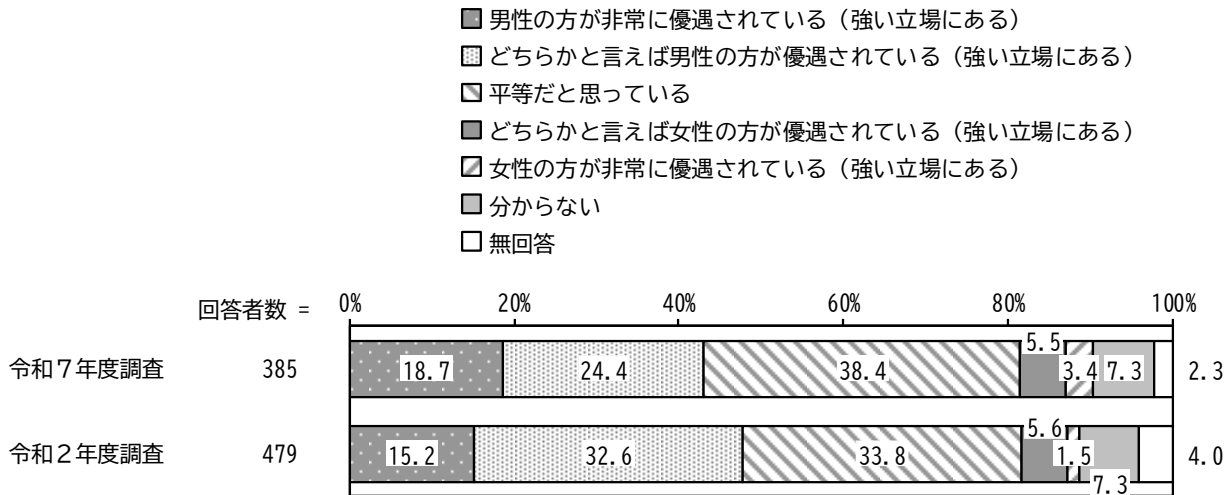
※東京都：「男女平等参画に関する世論調査」

国：「男女共同参画社会に関する世論調査（令和6年9月調査）」

## ⑤法律や制度の上

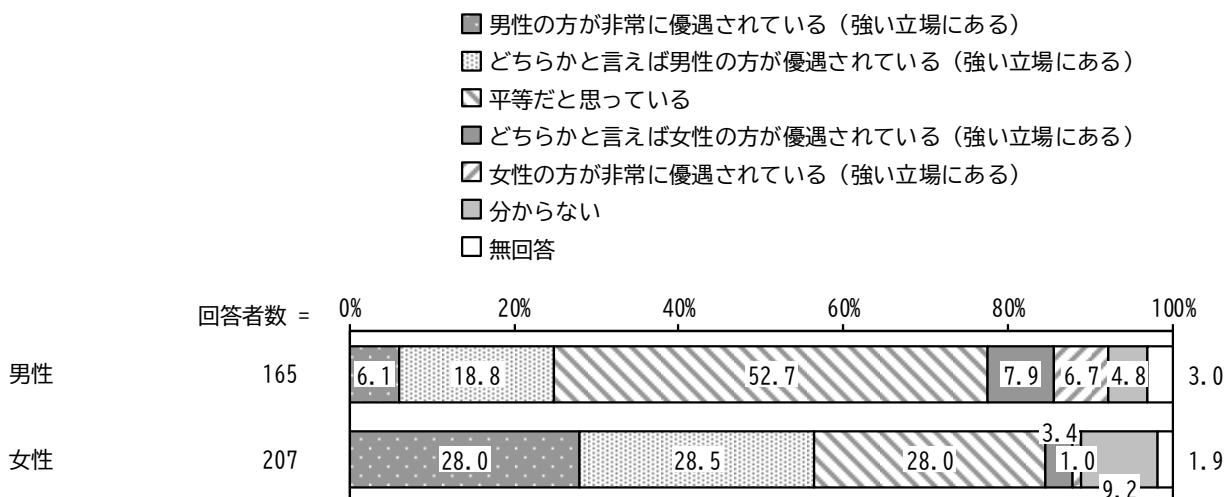
### 【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、「どちらかと言えば男性の方が優遇されている（強い立場にある）」の割合は、令和2年度調査が32.6%であるのに対し、令和7年度調査が24.4%と、8.2ポイント減少しています。



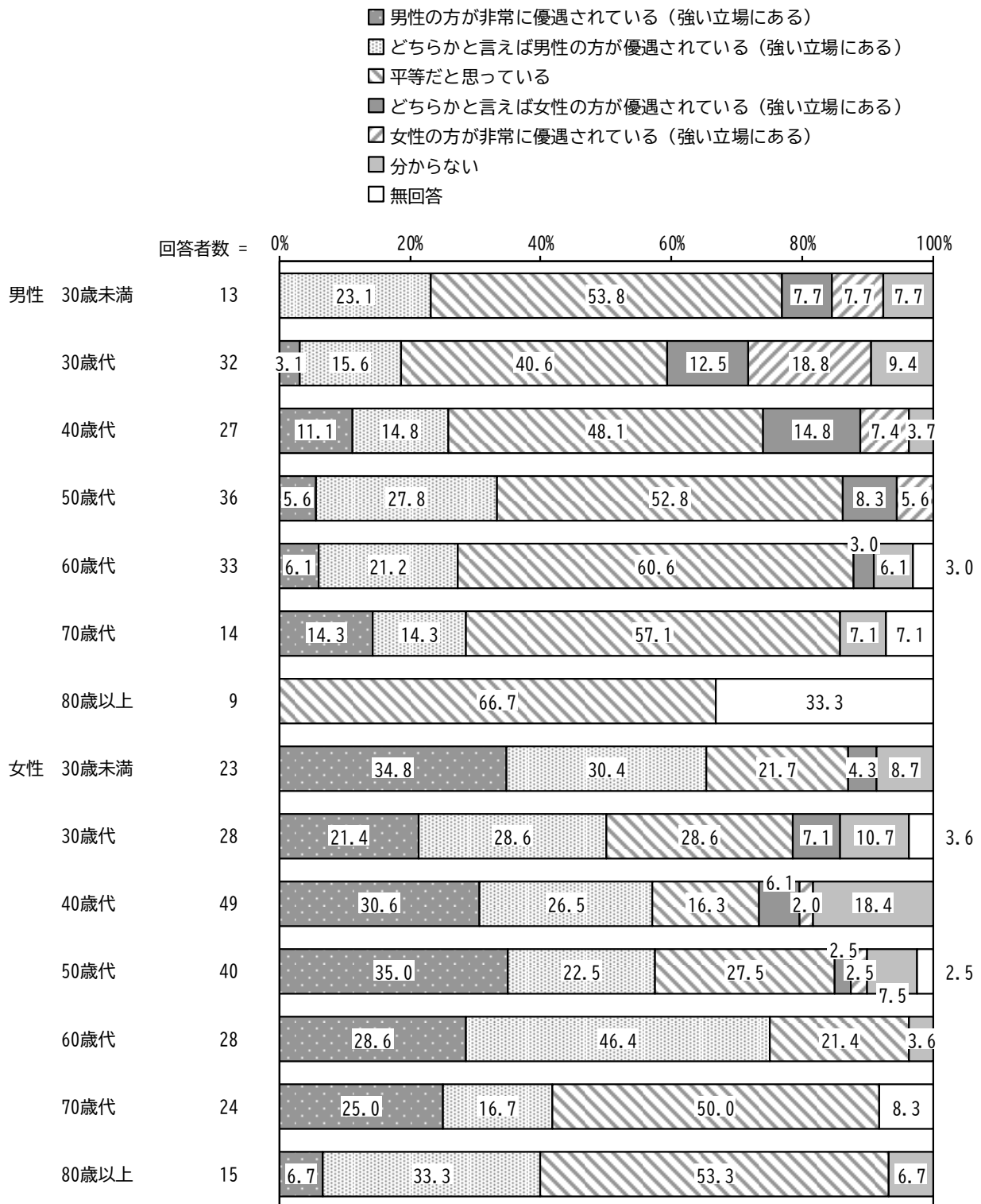
### 【性別】

性別にみると、「平等だと思っている」の割合は、男性が52.7%、女性が28.0%と、男性の方が24.7ポイント多く、“女性優遇”の割合は、男性が14.6%、女性が4.4%と、男性の方が10.2ポイント多く、“男性優遇”の割合は、男性が24.9%、女性が56.5%と、女性の方が31.6ポイント多くなっています。



【性・年代別】

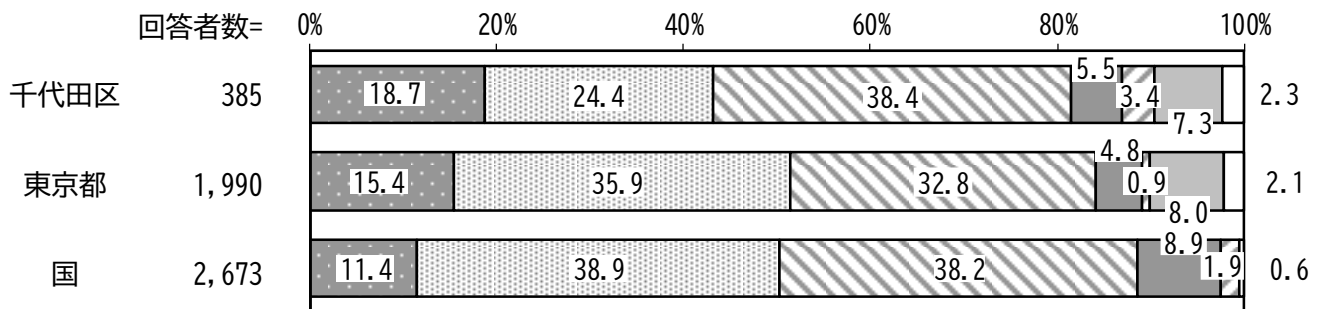
性・年代別にみると、男性では80歳以上から30歳代まで年代が下がるほど“女性優遇”の割合が高い傾向にあります。また、“男性優遇”の割合は、全体が43.1%であるのに対し、女性60歳代が75.0%と、31.9ポイント多くなっています。



【東京都・国との比較】

東京都・国の調査と比較すると、“男性優遇”の割合は、千代田区が43.1%であるのに対して、東京都調査が51.3%、国調査が50.3%と、千代田区の方が東京都に対して8.2ポイント、国に対して7.2ポイント) 少なくなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている（強い立場にある）
- ▨ どちらかと言えば男性の方が優遇されている（強い立場にある）
- ▩ 平等だと思っている
- どちらかと言えば女性の方が優遇されている（強い立場にある）
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている（強い立場にある）
- 分からない
- 無回答



※国の調査では「分からない」の選択肢設定なし

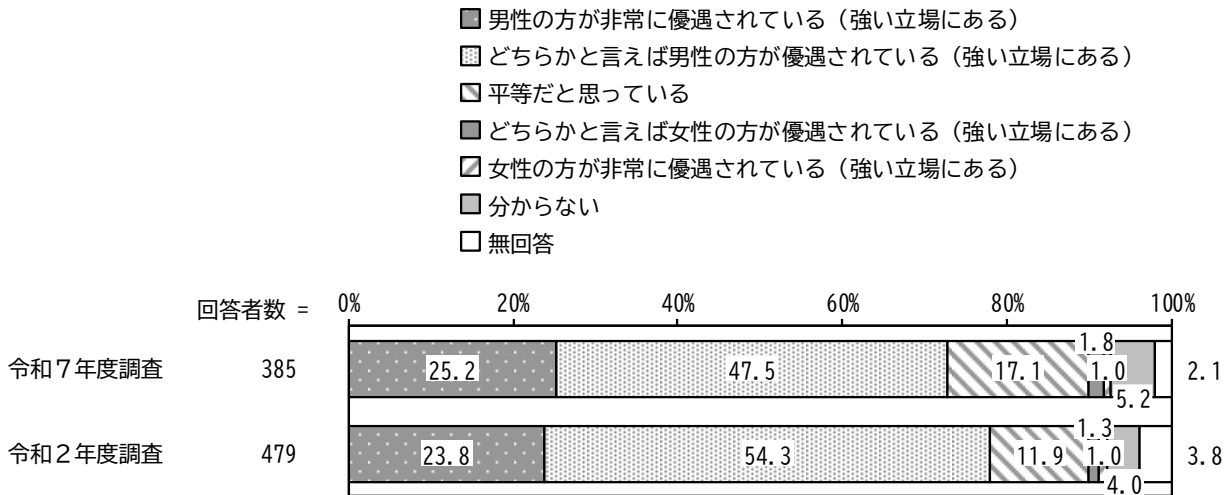
※東京都：「男女平等参画に関する世論調査」

国：「男女共同参画社会に関する世論調査（令和6年9月調査）」

⑥社会通念・慣習・しきたり

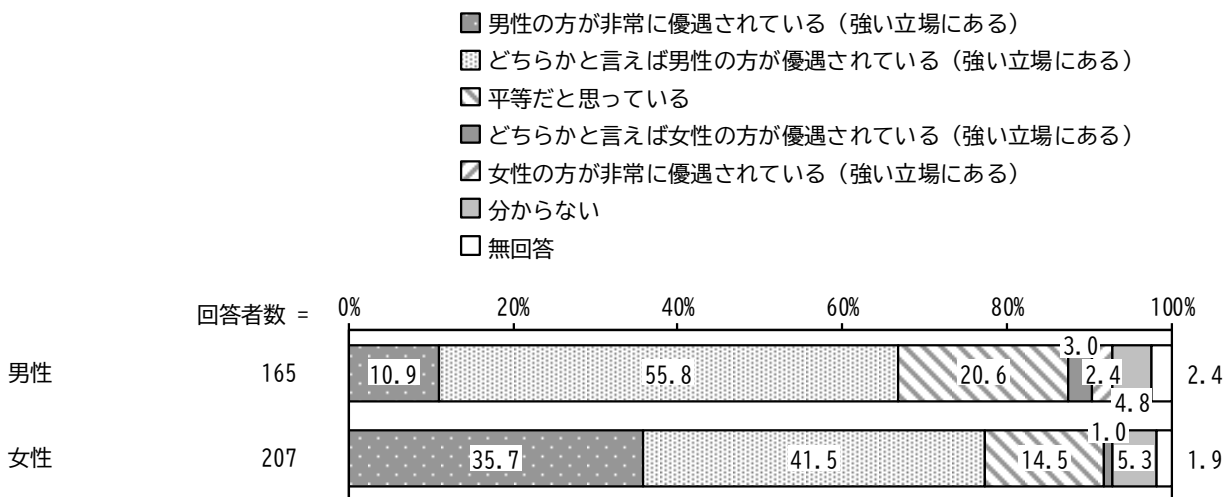
【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、「平等だと思っている」の割合は、令和2年度調査が11.9%であるのに対し、令和7年度調査が17.1%と、5.2ポイント増加しています。一方、“男性優遇”の割合は、令和2年度調査が78.1%であるのに対し、令和7年度調査が72.7%と、5.4ポイント減少しています。



【性別】

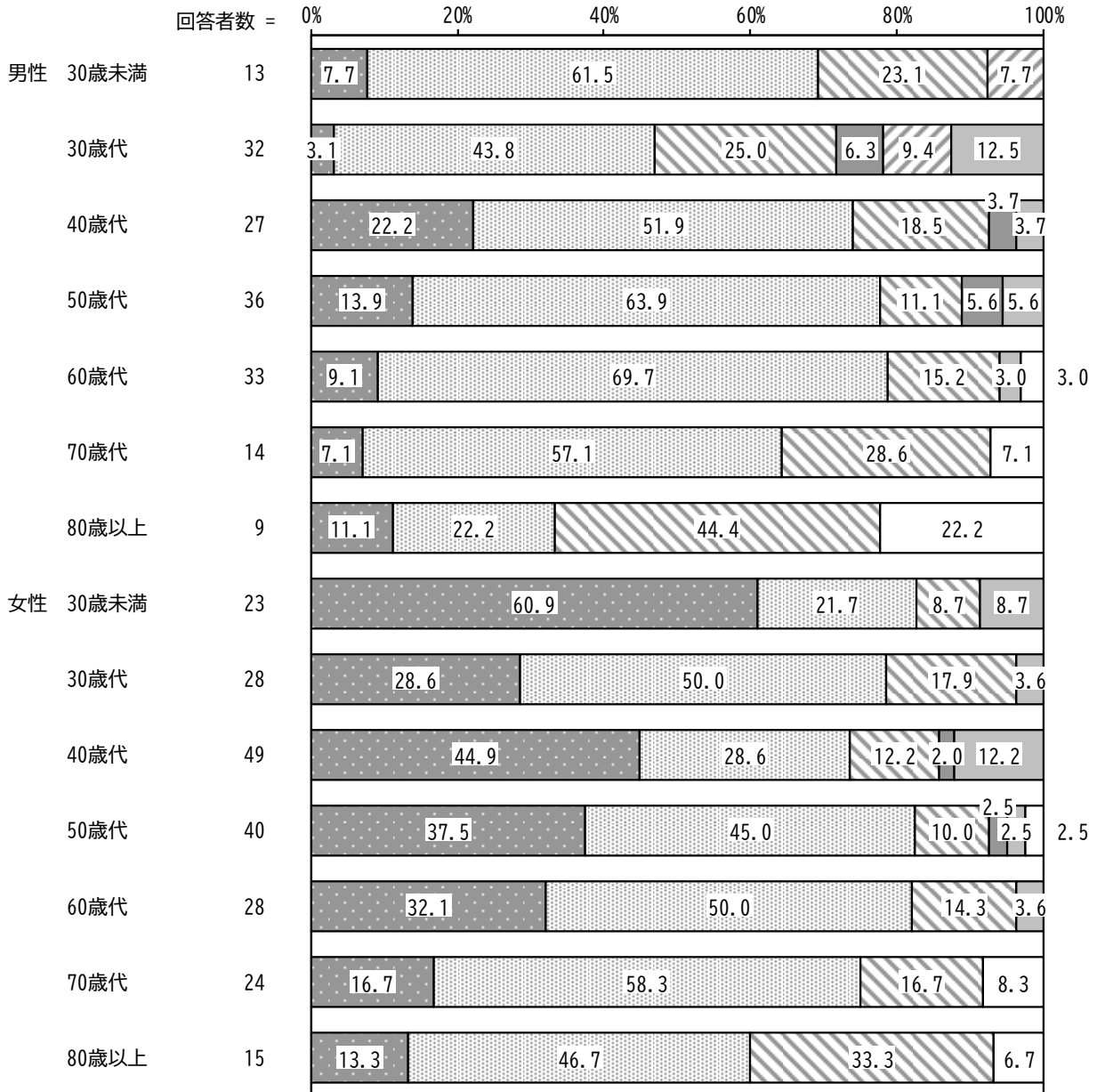
性別にみると、男性で「平等だと思っている」の割合は、男性が20.6%、女性が14.5%と、男性の方が6.1ポイント多く、“男性優遇”の割合は、男性が66.7%、女性が77.2%と、女性の方が10.5ポイント多くなっています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、男性では50歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「平等だと思っている」の割合が高くなっています。

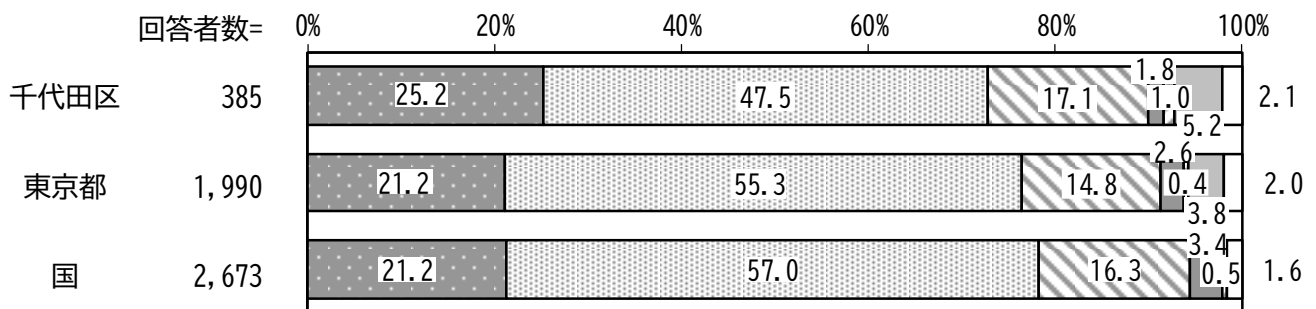
- 男性の方が非常に優遇されている（強い立場にある）
- ▨ どちらかと言えば男性の方が優遇されている（強い立場にある）
- 平等だと思っている
- どちらかと言えば女性の方が優遇されている（強い立場にある）
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている（強い立場にある）
- 分からない
- 無回答



【東京都・国との比較】

東京都・国の調査と比較すると、“男性優遇”の割合は、千代田区が72.7%であるのに対して、東京都調査が76.5%、国調査が78.2%と、千代田区の方が（東京都：3.8ポイント、国：5.5ポイント）少なくなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている（強い立場にある）
- ▨ どちらかと言えば男性の方が優遇されている（強い立場にある）
- ▩ 平等だと思っている
- どちらかと言えば女性の方が優遇されている（強い立場にある）
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている（強い立場にある）
- 分からない
- 無回答



※国の調査では「分からない」の選択肢設定なし

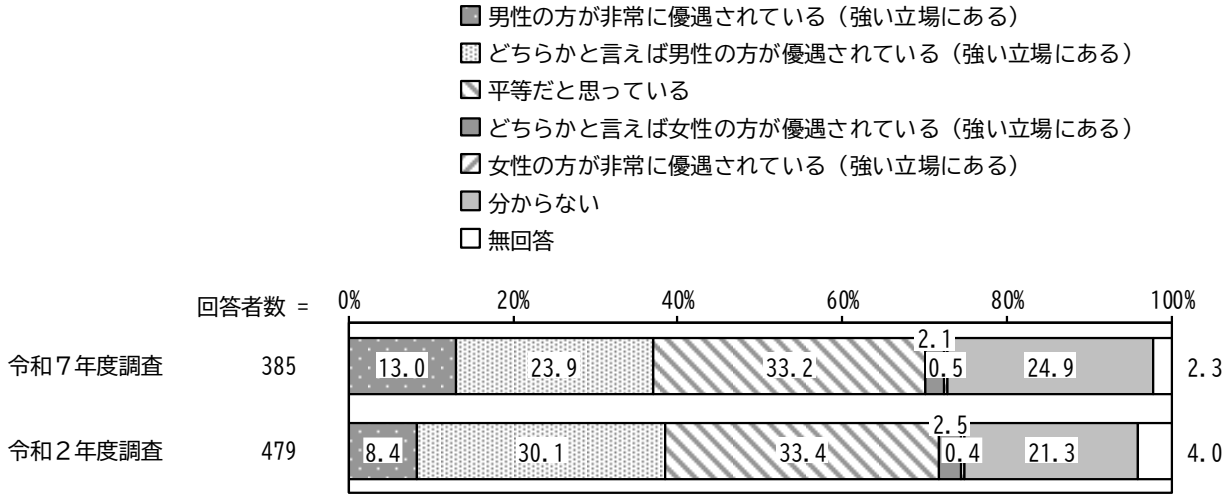
※東京都：「男女平等参画に関する世論調査」

国：「男女共同参画社会に関する世論調査（令和6年9月調査）」

⑦町会・自治会や NPO などの地域活動の場

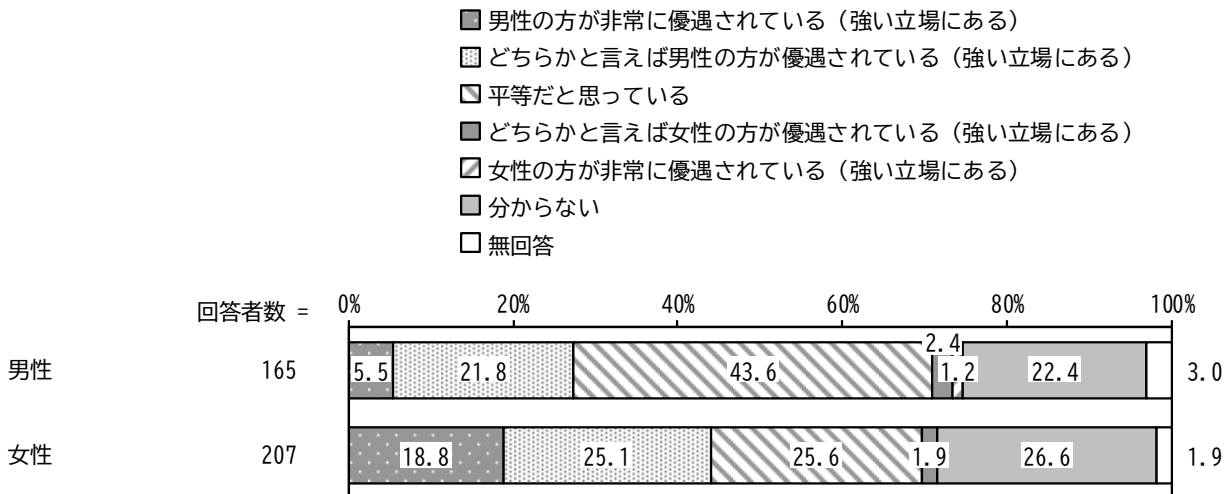
【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、「どちらかと言えば男性の方が優遇されている（強い立場にある）」の割合は、令和2年度調査が 30.1%であるのに対し、令和7年度調査が 23.9%と、6.2 ポイント減少しています。



【性別】

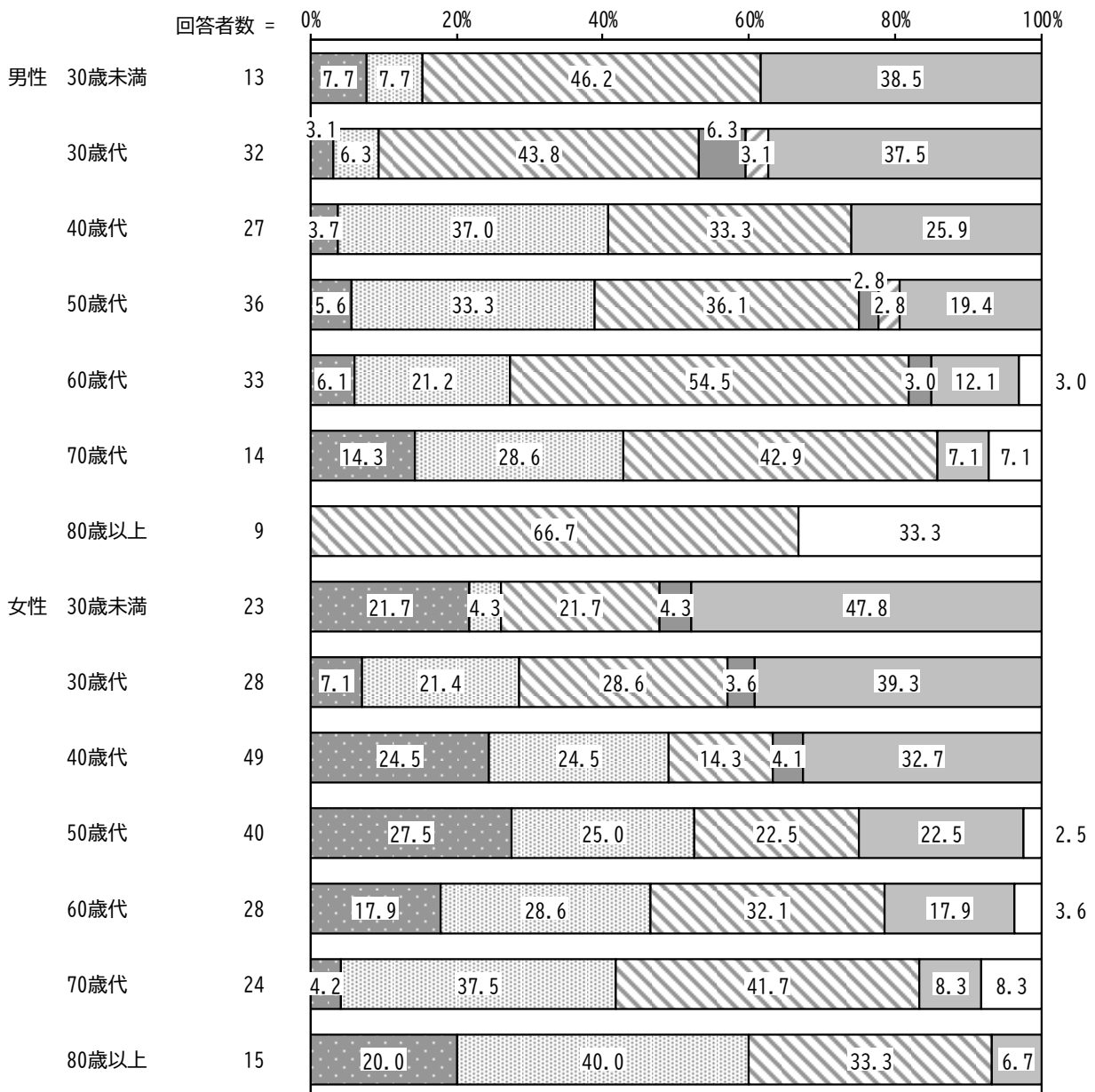
性別にみると、「平等だと思っている」の割合は、男性が 43.6%、女性が 25.6%と、男性の方が 18 ポイント多く、“男性優遇” の割合は、男性が 27.3%、女性が 43.9%と、女性の方が 16.6 ポイント多くなっています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、男性では30歳代から70歳代まで年代が上がるほど「男性の方が非常に優遇されている（強い立場にある）」の割合が高い傾向にあり、女性では年代が上がるほど「どちらかと言えば男性の方が優遇されている（強い立場にある）」の割合が高くなっています。また、「平等だと思っている」の割合は、全体が33.2%であるのに対し、男性60歳代が54.5%と、21.3ポイント多く、男性80歳以上が66.7%と33.5ポイント多くなっています。

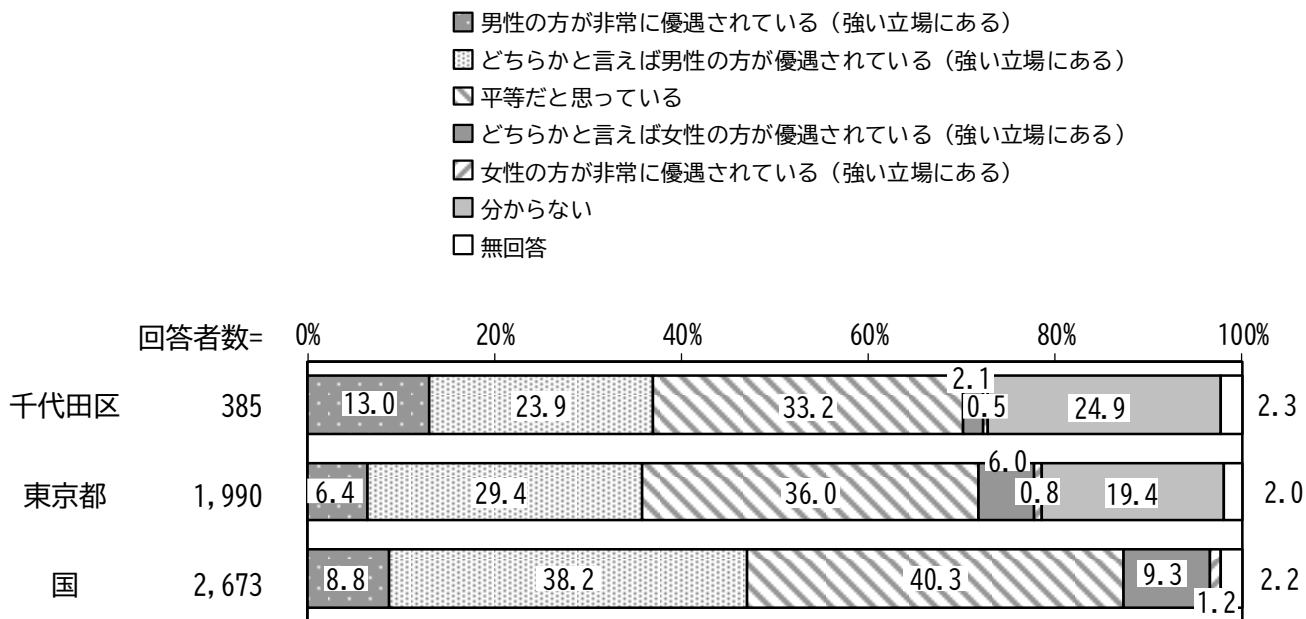
- 男性の方が非常に優遇されている（強い立場にある）
- ▨ どちらかと言えば男性の方が優遇されている（強い立場にある）
- ▩ 平等だと思っている
- どちらかと言えば女性の方が優遇されている（強い立場にある）
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている（強い立場にある）
- 分からない
- 無回答



【東京都・国との比較】

東京都の調査と比較すると、“女性優遇”の割合は、千代田区が2.6%であるのに対して、東京都調査が6.8%と、千代田区の方が4.2ポイント少なくなっています。

国の調査と比較すると、“男性優遇”の割合は、千代田区が36.9%であるのに対して、国調査が47.0%と、千代田区の方が10.1ポイント少なく、「平等だと思っている」の割合は、千代田区が33.2%であるのに対して、国調査が40.3%と、千代田区の方が7.1ポイント少なく、“女性優遇”の割合は、千代田区が2.6%であるのに対して、国調査が10.5%と、千代田区の方が7.9ポイント少なくなっています。



※国の調査では「分からない」の選択肢設定なし

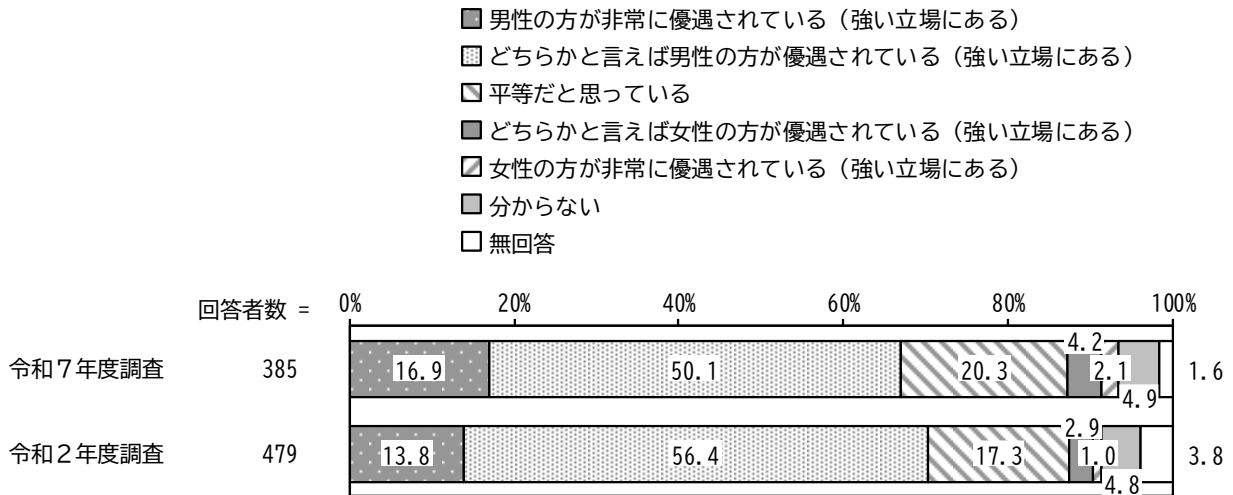
※東京都：「男女平等参画に関する世論調査」

国：「男女共同参画社会に関する世論調査（令和6年9月調査）」

## ⑧社会全体として

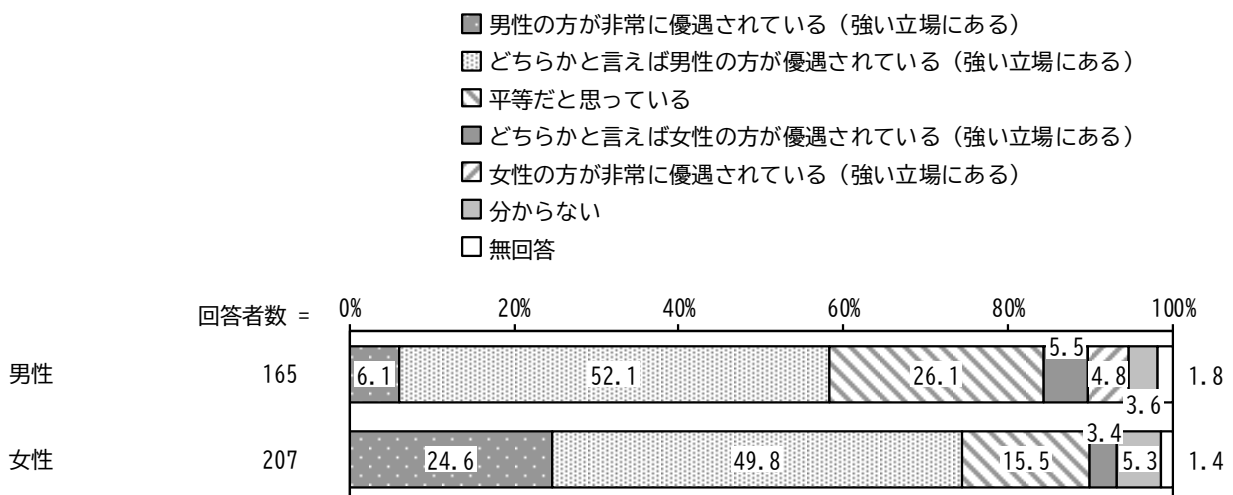
### 【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、「どちらかと言えば男性の方が優遇されている（強い立場にある）」の割合は、令和2年度調査が56.4%であるのに対し、令和7年度調査が50.1%と、6.3ポイント減少しています。



### 【性別】

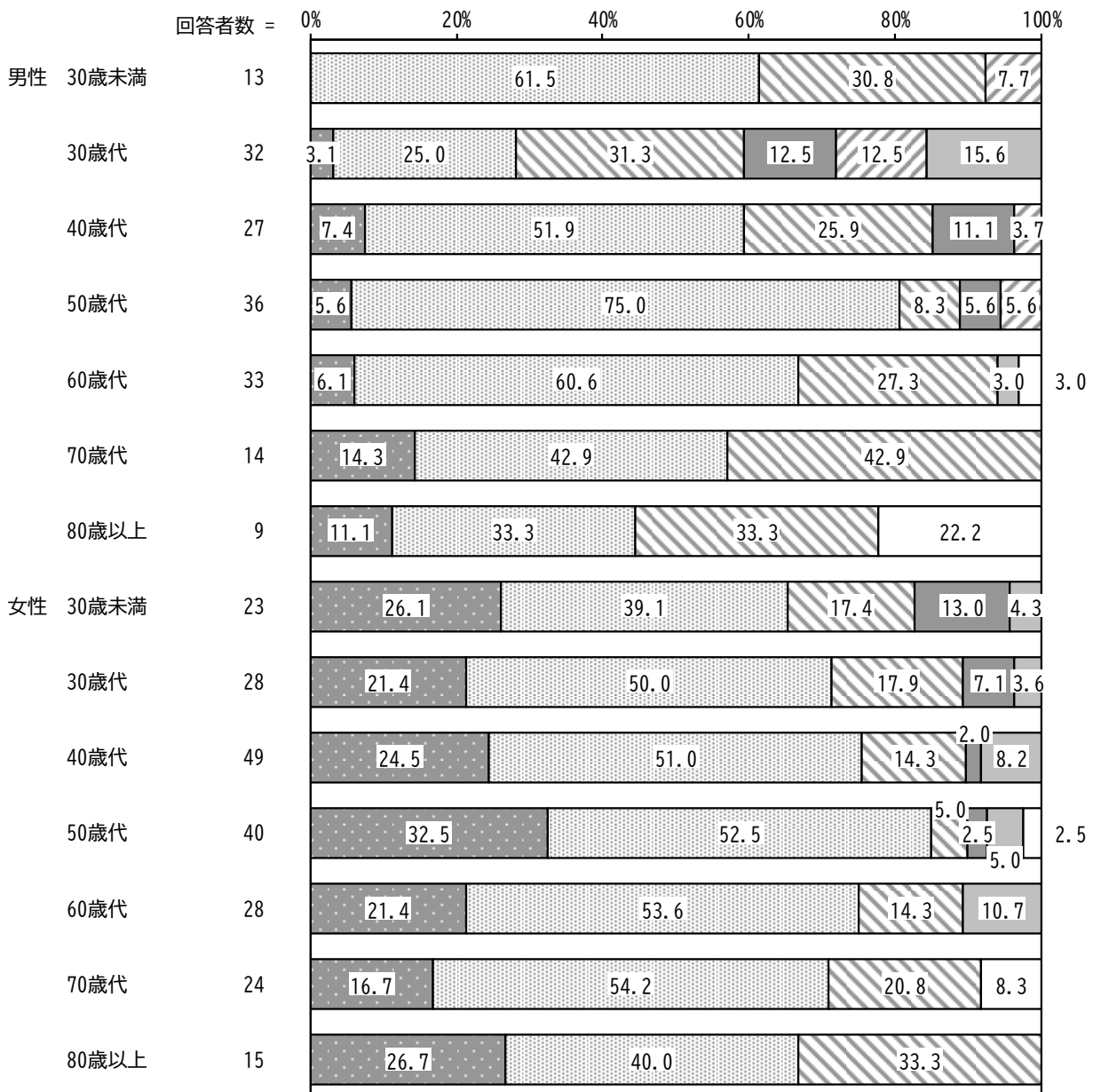
性別にみると、「平等だと思っている」の割合は、男性が26.1%、女性が15.5%と、男性の方が10.6ポイント多く、「女性優遇」の割合は、男性が10.3%、女性が3.4%と、男性の方が6.9ポイント多く、「男性優遇」の割合は、男性が58.2%、女性が74.4%と、女性の方が16.2ポイント多くなっています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、男性では70歳代から30歳代まで年代が下がるほど、女性では60歳代から30歳未満まで年代が下がるほど“女性優遇”の割合が高い傾向にあります。また、「男性の方が非常に優遇されている（強い立場にある）」の割合は、全体が16.9%であるのに対し、女性50歳代が32.5%と、15.6ポイント多く、「どちらかと言えば男性の方が優遇されている（強い立場にある）」の割合は、全体が50.1%であるのに対し、男性50歳代が75.0%と、24.9ポイント多くなっています。

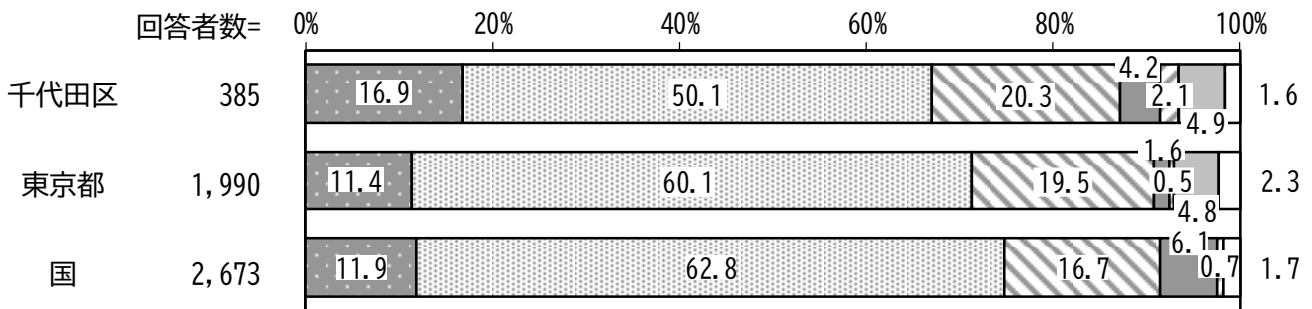
- 男性の方が非常に優遇されている（強い立場にある）
- ▨ どちらかと言えば男性の方が優遇されている（強い立場にある）
- 平等だと思っている
- どちらかと言えば女性の方が優遇されている（強い立場にある）
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている（強い立場にある）
- 分からない
- 無回答



【東京都・国との比較】

東京都・国の調査と比較すると、“男性優遇”の割合は、千代田区が67.0%であるのに対して、東京都調査が71.5%、国調査が74.7%と、千代田区の方が東京都に対して4.5ポイント、国に対して7.7ポイント少なくなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている（強い立場にある）
- ▨ どちらかと言えば男性の方が優遇されている（強い立場にある）
- ▩ 平等だと思っている
- どちらかと言えば女性の方が優遇されている（強い立場にある）
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている（強い立場にある）
- 分からない
- 無回答



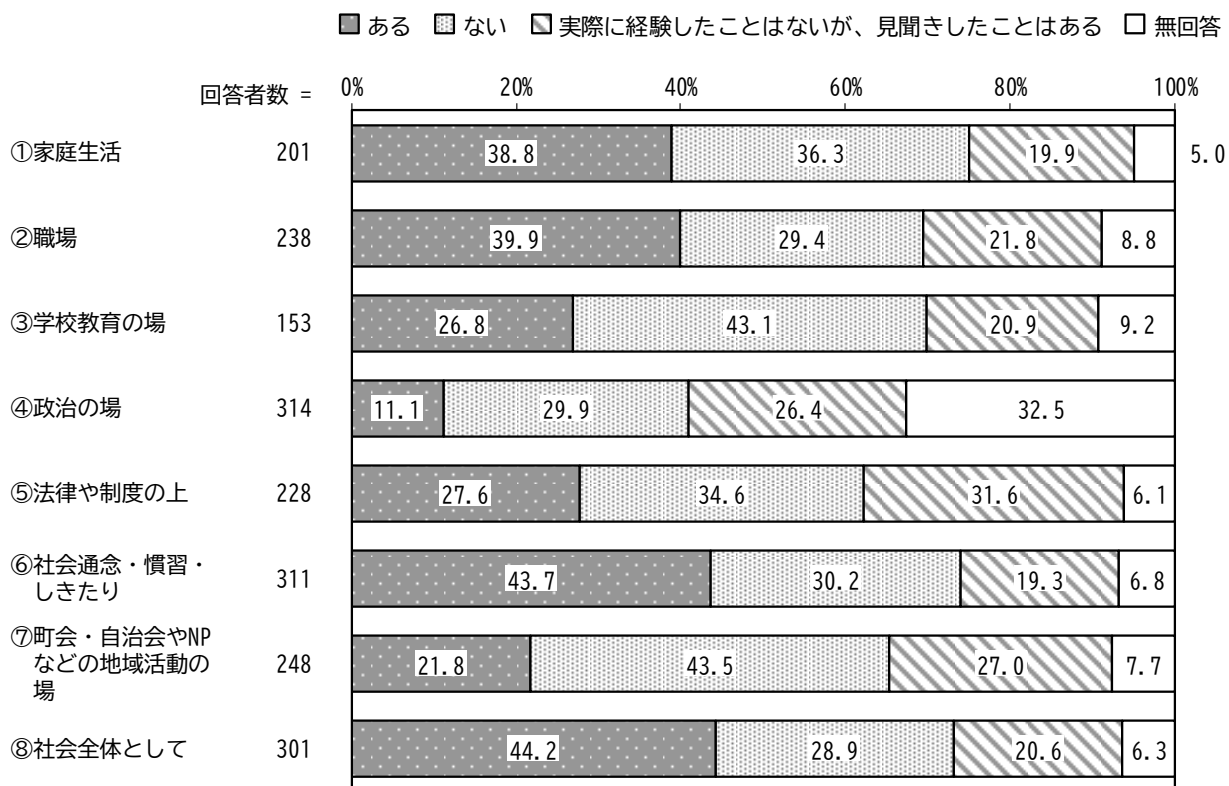
※国の調査では「分からない」の選択肢設定なし

※東京都：「男女平等参画に関する世論調査」

国：「男女共同参画社会に関する世論調査（令和6年9月調査）」

問8で「平等だと思っている」以外に○を付けた方にお聞きします。

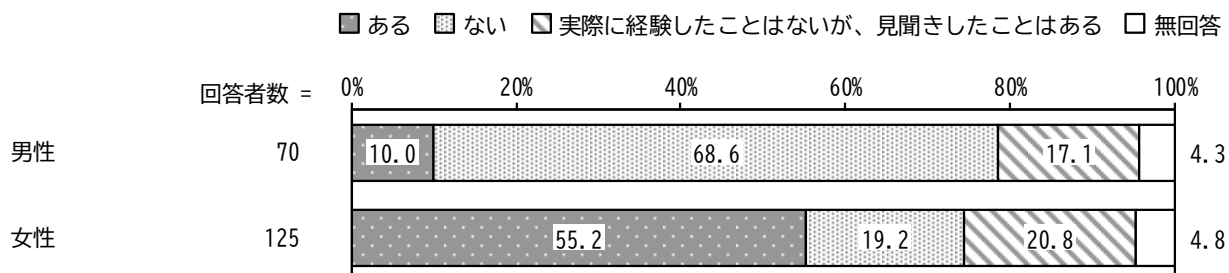
付問8-1 あなたは次の分野①～⑧について、性別等によって不利益を被った経験はありますか。(それぞれの項目について○は1つずつ)



### ①家庭生活

#### 【性別】

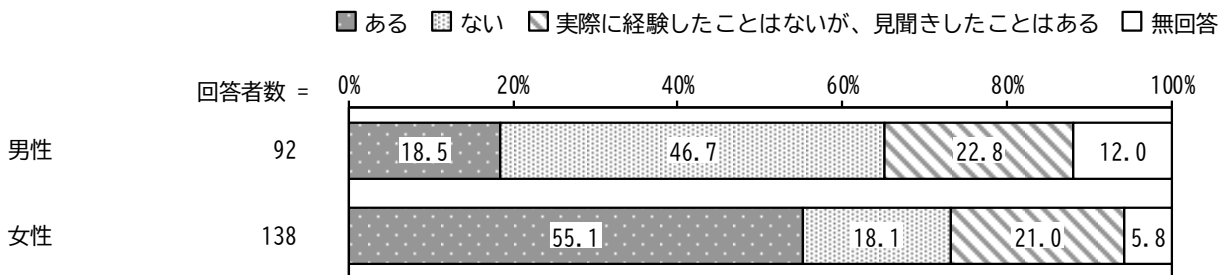
性別にみると、「ない」の割合は、男性が68.6%、女性が19.2%と、男性の方が49.4ポイント多く、「ある」の割合は、男性が10.0%、女性が55.2%と、女性の方が45.2ポイント多くなっています。



## ②職場

### 【性別】

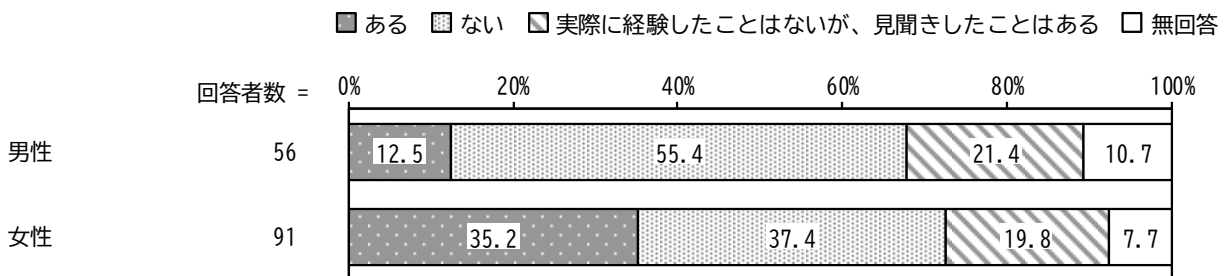
性別にみると、「ない」の割合は、男性が46.7%、女性が18.1%と、男性の方が28.6ポイント多く、「ある」の割合は、男性が18.5%、女性が55.1%と、女性の方が36.6ポイント多くなっています。



## ③学校教育の場

### 【性別】

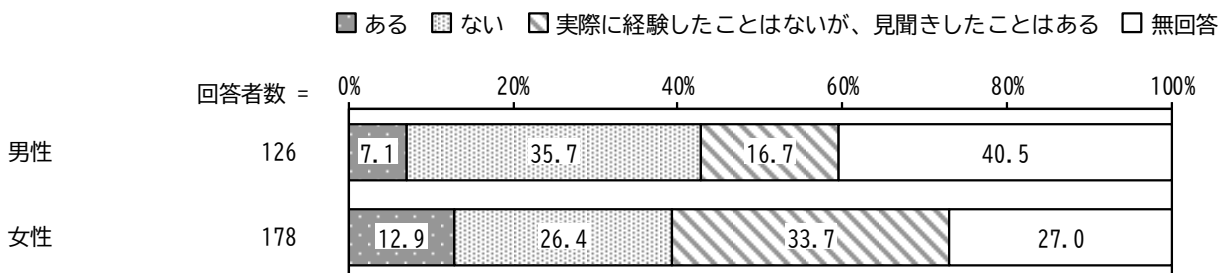
性別にみると、「ない」の割合は、男性が55.4%、女性が37.4%と、男性の方が18ポイント多く、「ある」の割合は、男性が12.5%、女性が35.2%と、女性の方が22.7ポイント多くなっています。



## ④政治の場

### 【性別】

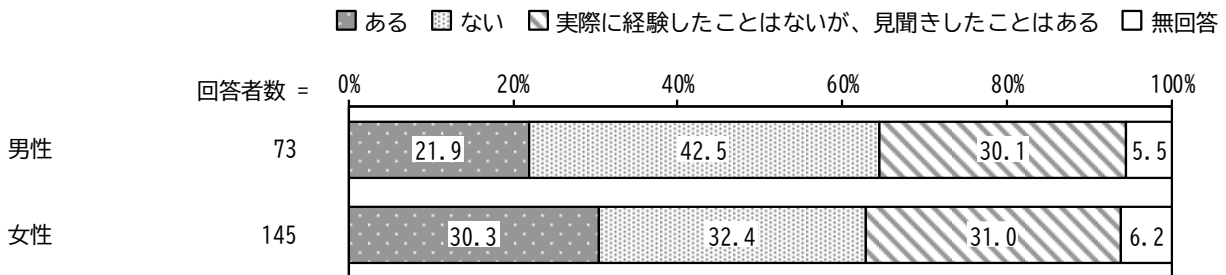
性別にみると、「ない」の割合は、男性が35.7%、女性が26.4%と、男性の方が9.3ポイント多く、「ある」の割合は、男性が7.1%、女性が12.9%と、女性の方が5.8ポイント多く、「実際に経験したことはないが、見聞きしたことはある」の割合は、男性が16.7%、女性が33.7%と、女性の方が17ポイント多くなっています。



### ⑤法律や制度の上

#### 【性別】

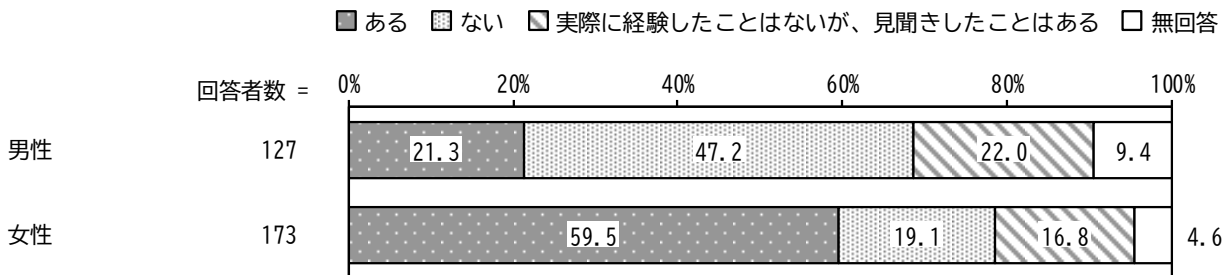
性別にみると、「ない」の割合は、男性が42.5%、女性が32.4%と、男性の方が10.1ポイント多く、「ある」の割合は、男性が21.9%、女性が30.3%と、女性の方が8.4ポイント多くなっています。



### ⑥社会通念・慣習・しきたり

#### 【性別】

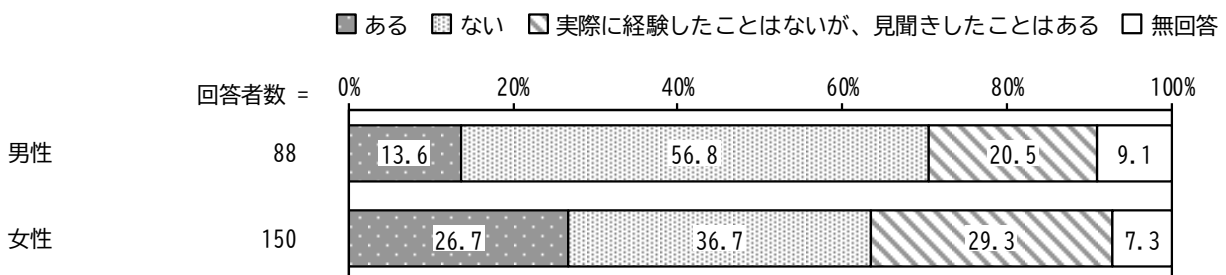
性別にみると、「ない」の割合は、男性が47.2%、女性が19.1%と、男性の方が28.1ポイント多く、「実際に経験したことはないが、見聞きしたことはある」の割合は、男性が22.0%、女性が16.8%と、男性の方が5.2ポイント多く、「ある」の割合は、男性が21.3%、女性が59.5%と、女性の方が38.2ポイント多くなっています。



### ⑦町会・自治会やNPOなどの地域活動の場

#### 【性別】

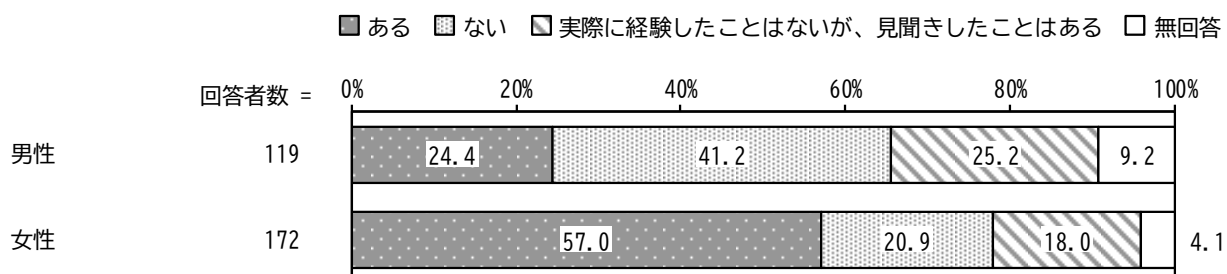
性別にみると、「ない」の割合は、男性が56.8%、女性が36.7%と、男性の方が20.1ポイント多く、「ある」の割合は、男性が13.6%、女性が26.7%と、女性の方が13.1ポイント多く、「実際に経験したことはないが、見聞きしたことはある」の割合は、男性が20.5%、女性が29.3%と、女性の方が8.8ポイント多くなっています。



## ⑧社会全体として

### 【性別】

性別にみると、「ない」の割合は、男性が41.2%、女性が20.9%と、男性の方が20.3ポイント多く、「実際に経験したことはないが、見聞きしたことはある」の割合は、男性が25.2%、女性が18.0%と、男性の方が7.2ポイント多く、「ある」の割合は、男性が24.4%、女性が57.0%と、女性の方が割合が32.6ポイント多くなっています。



問8-1で「ある」「実際に経験したことはないが、見聞きしたことはある」を選択した方にお聞きします。

付問8-2 具体的にどんな不利益を被った経験がありますか。または、見聞きしましたか。  
自由記述（回答は任意）

【回答数内訳】

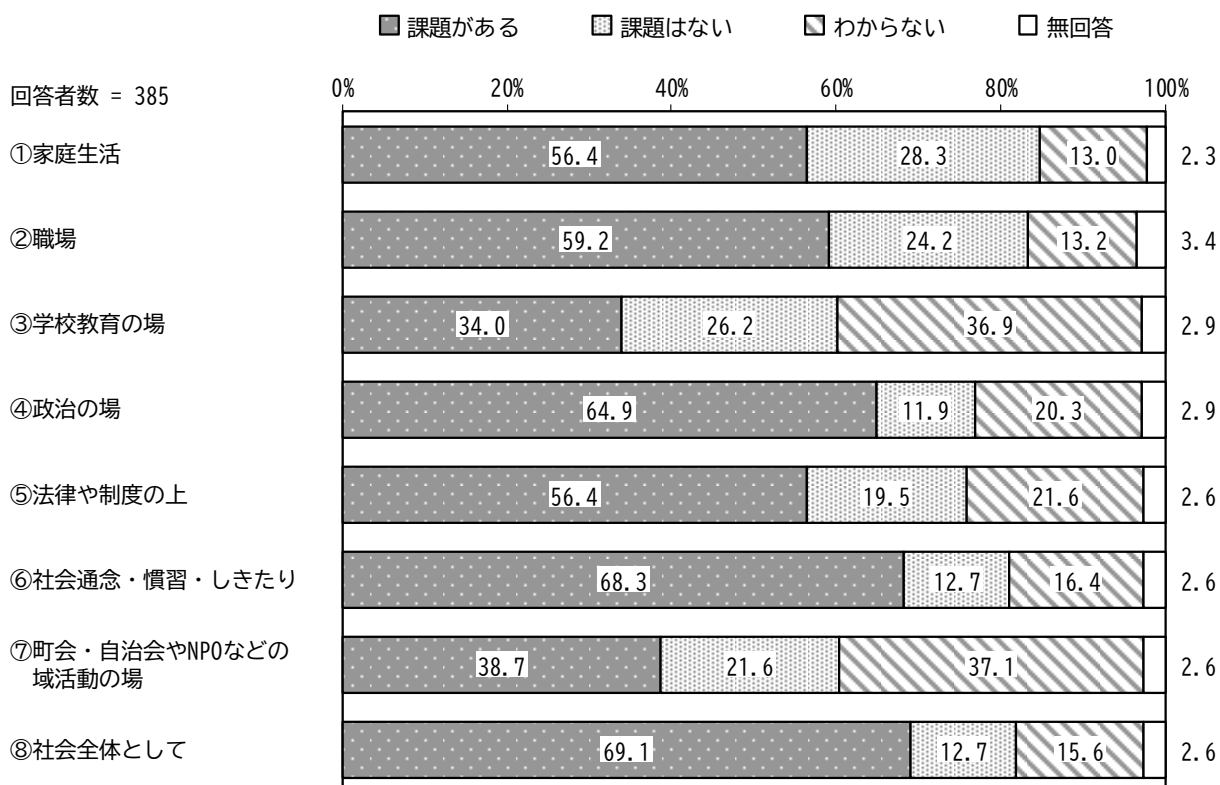
(件)

カテゴリ名	合計
(1) 男女の役割・男女の性の考え方について	46
(2) 職場における差別・ハラスメントについて	41
(3) 社会制度・公的分野について	34
(4) 家庭内の不平等について	28
(5) その他	11
合計	160

※1人の回答につき、複数の項目にわたる意見がある場合はそれぞれの項目で計上している。

問9 あなたは、次の分野①～⑧について、男女等の地位について解決すべき課題があると思いますか。（それぞれの項目について○は1つずつ）  
また、差し支えなければそう考える理由についても教えてください。（自由記述）

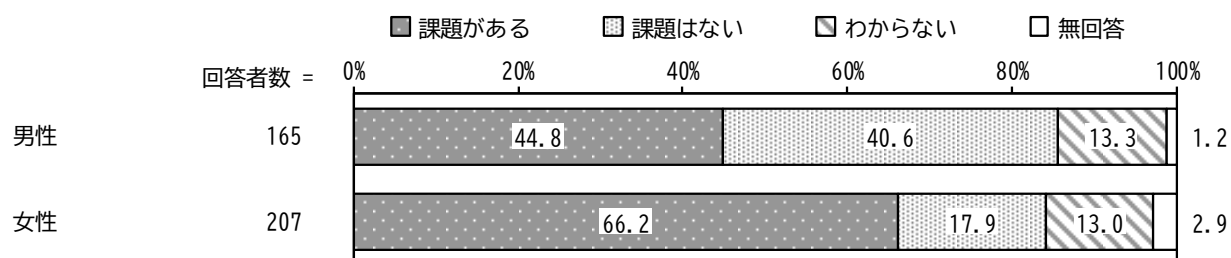
『⑧社会全体として』で「課題がある」が、『①家庭生活』で「課題はない」が高くなっています。



## ①家庭生活

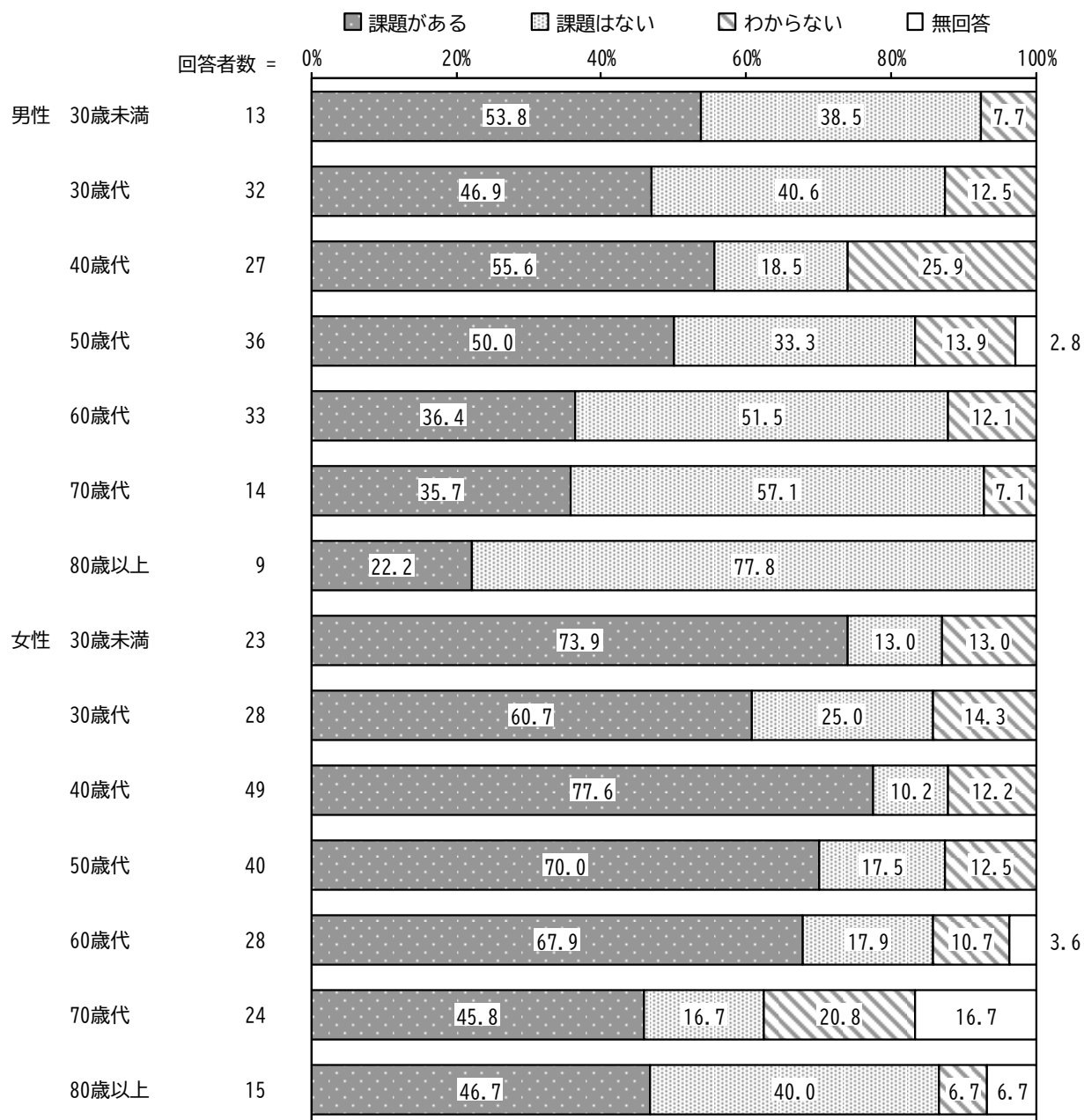
### 【性別】

性別にみると、「課題はない」の割合は、男性が40.6%、女性が17.9%と、男性の方が22.7ポイント多くなっています。



### 【性・年代別】

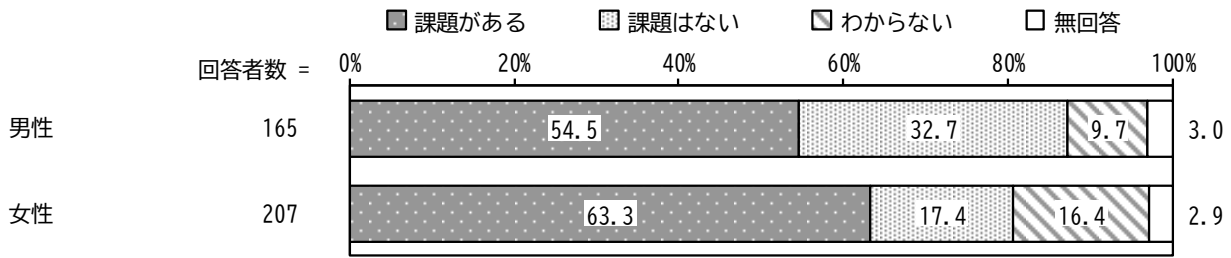
性・年代別にみると、男性では40歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「課題はない」の割合が高くなっています。また、「課題がある」の割合は、全体が56.4%であるのに対し、女性40歳代が77.6%と、21.2ポイント多くなっています。



## ②職場

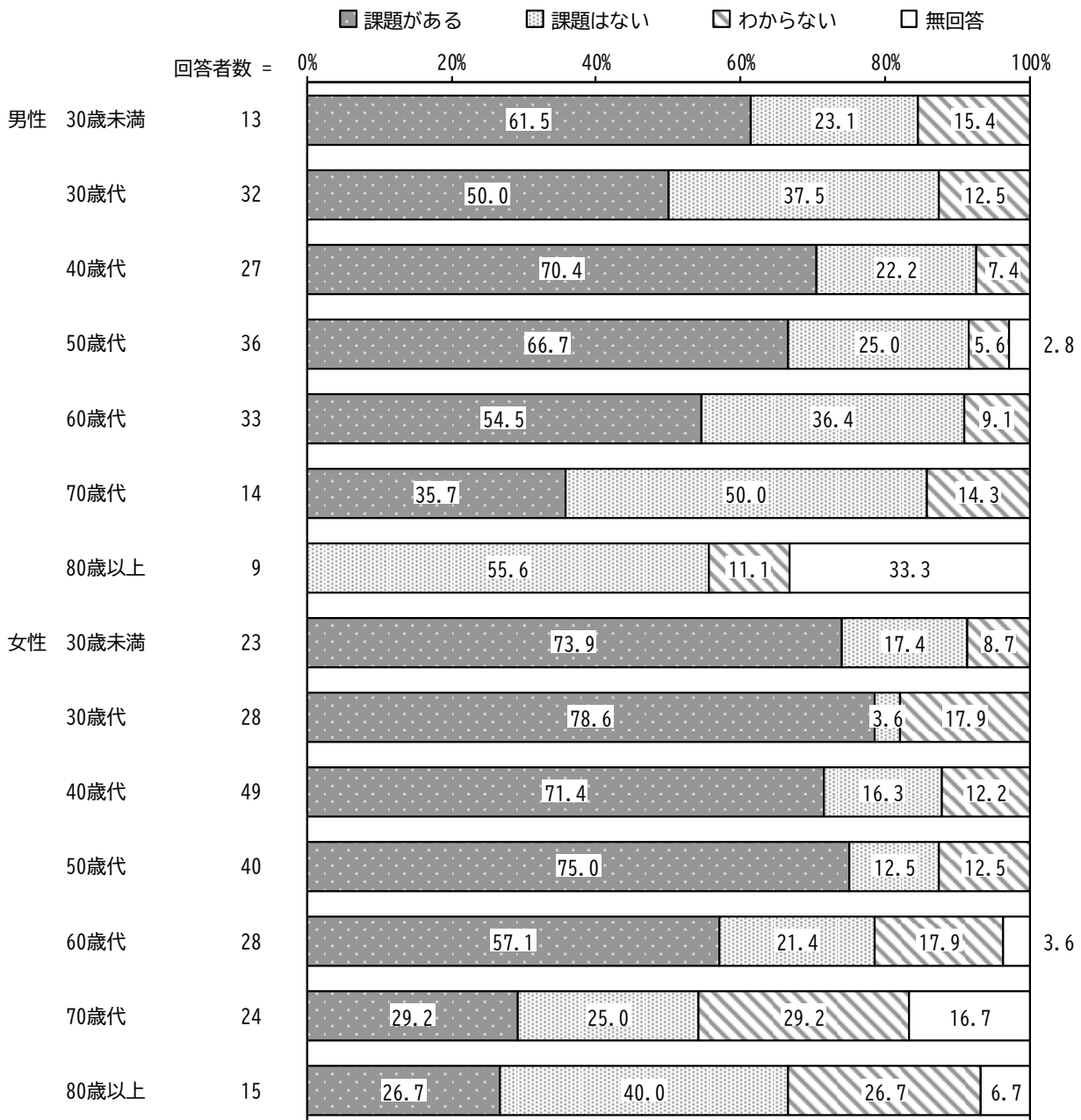
### 【性別】

性別にみると、「課題はない」の割合は、男性が32.7%、女性が17.4%と、男性の方が15.3ポイント多くなっています。



### 【性・年代別】

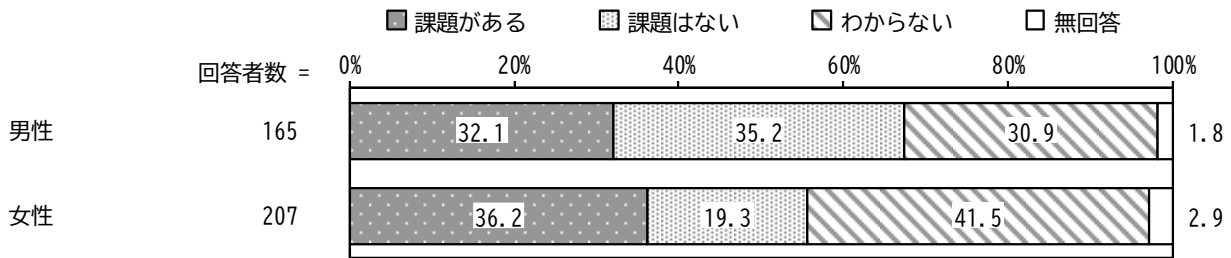
性・年代別にみると、男性では40歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「課題はない」の割合が高くなっています。また、「課題がある」の割合は、全体が59.2%であるのに対し、女性30歳代が78.6%と、19.4ポイント多くなっています。



### ③学校教育の場

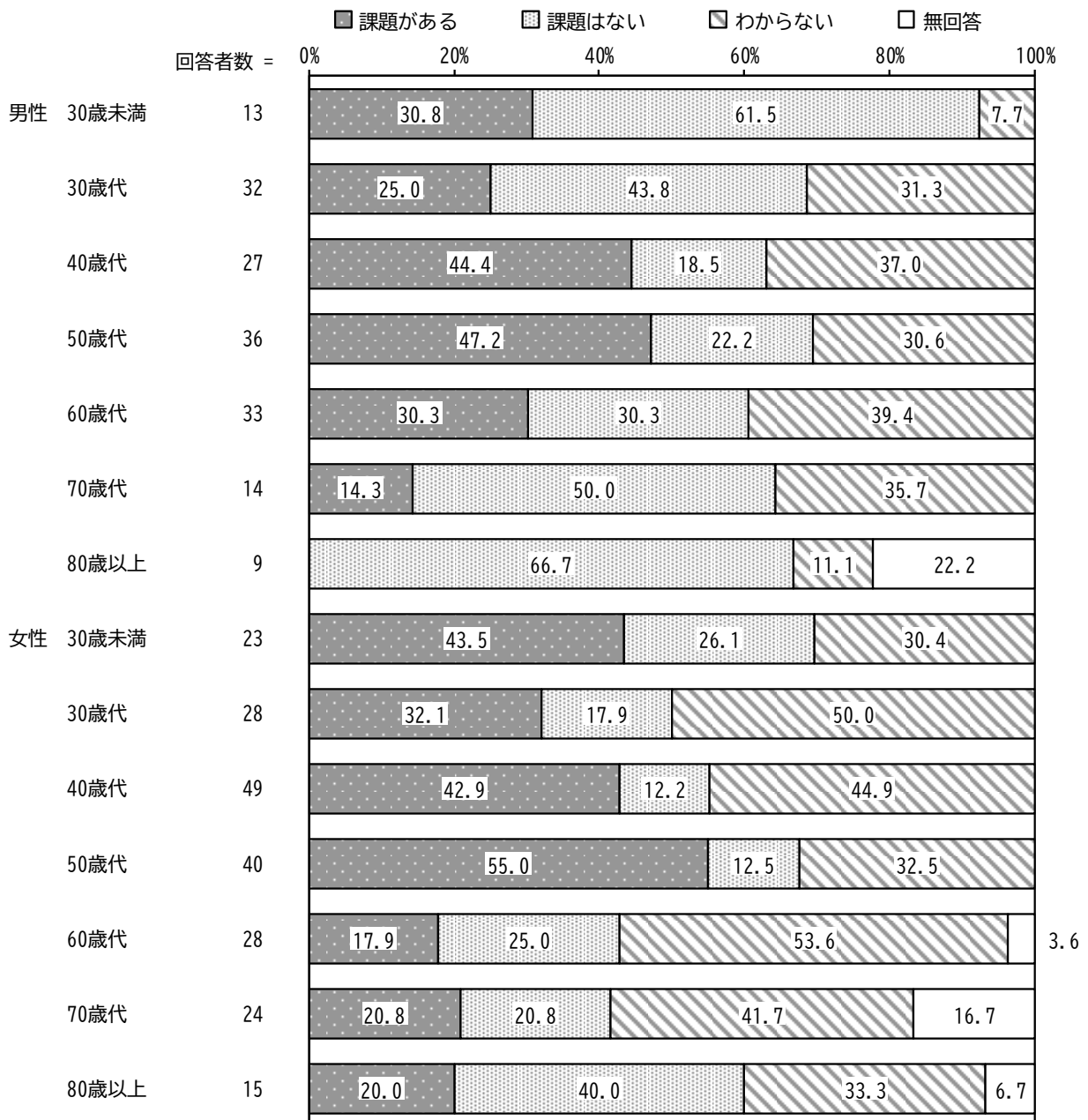
#### 【性別】

性別にみると、「課題はない」の割合は、男性が35.2%、女性が19.3%と、男性の方が15.9ポイント多くなっています。



#### 【性・年代別】

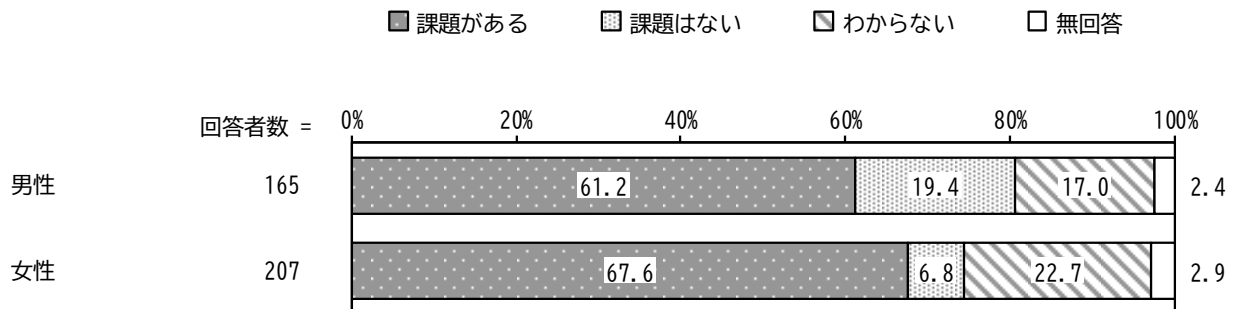
性・年代別にみると、男性では40歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「課題はない」の割合が高くなっています。また、「課題がある」の割合は、全体が34.0%であるのに対し、女性50歳代が55.0%と、21ポイント多くなっています。



#### ④政治の場

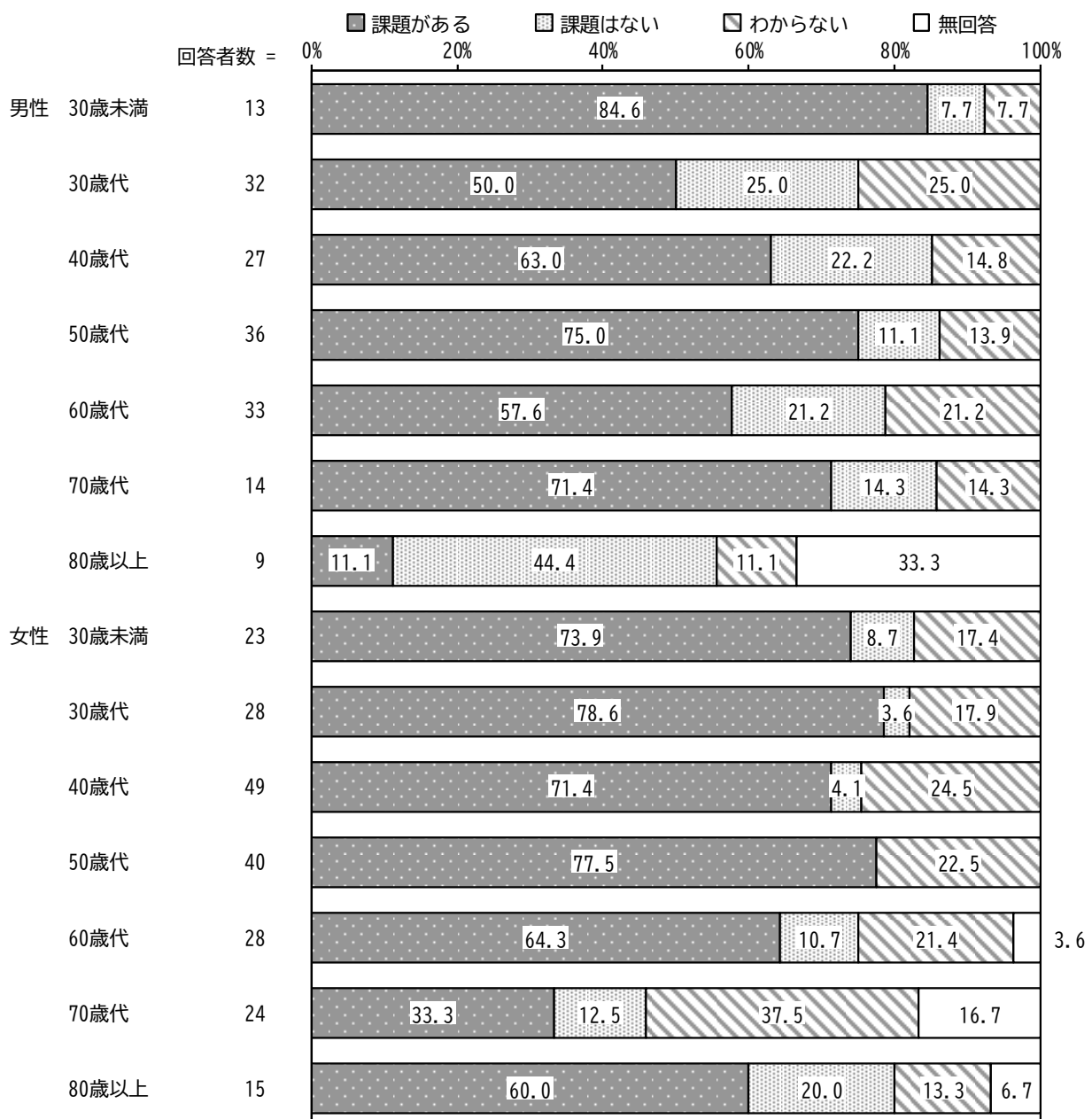
##### 【性別】

性別にみると、「課題はない」の割合は、男性が19.4%、女性が6.8%と、男性の方が12.6ポイント多くなっています。



##### 【性・年代別】

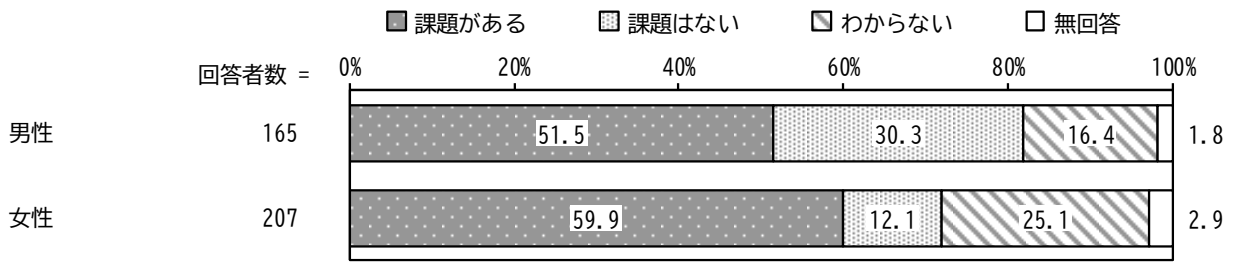
性・年代別にみると、「課題がある」の割合は、全体が64.9%であるのに対し、男性30歳未満が84.6%と、19.7ポイント多く、「課題はない」の割合は、全体が11.9%であるのに対し、男性30歳代が25.0%、男性40歳代が22.2%と、10ポイント以上多くなっています。



⑤法律や制度の上

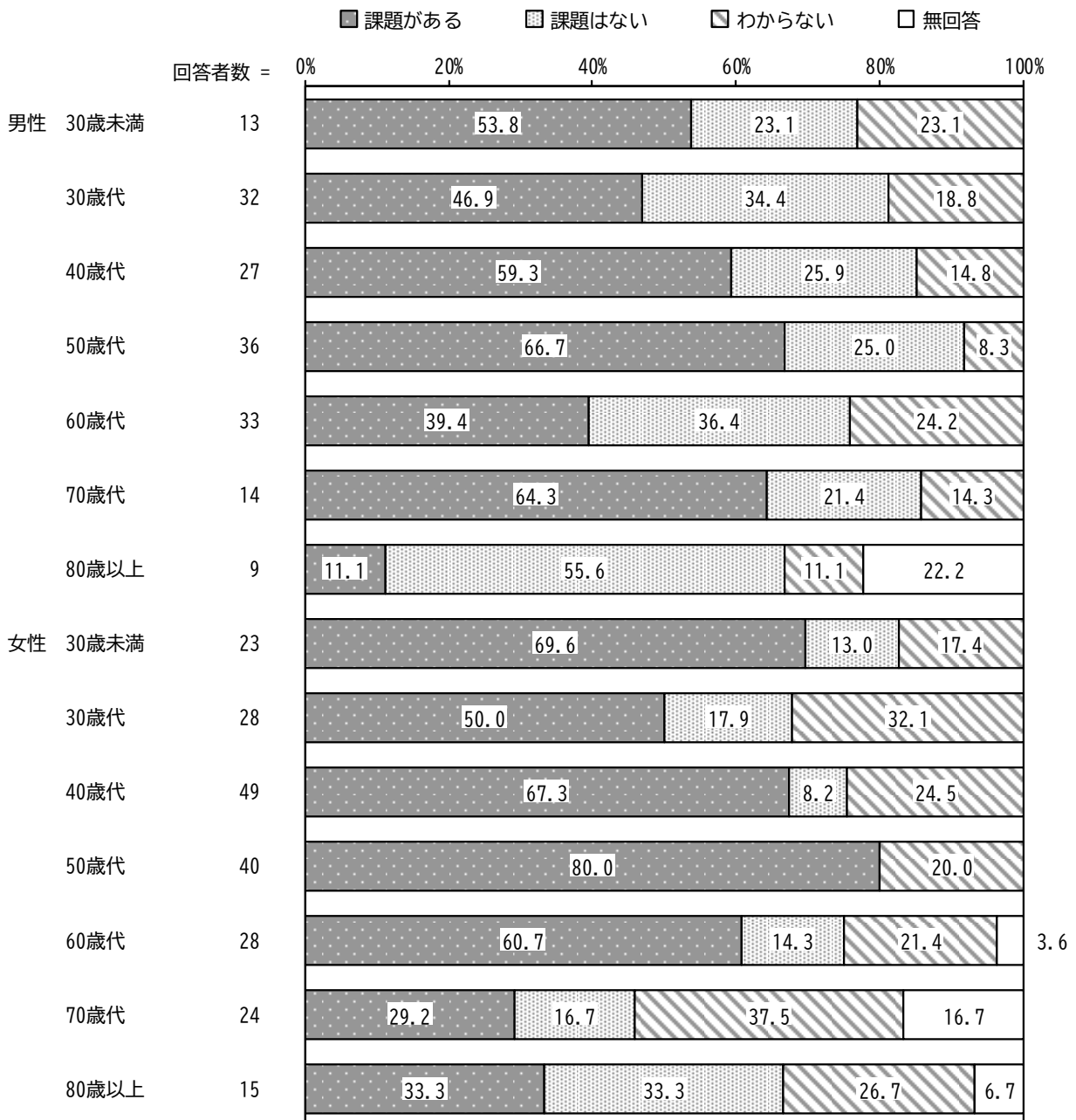
【性別】

性別にみると、「課題はない」の割合は、男性が30.3%、女性が12.1%と、男性の方が18.2ポイント多くなっています。



【性・年代別】

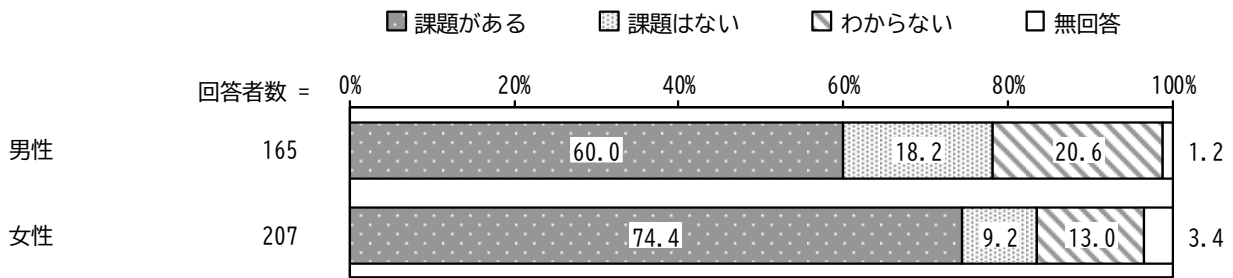
性・年代別にみると、「課題がある」の割合は、全体が56.4%であるのに対し、女性50歳代が80.0%と、23.6ポイント多く、「課題はない」の割合は、全体が19.5%であるのに対し、男性30歳代が34.4%、男性60歳代が36.4%と、14ポイント以上多くなっています。



⑥社会通念・慣習・しきたり

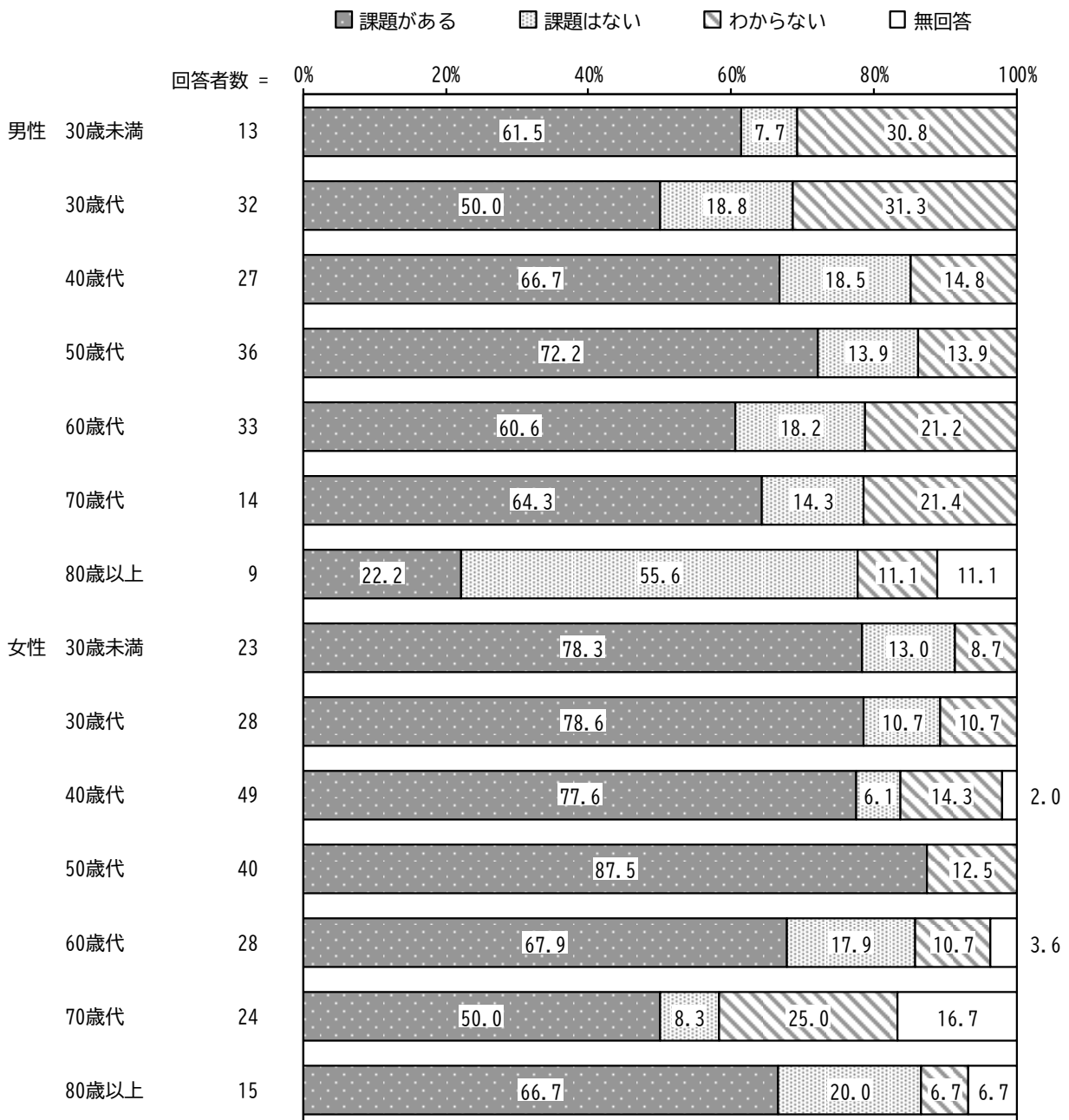
【性別】

性別にみると、「課題がある」の割合は、男性が60.0%、女性が74.4%と、女性の方が14.4ポイント多くなっています。



【性・年代別】

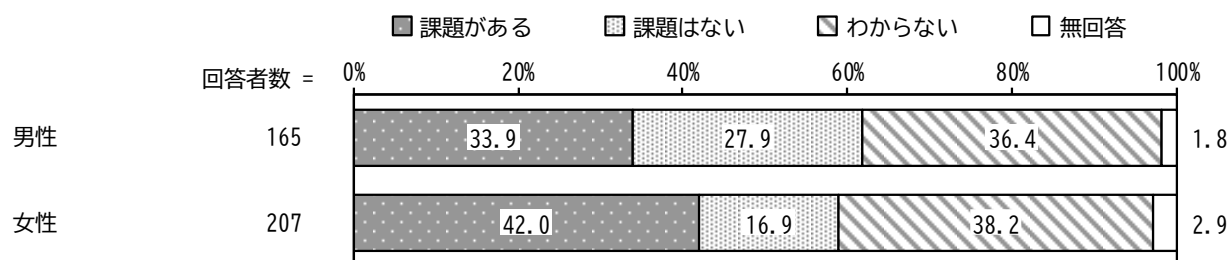
性・年代別にみると、「課題がある」の割合は、全体が68.3%であるのに対し、女性50歳代が87.5%と、19.2ポイント多くなっています。



## ⑦町会・自治会やNPOなどの地域活動の場

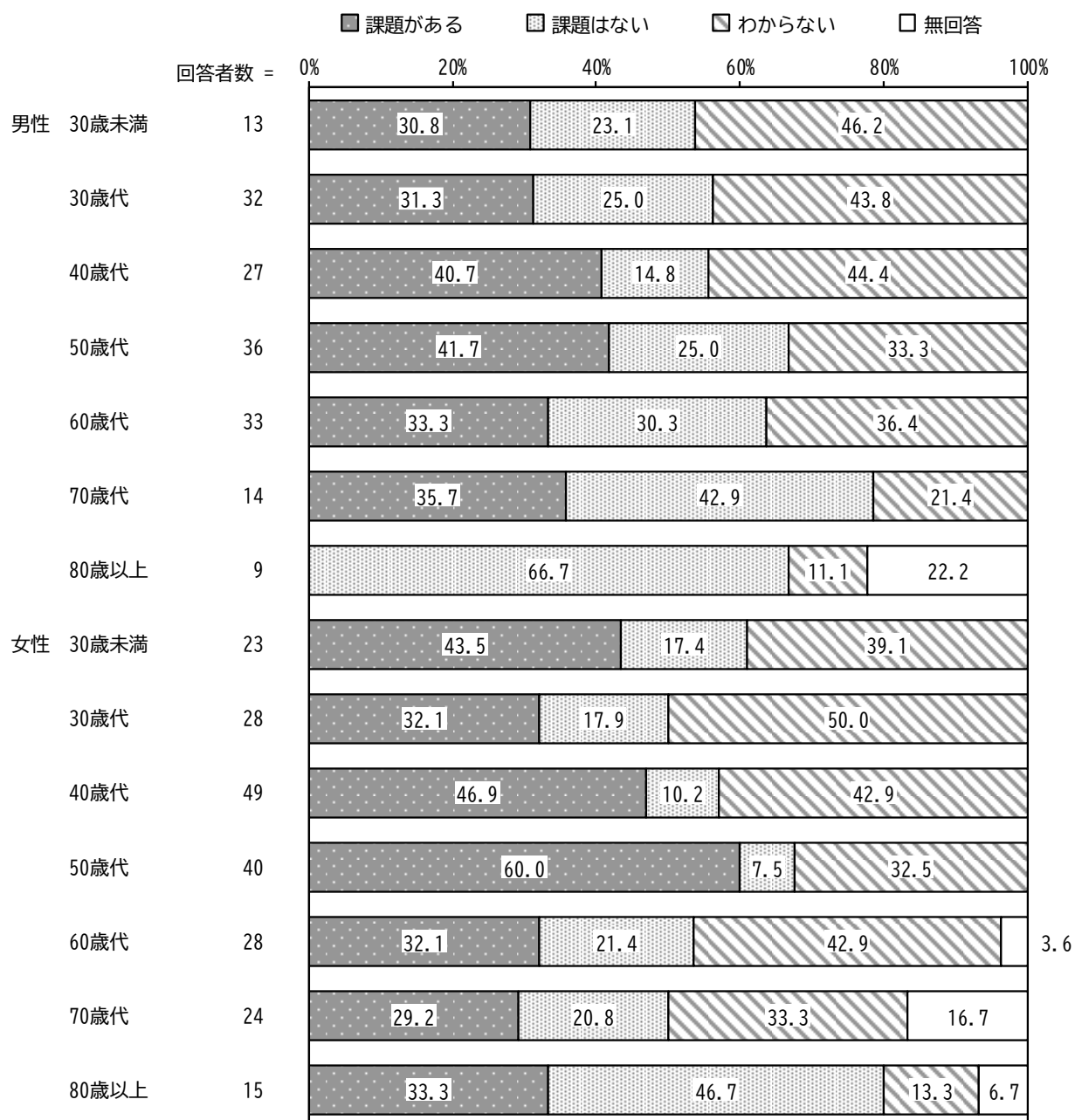
### 【性別】

性別にみると、「課題はない」の割合は、男性が27.9%、女性が16.9%と、男性の方が11ポイント多くなっています。



### 【性・年代別】

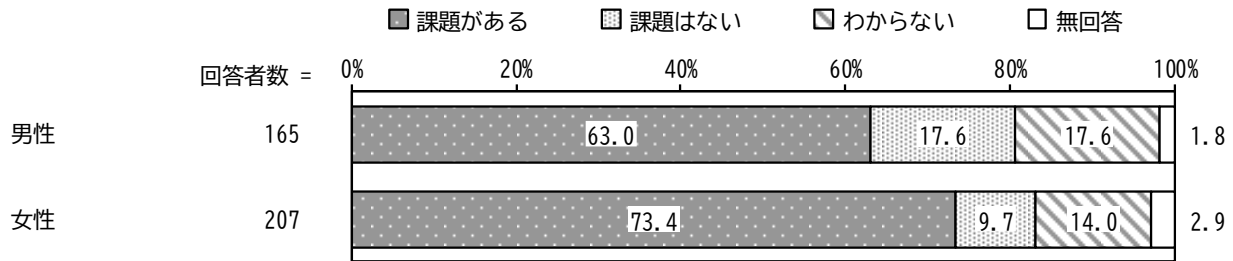
性・年代別にみると、男性では40歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「課題はない」の割合が高くなっています。また、「課題がある」の割合は、全体が38.7%であるのに対し、女性50歳代が60.0%と、21.3ポイント多くなっています。



⑧社会全体として

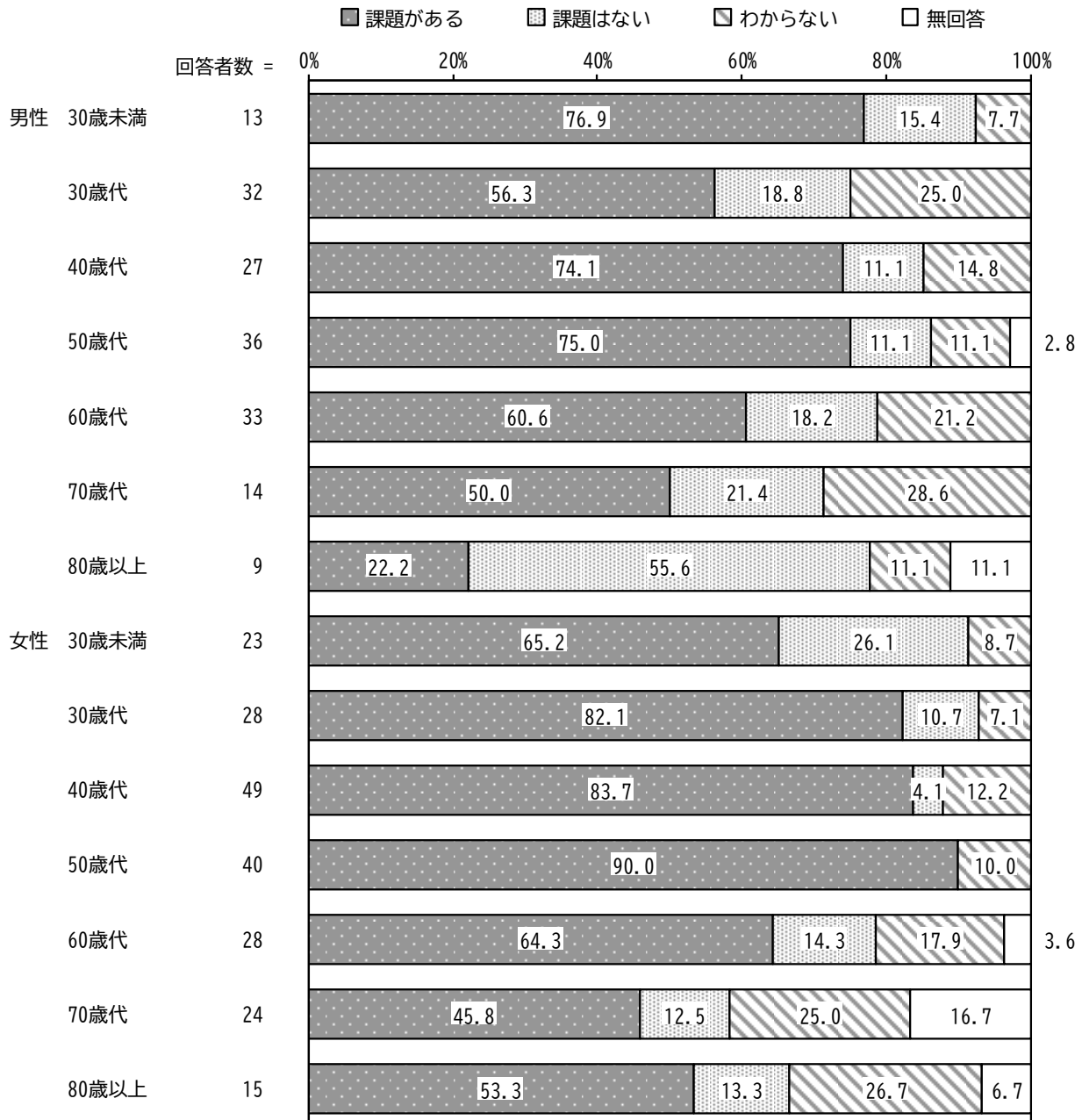
【性別】

性別にみると、「課題がある」の割合は、男性が63.0%、女性が73.4%と、女性の方が10.4ポイント多くなっています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、男性では50歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「課題はない」の割合が高くなっています。また、「課題がある」の割合は、全体が69.1%であるのに対し、女性50歳代が90.0%と、20.9ポイント多くなっています。



問9 (そう考える理由) 自由記述欄

【回答数内訳】

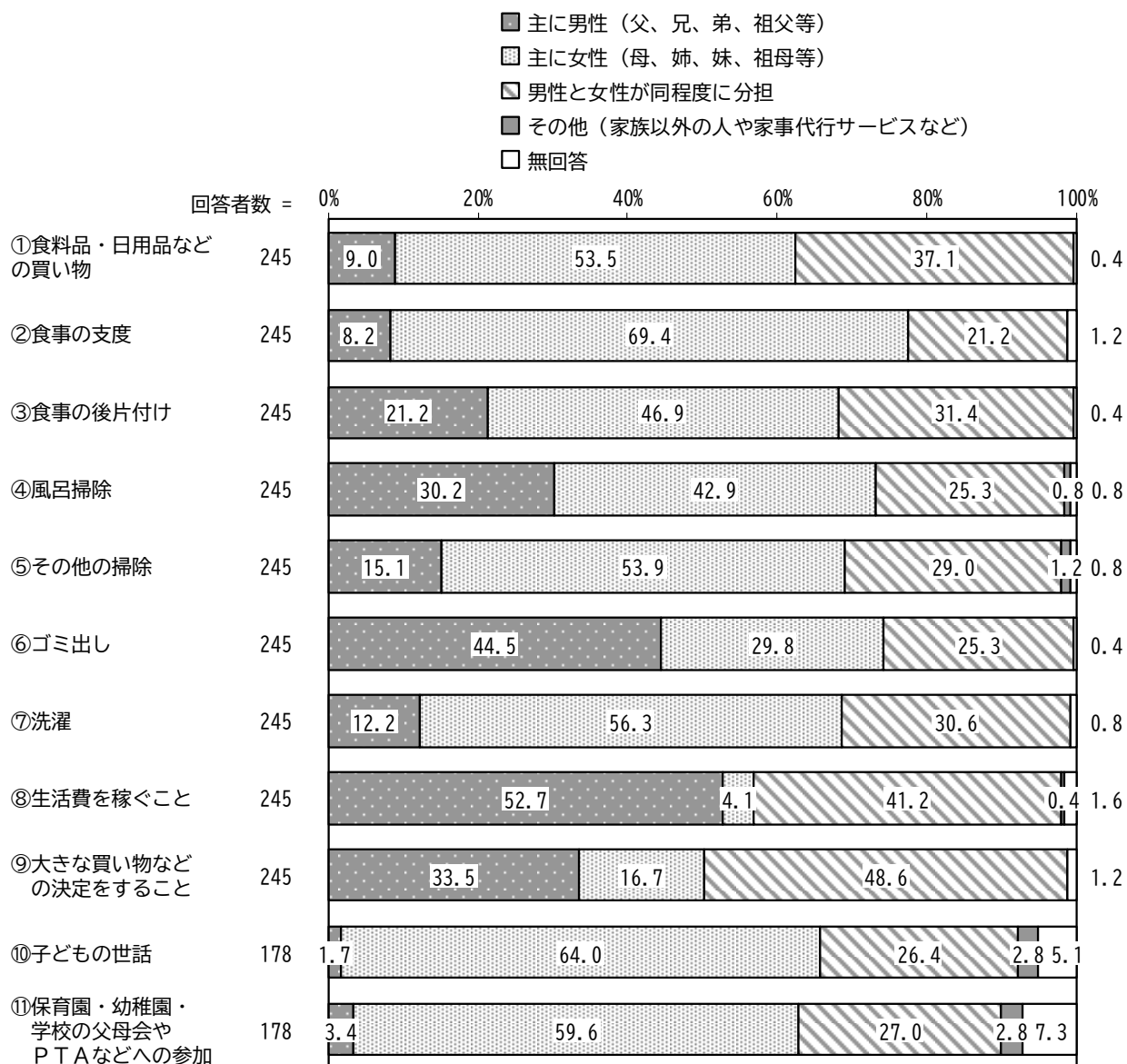
(件)

カテゴリ名	合計
(1) 制度・社会構造の男女格差について	52
(2) 意識・個人の考え方について	43
(3) 家庭内の役割について	22
(4) その他	9
合計	126

※1人の回答につき、複数の項目にわたる意見がある場合はそれぞれの項目で計上している。

問10 現在、結婚（事実婚・パートナーを含む）している方のみご回答ください。  
 あなたのご家庭では、次の項目①～⑪の事柄を主にしているのは誰ですか。  
 （それぞれの項目について○は1つずつ）  
 ※項目⑩～⑪はお子さんがいる方だけ回答ください。

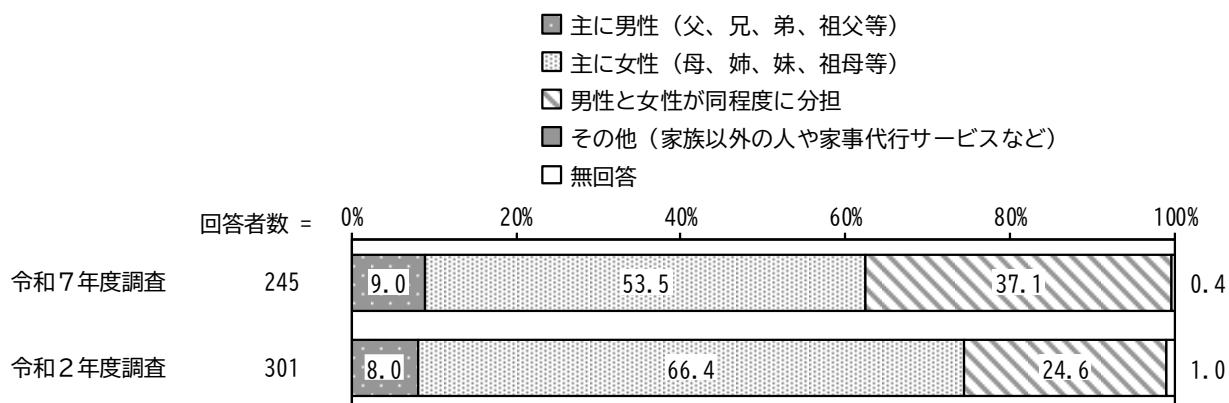
『⑧生活費を稼ぐこと』で「主に男性（父、兄、弟、祖父等）」が、『②食事の支度』で「主に女性（母、姉、妹、祖母等）」が、『⑨大きな買い物などの決定をすること』で「男性と女性が同程度に分担」が、『⑩子どもの世話』『⑪保育園・幼稚園・学校の父母会やPTAなどへの参加』で「その他（家族以外の人や家事代行サービスなど）」が高くなっています。



## ①食料品・日用品などの買い物

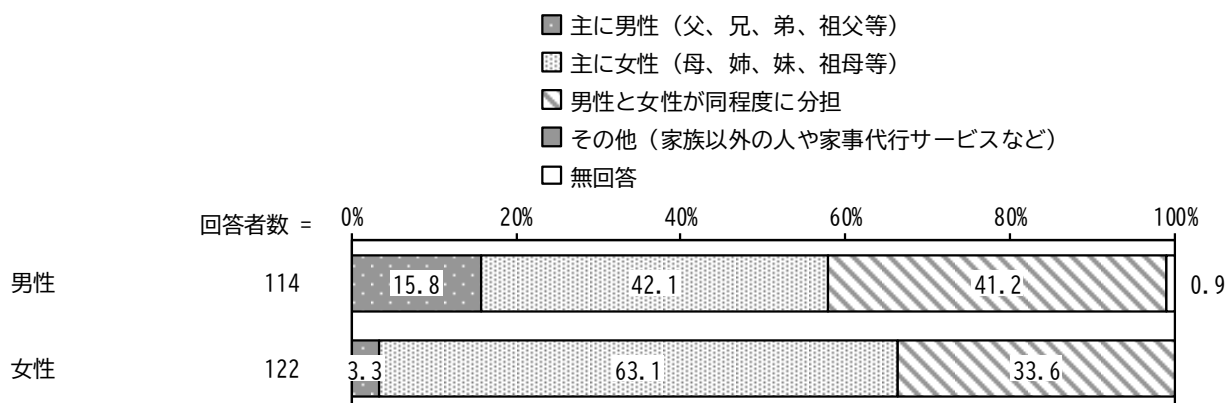
### 【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、「男性と女性が同程度に分担」の割合は、令和2年度調査が24.6%であるのに対し、令和7年度調査が37.1%と、12.5ポイント増加しています。一方、「主に女性（母、姉、妹、祖母等）」の割合は、令和2年度調査が66.4%であるのに対し、令和7年度調査が53.5%と、12.9ポイント減少しています。



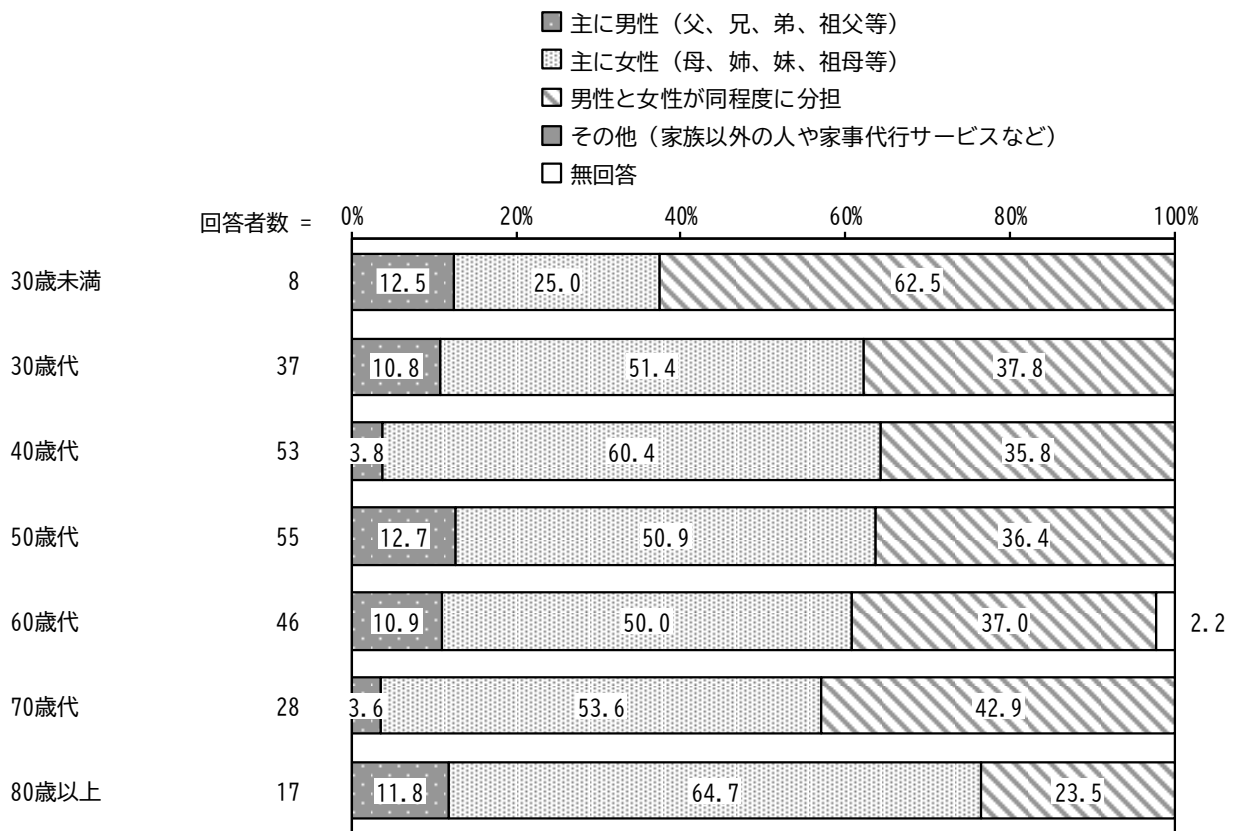
### 【性別】

性別にみると、「主に男性（父、兄、弟、祖父等）」の割合は、男性が15.8%、女性が3.3%と、男性の方が12.5ポイント多く、「男性と女性が同程度に分担」の割合は、男性が41.2%、女性が33.6%と、男性の方が7.6ポイント多く、「主に女性（母、姉、妹、祖母等）」の割合は、男性が42.1%、女性が63.1%と、女性の方が21ポイント多くなっています。



## 【年代別】

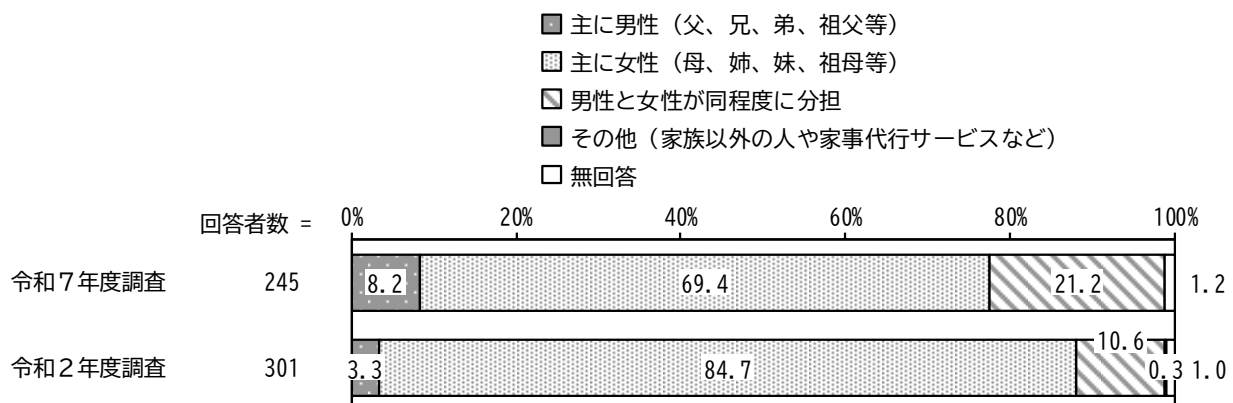
年代別にみると、「主に女性（母、姉、妹、祖母等）」の割合は、全体が 53.5%であるのに対し、80歳以上が 64.7%と、11.2 ポイント多く、「男性と女性が同程度に分担」の割合は、全体が 37.1%であるのに対し、80歳以上が 23.5%と、13.6 ポイント少なくなっています。



## ②食事の支度

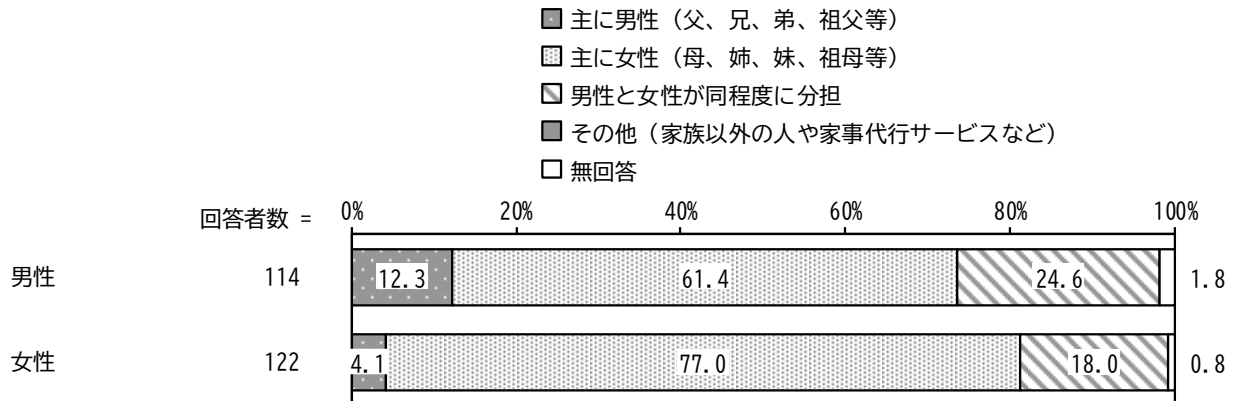
### 【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、「男性と女性が同程度に分担」の割合は、令和2年度調査が 10.6%であるのに対し、令和7年度調査が 21.2%と、10.6 ポイント増加しています。一方、「主に女性（母、姉、妹、祖母等）」の割合は、令和2年度調査が 84.7%であるのに対し、令和7年度調査が 69.4%と、15.3 ポイント減少しています。



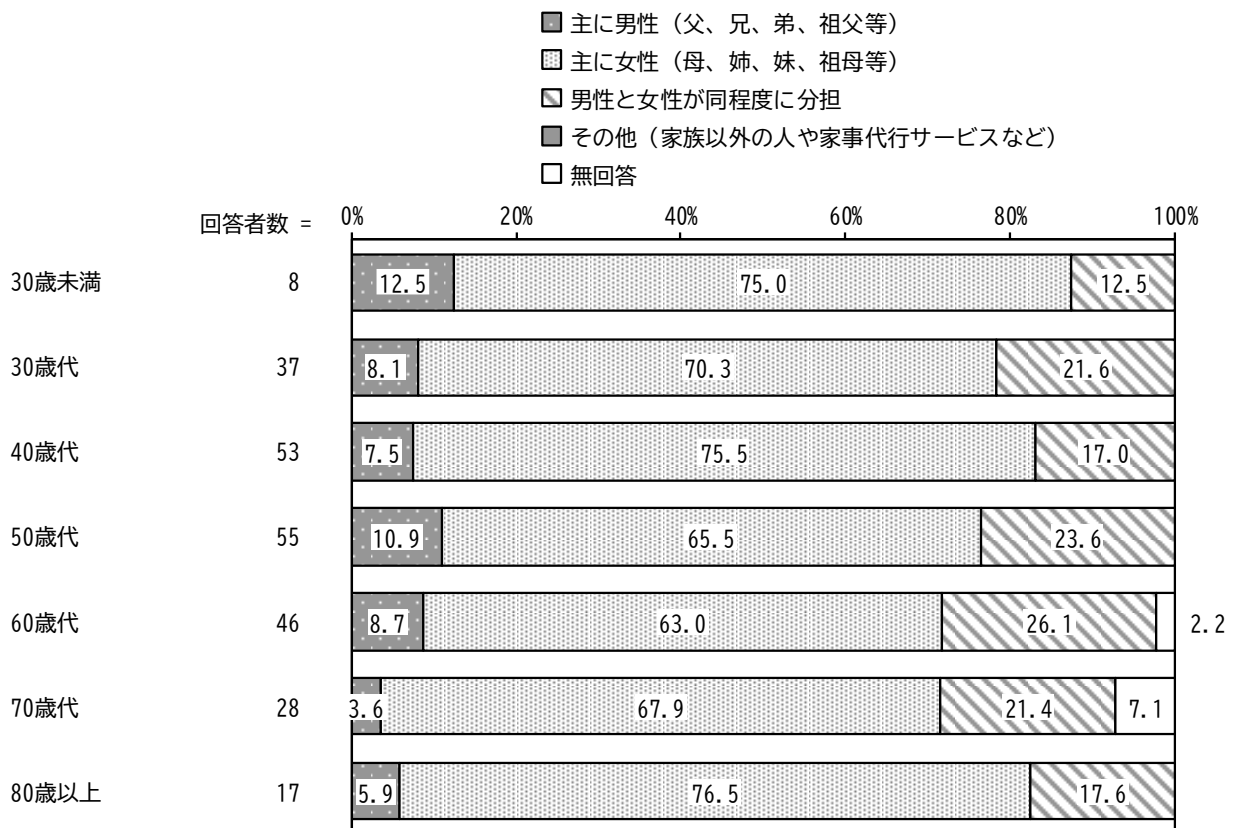
【性別】

性別にみると、男性で「主に男性（父、兄、弟、祖父等）」の割合は、男性が12.3%、女性が4.1%と、男性の方が8.2ポイント多く、「男性と女性が同程度に分担」の割合は、男性が24.6%、女性が18.0%と、男性の方が6.6ポイント多く、「主に女性（母、姉、妹、祖母等）」の割合は、男性が61.4%、女性が77.0%と、女性の方が15.6ポイント多くなっています。



【年代別】

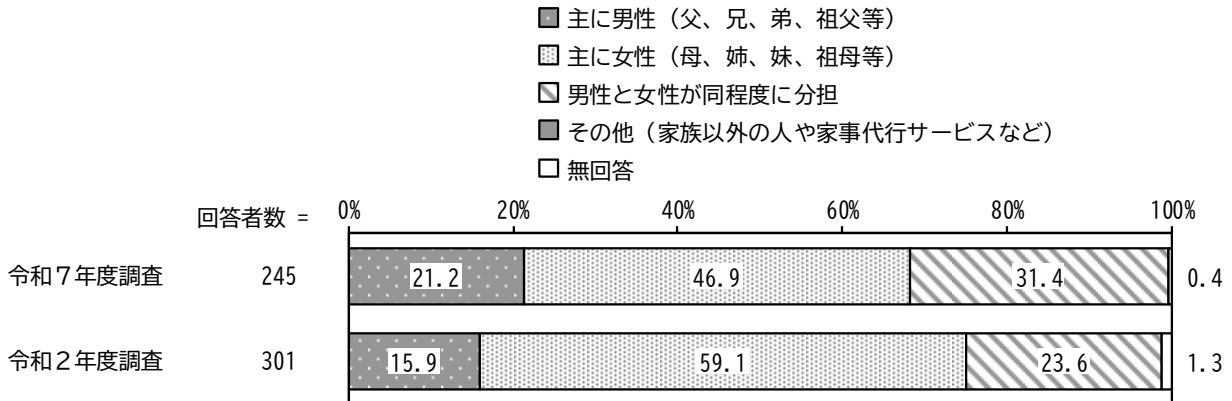
年代別にみると、「主に女性（母、姉、妹、祖母等）」の割合は、全体が69.4%であるのに対し、40歳代が75.5%、80歳以上が76.5%と、6ポイント以上多くなっています。



### ③食事の後片付け

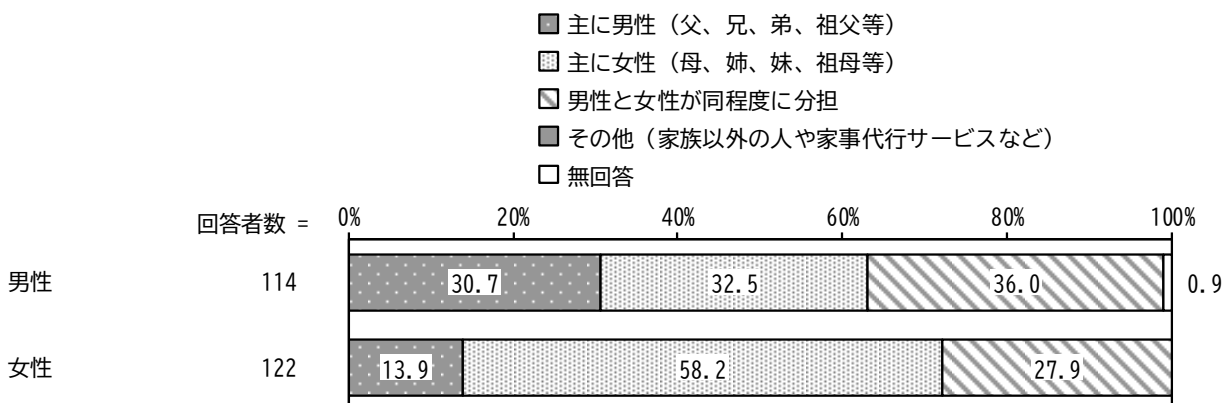
#### 【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、「主に男性（父、兄、弟、祖父等）」の割合は、令和2年度調査が15.9%であるのに対し、令和7年度調査が21.2%と、5.3ポイント増加し、「男性と女性が同程度に分担」の割合は、令和2年度調査が23.6%であるのに対し、令和7年度調査が31.4%と、7.8ポイント増加しています。一方、「主に女性（母、姉、妹、祖母等）」の割合は、令和2年度調査が59.1%であるのに対し、令和7年度調査が46.9%と、12.2ポイント減少しています。



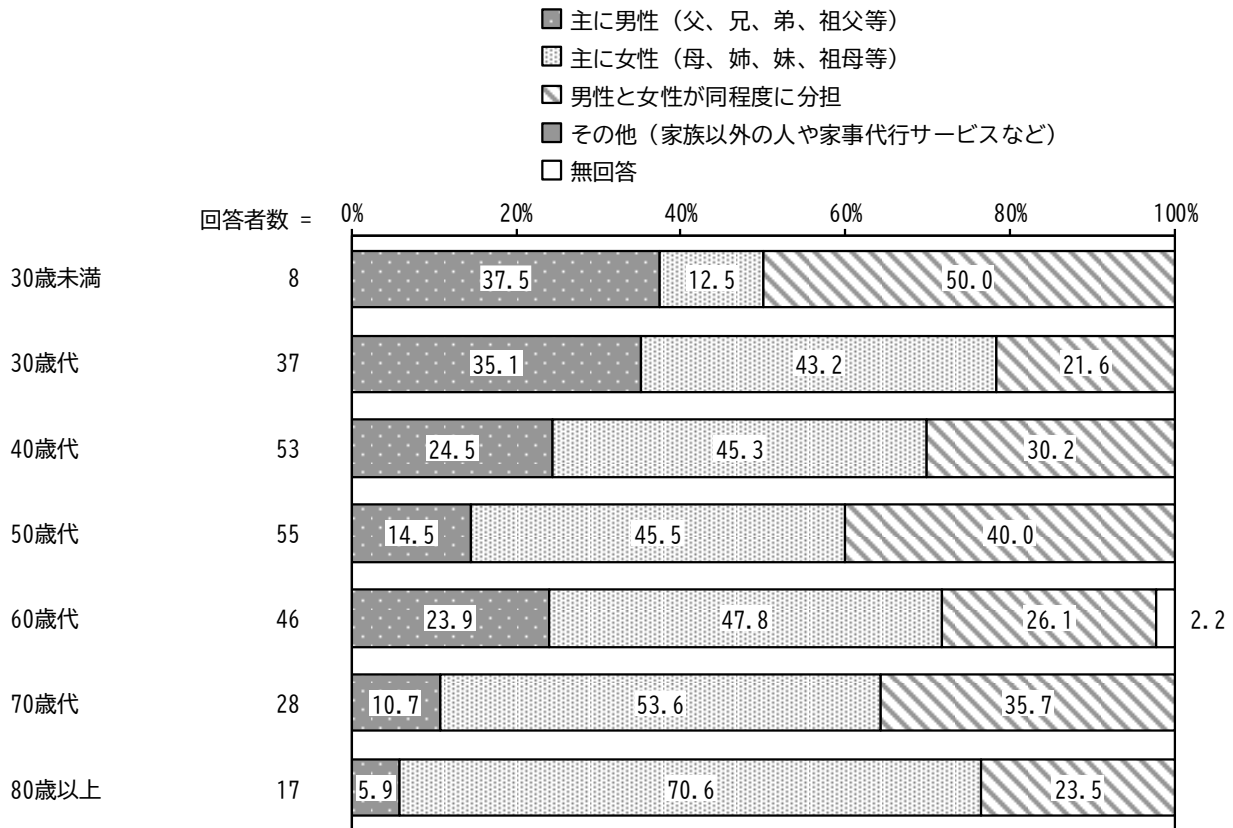
#### 【性別】

性別にみると、「主に男性（父、兄、弟、祖父等）」の割合は、男性が30.7%、女性が13.9%と、男性の方が16.8ポイント多く、「男性と女性が同程度に分担」の割合は、男性が36.0%、女性が27.9%と、男性の方が8.1ポイント多く、「主に女性（母、姉、妹、祖母等）」の割合は、男性が32.5%、女性が58.2%と、女性の方が25.7ポイント多くなっています。



### 【年代別】

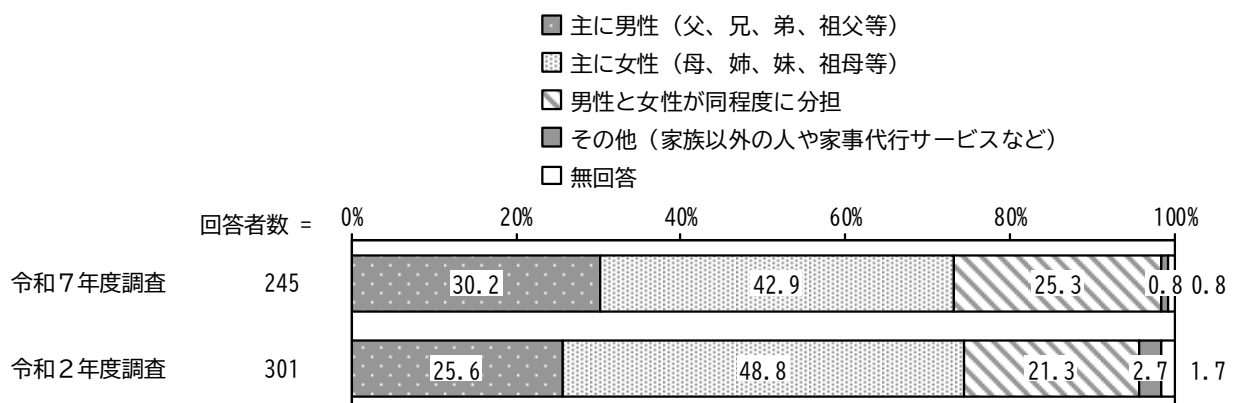
年代別にみると、年代が上がるほど「主に女性（母、姉、妹、祖母等）」の割合が高く、50歳代から30歳未満まで年代が下がるほど「主に男性（父、兄、弟、祖父等）」の割合が高くなっています。



### ④風呂掃除

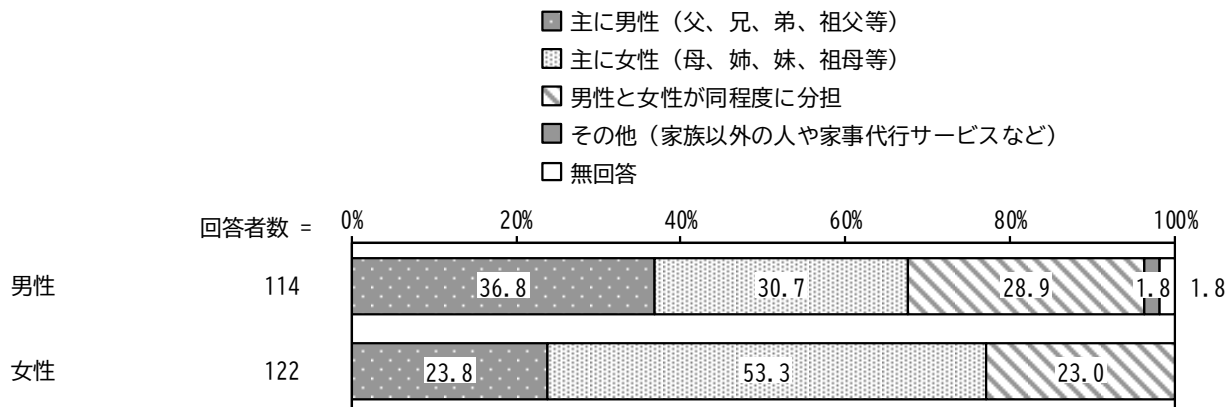
#### 【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、「主に女性（母、姉、妹、祖母等）」の割合は、令和2年度調査が48.8%であるのに対し、令和7年度調査が42.9%と、5.9ポイント減少しています。



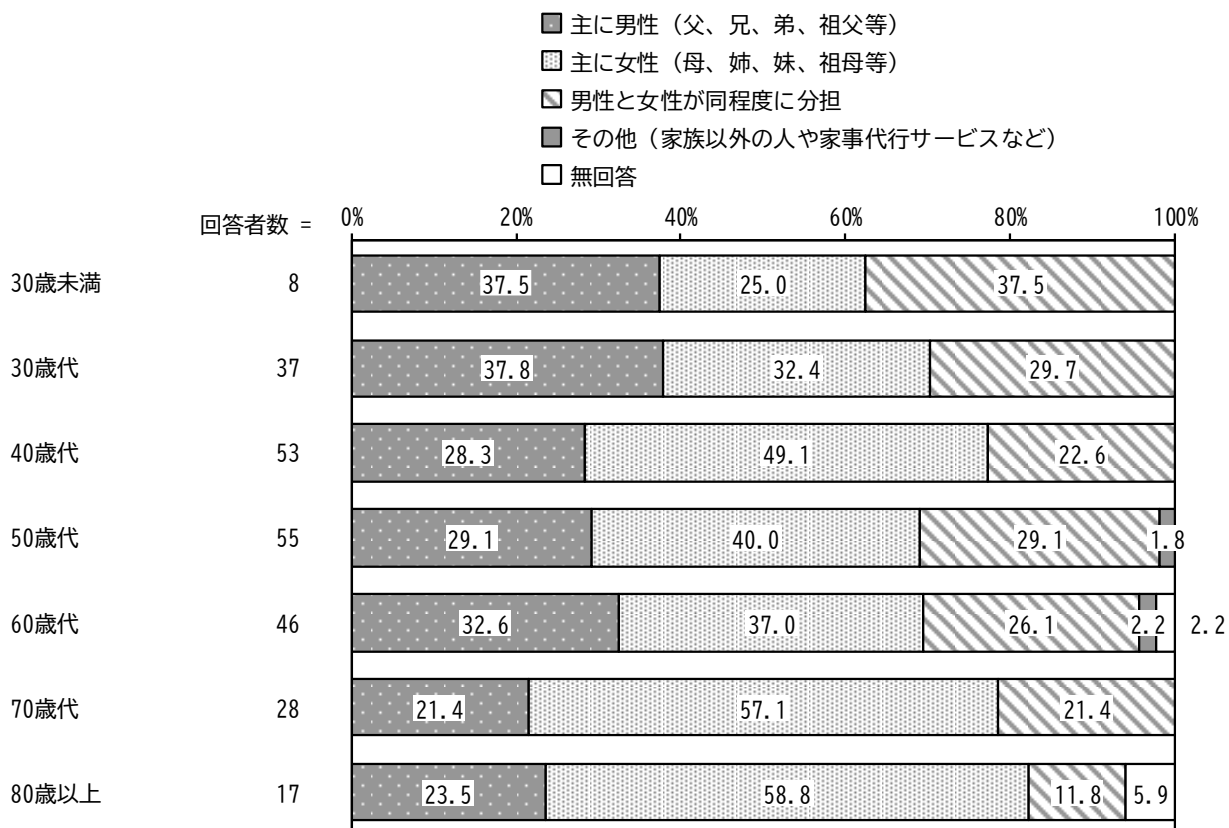
### 【性別】

性別にみると、「主に男性（父、兄、弟、祖父等）」の割合は、男性が36.8%、女性が23.8%と、男性の方が13ポイント、「男性と女性が同程度に分担」の割合は、男性が28.9%、女性が23.0%と、男性の方が5.9ポイント多く、「主に女性（母、姉、妹、祖母等）」の割合は、男性が30.7%、女性が53.3%と、女性の方が22.6ポイント多くなっています。



### 【年代別】

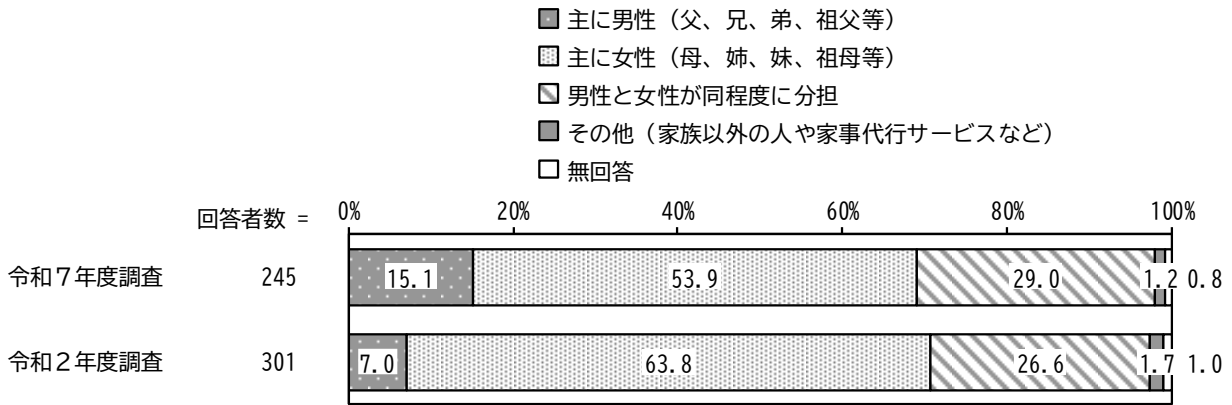
年代別にみると、80歳以上から50歳代まで年代が下がるほど「男性と女性が同程度に分担」の割合が高くなっています。また、「主に女性（母、姉、妹、祖母等）」の割合は、全体が42.9%であるのに対し、70歳代が57.1%と、14.2ポイント多くなっています。



## ⑤その他の掃除

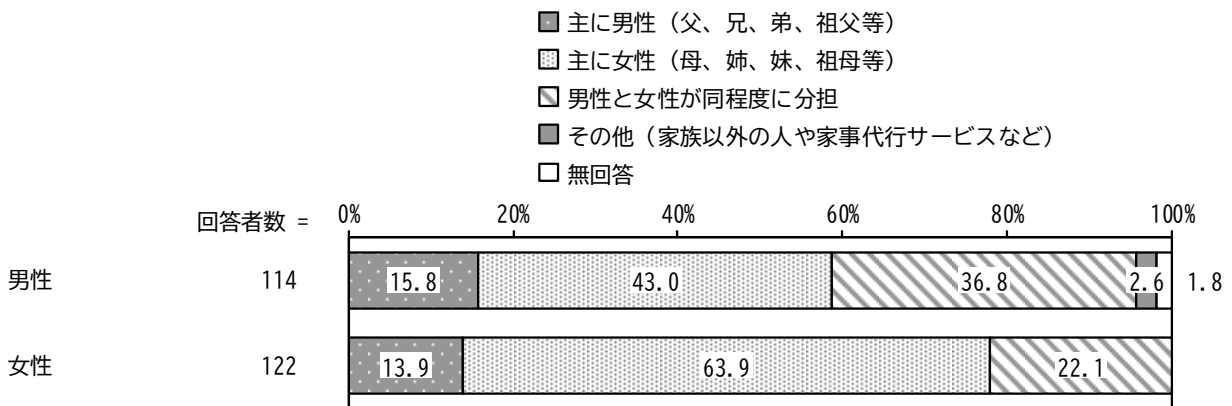
### 【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、「主に男性（父、兄、弟、祖父等）」の割合は、令和2年度調査が7.0%であるのに対し、令和7年度調査が15.1%と、8.1ポイント増加しています。一方、「主に女性（母、姉、妹、祖母等）」の割合は、令和2年度調査が63.8%であるのに対し、令和7年度調査が53.9%と、9.9ポイント減少しています。



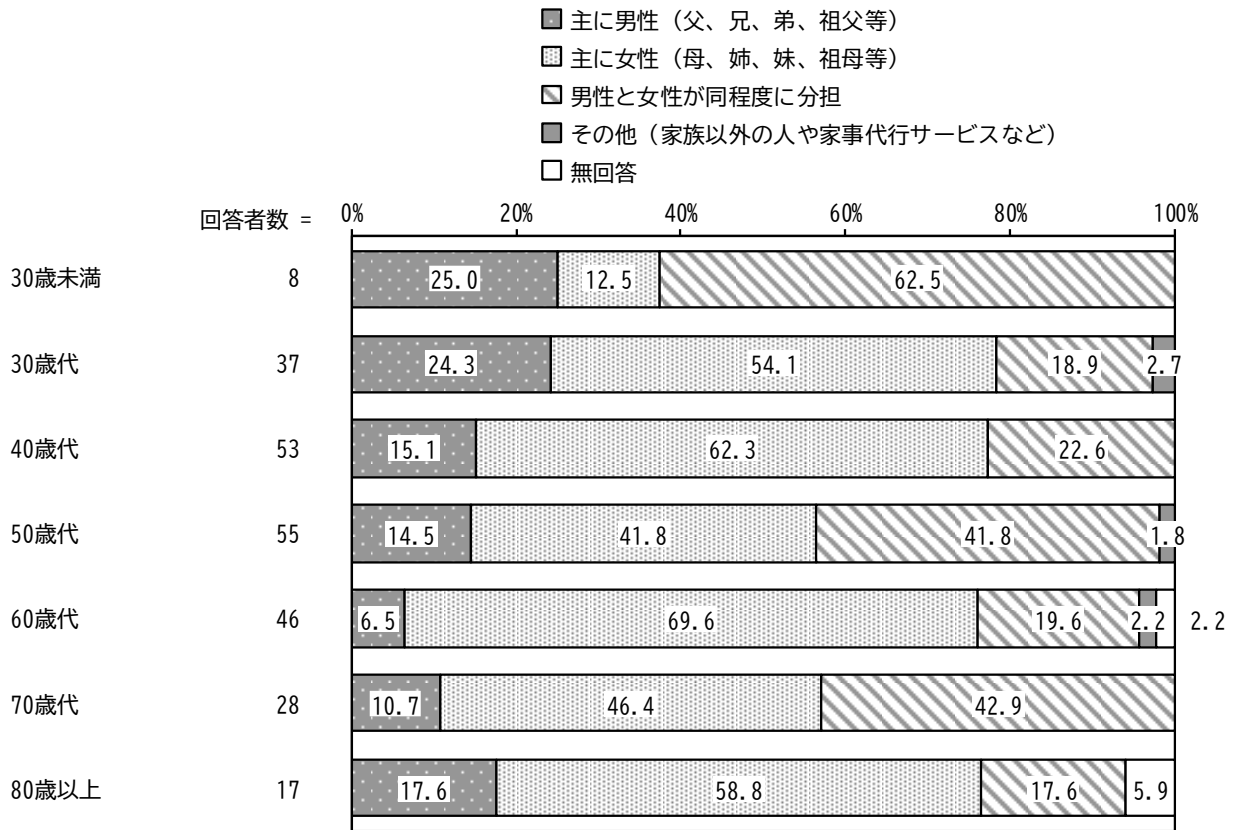
### 【性別】

性別にみると、「男性と女性が同程度に分担」の割合は、男性が36.8%、女性が22.1%と、男性の方が14.7ポイント多く、「主に女性（母、姉、妹、祖母等）」の割合は、男性が43.0%、女性が63.9%と、女性の方が20.9ポイント多くなっています。



## 【年代別】

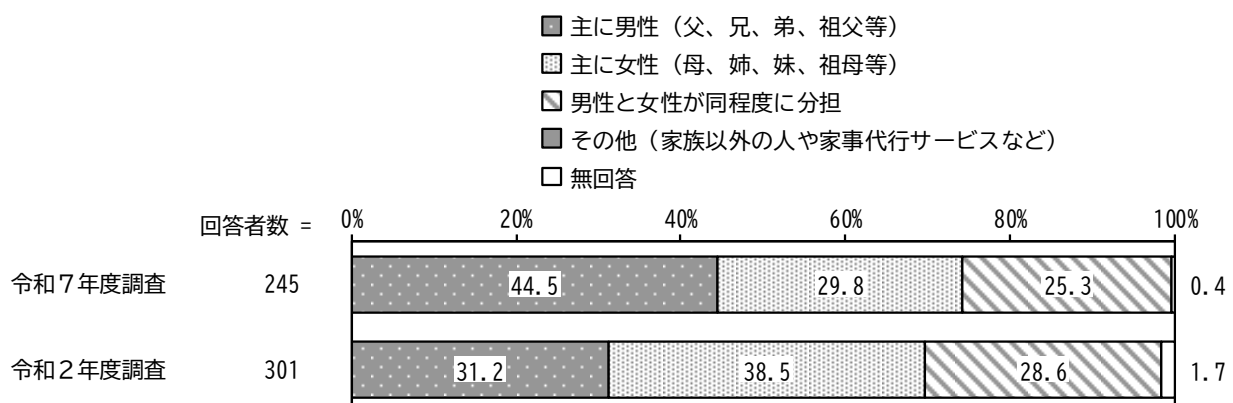
年代別にみると、60歳代から30歳未満まで年代が下がるほど「主に男性（父、兄、弟、祖父等）」の割合が高くなっています。また、「主に女性（母、姉、妹、祖母等）」の割合は、全体が53.9%であるのに対し、60歳代が69.6%と、15.7ポイント多く、「男性と女性が同程度に分担」の割合は、全体が29.0%であるのに対し、50歳代が41.8%、70歳代が42.9%と、12ポイント以上多くなっています。



## ⑥ゴミ出し

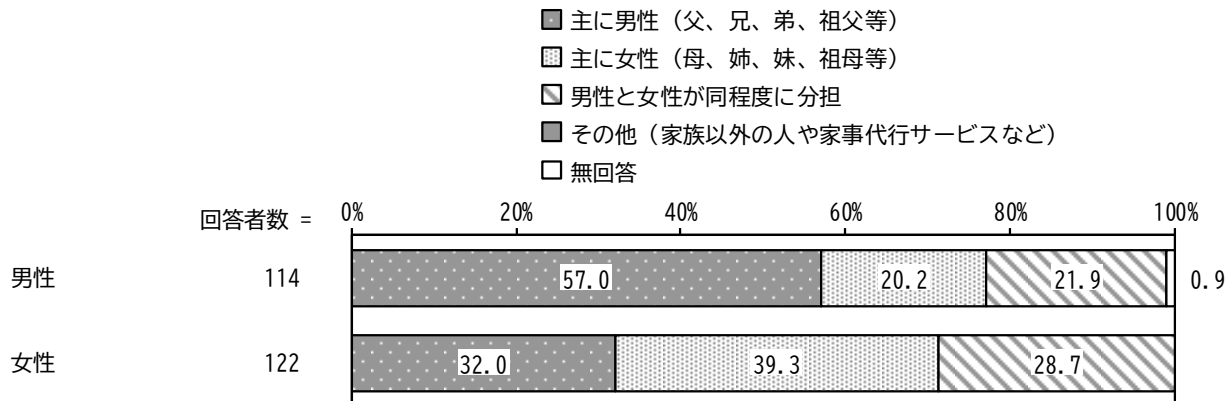
### 【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、「主に男性（父、兄、弟、祖父等）」の割合は、令和2年度調査が31.2%であるのに対し、令和7年度調査が44.5%と、13.3ポイント増加しています。一方、「主に女性（母、姉、妹、祖母等）」の割合は、令和2年度調査が38.5%であるのに対し、令和7年度調査が29.8%と、8.7ポイント減少しています。



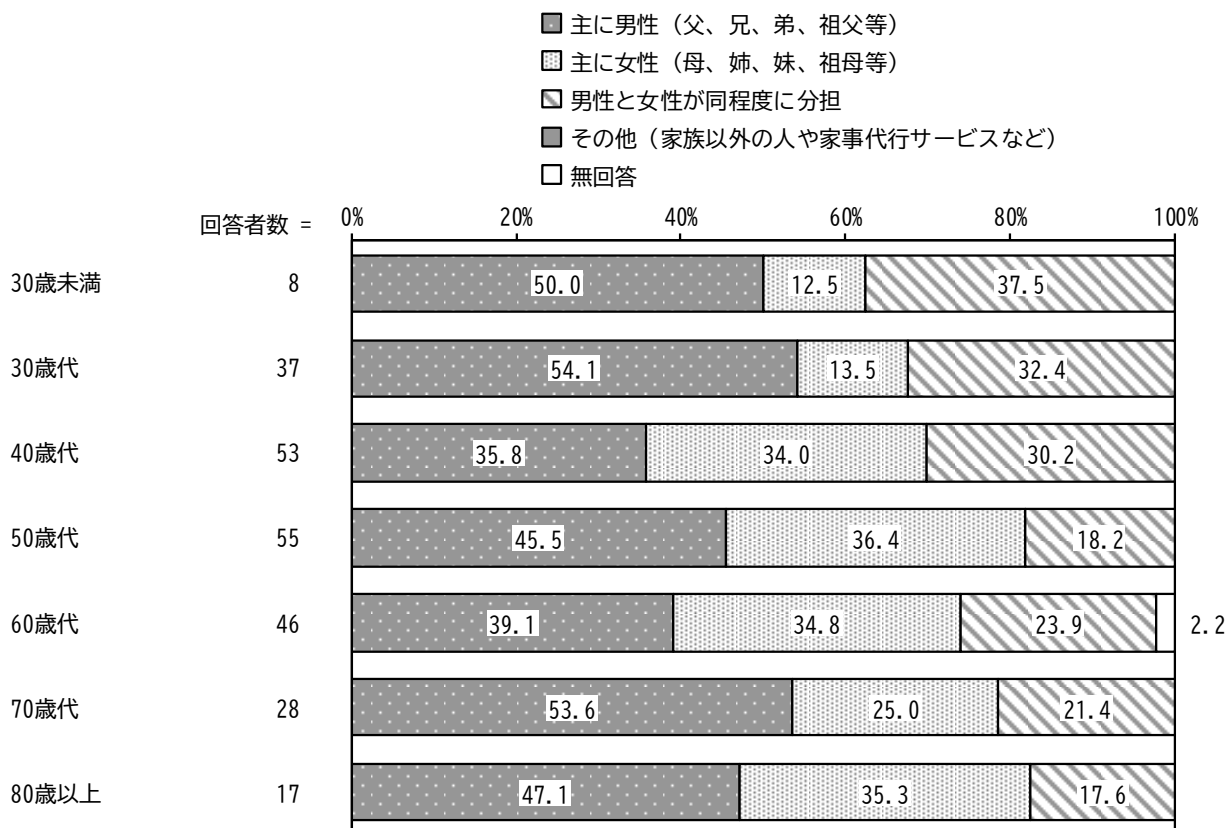
【性別】

性別にみると、「主に男性（父、兄、弟、祖父等）」の割合は、男性が57.0%、女性が32.0%と、男性の方が25ポイント多く、「主に女性（母、姉、妹、祖母等）」の割合は、男性が20.2%、女性が39.3%と、女性の方が19.1ポイント多く、「男性と女性が同程度に分担」の割合は、男性が21.9%、女性が28.7%と、女性の方が6.8ポイント多くなっています。



【年代別】

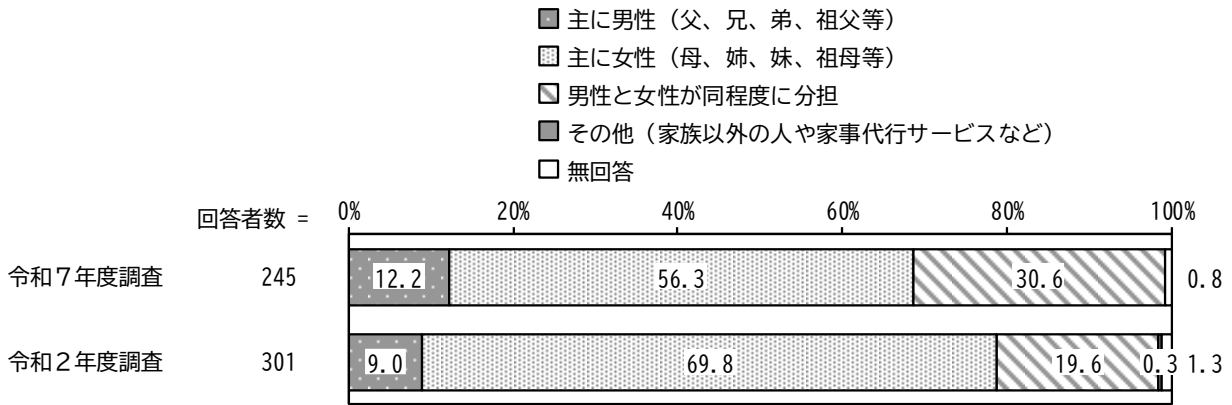
年代別にみると、50歳代から30歳未満まで年代が下がるほど「男性と女性が同程度に分担」の割合が高くなっています。また、「主に女性（母、姉、妹、祖母等）」の割合は、全体が29.8%であるのに対し、30歳代が13.5%と、16.3ポイント少なくなっています。



⑦洗濯

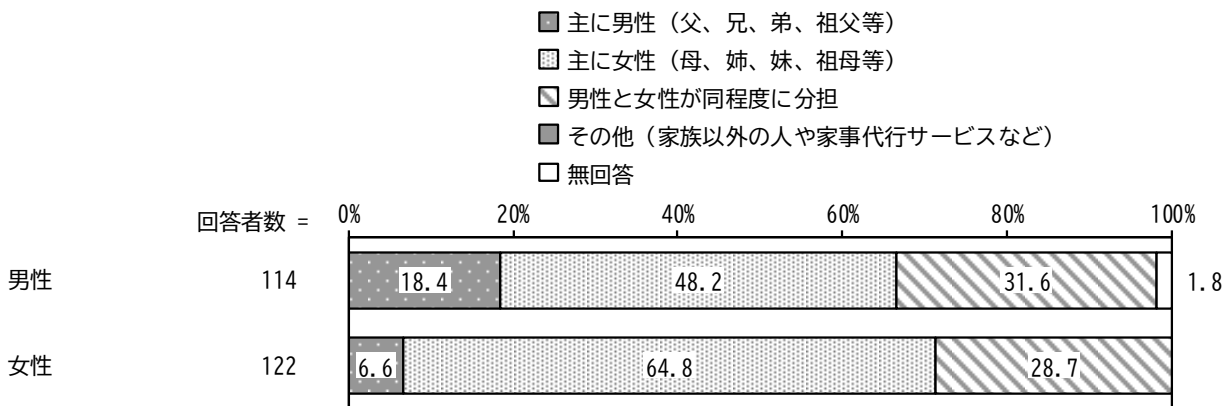
【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、「男性と女性が同程度に分担」の割合は、令和2年度調査が19.6%であるのに対し、令和7年度調査が30.6%と、11ポイント増加しています。一方、「主に女性（母、姉、妹、祖母等）」の割合は、令和2年度調査が69.8%であるのに対し、令和7年度調査が56.3%と、13.5ポイント減少しています。



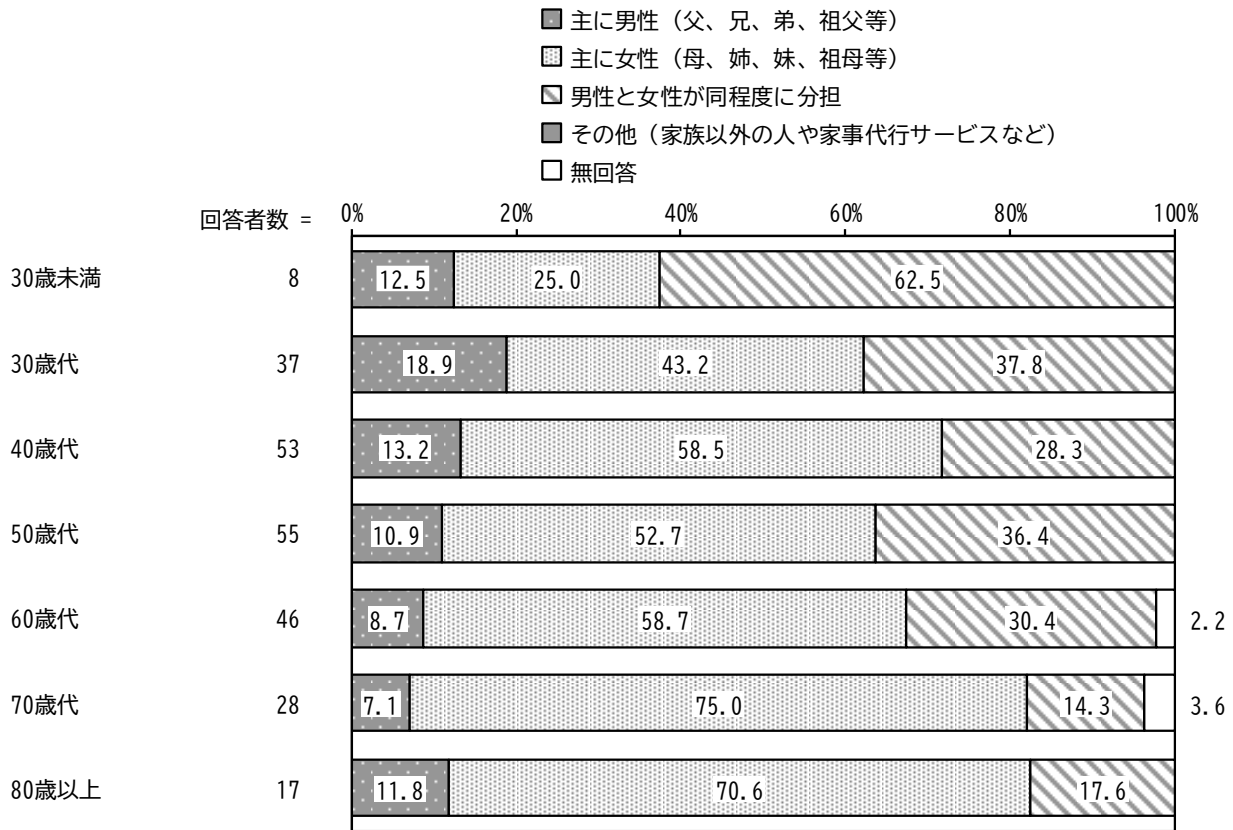
【性別】

性別にみると、「主に男性（父、兄、弟、祖父等）」の割合は、男性が18.4%、女性が6.6%と、男性の方が11.8ポイント多く、「主に女性（母、姉、妹、祖母等）」の割合は、男性が48.2%、女性が64.8%と、女性の方が16.6ポイント多くなっています。



### 【年代別】

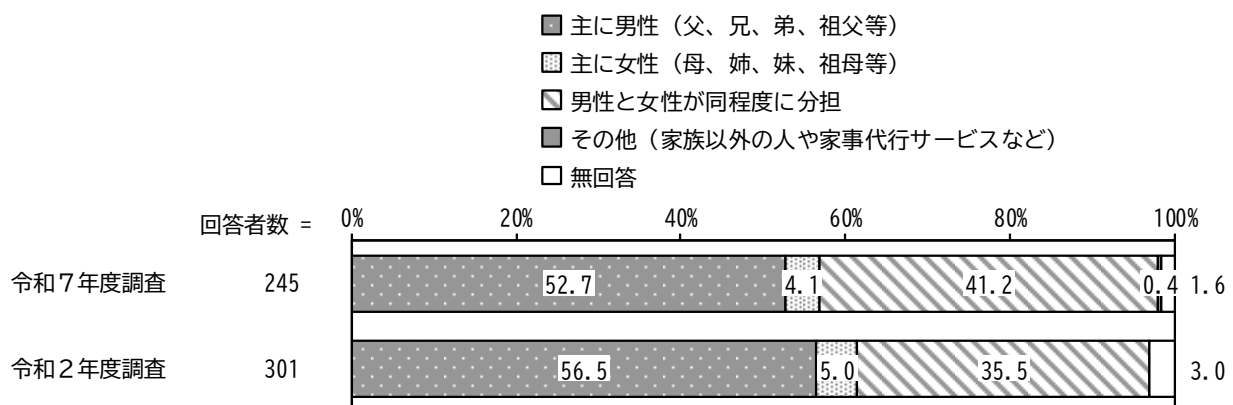
年代別にみると、70歳代から30歳代まで年代が下がるほど「主に男性（父、兄、弟、祖父等）」の割合が高くなっています。「主に女性（母、姉、妹、祖母等）」の割合は、全体が56.3%であるのに対し、70歳代が75.0%と、18.7ポイント多く、「男性と女性が同程度に分担」の割合は、全体が30.6%であるのに対し、70歳代が14.3%と、16.3ポイント少なくなっています。



### ⑧生活費を稼ぐこと

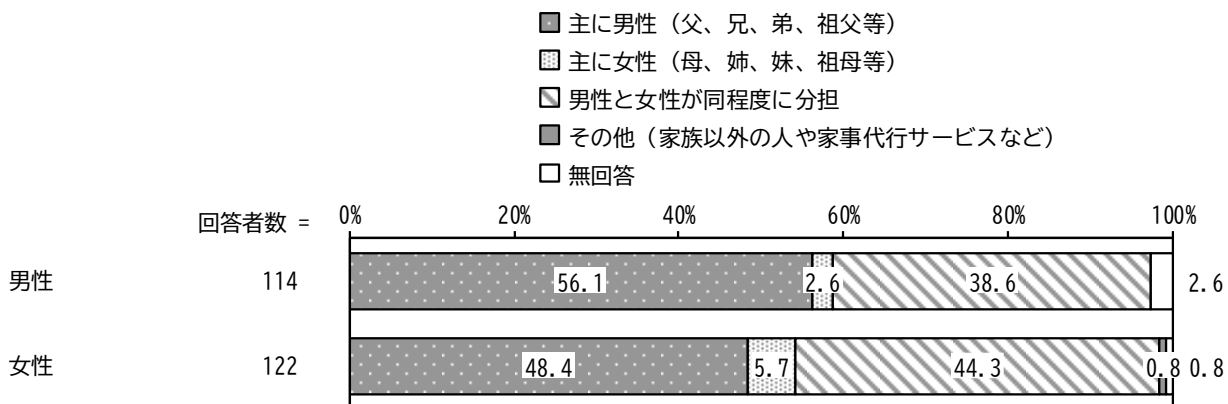
#### 【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、「男性と女性が同程度に分担」の割合は、令和2年度調査が35.5%であるのに対し、令和7年度調査が41.2%と、5.7ポイント増加しています。



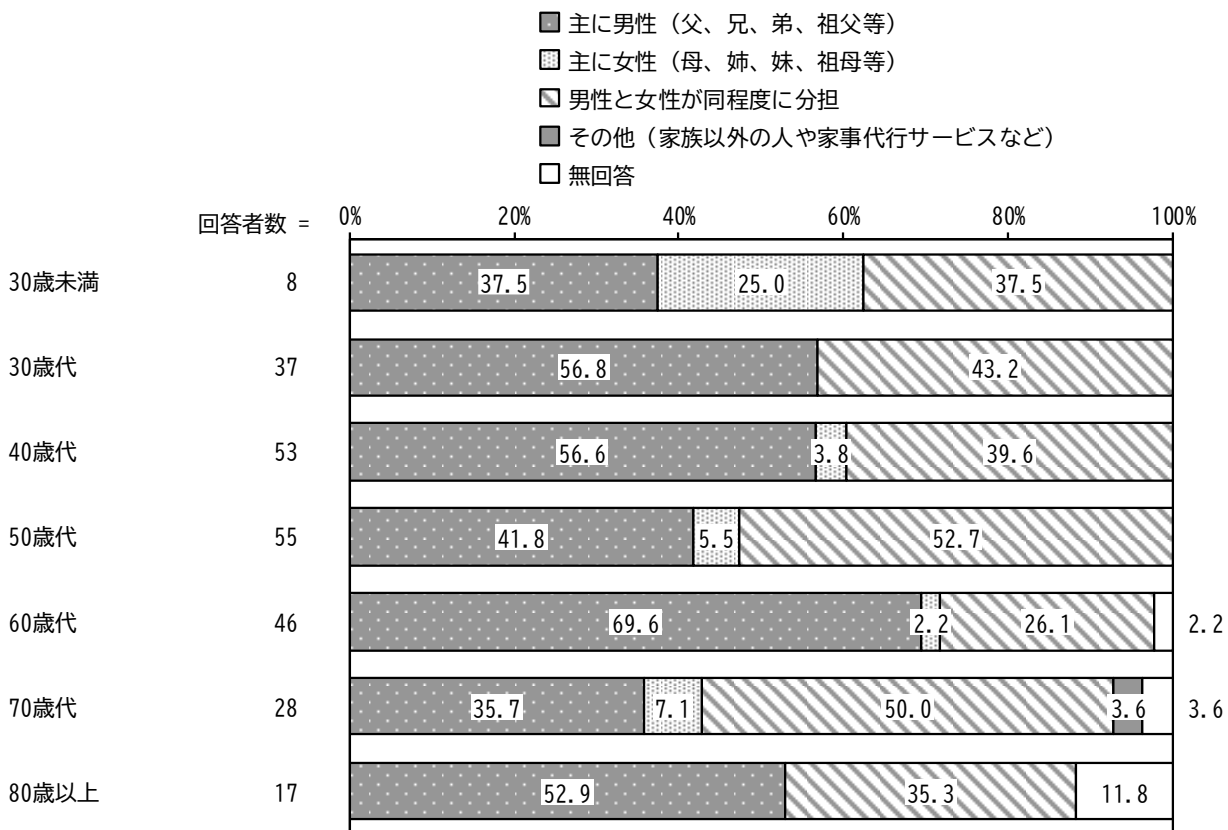
### 【性別】

性別にみると、「主に男性（父、兄、弟、祖父等）」の割合は、男性が56.1%、女性が48.4%と、男性の方が7.7ポイント多く、「男性と女性が同程度に分担」の割合は、男性が38.6%、女性が44.3%と、女性の方が5.7ポイント多くなっています。



### 【年代別】

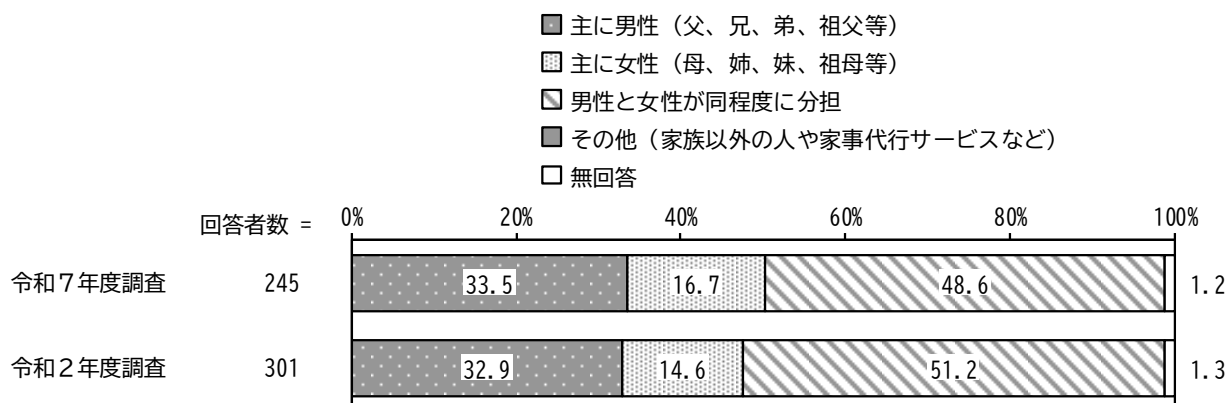
年代別にみると、「主に男性（父、兄、弟、祖父等）」の割合は、全体が52.7%であるのに対し、60歳代が69.6%と、16.9ポイント、「男性と女性が同程度に分担」の割合は、全体が41.2%であるのに対し、50歳代が52.7%と、11.5ポイント多くなっています。



### ⑨大きな買い物などの決定をすること

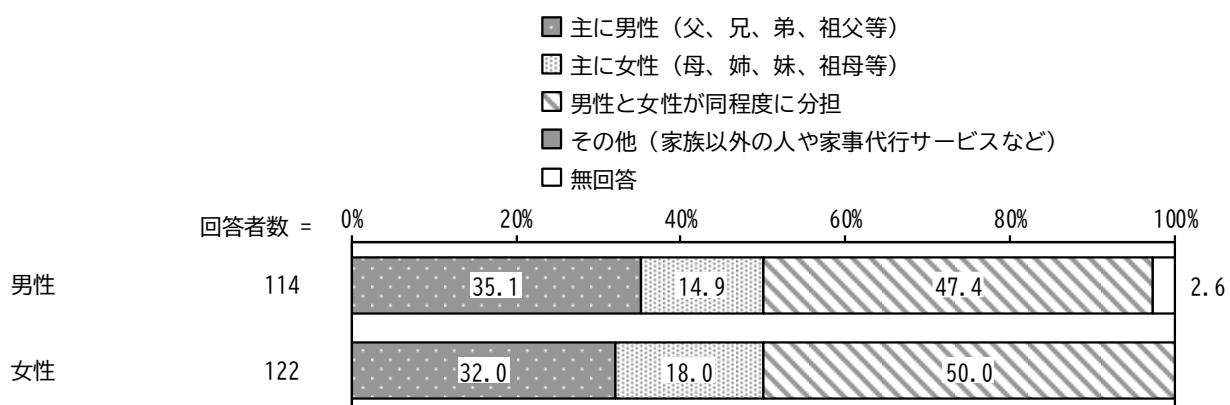
#### 【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



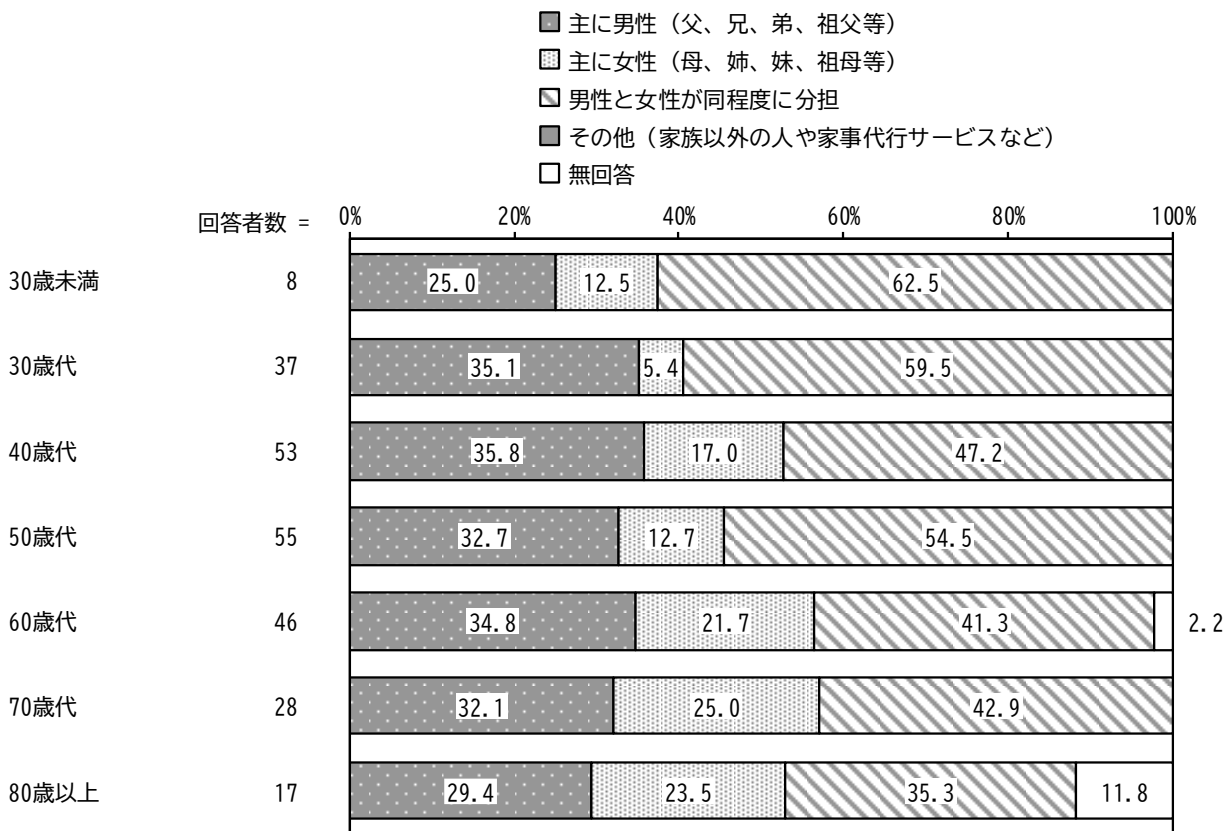
#### 【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



【年代別】

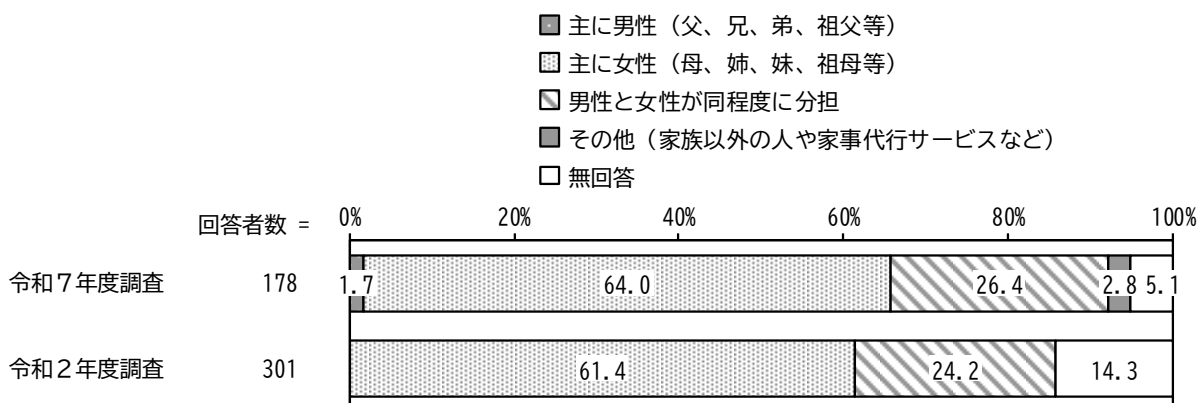
年代別にみると、「男性と女性が同程度に分担」の割合は、全体が 48.6%であるのに対し、30 歳代が 59.5%と、10.9 ポイント多く、「主に女性（母、姉、妹、祖母等）」の割合は、全体が 16.7%であるのに対し、30 歳代が 5.4%と、11.3 ポイント少なくなっています。



⑩子どもの世話

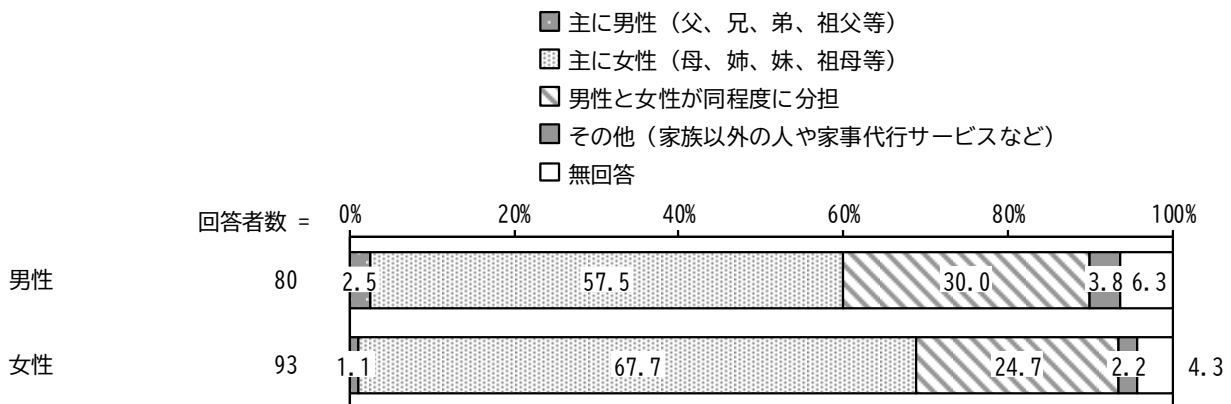
【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



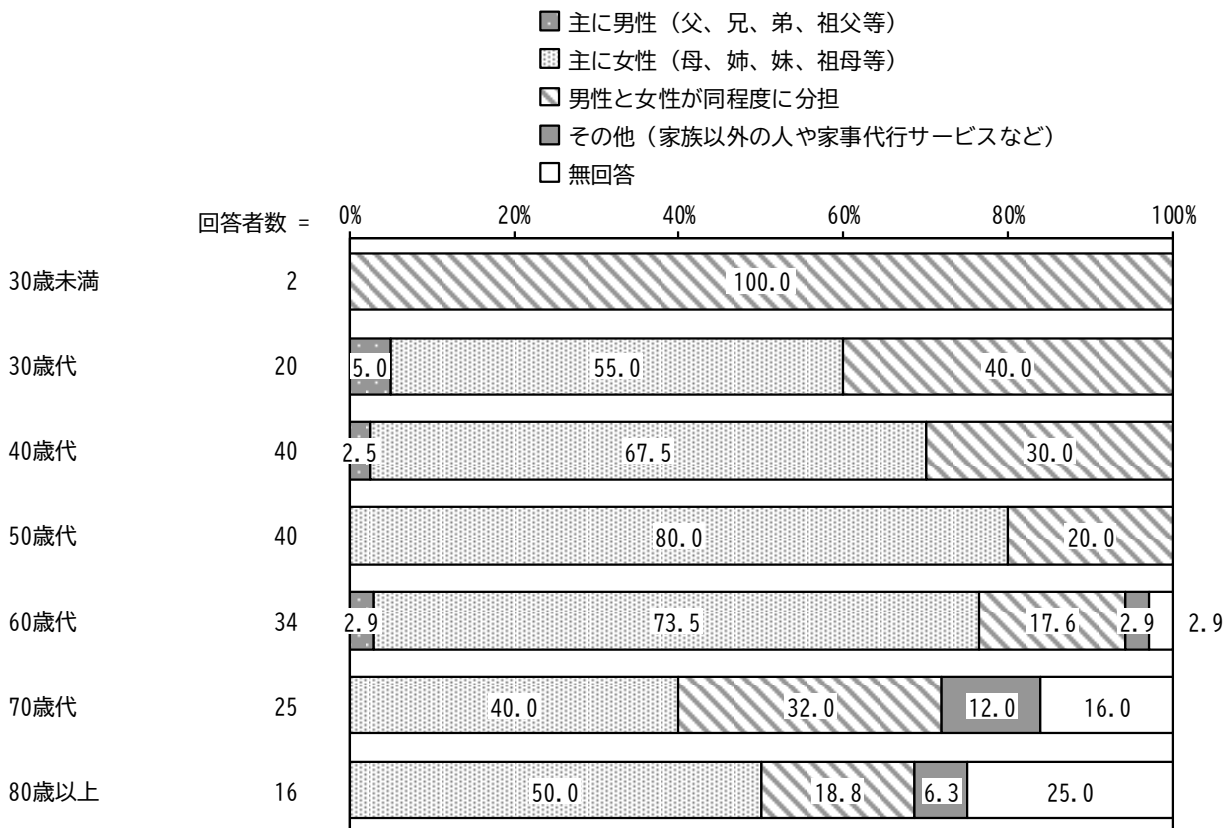
【性別】

性別にみると、「男性と女性が同程度に分担」の割合は、男性が30.0%、女性が24.7%と、男性の方が5.3ポイント多く、「主に女性（母、姉、妹、祖母等）」の割合は、男性が57.5%、女性が67.7%と、女性の方が10.2ポイント多くなっています。



【年代別】

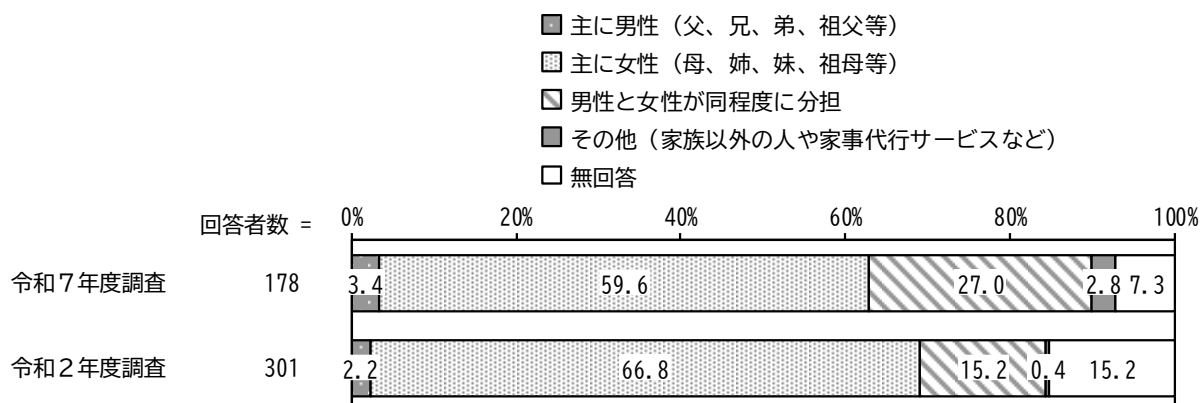
年代別にみると、60歳代から30歳未満まで年代が下がるほど「男性と女性が同程度に分担」の割合が高い傾向にあり、30歳未満から50歳代まで年代が上がるほど「主に女性（母、姉、妹、祖母等）」の割合が高くなっています。



## ①保育園・幼稚園・学校の父母会やPTAなどへの参加

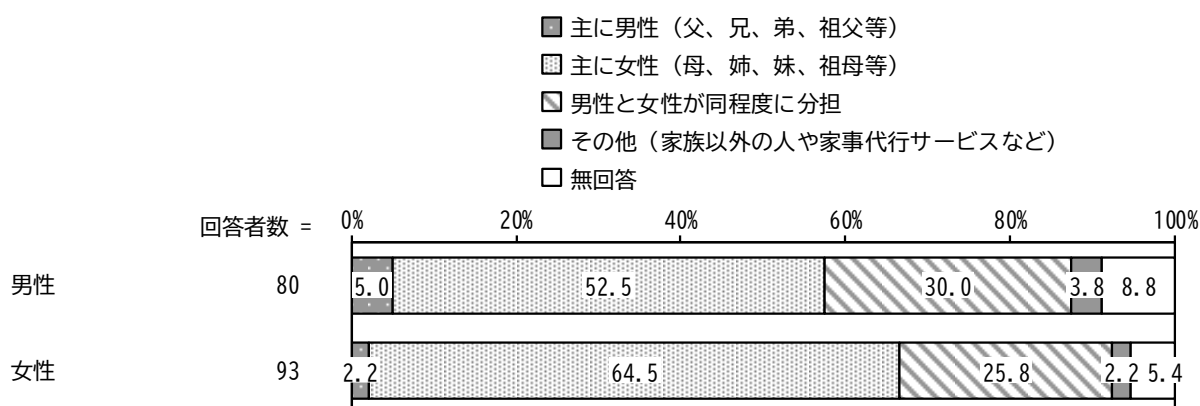
### 【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、「男性と女性が同程度に分担」の割合は、令和2年度調査が15.2%であるのに対し、令和7年度調査が27.0%と、11.8ポイント増加しています。一方、「主に女性（母、姉、妹、祖母等）」の割合は、令和2年度調査が66.8%であるのに対し、令和7年度調査が59.6%と、7.2ポイント減少しています。



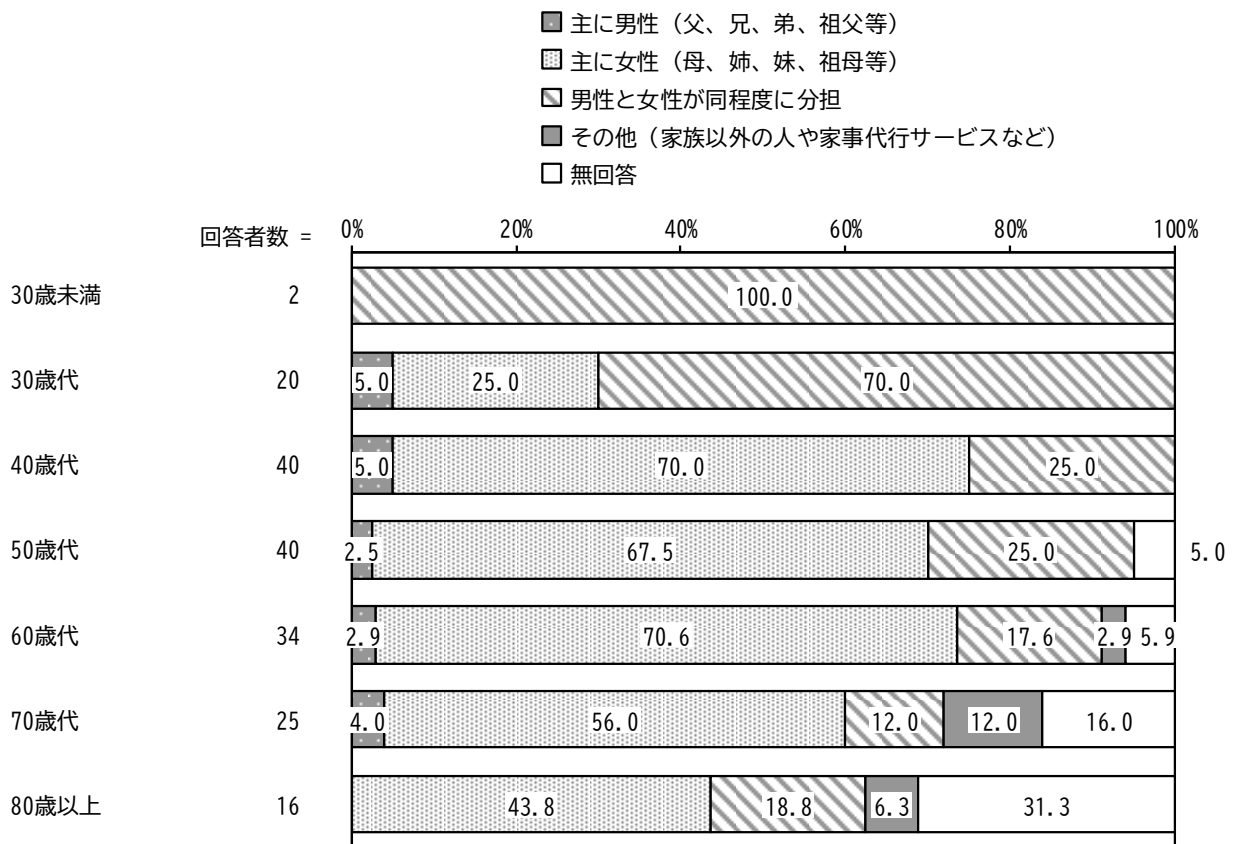
### 【性別】

性別にみると、「主に女性（母、姉、妹、祖母等）」の割合は、男性が52.5%、女性が64.5%と、女性の方が12ポイント多くなっています。



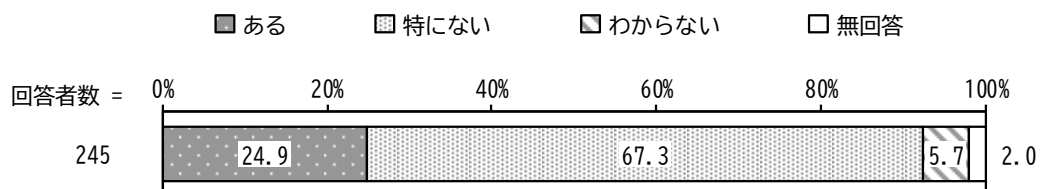
【年代別】

年代別にみると、70歳代から30歳未満まで年代が下がるほど「男性と女性が同程度に分担」の割合が高い傾向にあり、30歳未満から60歳代まで年代が上がるほど「主に女性（母、姉、妹、祖母等）」の割合が高い傾向にあります。



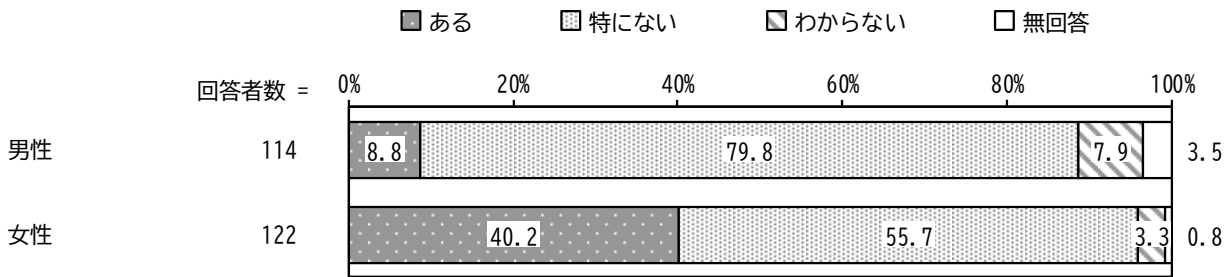
問10-1 あなたは、問10で答えた家事分担に不満を感じることはありますか。  
(○は1つ)

「ある」の割合が24.9%、「特にない」の割合が67.3%となっています。



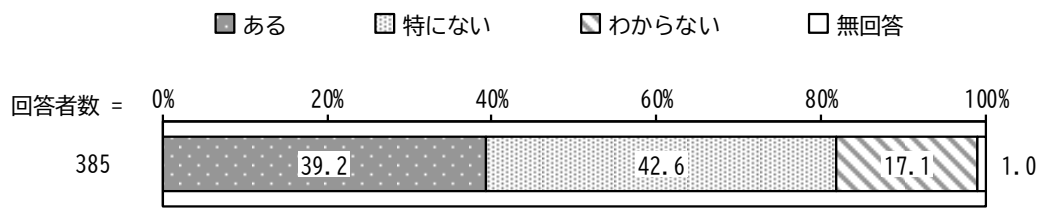
【性別】

性別にみると、「ある」の割合は、男性が8.8%、女性が40.2%と、女性の方が31.4ポイント多くなっています。



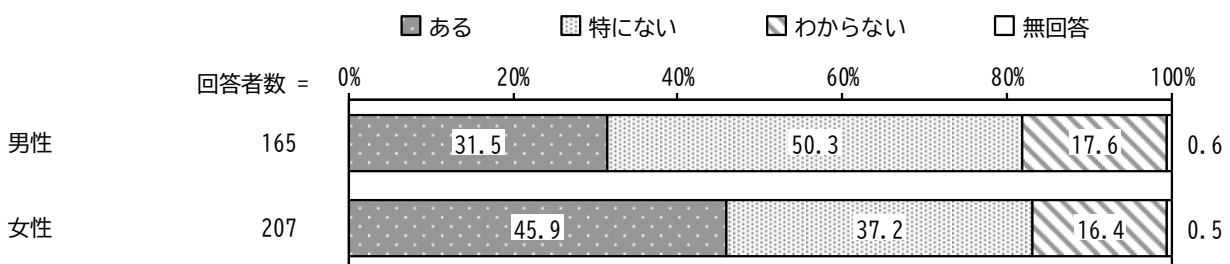
問11 あなたは、これまでジェンダーに関する発言や言葉遣いで、違和感や疑問を感じたことはありませんか。(〇は1つ)

「ある」の割合が39.2%、「特にない」の割合が42.6%となっています。



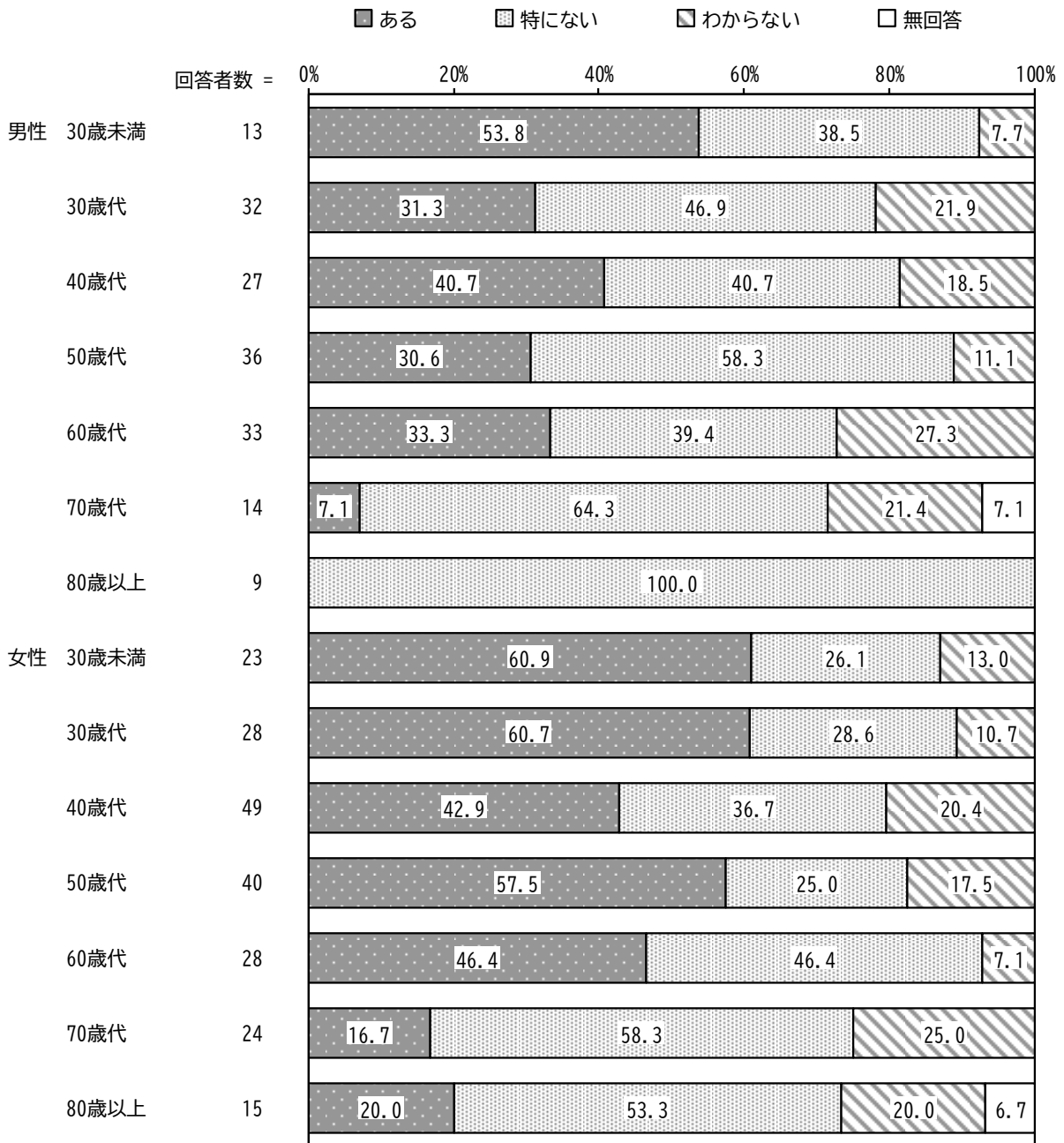
【性別】

性別にみると、「ある」の割合は、男性が31.5%、女性が45.9%と、女性の方が14.4ポイント多くなっています。



【性・年代別】

性・年代別にみると、男性では80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど「ある」の割合が高い傾向にあります。



問 11 で「ある」を選択した方にお聞きします。

付問 11-1 具体的にどんな発言や言葉遣いに、違和感や疑問を感じましたか。(自由記述)

【回答数内訳】

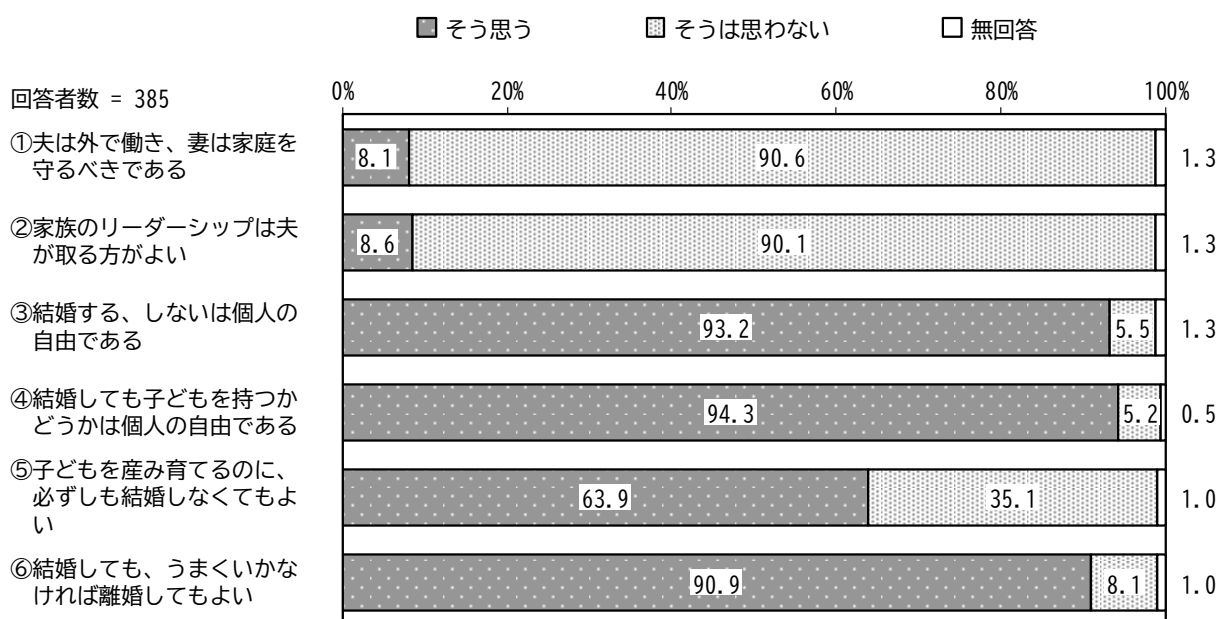
(件)

カテゴリ名	合計
(1) 男女の決められた役割について	36
(2) ジェンダー・LGBTQについて	22
(3) 性別表現の使い方について	18
(4) 職場の性差別について	14
(5) その他	7
合計	97

※1人の回答につき、複数の項目にわたる意見がある場合はそれぞれの項目で計上している。

問 12 あなたは、次の項目①～⑥の結婚や家庭に関する考え方について、どのように思いますか。(それぞれの項目について○は1つずつ)

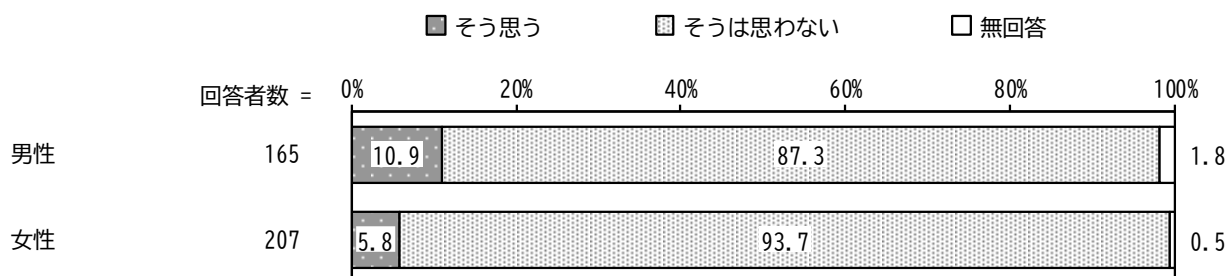
『④結婚しても子どもを持つかどうかは個人の自由である』で「そう思う」が、『①夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』で「そうは思わない」が高くなっています。



①夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

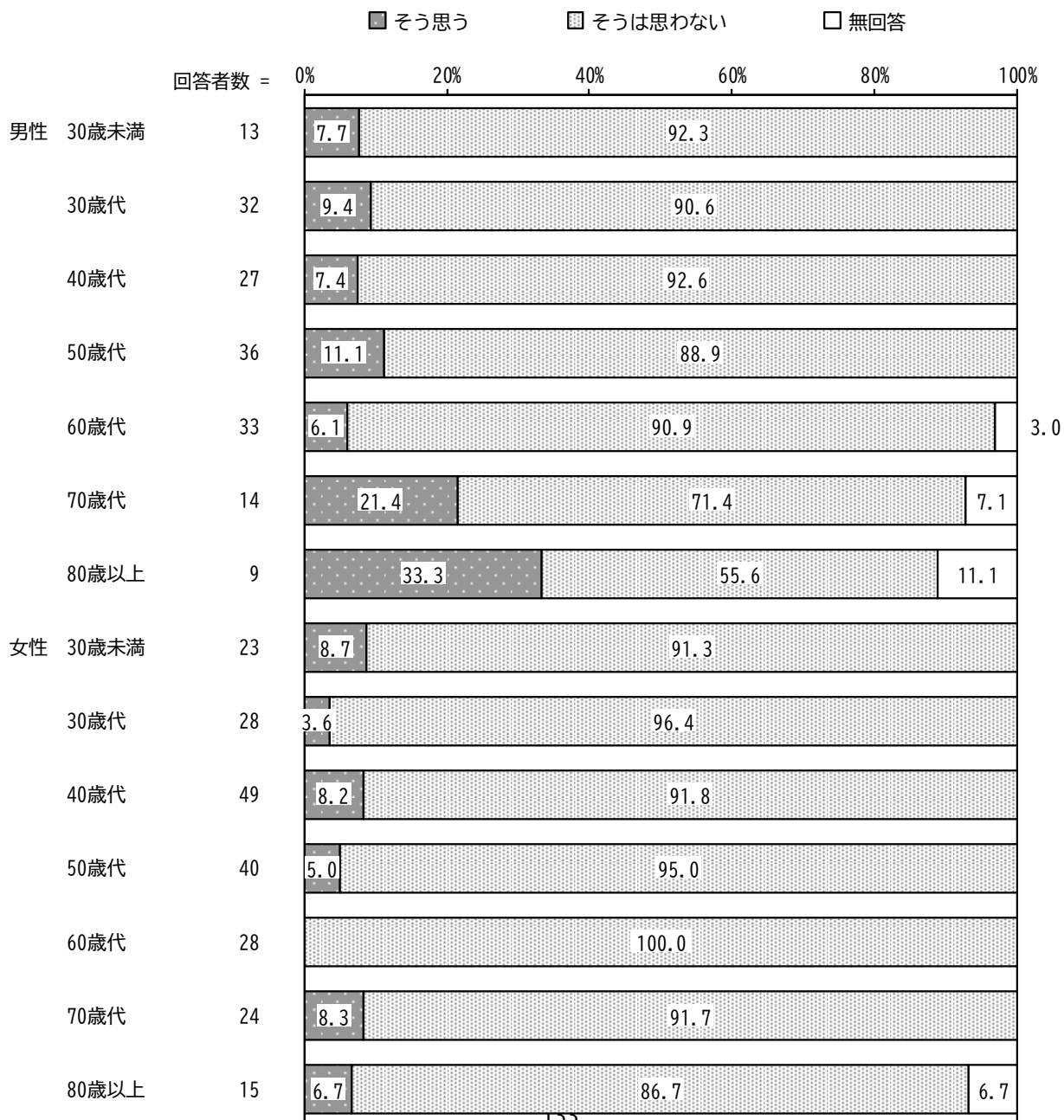
【性別】

性別にみると、「そうは思わない」の割合は、男性が 87.3%、女性が 93.7%と、女性の方が 6.4 ポイント多くなっています。



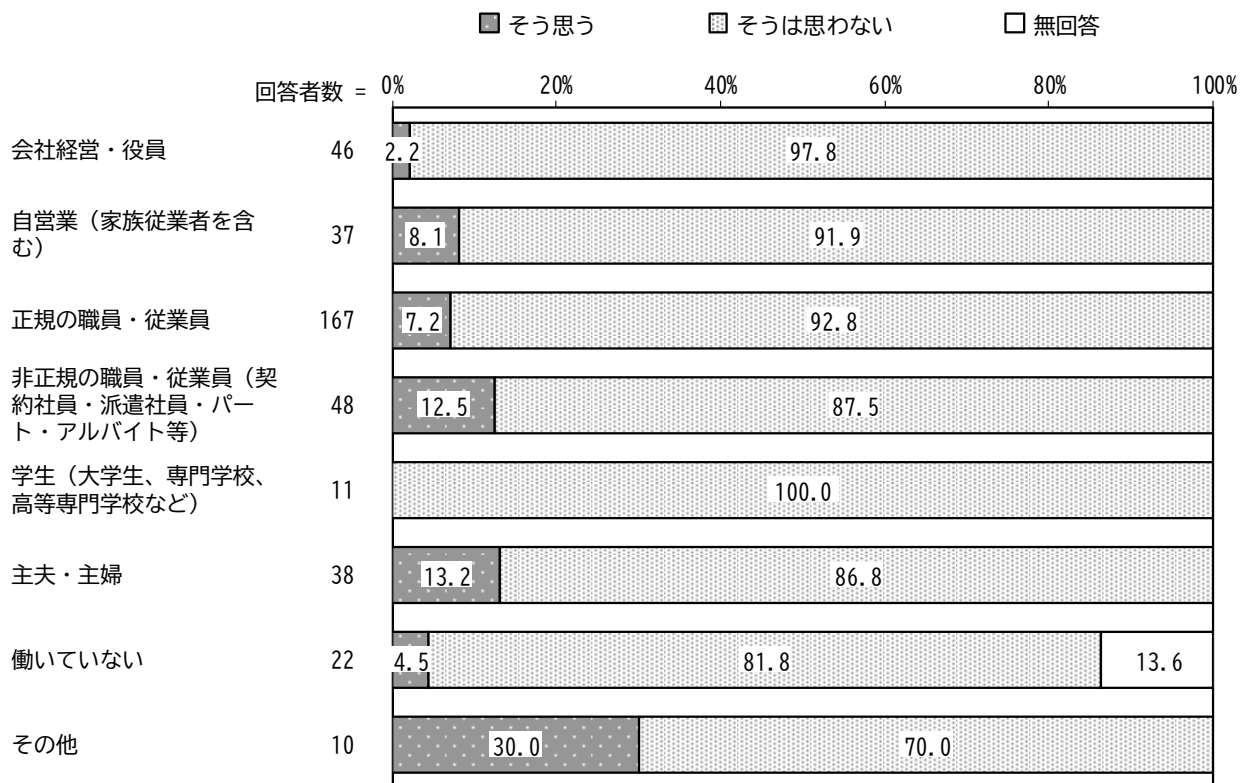
【性・年代別】

性・年代別にみると、男性では 80 歳以上および 70 歳代に比べ、40 歳代から 60 歳代で「そうは思わない」の割合が高くなっています。



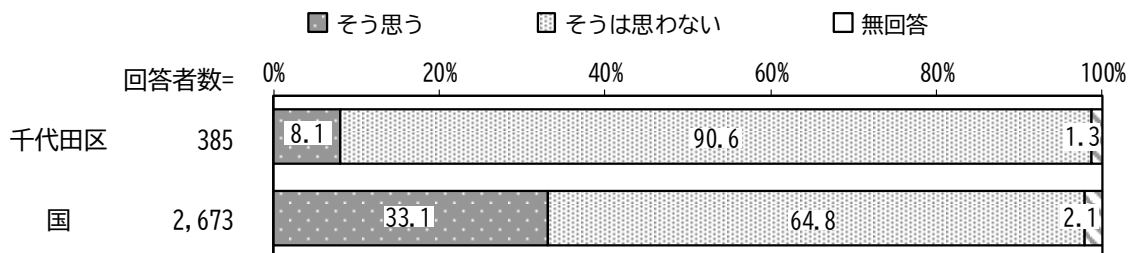
### 【職業別】

職業別にみると、全体に比べて「そうは思わない」の割合は、全体が 90.6%であるのに対し、学生（大学生、専門学校、高等専門学校など）が 100.0%、会社経営・役員が 97.8%と、5ポイント以上多くなっています。



### 【国との比較】

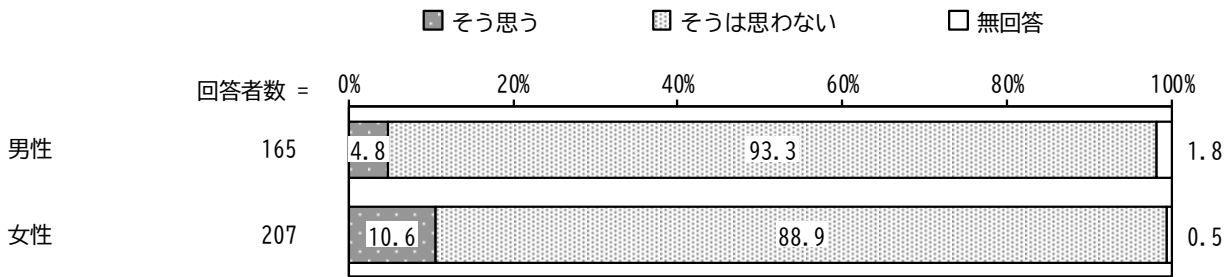
国の調査と比較すると、「そう思う」の割合は、千代田区が 8.1%であるのに対して、国調査が 33.1%と、千代田区の方が 25ポイント少なく、「そうは思わない」の割合は、千代田区が 90.6%であるのに対して、国調査が 64.8%と、千代田区の方が 25.8ポイント多くなっています。



## ②家族のリーダーシップは夫が取る方がよい

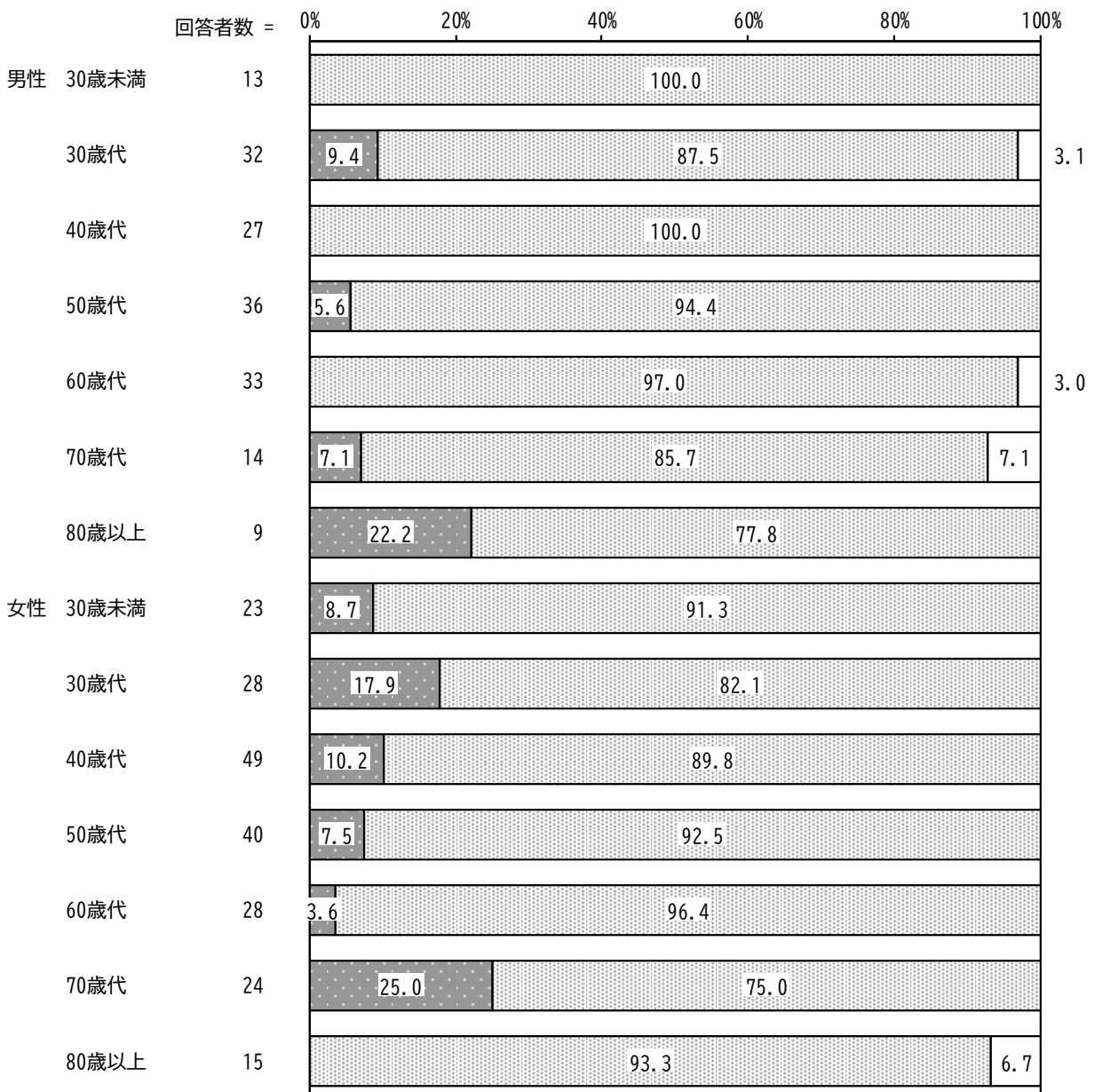
### 【性別】

性別にみると、「そう思う」の割合は、男性が4.8%、女性が10.6%と、女性の方が5.8ポイント多くなっています。



### 【性・年代別】

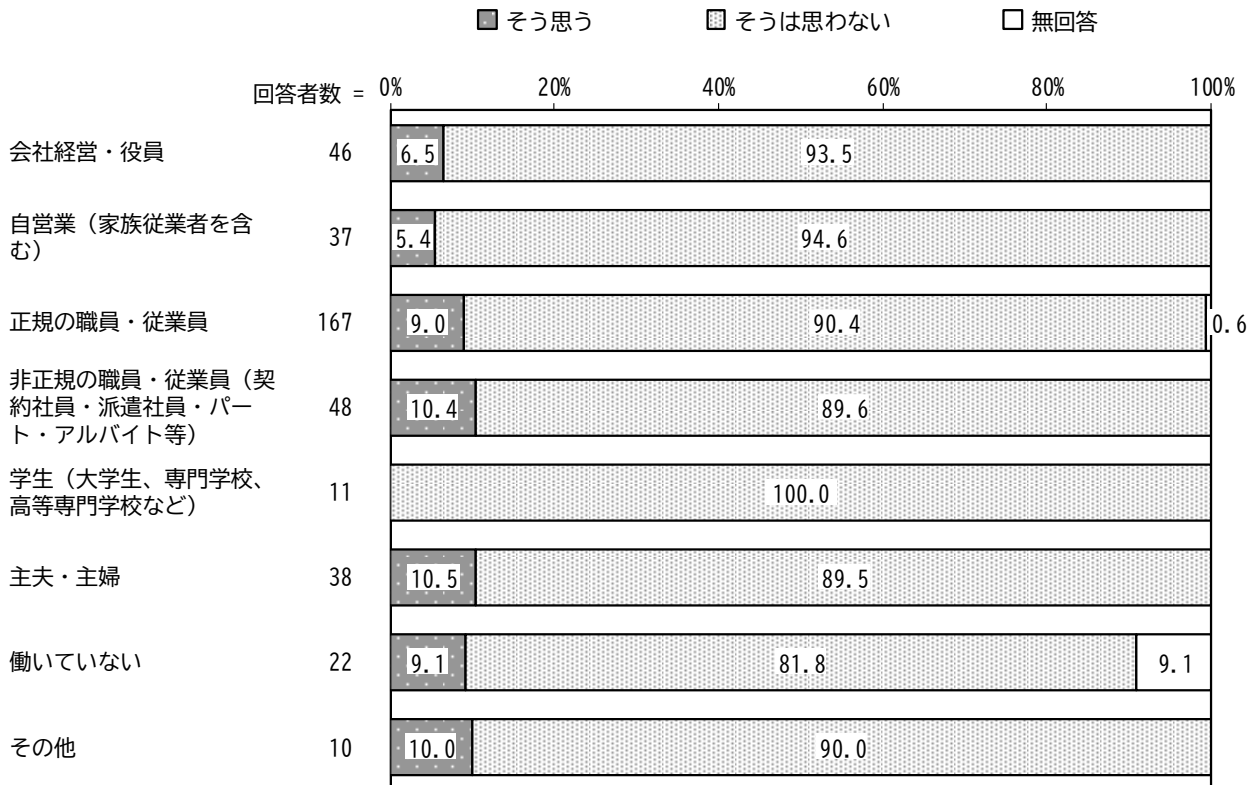
性・年代別にみると、男性では80歳以上を除く各年代で「そうは思わない」の割合が85.7%から100%と非常に高い水準で推移しています。一方、80歳以上では他の年代と比べて「そうは思わない」の割合が低く、「そう思う」の割合が相対的に高くなっています。





【職業別】

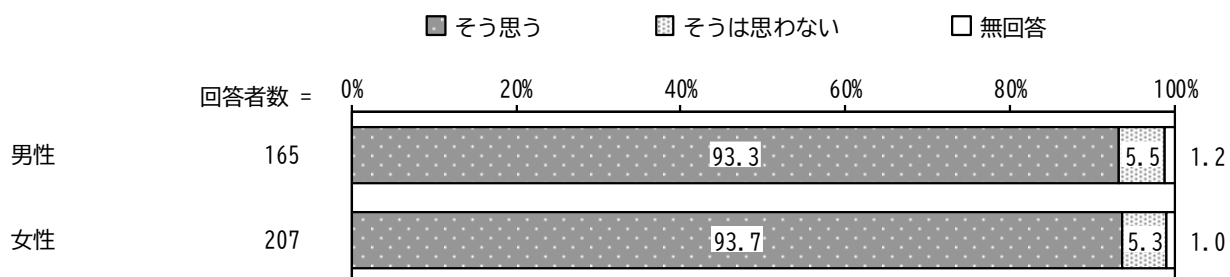
職業別にみると、全体に比べて「そうは思わない」の割合は、全体が 90.1%であるのに対し、学生（大学生、専門学校、高等専門学校など）が 100.0%と、9.9 ポイント以上多くなっています。



### ③結婚する、しないは個人の自由である

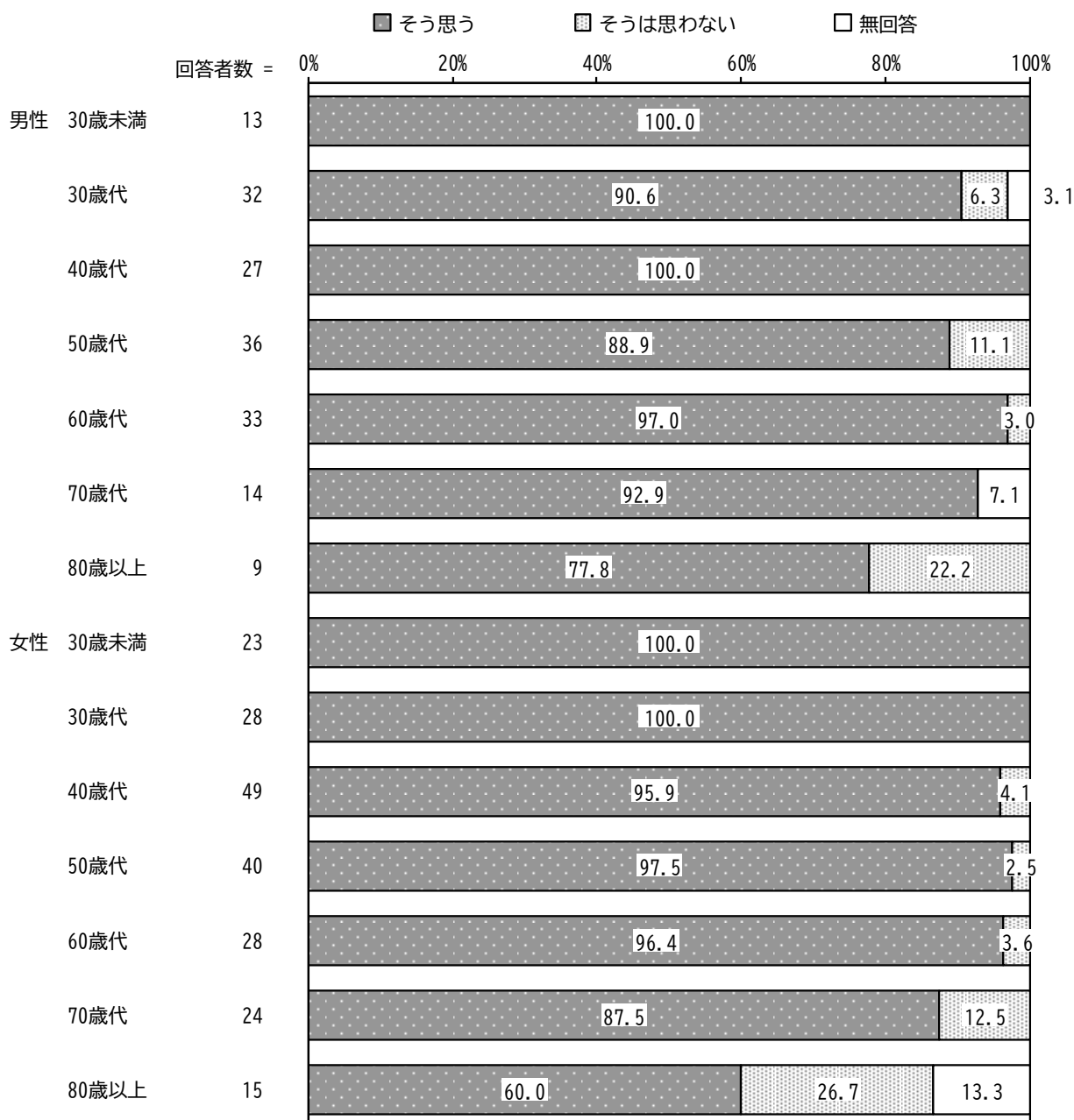
#### 【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



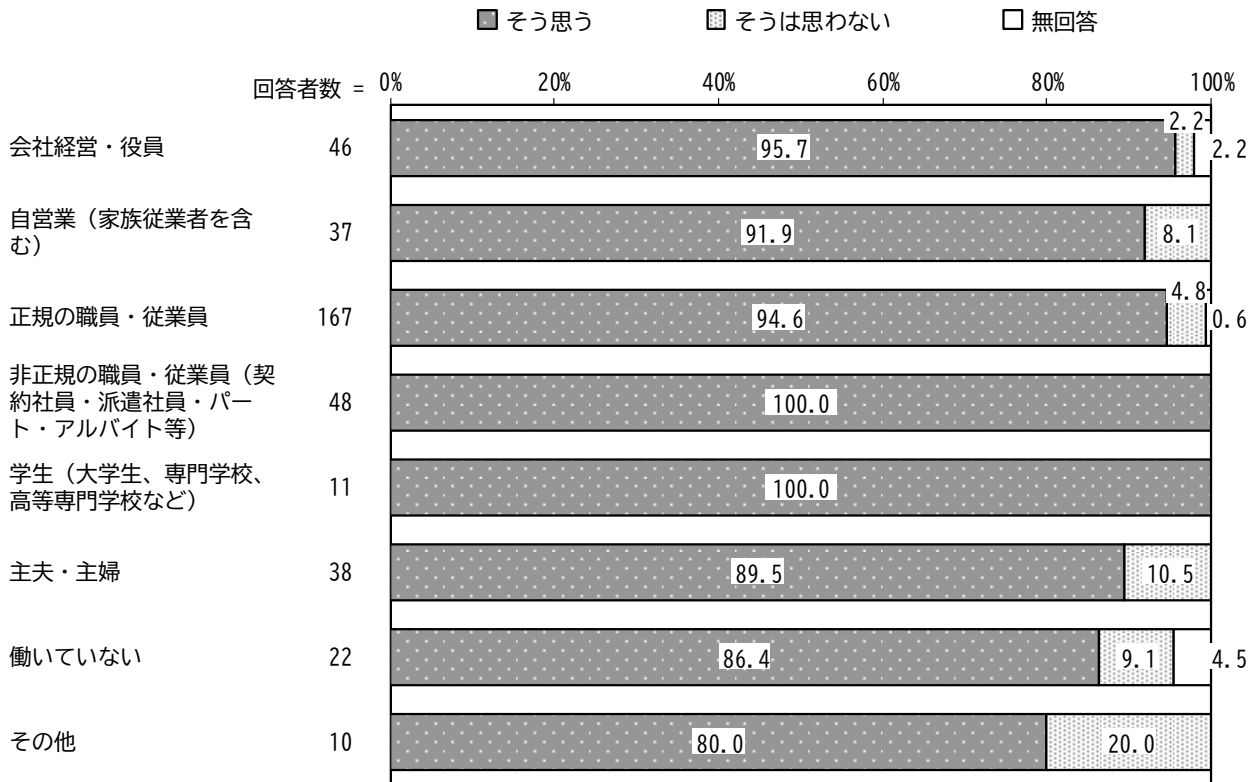
#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、全体に比べて「そうは思わない」の割合は、全体が5.5%であるのに対し、女性80歳以上が26.7%と、21.2ポイント多くなっています。



【職業別】

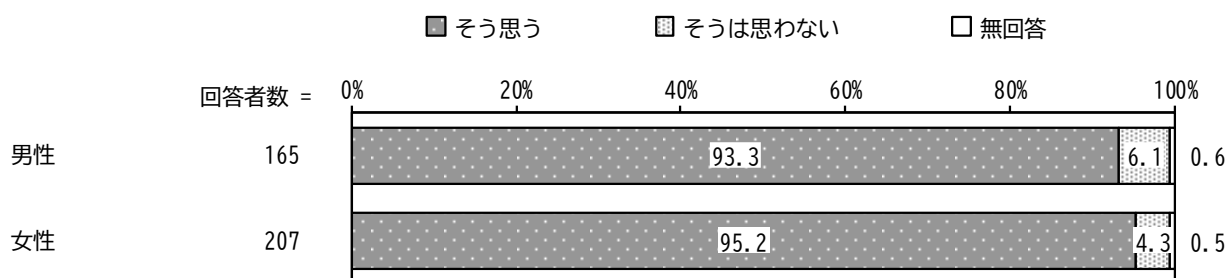
職業別にみると、全体に比べて「そう思う」の割合は、全体が 93.2%であるのに対し、非正規の職員・従業員（契約社員・派遣社員・パート・アルバイト等）、学生（大学生、専門学校、高等専門学校など）が 100.0%と、6.8 ポイント多く、「そうは思わない」の割合は、全体が 5.5%であるのに対し、主夫・主婦が 10.5%と、5.0 ポイント多くなっています。



#### ④結婚しても子どもを持つかどうかは個人の自由である

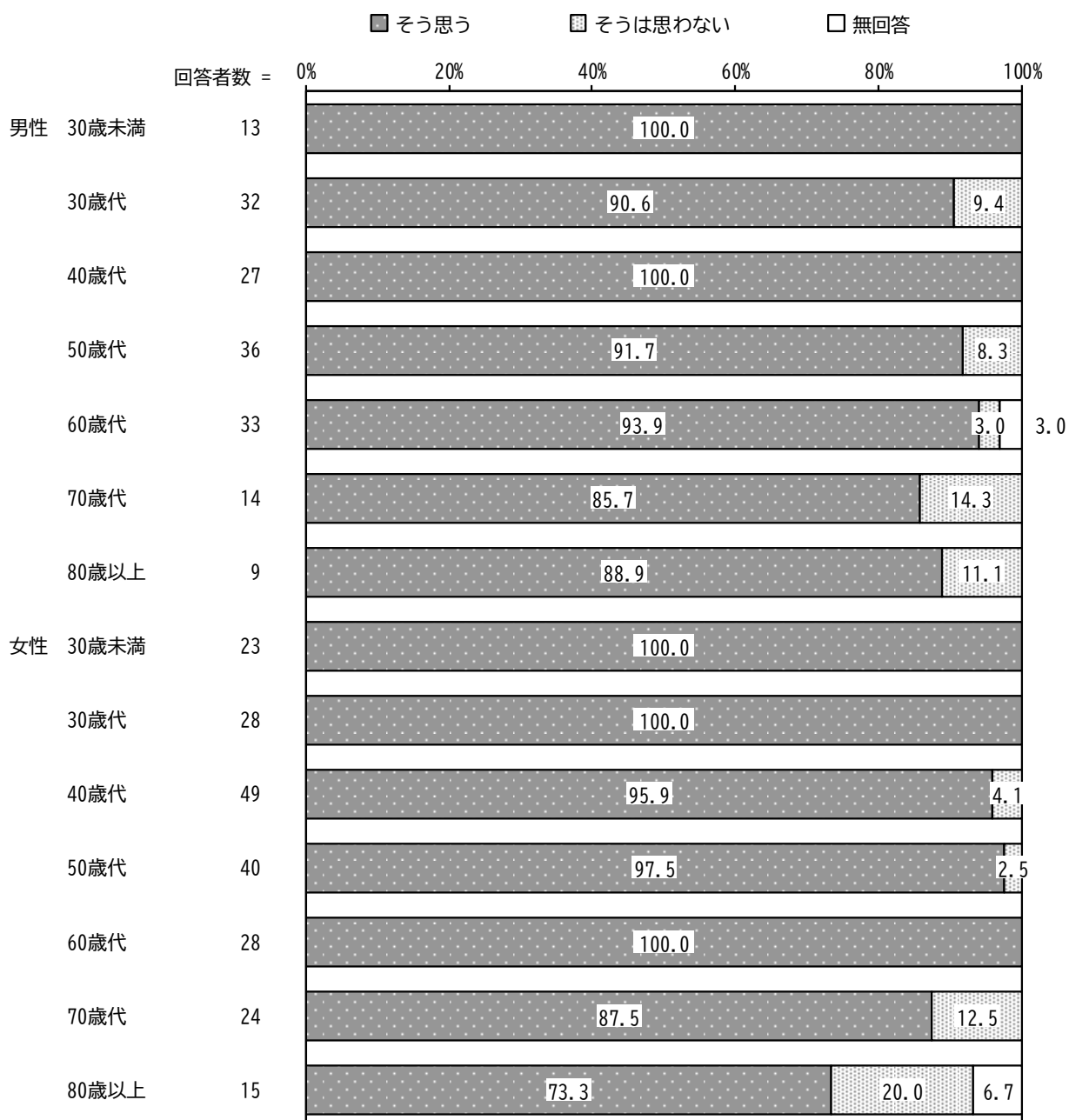
##### 【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



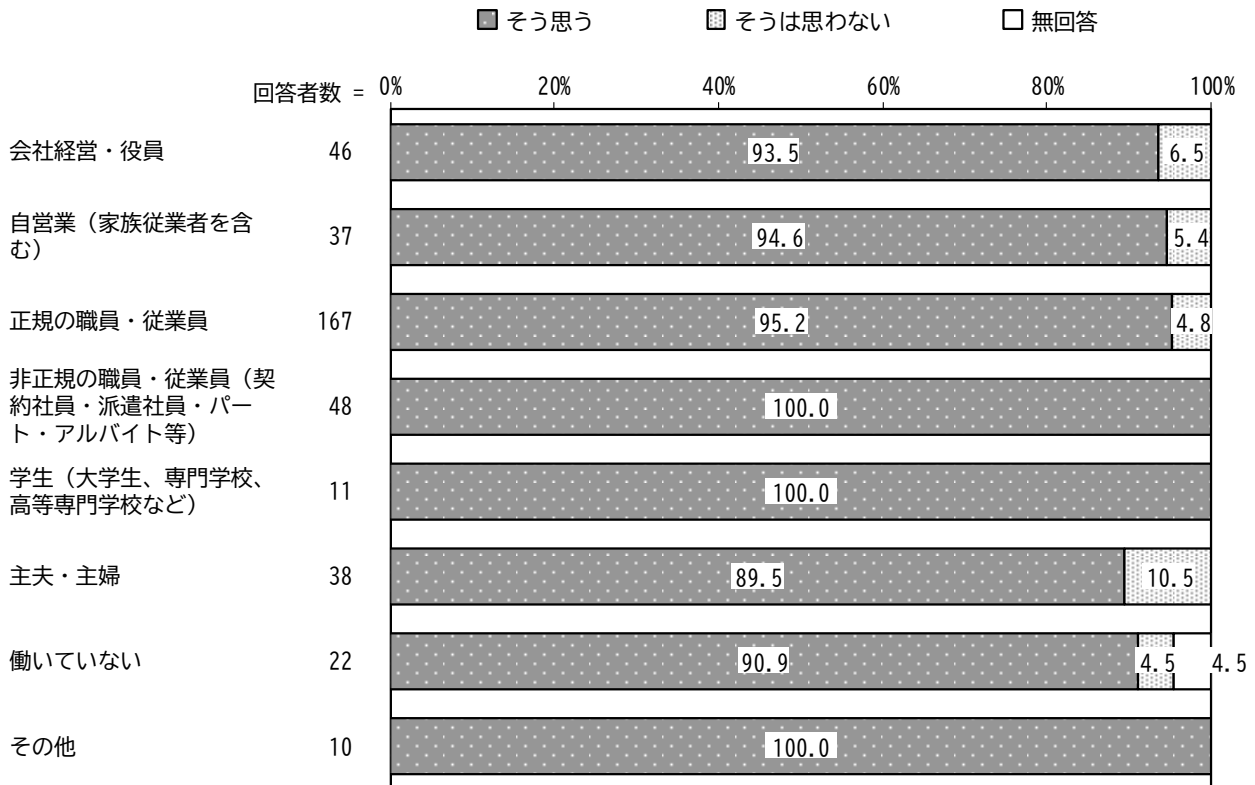
##### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「そうは思わない」の割合は、全体が5.2%であるのに対し、女性80歳以上が20.0%と、14.8ポイント多くなっています。



【職業別】

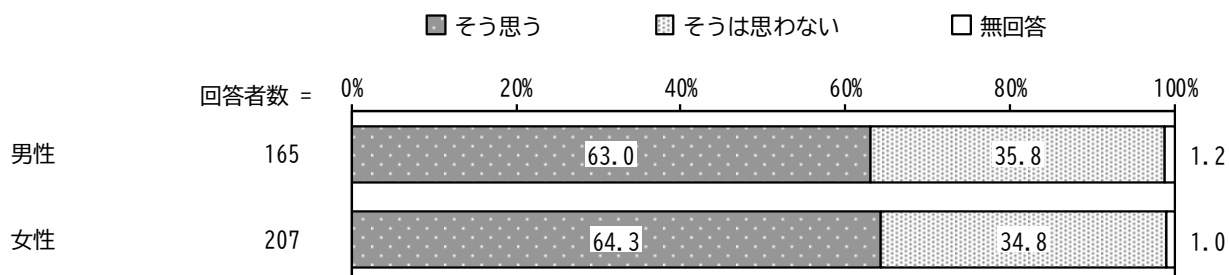
職業別にみると、全体に比べて「そう思う」の割合は、全体が 94.3%であるのに対し、非正規の職員・従業員（契約社員・派遣社員・パート・アルバイト等）、学生（大学生、専門学校、高等専門学校など）が 100.0%と、5.7 ポイント多く、「そうは思わない」の割合は、全体が 5.2%であるのに対し、主夫・主婦が 10.5%と、4.8 ポイント多くなっています。



### ⑤子どもを産み育てるのに、必ずしも結婚しなくてもよい

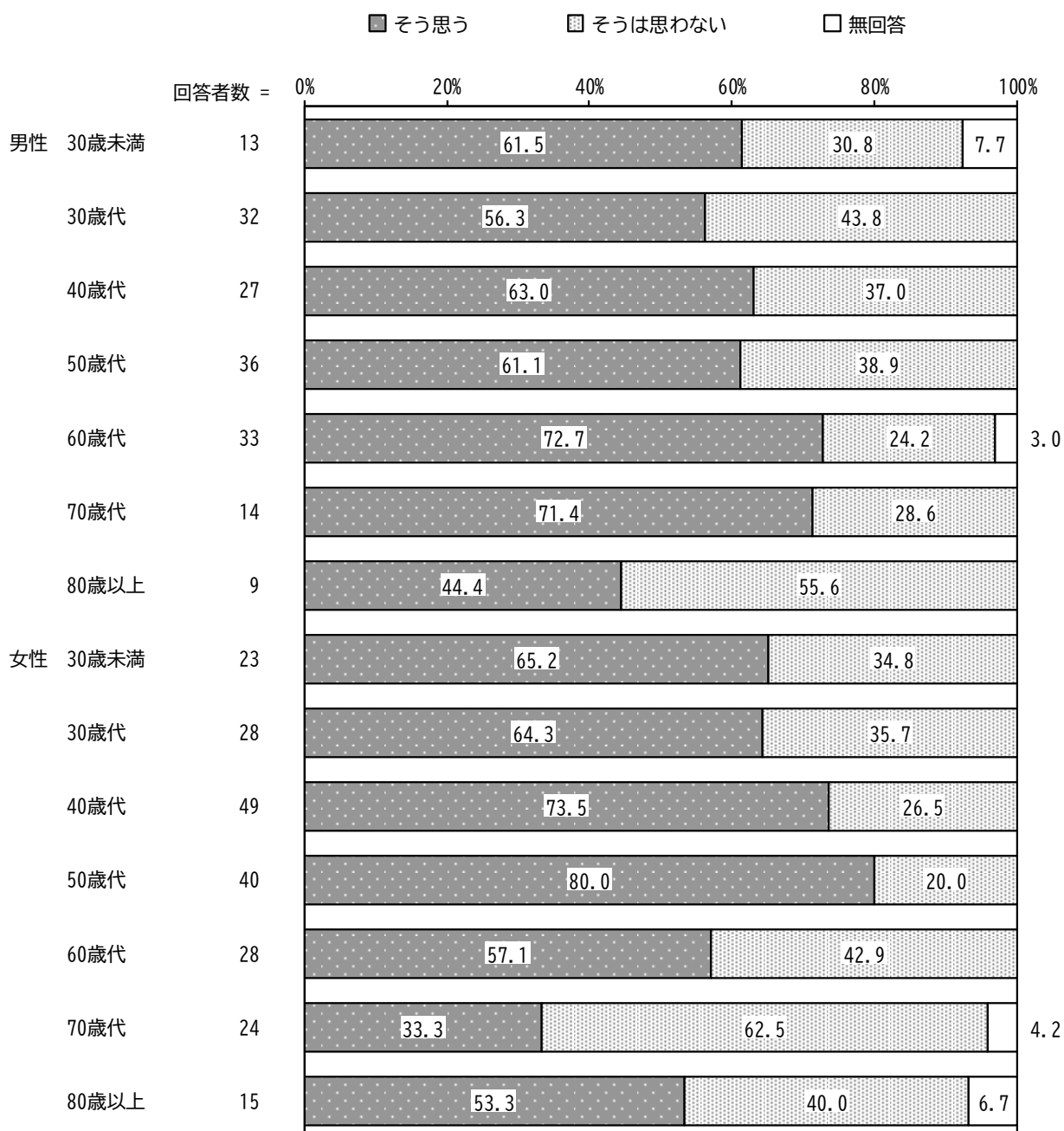
#### 【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



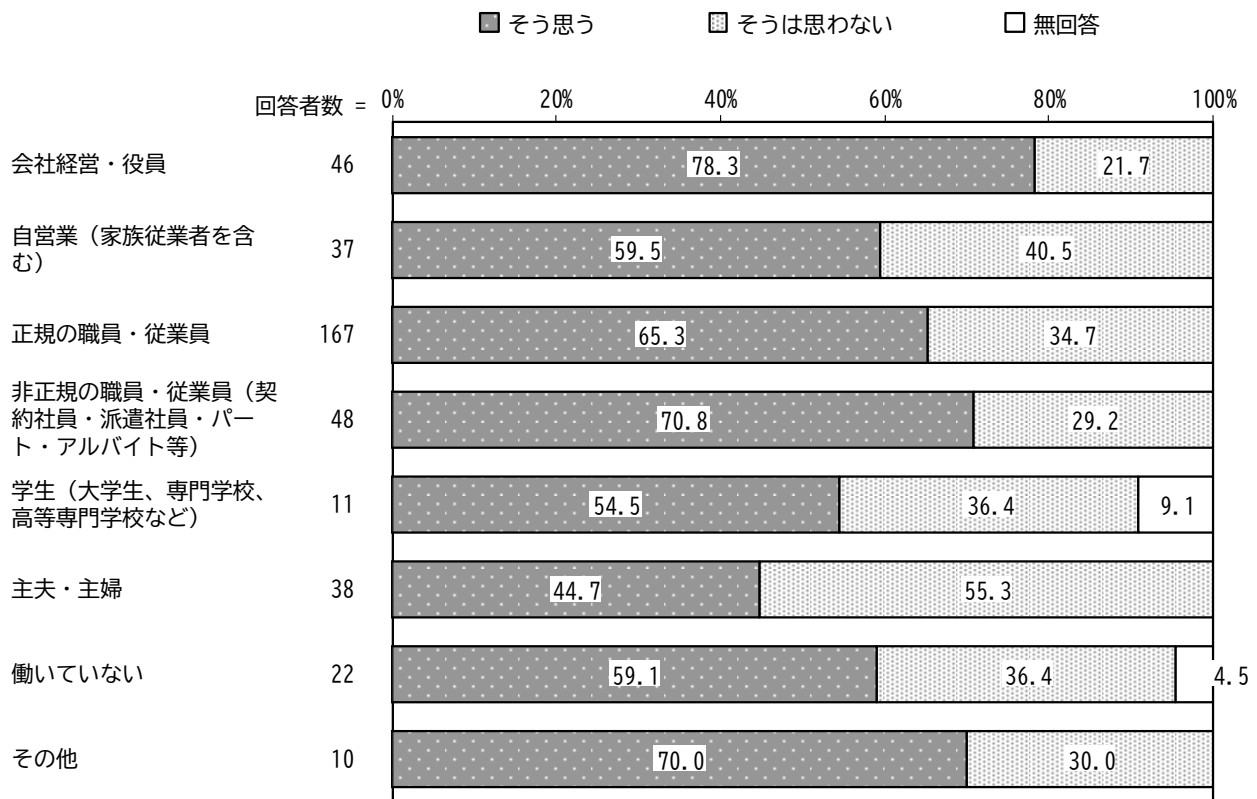
#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「そう思う」の割合は、全体が63.9%であるのに対し、女性50歳代が80.0%と、16.1ポイント、「そうは思わない」の割合は、全体が35.1%であるのに対し、女性70歳代が62.5%と、27.4ポイント多くなっています。



【職業別】

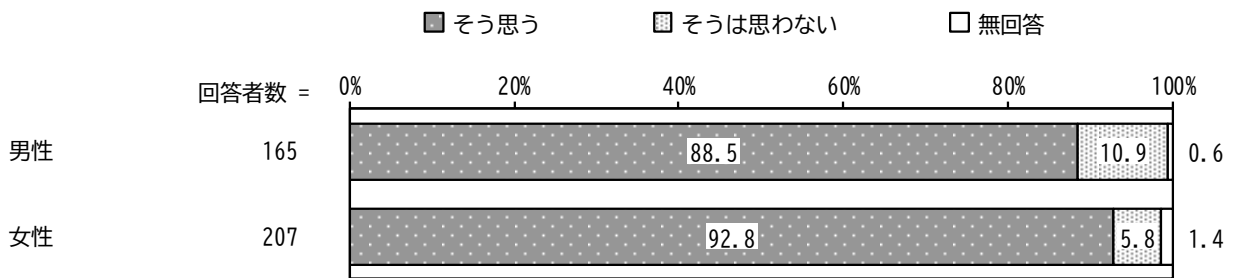
職業別にみると、全体に比べて「そう思う」の割合は、全体が 63.9%であるのに対し、会社経営・役員が 78.3%と、14.4 ポイント多く、「そうは思わない」の割合は、全体が 35.1%であるのに対し、主夫・主婦が 55.3%と、20.2 ポイント多くなっています。



⑥結婚しても、うまくいかなければ離婚してもよい

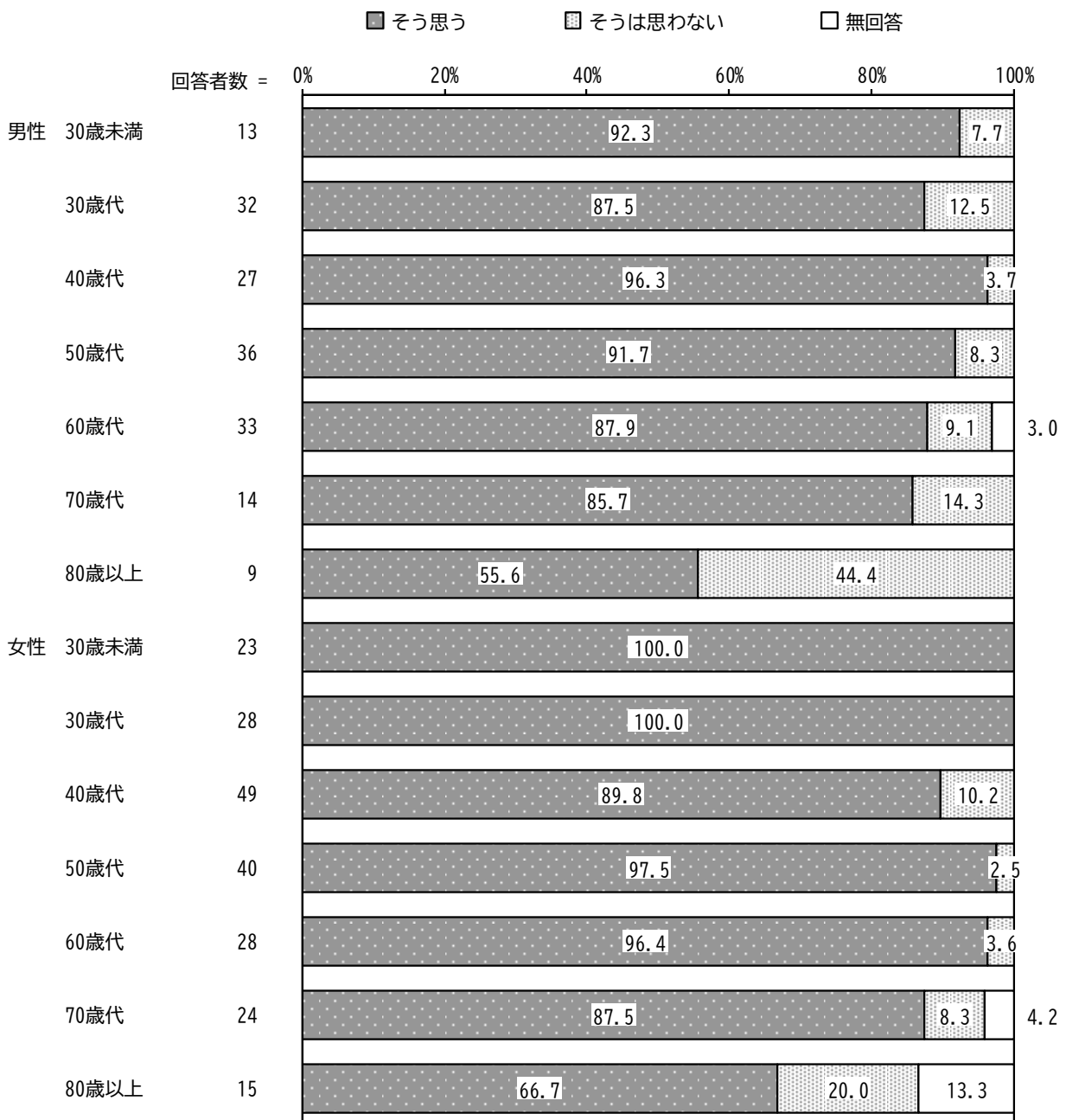
【性別】

性別にみると、「そうは思わない」の割合は、男性が10.9%、女性が5.8%と、男性の方が5.1ポイント多くなっています。



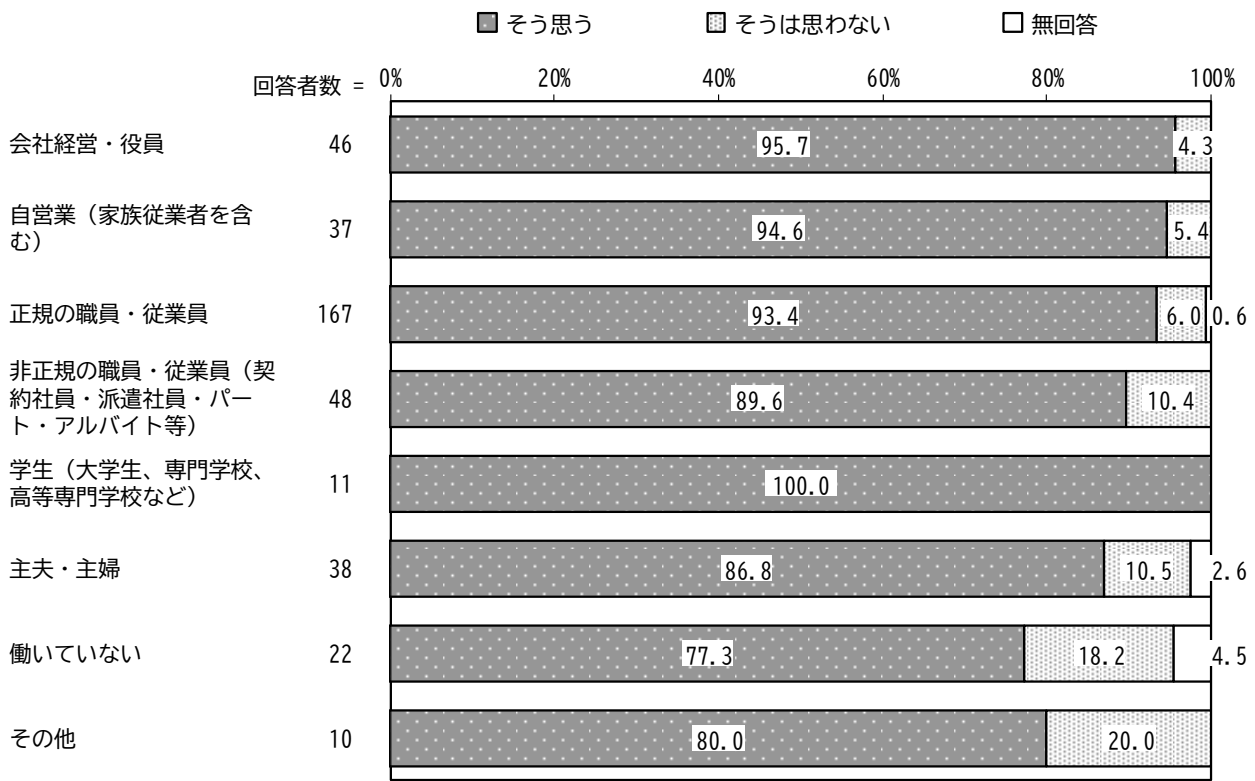
【性・年代別】

性・年代別にみると、男性では40歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「そうは思わない」の割合が高い傾向にあります。



【職業別】

職業別にみると、全体に比べて「そう思う」の割合は、全体が 90.9%であるのに対し、学生（大学生、専門学校、高等専門学校など）が 100.0%と、9.1ポイント多く、「そうは思わない」の割合は、全体が 8.1%であるのに対し、働いていないが 18.2%と、10.1ポイント多くなっています。



問 12 の項目①、②のいずれかで「そう思う」を選択した方にお聞きします。

付問 12-1 その理由は何ですか。(自由記述)

【回答数内訳】 (件)

カテゴリ名	合計
(1) 個人の自由について	6
(2) 男女の役割分担について	4
(3) 家庭の方針について	3
(4) その他	2
合計	15

※1人の回答につき、複数の項目にわたる意見がある場合はそれぞれの項目で計上している。

問 12 の項目③～⑥のいずれかで「そうは思わない」を選択した方にお聞きします。

付問 12-2 その理由は何ですか。(自由記述)

【回答数内訳】 (件)

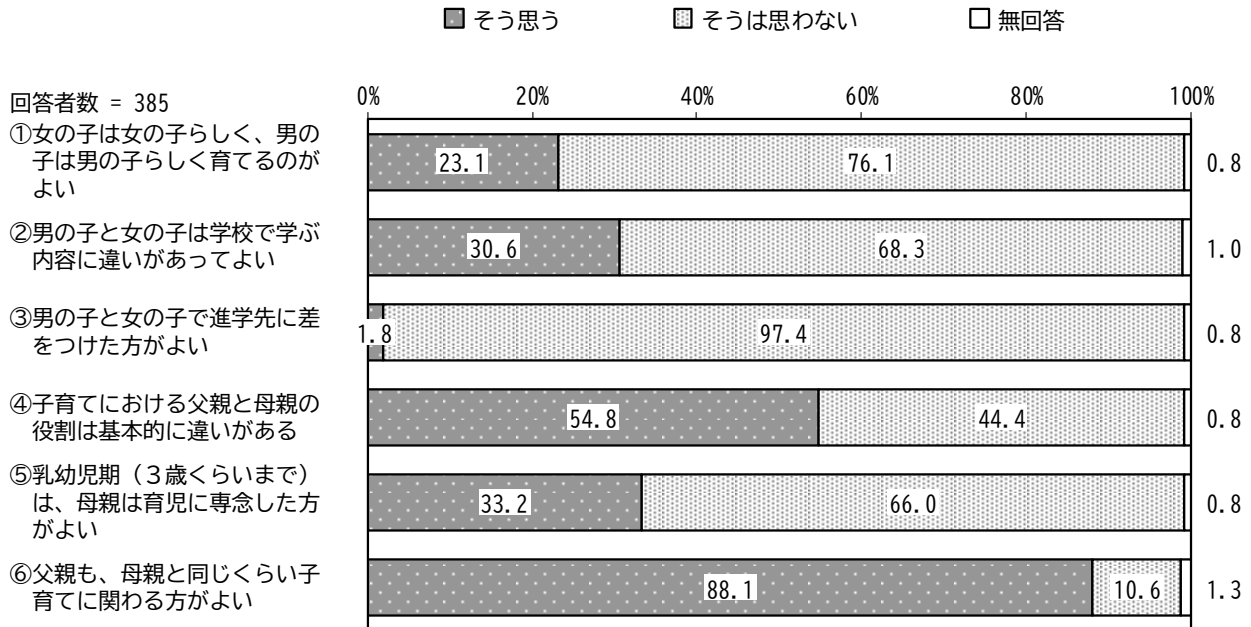
カテゴリ名	合計
(1) 結婚・子どもにとっての両親について	45
(2) 子どもの福祉について	32
(3) 法制度・サポートについて	13
(4) 個人の自由について	4
(5) その他	15
合計	109

※1人の回答につき、複数の項目にわたる意見がある場合はそれぞれの項目で計上している。

#### (4) 子育てや教育について

問 13 あなたは次の項目①～⑥の子育てや教育の考え方について、どのように思いますか。  
(それぞれの項目について○は1つずつ)

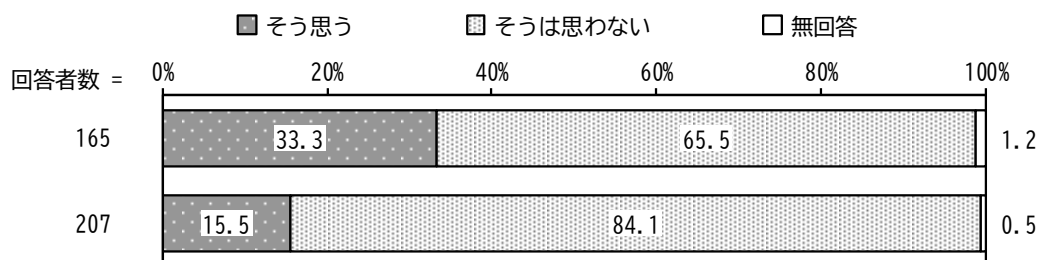
『⑥父親も、母親と同じくらい子育てに関わる方がよい』で「そう思う」が、『③男の子と女の子で進学先に差をつけた方がよい』で「そうは思わない」が高くなっています。



# ①女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるのがよい

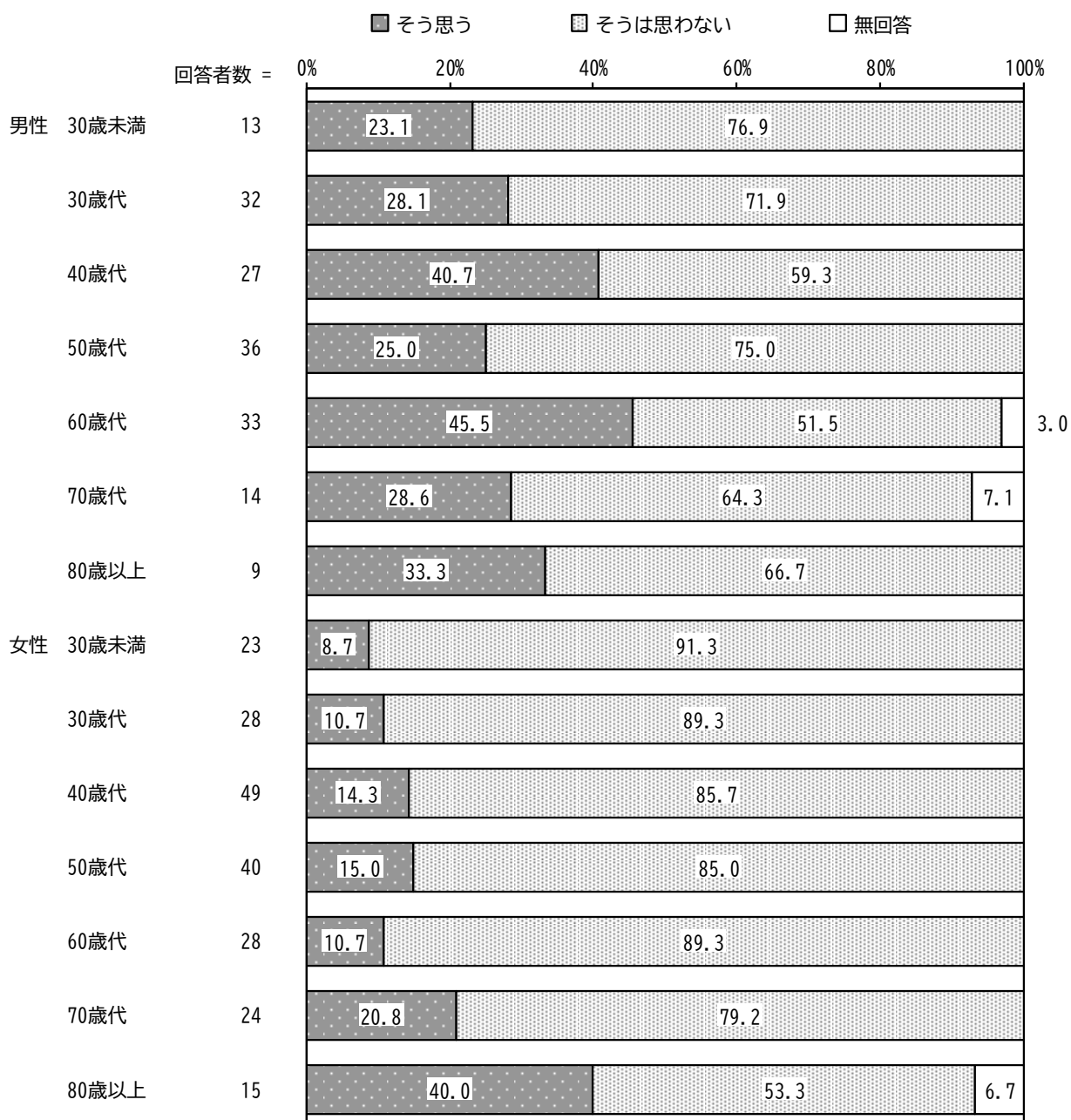
## 【性別】

性別にみると、「そうは思わない」の割合は、男性が65.5%、女性が84.1%と、女性の方が18.6ポイント多くなっています。



## 【性・年代別】

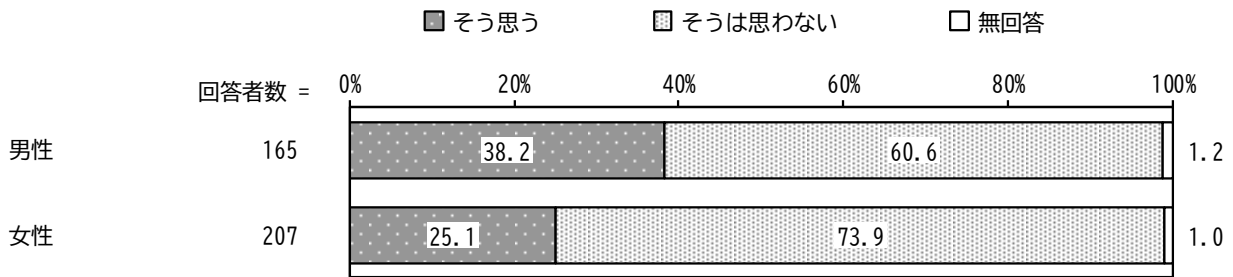
性・年代別にみると、「そう思う」の割合は、全体が23.1%であるのに対し、男性60歳代が45.5%と、22.4ポイント多く、「そうは思わない」の割合は、全体が76.1%であるのに対し、女性30歳未満が91.3%、女性30歳代が89.3%、女性60歳代が89.3%と、10ポイント以上多くなっています。



②男の子と女の子は学校で学ぶ内容に違いがあってよい

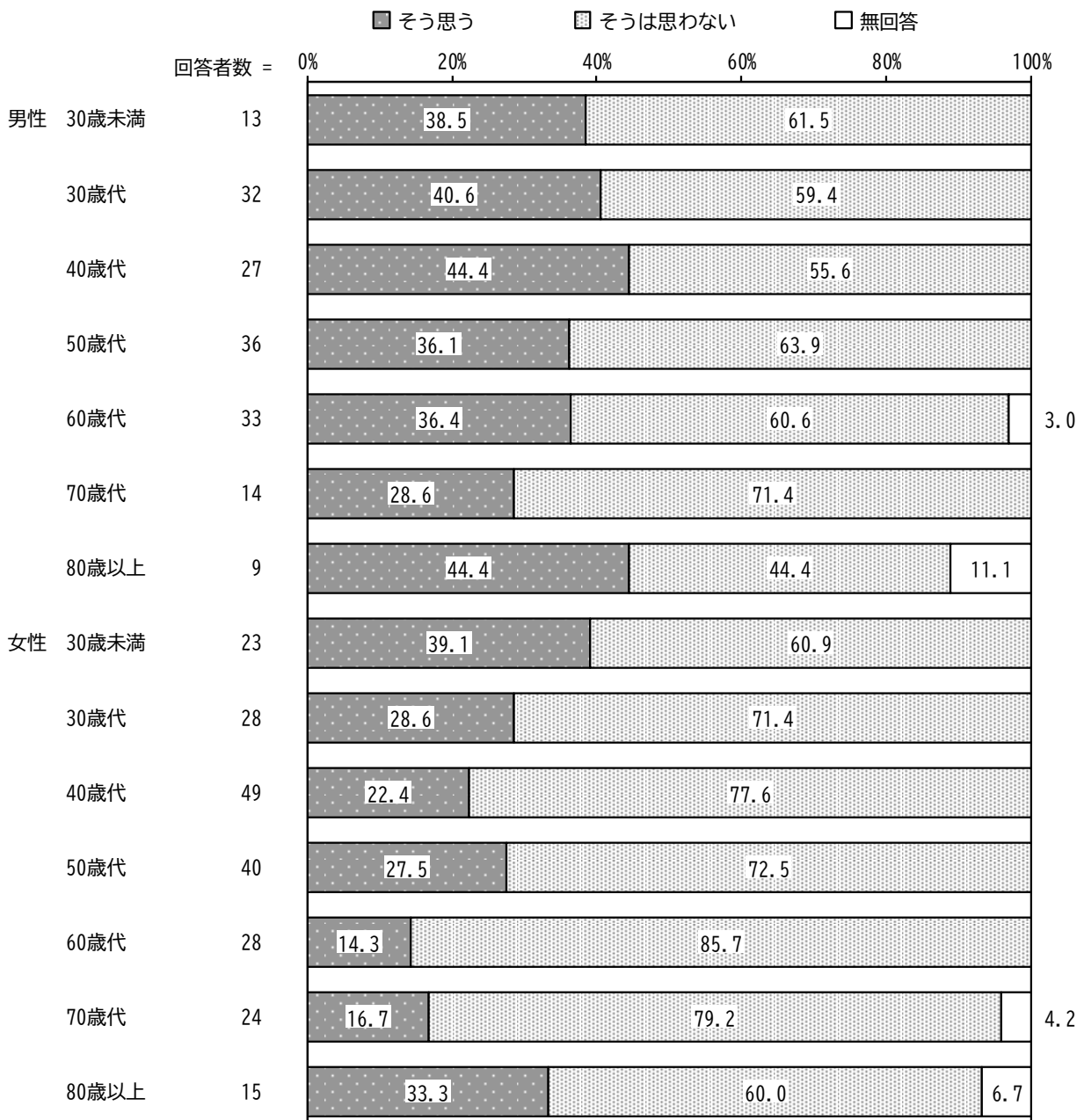
【性別】

性別にみると、「そうは思わない」の割合は、男性が60.6%、女性が73.9%と、女性の方が13.3ポイント多くなっています。



【性・年代別】

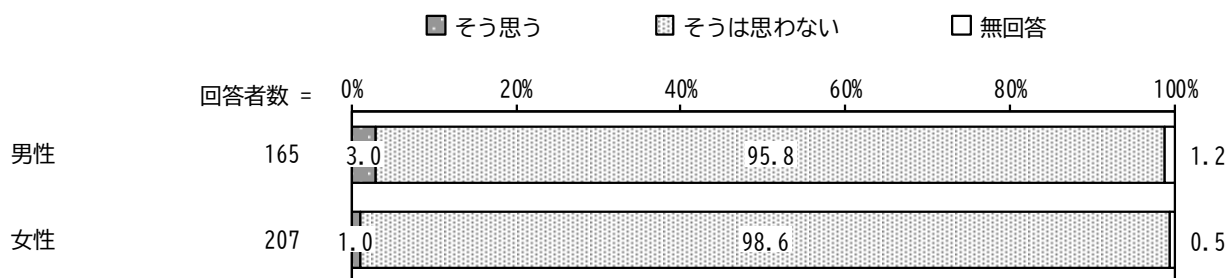
性・年代別にみると、「そう思う」の割合は、全体が30.6%であるのに対し、男性40歳代が44.4%と、13.8ポイント多く、「そうは思わない」の割合は、全体が68.3%であるのに対し、女性60歳代が85.7%と、17.4ポイント多くなっています。



### ③男の子と女の子で進学先に差をつけた方がよい

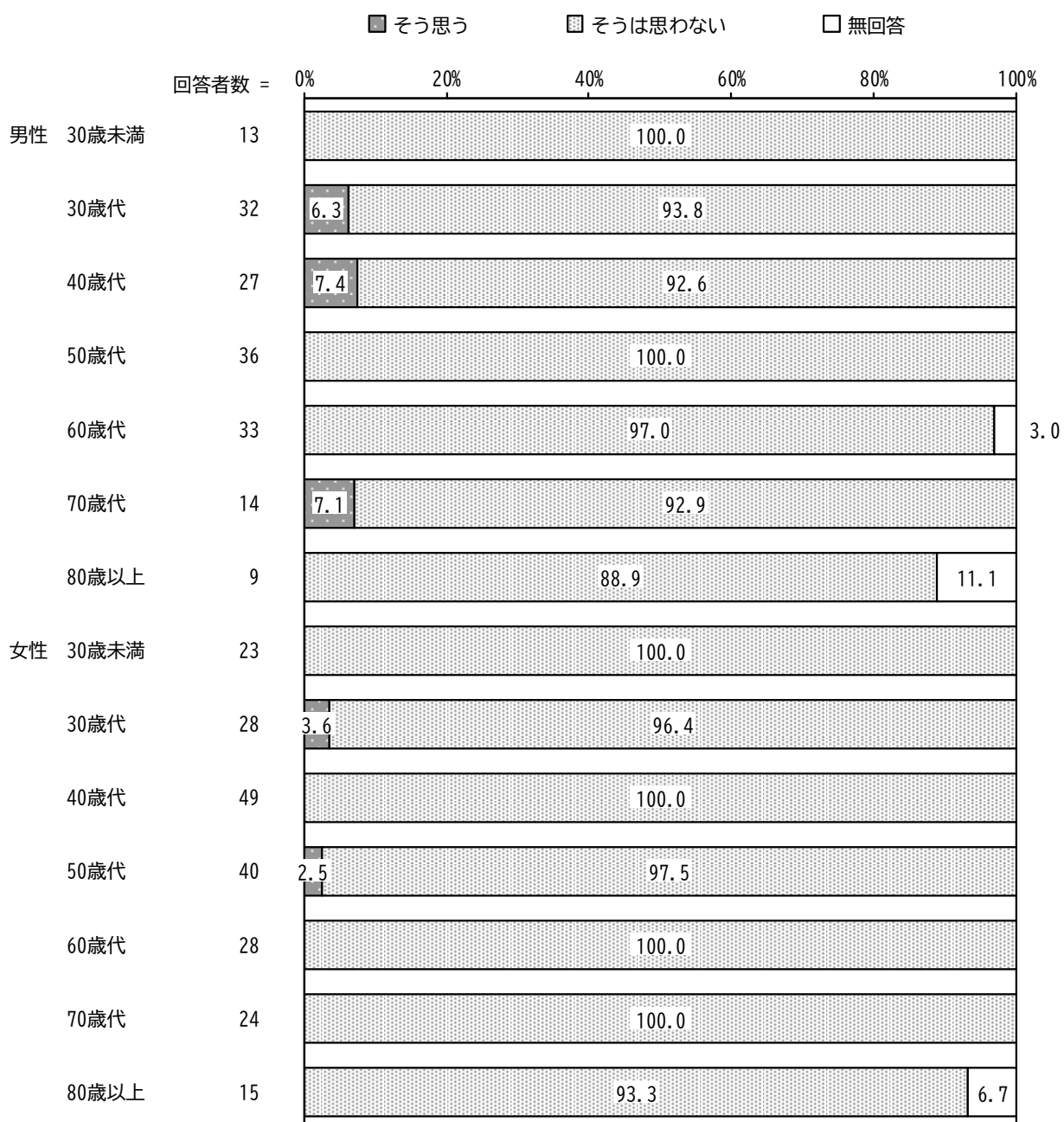
#### 【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



#### 【性・年代別】

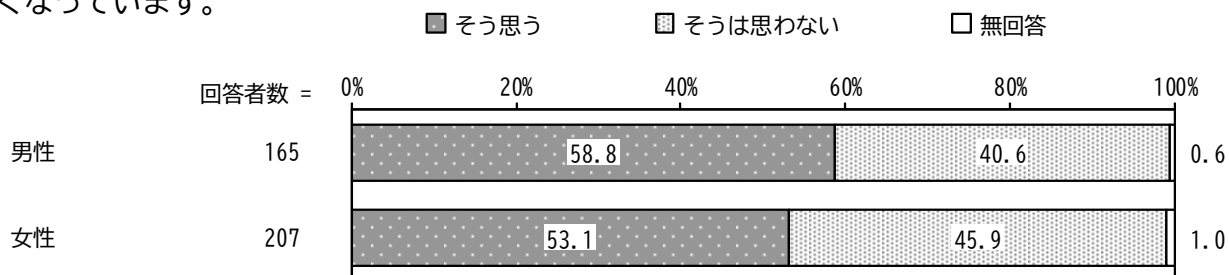
性・年代別にみると、男性では80歳以上から50歳代まで年代が下がるほど「そうは思わない」の割合が高くなっています。



#### ④子育てにおける父親と母親の役割は基本的に違いがある

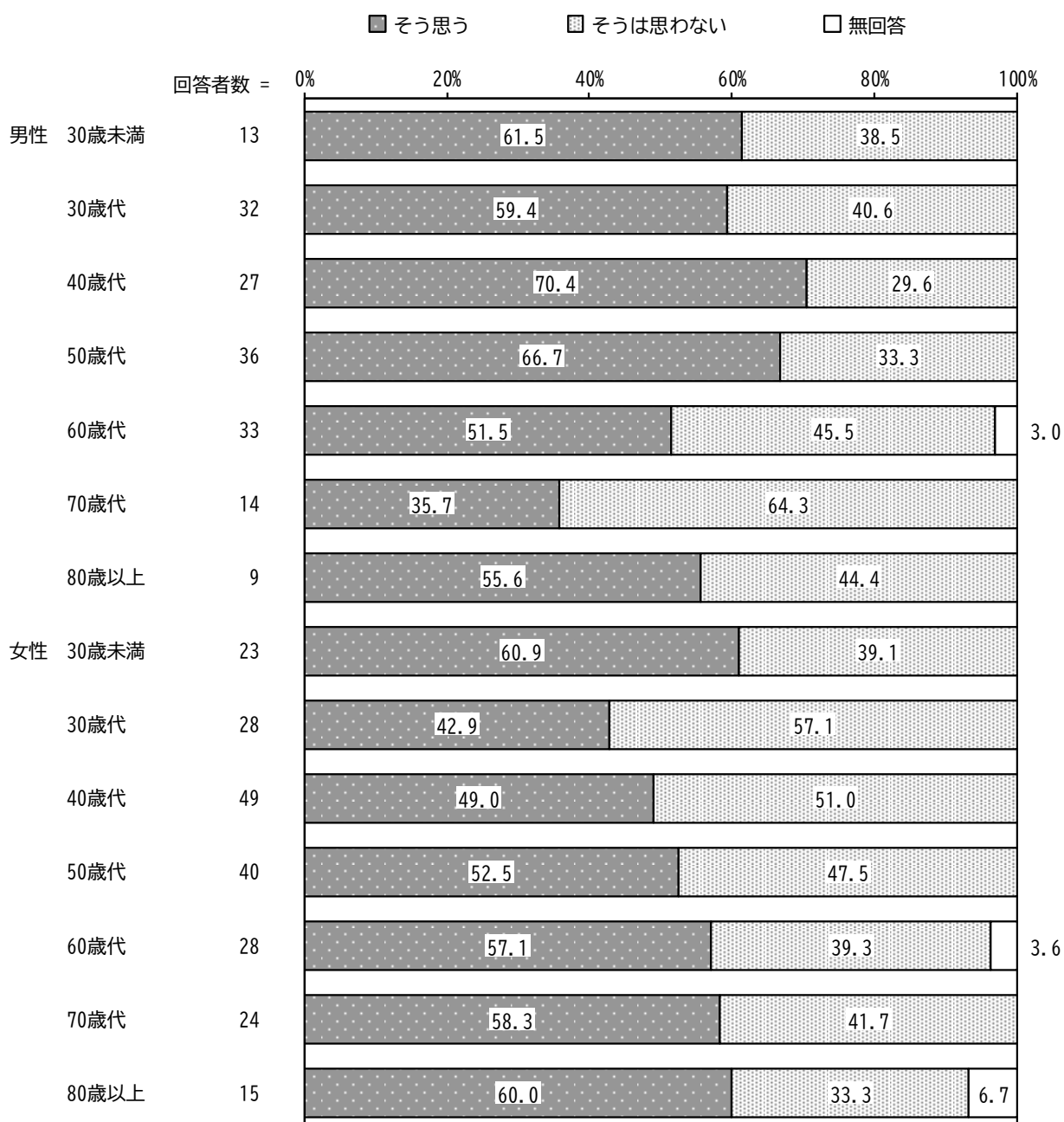
##### 【性別】

性別にみると、「そう思う」の割合は、男性が 58.8%、女性が 53.1%と、男性の方が 5.7 ポイント多くなっています。



##### 【性・年代別】

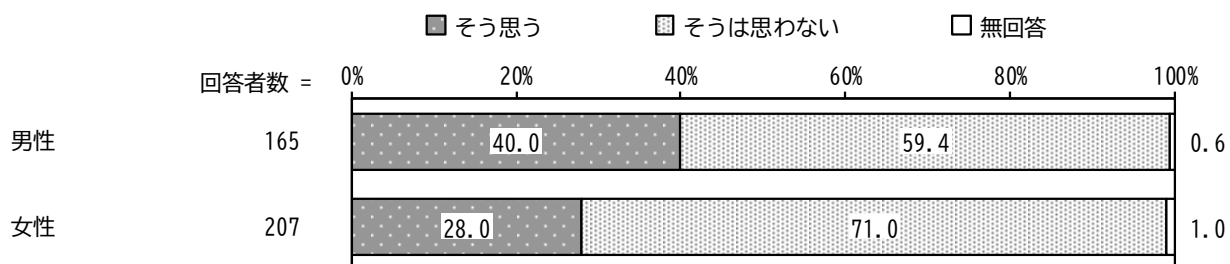
性・年代別にみると、男性では 40 歳代から 70 歳代まで年代が上がるほど「そうは思わない」の割合が高く、女性では 30 歳代から 80 歳以上まで年代が上がるほど「そう思う」の割合が高くなっています。



⑤乳幼児期（3歳くらいまで）は、母親は育児に専念した方がよい

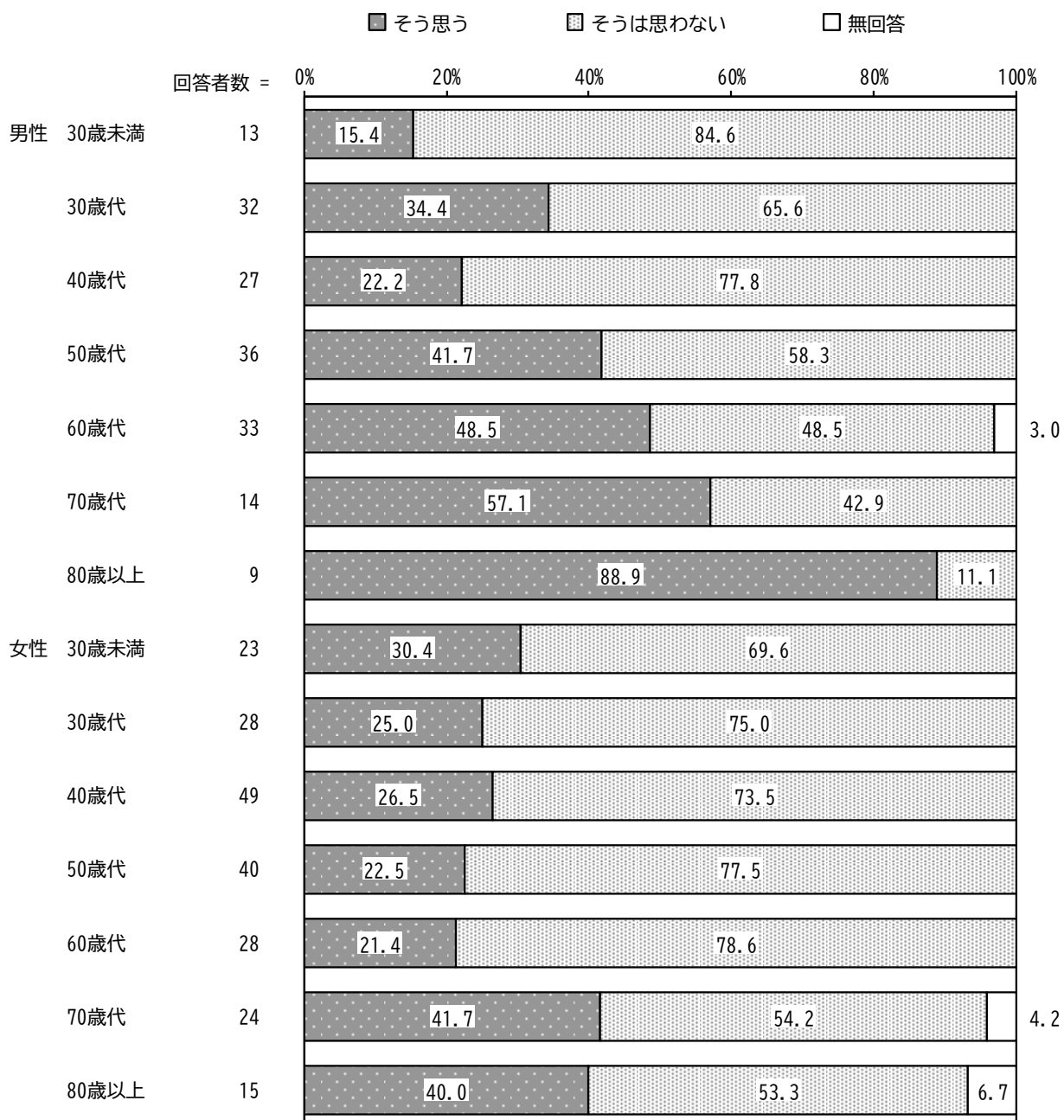
【性別】

性別にみると、「そう思う」の割合は、男性が40.0%、女性が28.0%と、男性の方が12ポイント多くなっています。



【性・年代別】

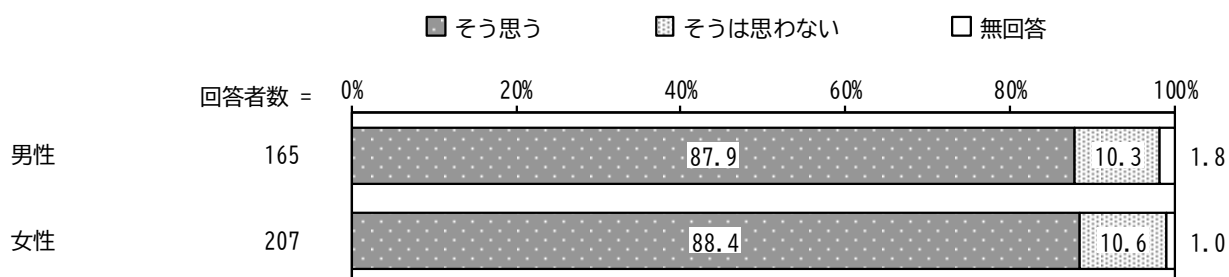
性・年代別にみると、男性では40歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「そう思う」の割合が高く、女性では30歳未満から60歳代まで年代が上がるほど「そうは思わない」の割合が高い傾向にあります。



## ⑥父親も、母親と同じくらい子育てに関わる方がよい

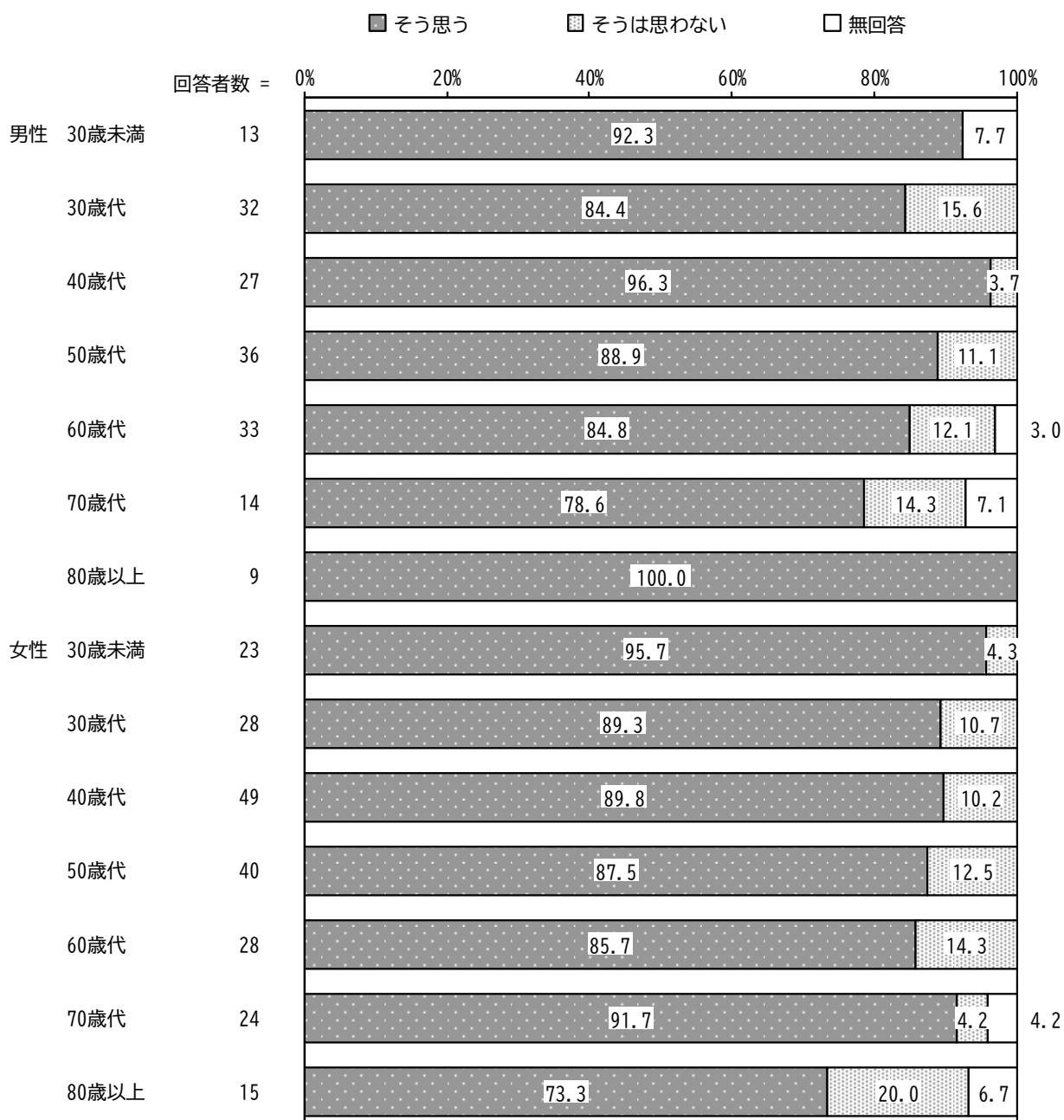
### 【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



### 【性・年代別】

性・年代別にみると、男性では40歳代から70歳代まで年代が上がるほど、女性では30歳未満から60歳代まで年代が上がるほど「そうは思わない」の割合が高い傾向にあります。



問 13 の項目①～⑤で「そう思う」を選択した方にお聞きします。

付問 13-1 その理由は何ですか。(自由記述)

【回答数内訳】 (件)

カテゴリ名	合計
(1) 男女の性の考え方の違いについて	49
(2) 子育て・教育について	39
(3) 母親について	19
(4) 社会制度・家庭事情について	13
(5) 男女平等について	12
(6) その他	10
合計	142

※1人の回答につき、複数の項目にわたる意見がある場合はそれぞれの項目で計上している。

問 13 の項目⑥で「そうは思わない」を選択した方にお聞きします。

付問 13-2 その理由は何ですか。(自由記述)

【回答数内訳】 (件)

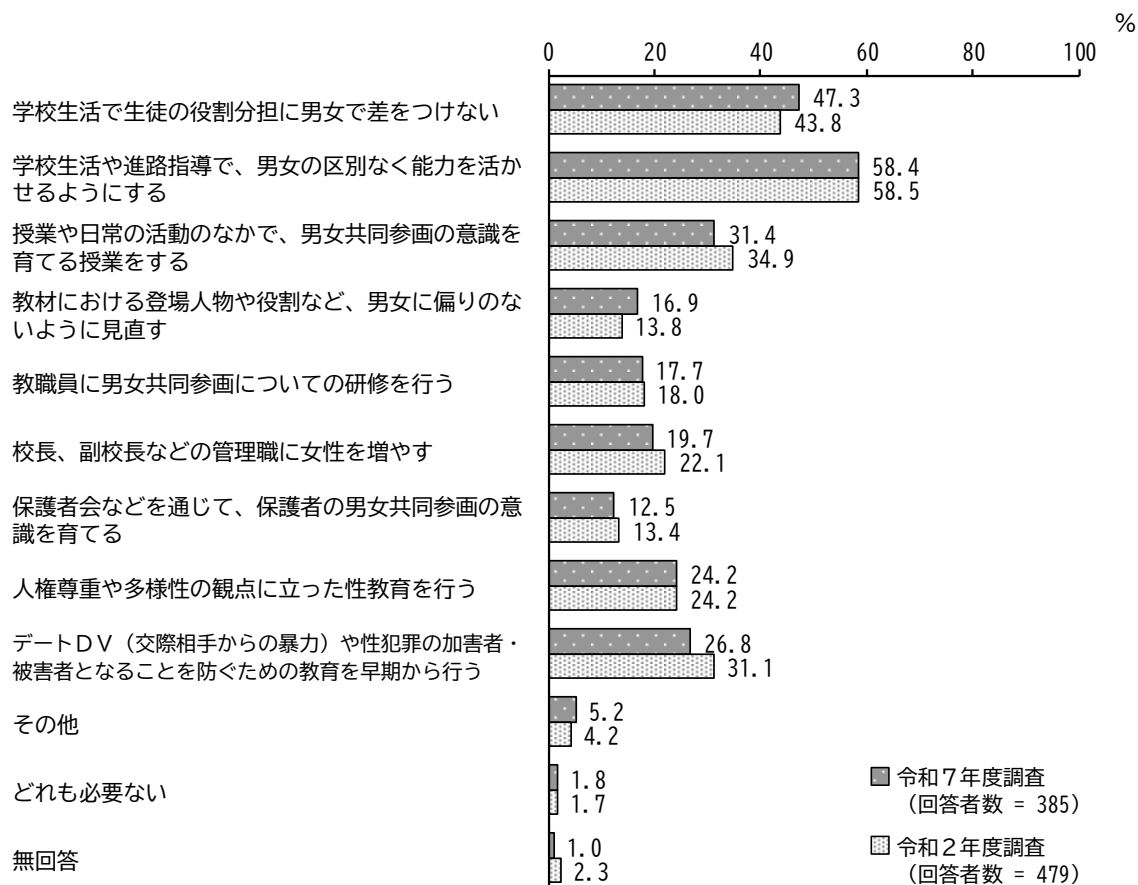
カテゴリ名	合計
(1) 男女の性の考え方の違いについて	12
(2) 男女平等の視点について	7
(3) 個人・家庭の自由選択について	7
(4) その他	3
合計	29

※1人の回答につき、複数の項目にわたる意見がある場合はそれぞれの項目で計上している。

問 14 「男女共同参画社会」とは、「男女が、互いにその人権を尊重しつつ喜びも責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会」ですが、あなたは現在の学校教育において、男女共同参画を実現するためにどのようなことに力を入れるとよいと考えますか。(〇は3つまで)

「学校生活や進路指導で、男女の区別なく能力を活かせるようにする」の割合が 58.4%と最も高く、次いで「学校生活で生徒の役割分担に男女で差をつけない」の割合が 47.3%、「授業や日常の活動のなかで、男女共同参画の意識を育てる授業をする」の割合が 31.4%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「学校生活で生徒の役割分担に男女で差をつけない」の割合は、令和2年度調査が 43.8%であるのに対し、令和7年度調査が 47.3%と、3.5 ポイント増加し、「教材における登場人物や役割など、男女に偏りのないように見直す」の割合は、令和2年度調査が 13.8%であるのに対し、令和7年度調査が 16.9%と、3.1 ポイント増加しています。一方、「授業や日常の活動のなかで、男女共同参画の意識を育てる授業をする」の割合は、令和2年度調査が 34.9%であるのに対し、令和7年度調査が 31.4%と、3.5 ポイント減少し、「デートDV（交際相手からの暴力）や性犯罪の加害者・被害者となることを防ぐための教育を早期から行う」の割合は、令和2年度調査が 31.1%であるのに対し、令和7年度調査が 26.8%と、4.3 ポイント減少しています。



【性別】

性別にみると、「学校生活で生徒の役割分担に男女で差をつけない」の割合は、男性が 51.5%、女性が 44.0%と、男性の方が 7.5 ポイント多く、「学校生活や進路指導で、男女の区別なく能力を活かせるようにする」の割合は、男性が 60.6%、女性が 55.6%と、男性の方が 5 ポイント多くなっています。

「校長、副校長などの管理職に女性を増やす」の割合は、男性が 15.8%、女性が 22.7%と、女性の方が 6.9 ポイント多く、「デートDV（交際相手からの暴力）や性犯罪の加害者・被害者となることを防ぐための教育を早期から行う」の割合は、男性が 21.2%、女性が 30.9%と、女性の方が 9.7 ポイント多くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	学校生活で生徒の役割分担に男女で差をつけない	学校生活や進路指導で、男女の区別なく能力を活かせるようにする	授業や日常の活動のなかで、男女共同参画の意識を育てる授業をする	教材における登場人物や役割など、男女に偏りのないように見直す	教職員に男女共同参画についての研修を行う	校長、副校長などの管理職に女性を増やす
全体	385	47.3	58.4	31.4	16.9	17.7	19.7
男性	165	51.5	60.6	29.7	15.8	18.2	15.8
女性	207	44.0	55.6	31.9	18.4	17.4	22.7

区分	保護者会などを通じて、保護者の男女共同参画の意識を育てる	人権尊重や多様性の観点に立った性教育を行う	デートDV（交際相手からの暴力）や性犯罪の加害者・被害者となることを防ぐための教育を早期から行う	その他	どれも必要ない	無回答
全体	12.5	24.2	26.8	5.2	1.8	1.0
男性	10.3	24.2	21.2	6.1	1.8	1.2
女性	14.5	24.2	30.9	4.8	1.9	1.0

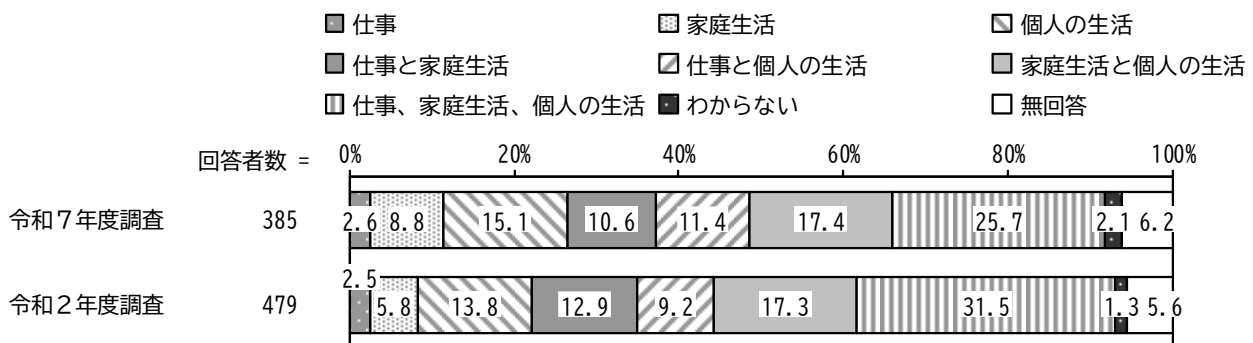
## (5) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

問15 あなたは日頃の生活のなかで、仕事、家庭生活、個人の生活（地域活動、学習、趣味など）で優先したいものはどれですか。あなたの希望に最も近いものと、現在の状況（現実）を教えてください。  
（それぞれの回答欄に「仕事」～「わからない」を1つずつ記入してください）

### 希望

「仕事、家庭生活、個人の生活」の割合が25.7%と最も高く、次いで「家庭生活と個人の生活」の割合が17.4%、「個人の生活」の割合が15.1%となっています。

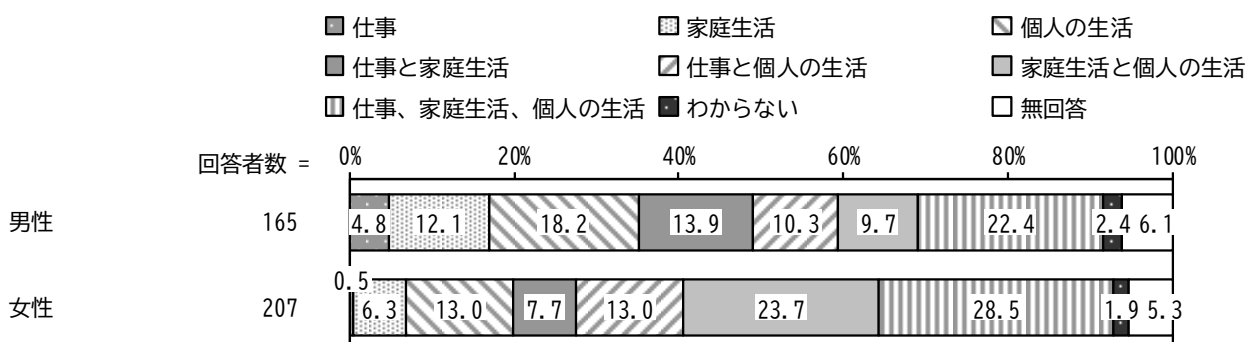
令和2年度調査と比較すると、「仕事、家庭生活、個人の生活」の割合は、令和2年度調査が31.5%であるのに対し、令和7年度調査が25.7%と、5.8ポイント減少しています。



### 【性別】

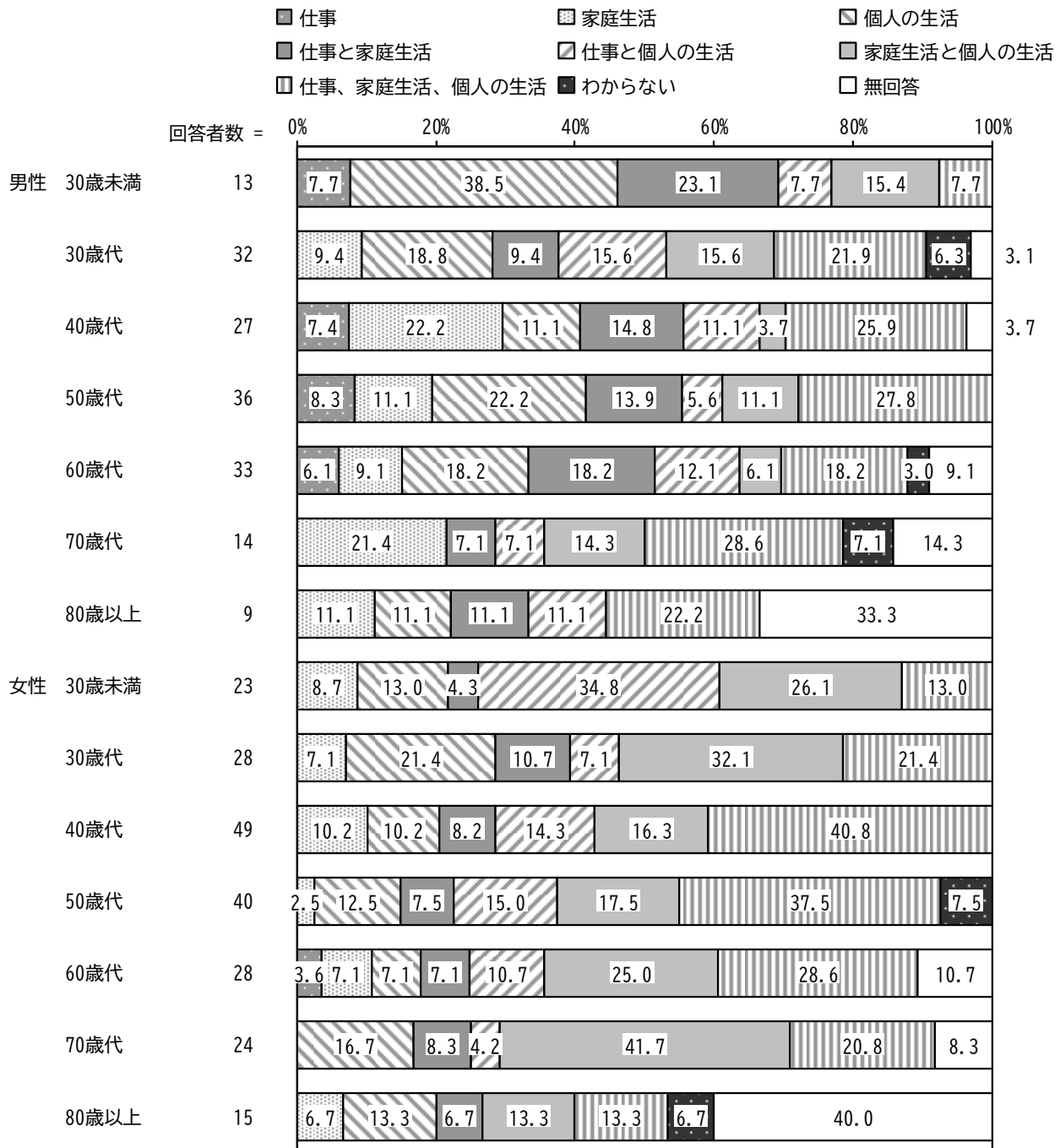
性別にみると、「家庭生活」の割合は、男性が12.1%、女性が6.3%と、男性の方が5.8ポイント多く、「個人の生活」の割合は、男性が18.2%、女性が13.0%と、男性の方が5.2ポイント多く、「仕事と家庭生活」の割合は、男性が13.9%、女性が7.7%と、男性の方が6.2ポイント多くなっています。

「家庭生活と個人の生活」の割合は、男性が9.7%、女性が23.7%と、女性の方が14ポイント多く、「仕事、家庭生活、個人の生活」の割合は、男性が22.4%、女性が28.5%と、女性の方が6.1ポイント多くなっています。



【性・年代別】

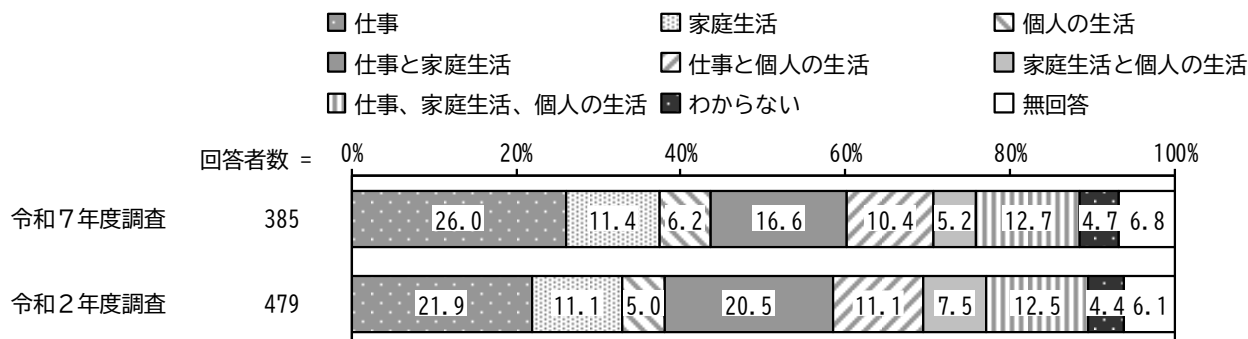
性・年代別にみると、男性では30歳未満から50歳代まで年代が上がるほど、女性では80歳以上から40歳代まで年代が下がるほど「仕事、家庭生活、個人の生活」の割合が高くなっています。また、「仕事と個人の生活」の割合は、全体が11.4%であるのに対し、女性30歳未満が34.8%と、23.4ポイント多く、「家庭生活と個人の生活」の割合は、全体が17.4%であるのに対し、女性70歳代が41.7%と、24.3ポイント多くなっています。



## 現実

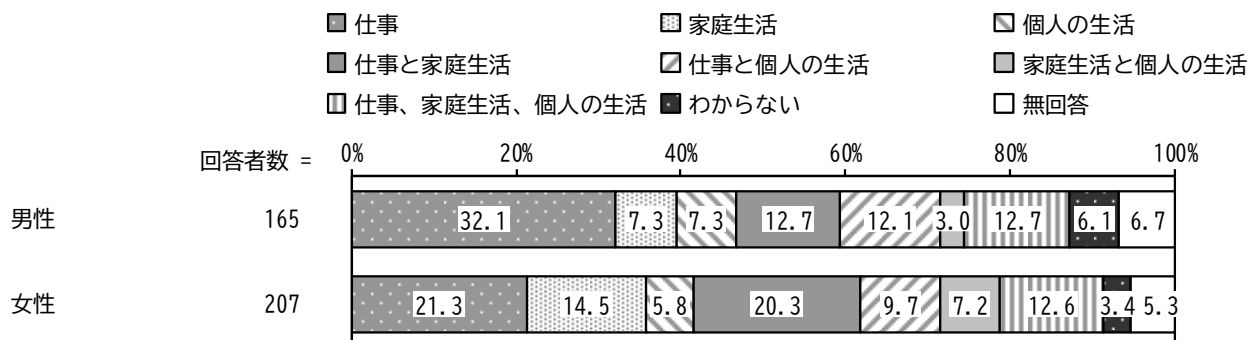
「仕事」の割合が26.0%と最も高く、次いで「仕事と家庭生活」の割合が16.6%、「仕事、家庭生活、個人の生活」の割合が12.7%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「仕事」の割合は、令和2年度調査が21.9%であるのに対し、令和7年度調査が26.0%と、4.1ポイント増加しています。



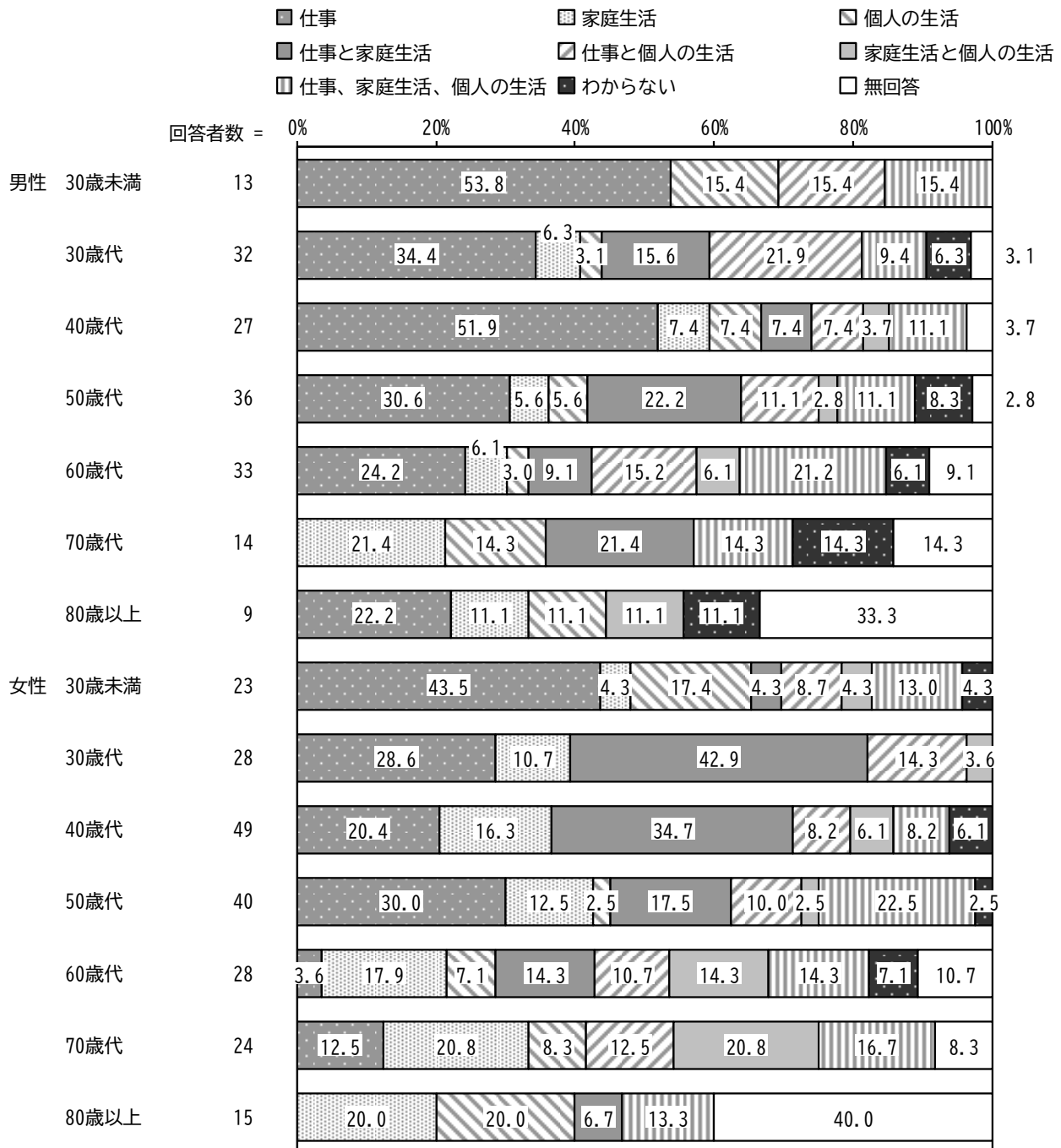
## 【性別】

性別にみると、「仕事」の割合は、男性が32.1%、女性が21.3%と、男性の方が10.8ポイント多く、「家庭生活」の割合は、男性が7.3%、女性が14.5%と、女性の方が7.2ポイント多く、「仕事と家庭生活」の割合は、男性が12.7%、女性が20.3%と、女性の方が7.6ポイント多くなっています。



【性・年代別】

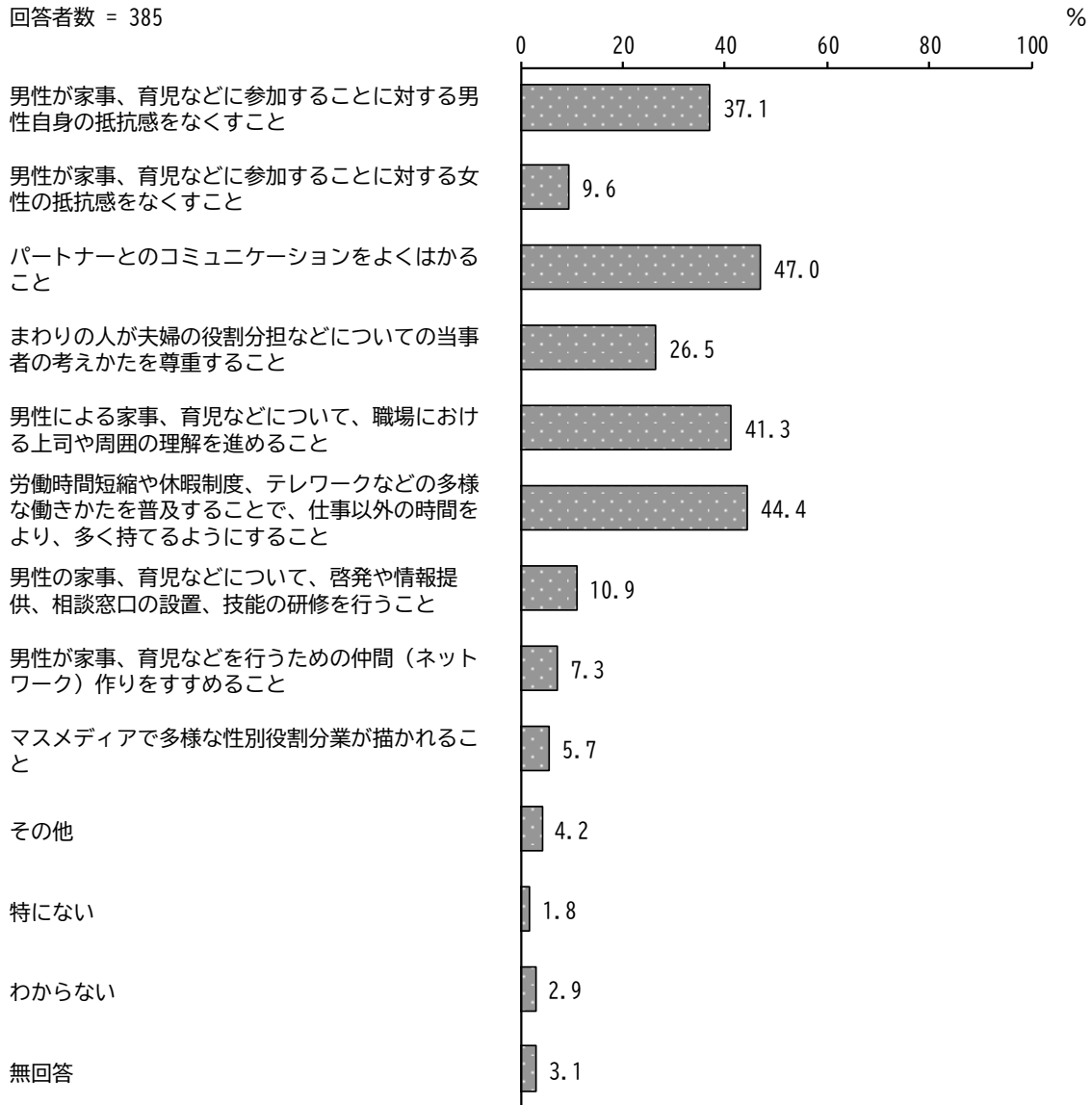
性・年代別にみると、男性では70歳代から40歳代まで年代が下がるほど「仕事」の割合が高く、女性では30歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「個人の生活」の割合が高い傾向にあります。また、全体に比べ、「仕事と家庭生活」の割合は、全体が16.6%であるのに対し、女性30歳代が42.9%と、26.3ポイント多く、「仕事と個人の生活」の割合は、全体が10.4%であるのに対し、男性30歳代が21.9%と、11.5ポイント多くなっています。



問16 今後、男性が家事、育児、介護などを積極的におこなっていくためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「パートナーとのコミュニケーションをよくはかること」の割合が47.0%と最も高く、次いで「労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどの多様な働きかたを普及することで、仕事以外の時間をより、多く持てるようにすること」の割合が44.4%、「男性による家事、育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」の割合が41.3%となっています。

回答者数 = 385



【性別】

性別にみると、「男性による家事、育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」の割合は、男性が46.7%、女性が37.7%と、男性の方が9ポイント多く、「男性が家事、育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合は、男性が32.1%、女性が40.6%と、女性の方が8.5ポイント多くなっています。

単位：%

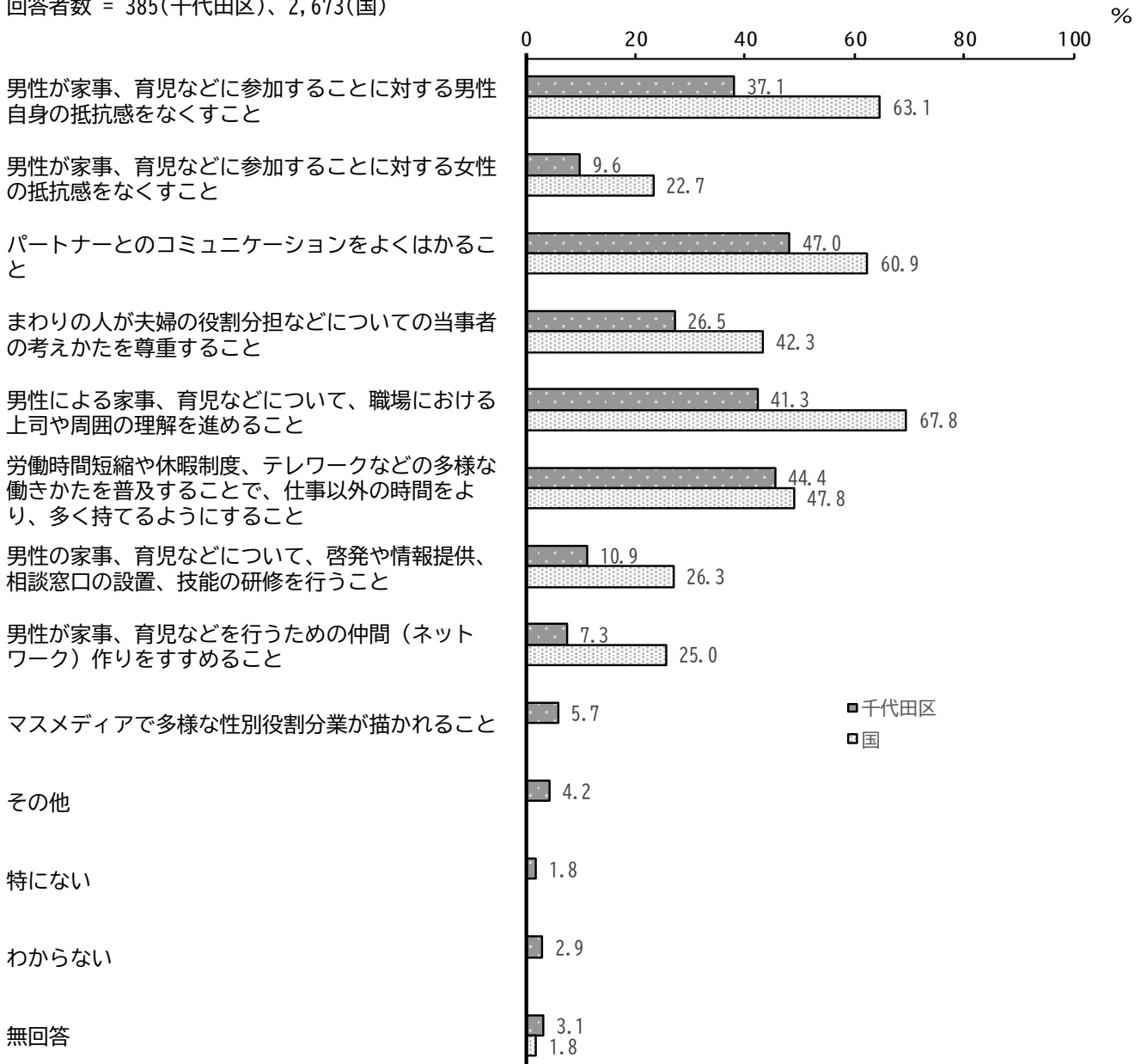
区分	回答者数(件)	男性が家事、育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事、育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	パートナーとのコミュニケーションをよくはかること	まわりの人が夫婦の役割分担などについての当事者の考えかたを尊重すること	男性による家事、育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること	労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどの多様な働きかたを普及すること、仕事以外の時間をより、多く持てるようにすること
全体	385	37.1	9.6	47.0	26.5	41.3	44.4
男性	165	32.1	10.3	47.3	26.7	46.7	46.7
女性	207	40.6	9.2	45.4	26.6	37.7	42.5

区分	男性の家事、育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと	男性が家事、育児などを行うための仲間(ネットワーク)作りをすすめること	マスメディアで多様な性別役割分業が描かれること	その他	特にない	わからない	無回答
全体	10.9	7.3	5.7	4.2	1.8	2.9	3.1
男性	9.7	7.3	4.8	4.8	1.2	2.4	2.4
女性	12.6	7.2	6.8	3.4	2.4	3.4	2.9

### 【国との比較】

国の調査と比較すると、「男性が家事、育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合は、千代田区が37.1%であるのに対して、国調査が63.1%と、千代田区の方が26ポイント少なく、「男性による家事、育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」の割合は、千代田区が41.3%であるのに対して、国調査が67.8%と、千代田区の方が26.5ポイント少なくなっています。

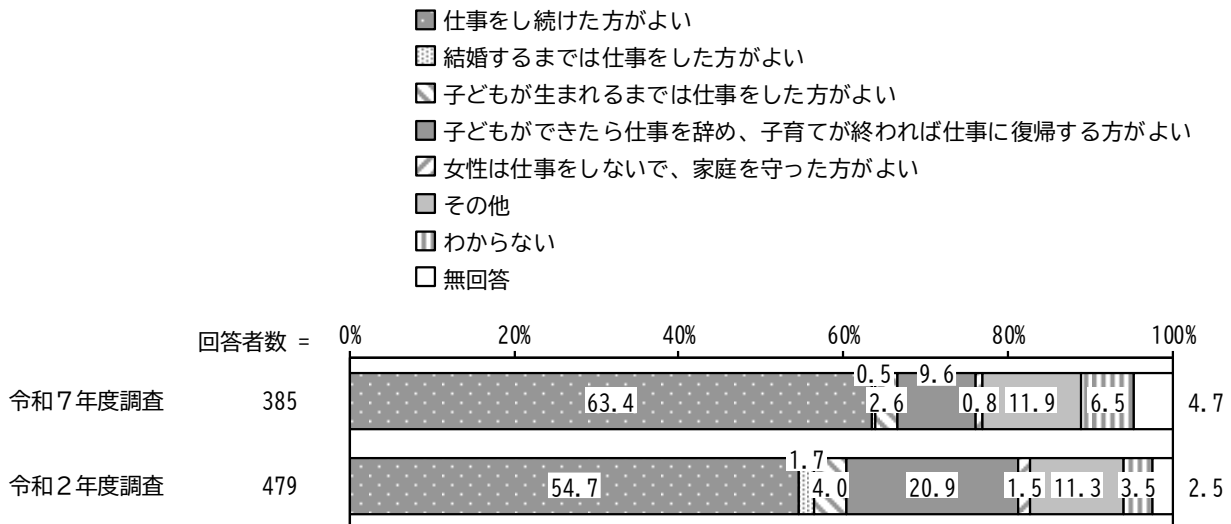
回答者数 = 385(千代田区)、2,673(国)



問17 あなたは、女性が仕事をするについて、どのように考えますか。(○は1つ)

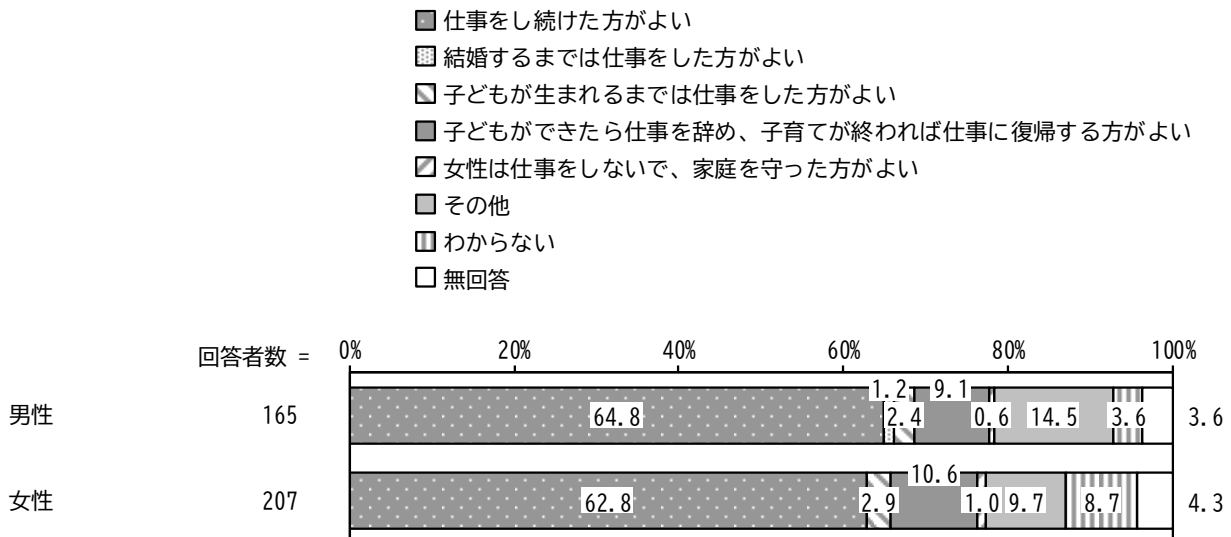
「仕事をし続けた方がよい」の割合が63.4%と最も高くなっています。

令和2年度調査と比較すると、「仕事をし続けた方がよい」の割合は、令和2年度調査が54.7%であるのに対し、令和7年度調査が63.4%と、8.7ポイント増加しています。一方、「子どもができれば仕事を辞め、子育てが終われば仕事に復帰する方がよい」の割合は、令和2年度調査が20.9%であるのに対し、令和7年度調査が9.6%と、11.3ポイント減少しています。



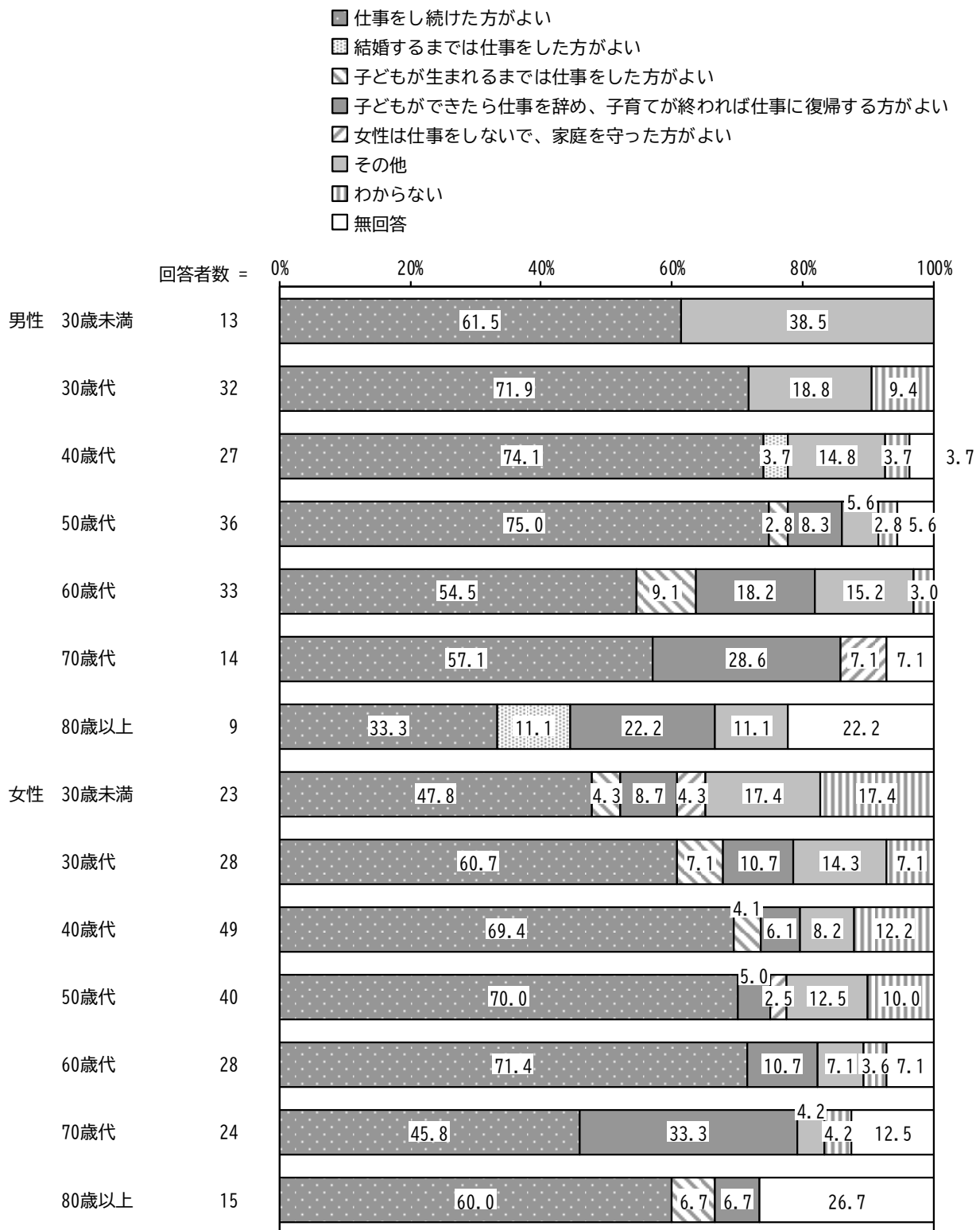
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



【性・年代別】

性・年代別にみると、男性では30歳代から70歳代まで年代が上がるほど「子どもができたなら仕事を辞め、子育てが終われば仕事に復帰する方がよい」の割合が高い傾向にあり、女性では30歳未満から60歳代まで年代が上がるほど「仕事をし続けた方がよい」の割合が高くなっています。

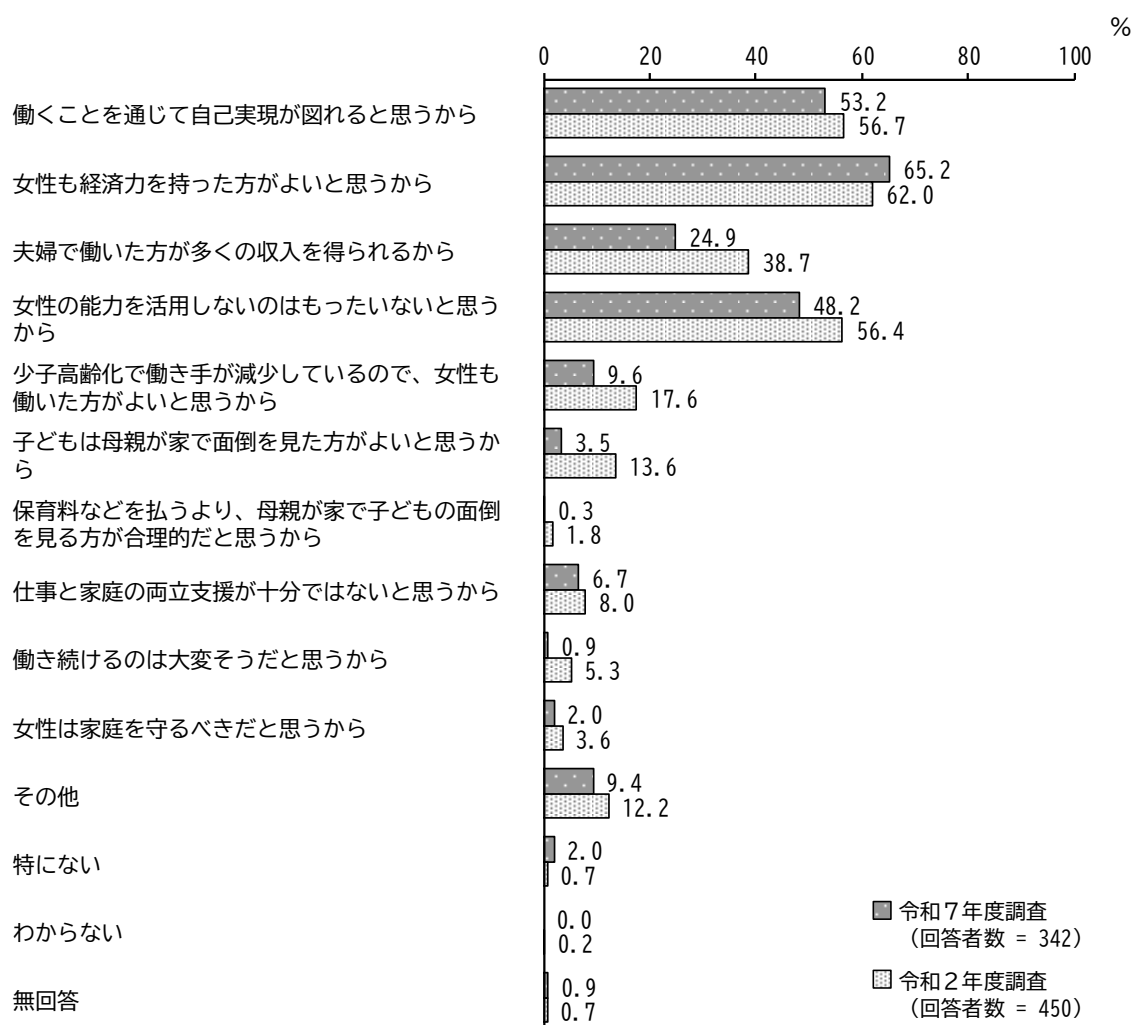


問 17で「仕事をし続けた方がよい」～「その他」を選択した方にお聞きします。

付問 17-1 あなたが、問 17 の回答のように考える理由は何ですか。(○は3つまで)

「女性も経済力を持った方がよいと思うから」の割合が 65.2%と最も高く、次いで「働くことを通じて自己実現が図れると思うから」の割合が 53.2%、「女性の能力を活用しないのはもったいないと思うから」の割合が 48.2%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから」の割合は、令和2年度調査が 38.7%であるのに対し、令和7年度調査が 24.9%と、13.8ポイント減少、「女性の能力を活用しないのはもったいないと思うから」の割合は、令和2年度調査が 56.4%であるのに対し、令和7年度調査が 48.2%と、8.2ポイント減少、「少子高齢化で働き手が減少しているので、女性も働いた方がよいと思うから」の割合は、令和2年度調査が 17.6%であるのに対し、令和7年度調査が 9.6%と、8ポイント減少、「子どもは母親が家で面倒を見た方がよいと思うから」の割合は、令和2年度調査が 13.6%であるのに対し、令和7年度調査が 3.5%と、10.1ポイント減少しています。



【性別】

性別にみると、「夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから」の割合は、男性が 30.7%、女性が 20.0%と、男性の方が 10.7 ポイント多く、女性で「女性も経済力を持った方がよいと思うから」の割合は、男性が 54.2%、女性が 74.4%と、女性の方が 20.2 ポイント多くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	働くことを通じて自己実現が図れると思うから	女性も経済力を持った方がよいと思うから	夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから	女性の能力を活用しないのはもったいないと思うから	少子高齢化で働き手が減少しているので、女性も働いた方がよいと思うから	子どもは母親が家で面倒を見た方がよいと思うから	保育料などを払うより、母親が家で子どもの面倒を見る方が合理的だと思うから
全 体	342	53.2	65.2	24.9	48.2	9.6	3.5	0.3
男性	153	54.9	54.2	30.7	49.7	11.1	2.0	0.7
女性	180	51.1	74.4	20.0	46.7	8.9	5.0	0.0

区分	仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから	働き続けるのは大変そうだと思うから	女性は家庭を守るべきだと思うから	その他	特にない	わからない	無回答
全 体	6.7	0.9	2.0	9.4	2.0	0.0	0.9
男性	7.2	0.0	2.0	10.5	2.6	0.0	1.3
女性	6.7	1.1	2.2	8.3	1.7	0.0	0.0

【性・年代別】

性・年代別にみると、男性では40歳代から80歳以上まで年代が上がるほど「仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから」の割合が高い傾向にあり、女性では60歳代から30歳未満まで年代が下がるほど「夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから」の割合が高くなっています。また、「働くことを通じて自己実現が図れると思うから」の割合は、全体が53.2%であるのに対し、男性40歳代が72.0%、男性50歳代が69.7%、女性30歳代が69.2%と、16ポイント以上多くなっています。

単位：%

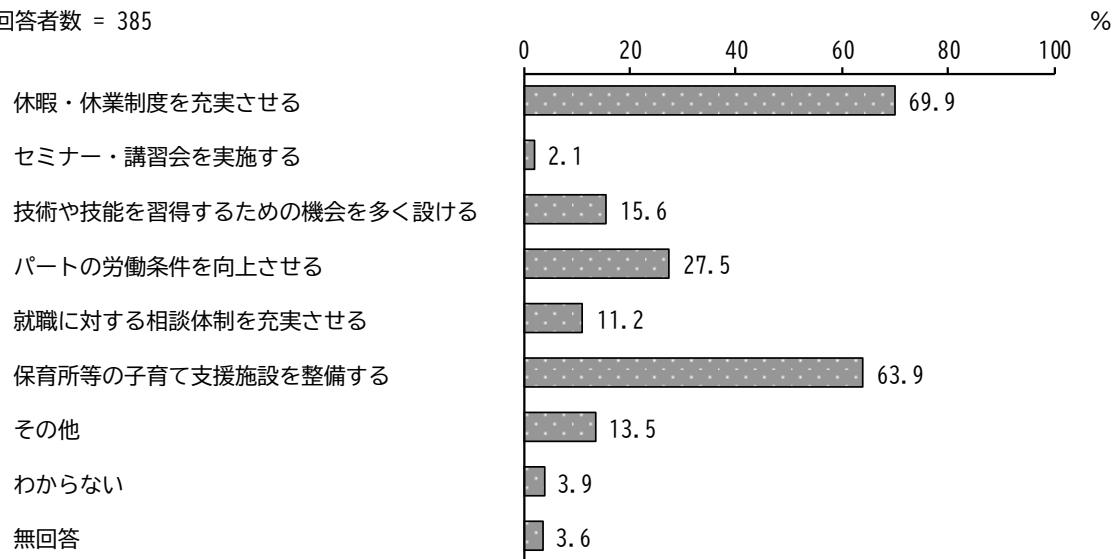
区分	回答者数(件)	働くことを通じて自己実現が図れると思うから	女性も経済力を持った方がよいと思うから	夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから	女性の能力を活用しないのはもったいないと思うから	少子高齢化で働き手が減少しているので、女性も働いた方がよいと思うから	子どもは母親が家で面倒を見た方がよいと思うから	保育料などを払うより、母親が家で子どもの面倒を見る方が合理的だと思うから
全体	342	53.2	65.2	24.9	48.2	9.6	3.5	0.3
男性 30歳未満	13	30.8	61.5	30.8	46.2	0.0	0.0	0.0
30歳代	29	37.9	62.1	55.2	37.9	10.3	3.4	3.4
40歳代	25	72.0	44.0	48.0	60.0	8.0	0.0	0.0
50歳代	33	69.7	54.5	15.2	57.6	15.2	3.0	0.0
60歳代	32	46.9	43.8	25.0	46.9	15.6	3.1	0.0
70歳代	13	69.2	76.9	0.0	61.5	7.7	0.0	0.0
80歳以上	7	42.9	57.1	28.6	28.6	14.3	0.0	0.0
女性 30歳未満	19	47.4	84.2	36.8	26.3	5.3	5.3	0.0
30歳代	26	69.2	69.2	30.8	34.6	3.8	7.7	0.0
40歳代	43	48.8	76.7	18.6	51.2	7.0	2.3	0.0
50歳代	36	55.6	69.4	16.7	44.4	2.8	5.6	0.0
60歳代	25	44.0	76.0	8.0	48.0	16.0	4.0	0.0
70歳代	20	40.0	80.0	20.0	60.0	20.0	5.0	0.0
80歳以上	11	45.5	63.6	9.1	72.7	18.2	9.1	0.0

区分	仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから	働き続けるのは大変そうだと思うから	女性は家庭を守るべきだと思うから	その他	特にない	わからない	無回答
全体	6.7	0.9	2.0	9.4	2.0	0.0	0.9
男性 30歳未満	0.0	0.0	0.0	15.4	15.4	0.0	0.0
30歳代	13.8	0.0	0.0	20.7	0.0	0.0	0.0
40歳代	0.0	0.0	0.0	8.0	0.0	0.0	0.0
50歳代	6.1	0.0	3.0	12.1	0.0	0.0	0.0
60歳代	9.4	0.0	3.1	3.1	6.3	0.0	6.3
70歳代	7.7	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0
80歳以上	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0
女性 30歳未満	21.1	0.0	0.0	10.5	0.0	0.0	0.0
30歳代	15.4	7.7	0.0	11.5	0.0	0.0	0.0
40歳代	0.0	0.0	4.7	7.0	4.7	0.0	0.0
50歳代	5.6	0.0	2.8	11.1	2.8	0.0	0.0
60歳代	0.0	0.0	0.0	12.0	0.0	0.0	0.0
70歳代	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
80歳以上	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0

問 18 女性が妊娠・出産・育児等を理由に仕事を辞めなくてもよいようにするためには、特にどのような支援や対策が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「休暇・休業制度を充実させる」の割合が 69.9%と最も高く、次いで「保育所等の子育て支援施設を整備する」の割合が 63.9%、「パートの労働条件を向上させる」の割合が 27.5%となっています。

回答者数 = 385



【性別】

性別にみると、「技術や技能を習得するための機会を多く設ける」の割合は、男性が 18.2%、女性が 13.0%と、男性の方が 5.2 ポイント多くなっています。

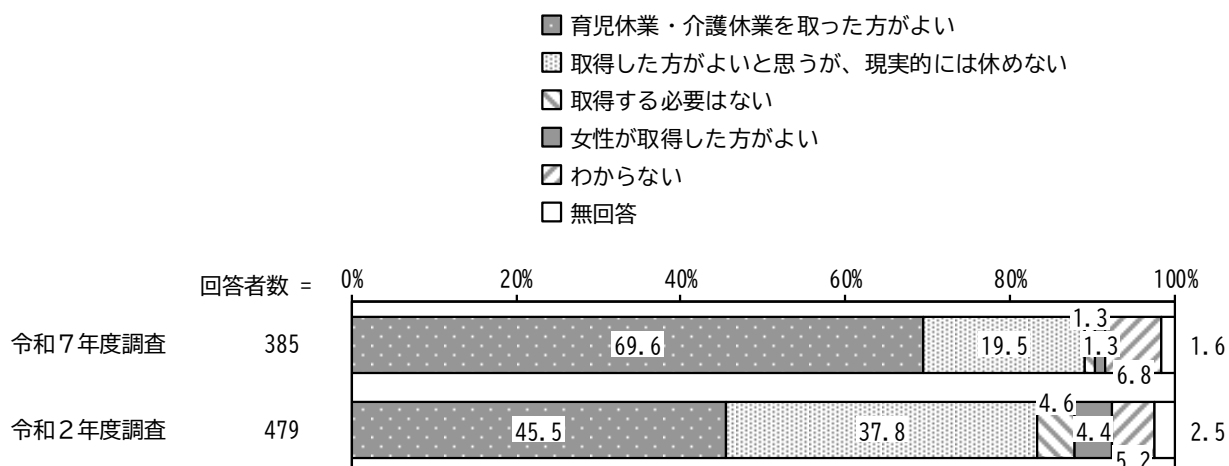
単位：%

区分	回答者数 (件)	休暇・休業制度を充実させる	セミナー・講習会を実施する	技術や技能を習得するための機会を多く設ける	パートの労働条件を向上させる	就職に対する相談体制を充実させる	保育所等の子育て支援施設を整備する	その他	わからない	無回答
全体	385	69.9	2.1	15.6	27.5	11.2	63.9	13.5	3.9	3.6
男性	165	72.7	4.2	18.2	27.3	10.9	63.6	13.3	3.6	2.4
女性	207	68.6	0.5	13.0	27.5	11.6	64.3	14.0	3.9	3.9

問 19 育児休業や介護休業は男性も女性も取ることができる制度ですが、あなたは、それらの休暇を取得することについて、どのように思いますか。(〇は1つ)

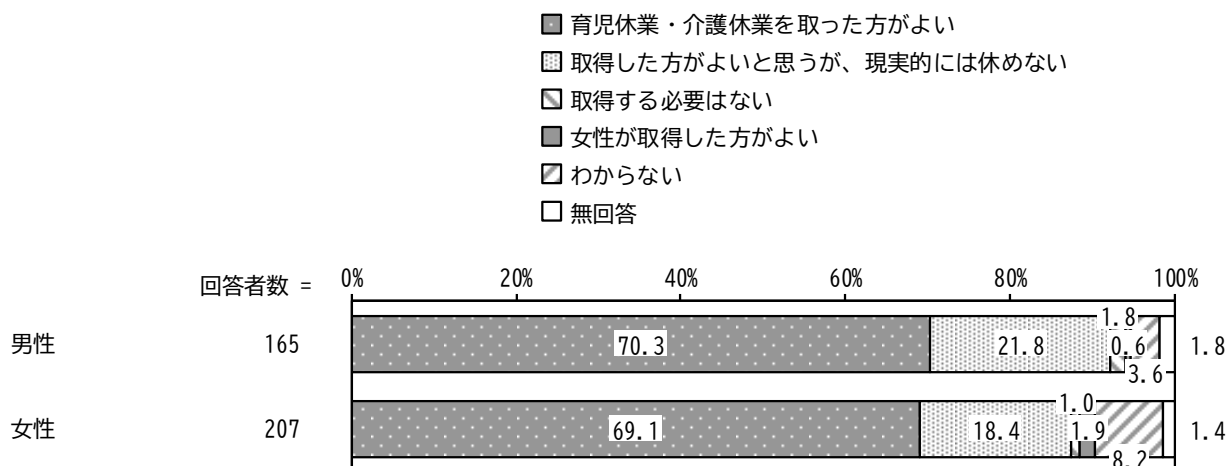
「育児休業・介護休業を取った方がよい」の割合が 69.6%と最も高く、次いで「取得した方がよいと思うが、現実的には休めない」の割合が 19.5%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「育児休業・介護休業を取った方がよい」の割合は、令和2年度調査が 45.5%であるのに対し、令和7年度調査が 69.6%と、24.1 ポイント増加しています。一方、「取得した方がよいと思うが、現実的には休めない」の割合は、令和2年度調査が 37.8%であるのに対し、令和7年度調査が 19.5%と、18.3 ポイント減少しています。



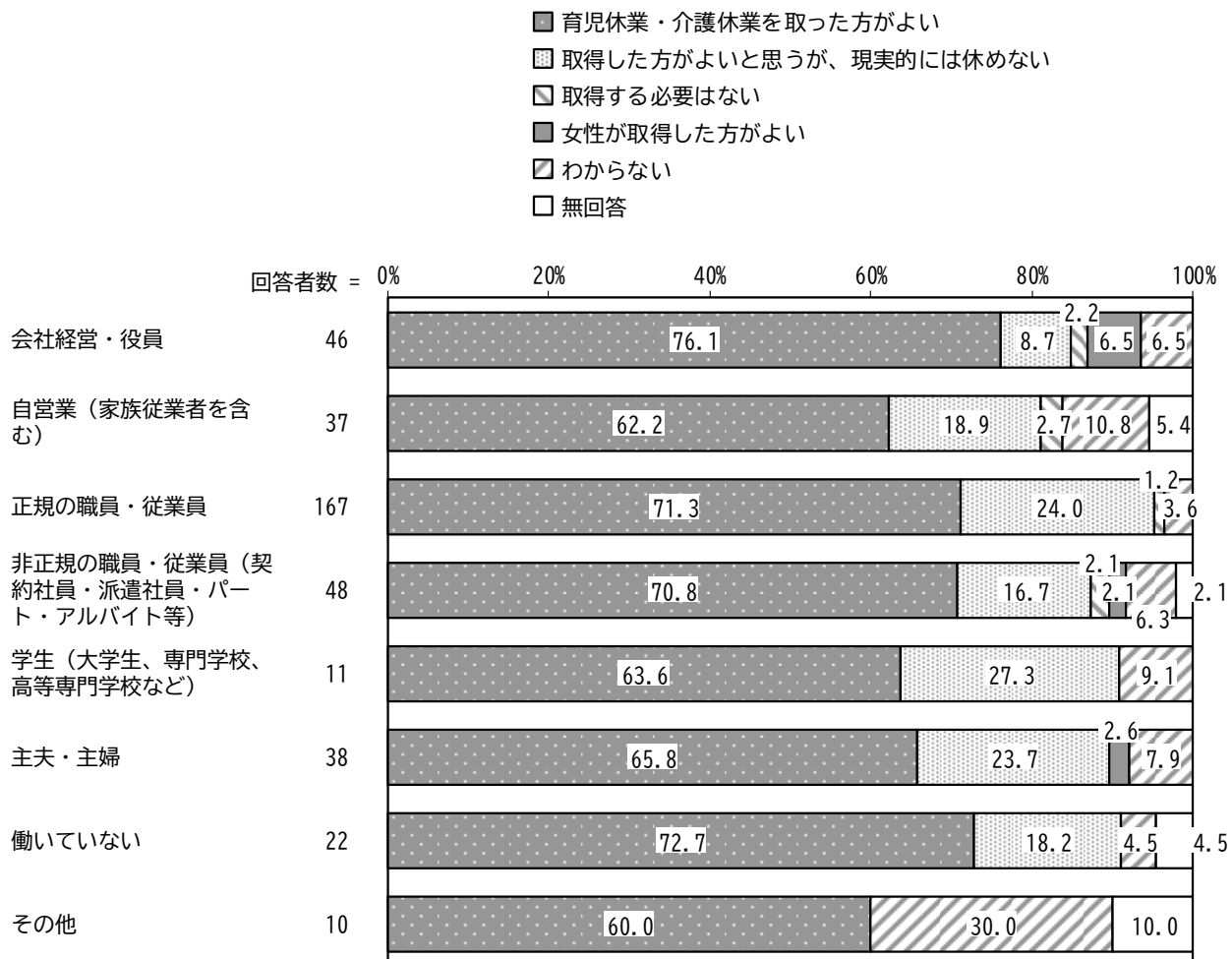
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



【職業別】

職業別にみると、全体に比べて「育児休業・介護休業を取った方がよい」の割合は、全体が 69.6% であるのに対し、会社経営・役員が 76.1%と、6.5 ポイント多く、「取得した方がよいと思うが、現実的には休めない」の割合は、全体が 19.5%であるのに対し、学生（大学生、専門学校、高等専門学校など）が 27.3%と、7.8 ポイント多くなっています。

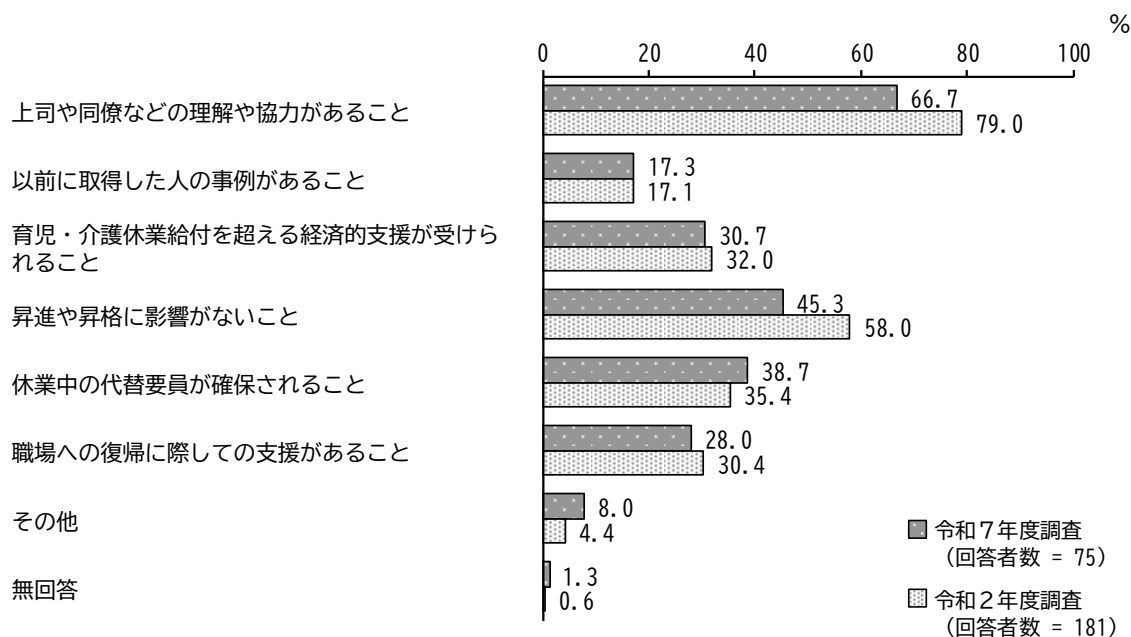


問 19 で「取得した方がよいと思うが、現実的には休めない」を選択した方にお聞きします。

付問 19-1 具体的にどのような条件があれば、取得できると思いますか。(○は3つまで)

「上司や同僚などの理解や協力があること」の割合が 66.7%と最も高く、次いで「昇進や昇格に影響がないこと」の割合が 45.3%、「休業中の代替要員が確保されること」の割合が 38.7%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「上司や同僚などの理解や協力があること」の割合は、令和2年度調査が 79.0%であるのに対し、令和7年度調査が 66.7%と、12.3 ポイント減少、「昇進や昇格に影響がないこと」の割合は、令和2年度調査が 58.0%であるのに対し、令和7年度調査が 45.3%と、12.7 ポイント減少しています。



【性別】

性別にみると、「上司や同僚などの理解や協力があること」の割合は、男性が 80.6%、女性が 55.3%と、男性の方が 25.3 ポイント多くなっています。「以前に取得した人の事例があること」の割合は、男性が 13.9%、女性が 21.1%と、女性の方が 7.2 ポイント、「休業中の代替要員が確保されること」の割合は、男性が 33.3%、女性が 44.7%と、女性の方が 11.4 ポイント、「職場への復帰に際しての支援があること」の割合は、男性が 22.2%、女性が 34.2%と、女性の方が 12 ポイント多くなっています。

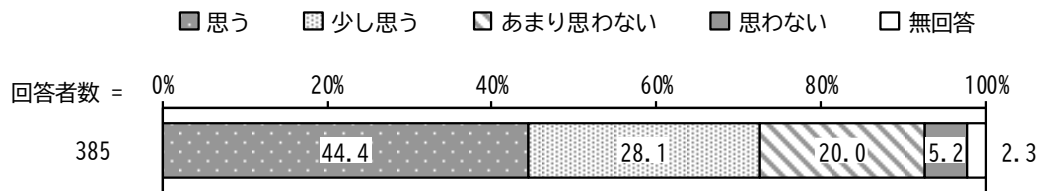
単位：%

区分	回答者数 (件)	上司や同僚などの理解や協力があること	以前に取得した人の事例があること	育児・介護休業給付を超える経済的支援が受けられること	昇進や昇格に影響がないこと	休業中の代替要員が確保されること	職場への復帰に際しての支援があること	その他	無回答
全体	75	66.7	17.3	30.7	45.3	38.7	28.0	8.0	1.3
男性	36	80.6	13.9	33.3	47.2	33.3	22.2	8.3	0.0
女性	38	55.3	21.1	28.9	44.7	44.7	34.2	7.9	0.0

## (6) DV（ドメスティック・バイオレンス）や人権について

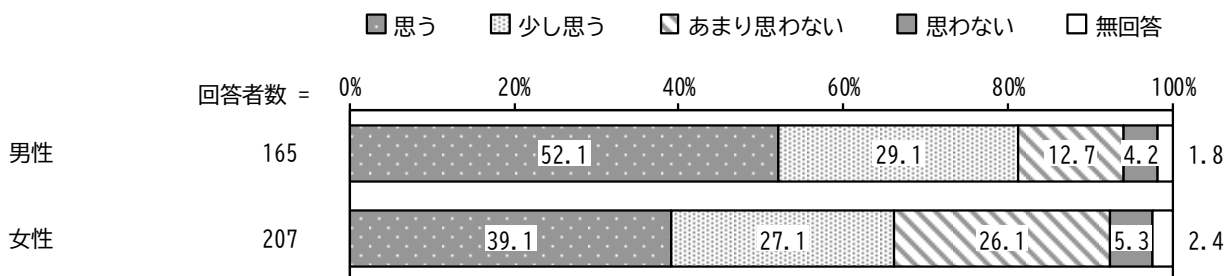
問 20 DV（配偶者や親密な間柄での暴力）被害や児童・高齢者虐待、いじめなど、人権を侵害する行為が社会問題となっています。あなたの周りでは、人権が尊重されている社会だと思いますか。（○は1つ）

「思う」の割合が44.4%と最も高く、次いで「少し思う」の割合が28.1%、「あまり思わない」の割合が20.0%となっています。



### 【性別】

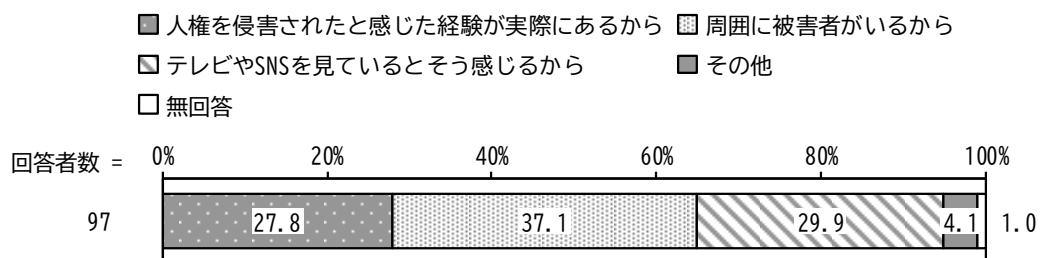
性別にみると、「思う」の割合は、男性が52.1%、女性が39.1%と、男性の方が13ポイント多く、「あまり思わない」の割合は、男性が12.7%、女性が26.1%と、女性の方が13.4ポイント多くなっています。



問 20 で「あまり思わない」または「思わない」を選択した方にお聞きします。

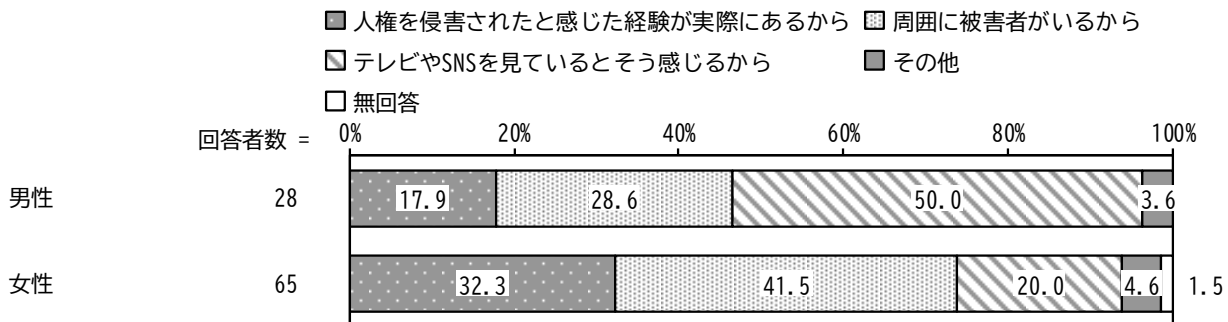
付問 20-1 人権が尊重されていないと感じる理由は何ですか。（○は1つ）

「人権を侵害されたと感じた経験が実際にあるから」の割合が27.8%、「周囲に被害者がいるから」の割合が37.1%、「テレビやSNSを見ているとそう感じるから」の割合が29.9%となっています。



【性別】

性別にみると、「テレビや SNS を見ているとそう感じるから」の割合は、男性が 50.0%、女性が 20.0%と、男性の方が 30 ポイント多く、「人権を侵害されたと感じた経験が実際にあるから」の割合は、男性が 17.9%、女性が 32.3%と、女性の方が 14.4 ポイント多く、「周囲に被害者がいるから」の割合は、男性が 28.6%、女性が 41.5%と、女性の方が 12.9 ポイント多くなっています。

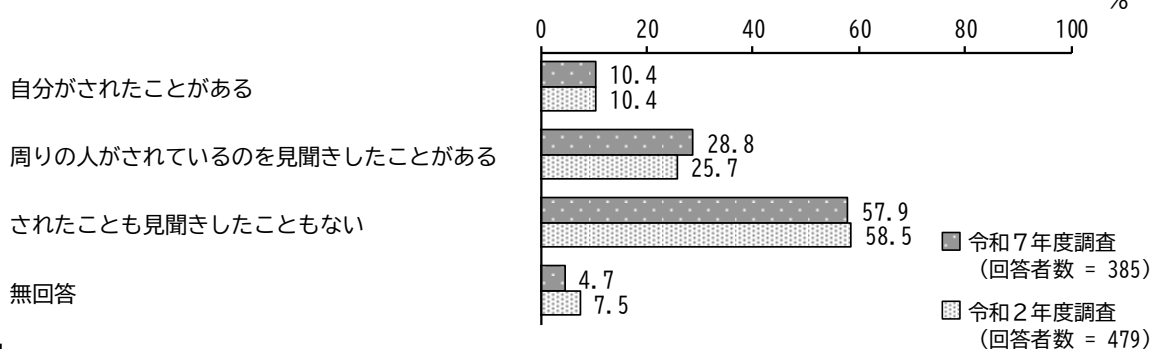


問 21 (ア) あなたは、これまでに配偶者やパートナーから、次の項目①～⑩のような行為をされたことや見聞きしたことはありますか。  
(それぞれの項目について数字に○を2つまで)

①殴る、蹴る、突き飛ばす、物を投げつけるなど、暴力行為を受けた

「自分がされたことがある」の割合が 10.4%、「周りの人がされているのを見聞きしたことがある」の割合が 28.8%、「されたことも見聞きしたこともない」の割合が 57.9%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「周りの人がされているのを見聞きしたことがある」の割合は、令和2年度調査が 25.7%であるのに対し、令和7年度調査が 28.8%と、3.1 ポイント増加しています。



【性別】

性別にみると、「されたことも見聞きしたこともない」の割合は、男性が 67.3%、女性が 51.7%と、男性の方が 15.6 ポイント多く、「自分がされたことがある」の割合は、男性が 5.5%、女性が 13.5%と、女性の方が 8 ポイント多く、「周りの人がされているのを見聞きしたことがある」の割合は、男性が 24.2%、女性が 32.9%と、女性の方が 8.7 ポイント多くなっています。

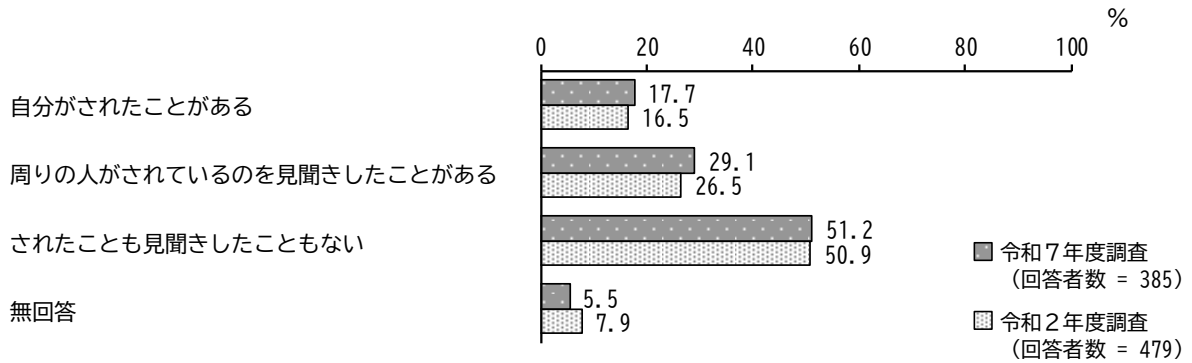
単位：%

区分	回答者数 (件)	自分がされたことがある	周りの人がされているのを見聞きしたことがある	されたことも見聞きしたこともない	無回答
全体	385	10.4	28.8	57.9	4.7
男性	165	5.5	24.2	67.3	3.6
女性	207	13.5	32.9	51.7	4.3

②大声でどなられる、命令される、脅されるなど、恐怖を感じる言葉を言われた

「自分がされたことがある」の割合が 17.7%、「周りの人がされているのを見聞きしたことがある」の割合が 29.1%、「されたことも見聞きしたこともない」の割合が 51.2%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別にみると、「されたことも見聞きしたこともない」の割合は、男性が 60.6%、女性が 45.4%と、男性の方が 15.2 ポイント多く、「自分がされたことがある」の割合は、男性が 10.9%、女性が 22.2%と、女性の方が 11.3 ポイント、「周りの人がされているのを見聞きしたことがある」の割合は、男性が 25.5%、女性が 31.9%と、女性の方が 6.4 ポイント多くなっています。

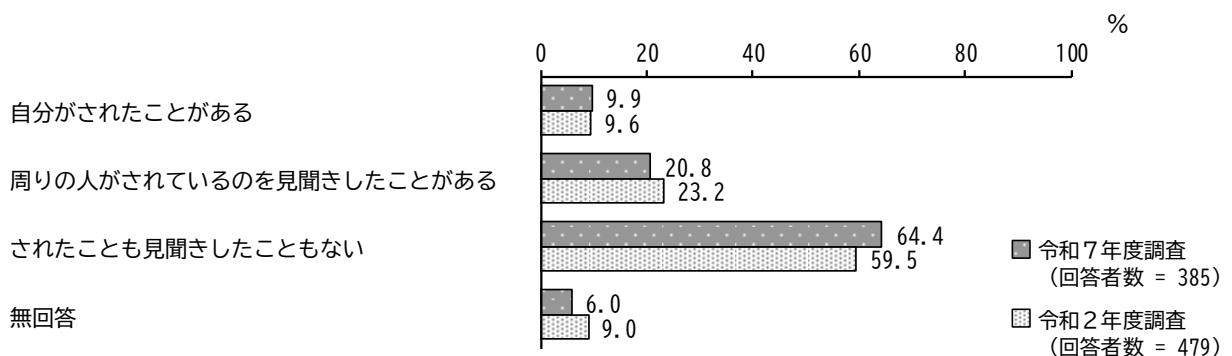
単位：%

区分	回答者数 (件)	自分がされたことがある	周りの人がされているのを見聞きしたことがある	されたことも見聞きしたこともない	無回答
全体	385	17.7	29.1	51.2	5.5
男性	165	10.9	25.5	60.6	4.8
女性	207	22.2	31.9	45.4	4.8

③「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」など、傷つく言葉を言われた

「自分がされたことがある」の割合が 9.9%、「周りの人がされているのを見聞きしたことがある」の割合が 20.8%、「されたことも見聞きしたこともない」の割合が 64.4%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「されたことも見聞きしたこともない」の割合は、令和2年度調査が 59.5%であるのに対し、令和7年度調査が 64.4%と、4.9 ポイント増加しています。



【性別】

性別にみると、「されたことも見聞きしたこともない」の割合は、男性が74.5%、女性が58.0%と、男性の方が16.5ポイント多く、「周りの人がされているのを見聞きしたことがある」の割合は、男性が13.9%、女性が26.1%と、女性の方が12.2ポイント多くなっています。

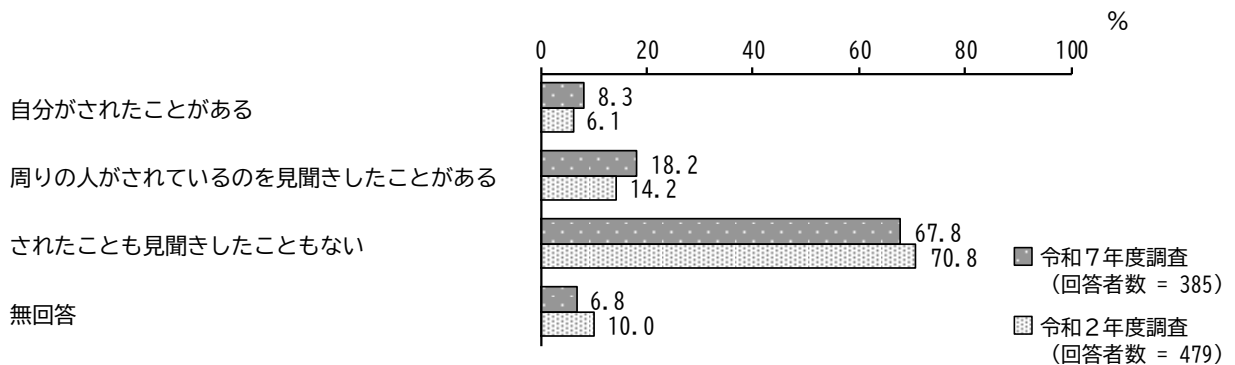
単位：%

区分	回答者数 (件)	自分がされたこと がある	周りの人がされて いるのを見聞きし たことがある	されたことも見聞 きしたこともない	無回答
全 体	385	9.9	20.8	64.4	6.0
男性	165	6.7	13.9	74.5	4.8
女性	207	11.6	26.1	58.0	5.8

④長期間に渡って無視し続けられた

「自分がされたことがある」の割合が8.3%、「周りの人がされているのを見聞きしたことがある」の割合が18.2%、「されたことも見聞きしたこともない」の割合が67.8%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「周りの人がされているのを見聞きしたことがある」の割合は、令和2年度調査が14.2%であるのに対し、令和7年度調査が18.2%と、4ポイント増加しています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

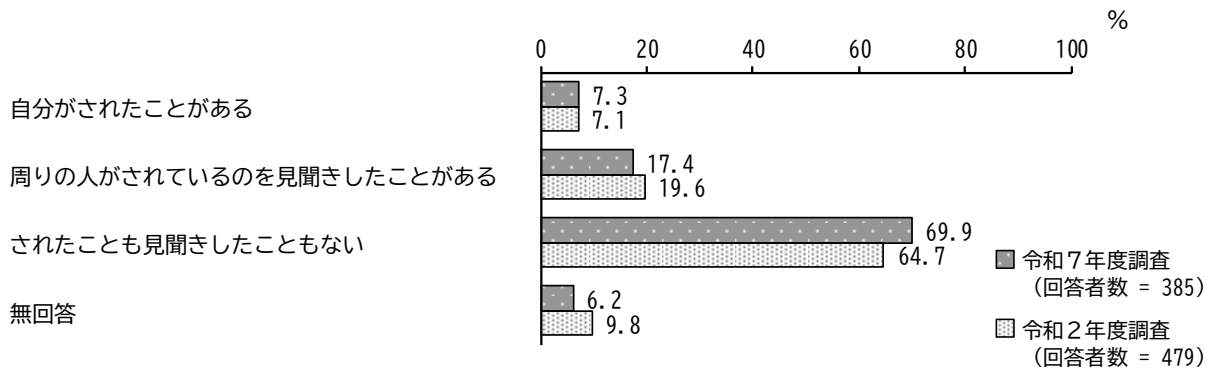
単位：%

区分	回答者数 (件)	自分がされたこと がある	周りの人がされて いるのを見聞きし たことがある	されたことも見聞 きしたこともない	無回答
全 体	385	8.3	18.2	67.8	6.8
男性	165	8.5	15.8	70.9	5.5
女性	207	8.2	20.3	66.2	6.3

⑤家族や友人との関わりや、通勤・通学・遊びのため外出するのを制限された

「自分がされたことがある」の割合が 7.3%、「周りの人がされているのを見聞きしたことがある」の割合が 17.4%、「されたことも見聞きしたこともない」の割合が 69.9%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「されたことも見聞きしたこともない」の割合は、令和2年度調査が 64.7%であるのに対し、令和7年度調査が 69.9%と、5.2ポイント増加しています。



【性別】

性別にみると、「されたことも見聞きしたこともない」の割合は、男性が 81.8%、女性が 62.3%と、男性の方が 19.5ポイント多く、「自分がされたことがある」の割合は、男性が 3.0%、女性が 11.1%と、女性の方が 8.1ポイント多く、「周りの人がされているのを見聞きしたことがある」の割合は、男性が 10.9%、女性が 21.7%と、女性の方が 10.8ポイント多くなっています。

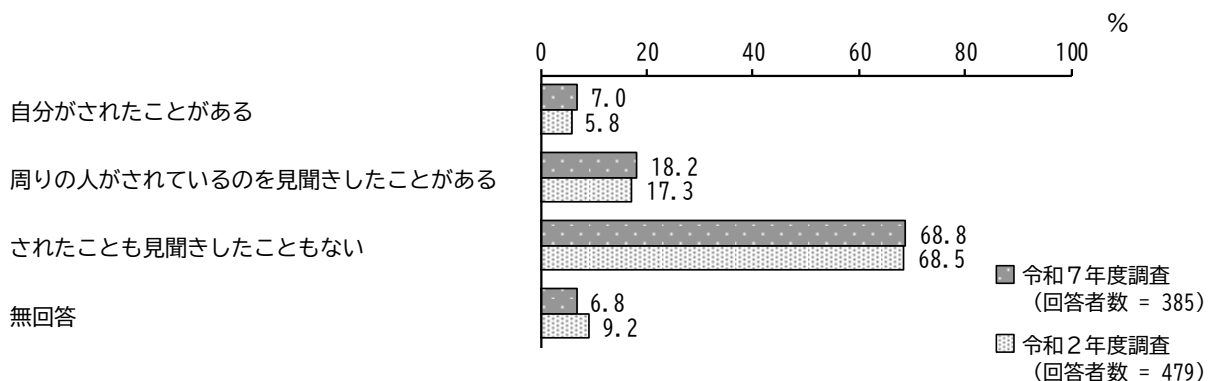
単位：%

区分	回答者数 (件)	自分がされたことがある	周りの人がされているのを見聞きしたことがある	されたことも見聞きしたこともない	無回答
全体	385	7.3	17.4	69.9	6.2
男性	165	3.0	10.9	81.8	4.2
女性	207	11.1	21.7	62.3	6.3

⑥交友関係や電話・メールなどを細かく監視された

「自分がされたことがある」の割合が 7.0%、「周りの人がされているのを見聞きしたことがある」の割合が 18.2%、「されたことも見聞きしたこともない」の割合が 68.8%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別にみると、「されたことも見聞きしたこともない」の割合は、男性が73.9%、女性が66.2%と、男性の方が7.7ポイント多く、「自分がされたことがある」の割合は、男性が4.2%、女性が9.2%と、女性の方が5ポイント多くなっています。

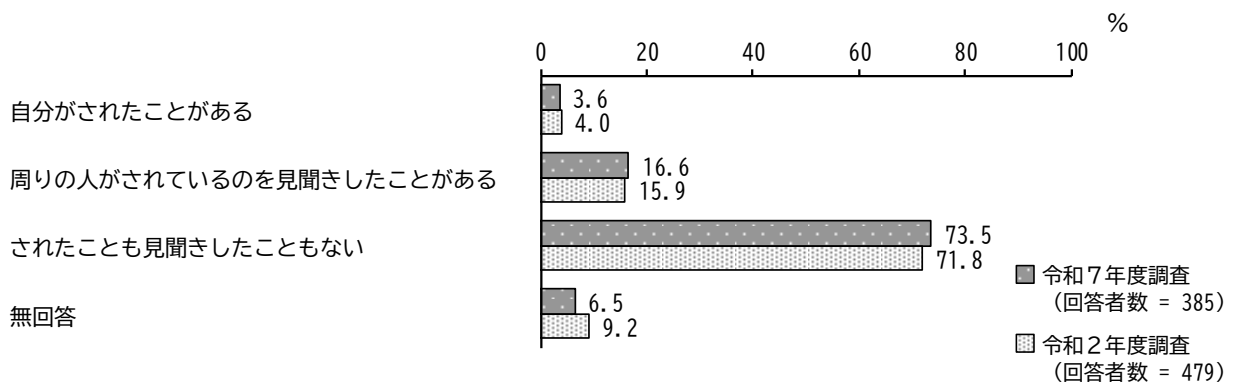
単位：％

区分	回答者数(件)	自分がされたことがある	周りの人がされているのを見聞きしたことがある	されたことも見聞きしたこともない	無回答
全体	385	7.0	18.2	68.8	6.8
男性	165	4.2	17.6	73.9	4.8
女性	207	9.2	18.8	66.2	6.8

⑦必要な生活費を渡されなかったり、自由にお金を使えないようにされた

「自分がされたことがある」の割合が3.6%、「周りの人がされているのを見聞きしたことがある」の割合が16.6%、「されたことも見聞きしたこともない」の割合が73.5%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別にみると、「されたことも見聞きしたこともない」の割合は、男性が82.4%、女性が68.6%と、男性の方が13.8ポイント多く、「周りの人がされているのを見聞きしたことがある」の割合は、男性が11.5%、女性が20.8%と、女性の方が9.3ポイント多くなっています。

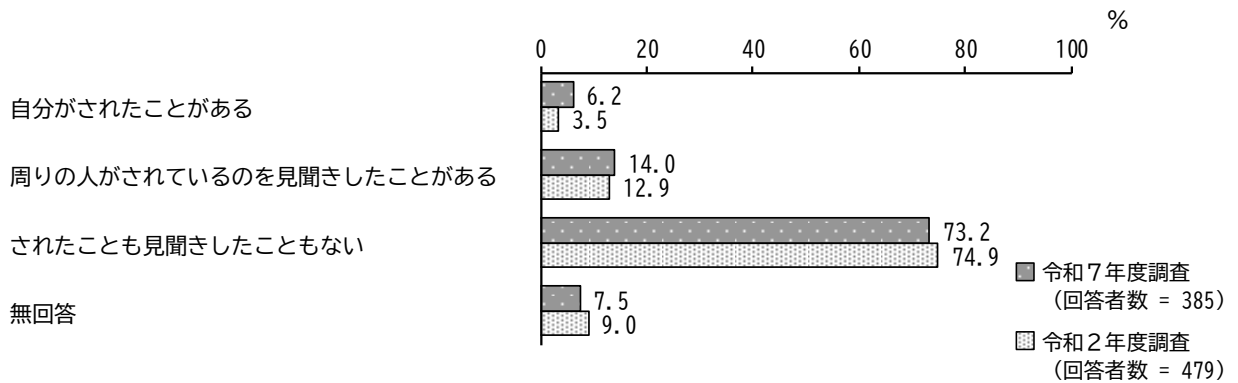
単位：％

区分	回答者数(件)	自分がされたことがある	周りの人がされているのを見聞きしたことがある	されたことも見聞きしたこともない	無回答
全体	385	3.6	16.6	73.5	6.5
男性	165	1.8	11.5	82.4	4.2
女性	207	4.3	20.8	68.6	6.8

⑧いやがっているのに性的な行為を強要されたり、避妊に協力してもらえなかった

「自分がされたことがある」の割合が 6.2%、「周りの人がされているのを見聞きしたことがある」の割合が 14.0%、「されたことも見聞きしたこともない」の割合が 73.2%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別にみると、「されたことも見聞きしたこともない」の割合は、男性が 80.0%、女性が 69.6%と、男性の方が 10.4 ポイント多く、「自分がされたことがある」の割合は、男性が 1.2%、女性が 10.1%と、女性の方が 8.9 ポイント多くなっています。

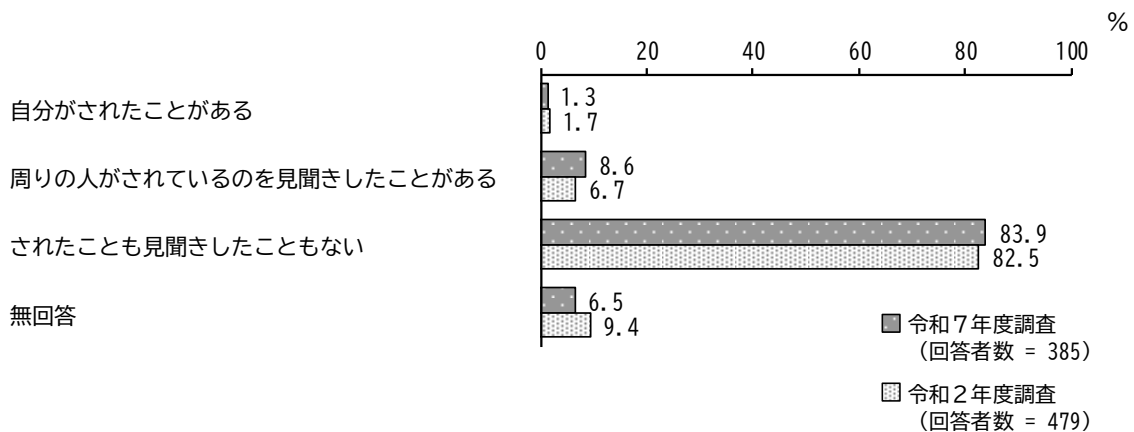
単位：%

区分	回答者数 (件)	自分がされたことがある	周りの人がされているのを見聞きしたことがある	されたことも見聞きしたこともない	無回答
全体	385	6.2	14.0	73.2	7.5
男性	165	1.2	13.3	80.0	5.5
女性	207	10.1	14.0	69.6	7.7

⑨アダルトビデオやポルノ雑誌を無理に見させられた

「自分がされたことがある」の割合が 1.3%、「周りの人がされているのを見聞きしたことがある」の割合が 8.6%、「されたことも見聞きしたこともない」の割合が 83.9%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

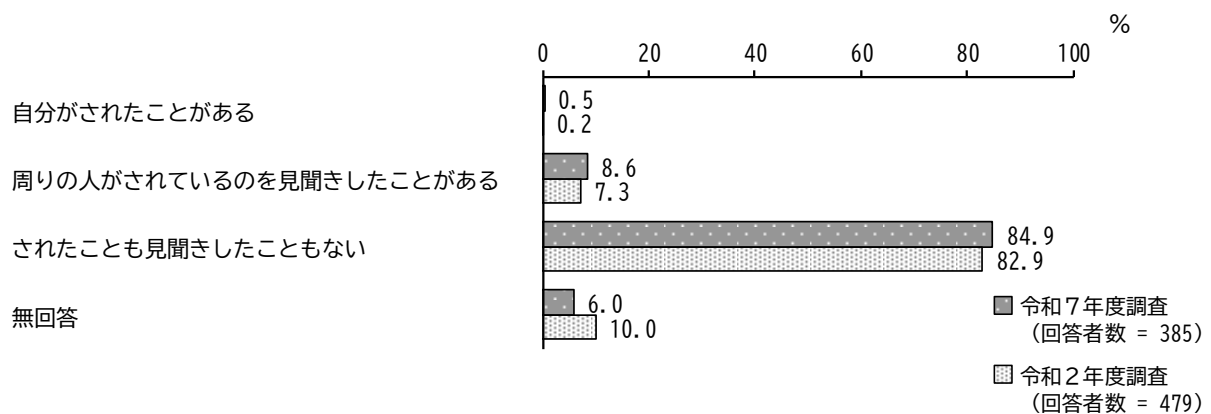
単位：％

区分	回答者数 (件)	自分がされたこと がある	周りの人がされて いるのを見聞きし たことがある	されたことも見聞 きしたこともない	無回答
全 体	385	1.3	8.6	83.9	6.5
男性	165	0.6	7.9	86.7	4.8
女性	207	1.9	8.7	83.6	6.3

⑩別れた恋人や配偶者に対する報復として、わいせつな写真や映像を、インターネットなどで不特定多数に配布・公開された

「自分がされたことがある」の割合が 0.5%、「周りの人がされているのを見聞きしたことがある」の割合が 8.6%、「されたことも見聞きしたこともない」の割合が 84.9%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

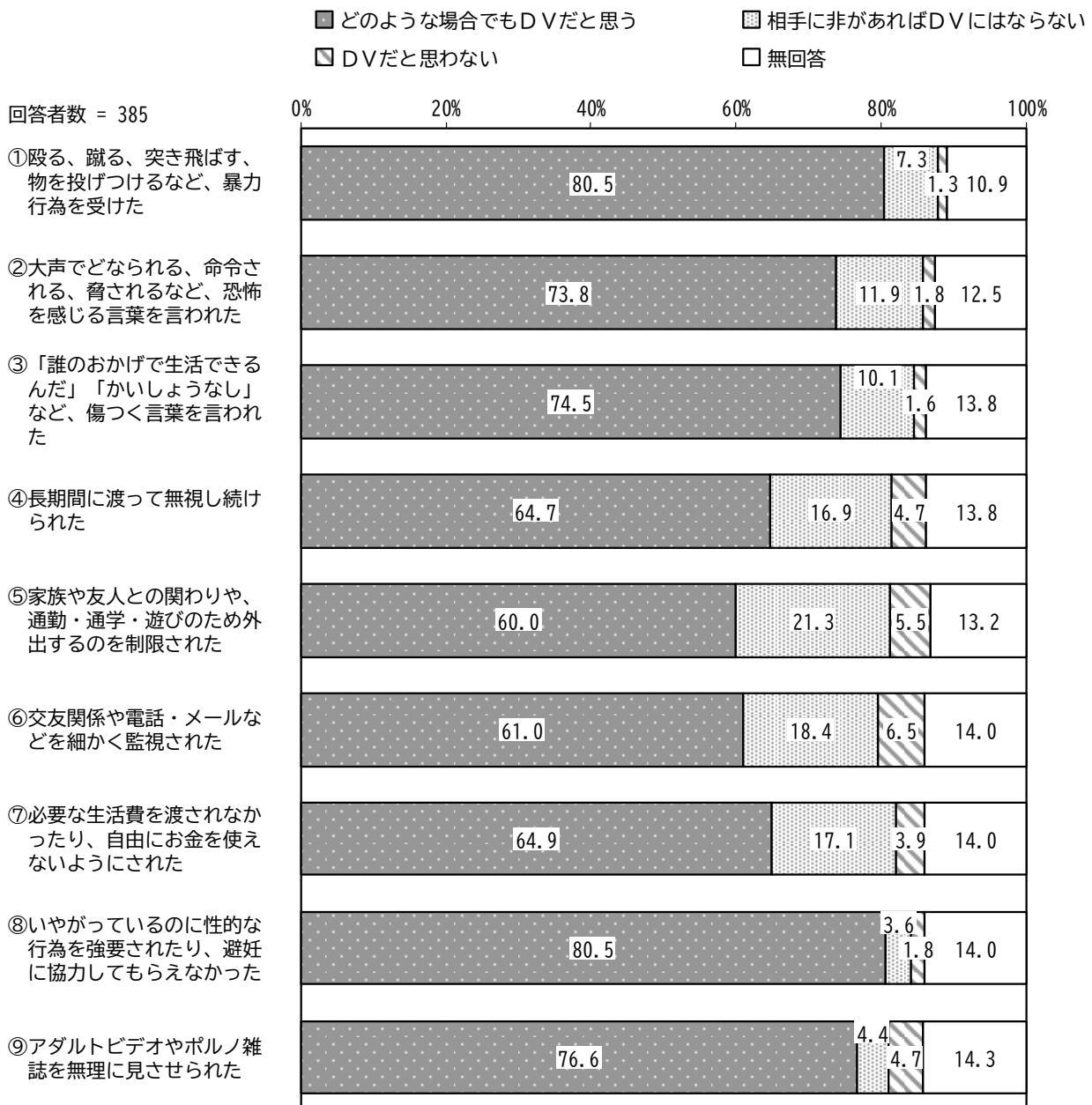
性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数 (件)	自分がされたこと がある	周りの人がされて いるのを見聞きし たことがある	されたことも見聞 きしたこともない	無回答
全 体	385	0.5	8.6	84.9	6.0
男性	165	0.0	7.9	87.3	4.8
女性	207	1.0	9.2	84.1	5.8

問 21 (イ) 配偶者やパートナーによるこれらの行為をDVだと思えますか。(それぞれの項目についてアルファベットに○を1つずつ)

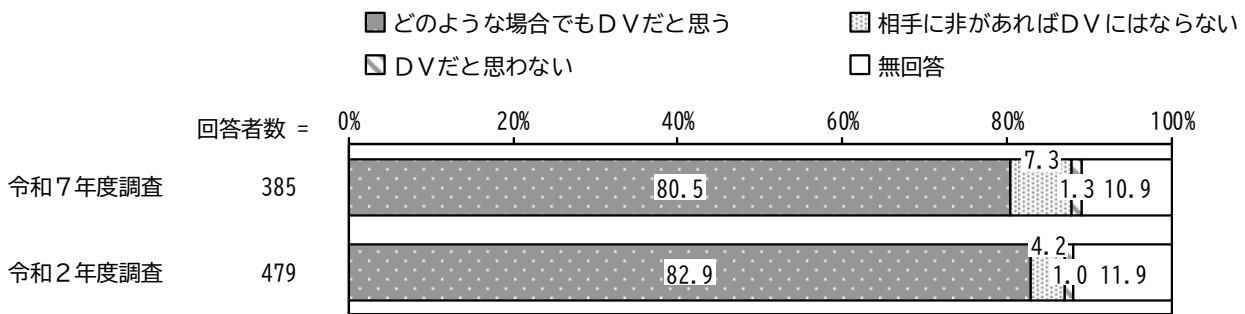
『①殴る、蹴る、突き飛ばす、物を投げつけるなど、暴力行為を受けた』『⑧いやがっているのに性的な行為を強要されたり、避妊に協力してもらえなかった』で「どのような場合でもDVだと思う」が、『⑤家族や友人との関わりや、通勤・通学・遊びのため外出するのを制限された』で「相手に非があればDVにはならない」が、『⑥交友関係や電話・メールなどを細かく監視された』で「DVだと思わない」が高くなっています。



## ①殴る、蹴る、突き飛ばす、物を投げつけるなど、暴力行為を受けた

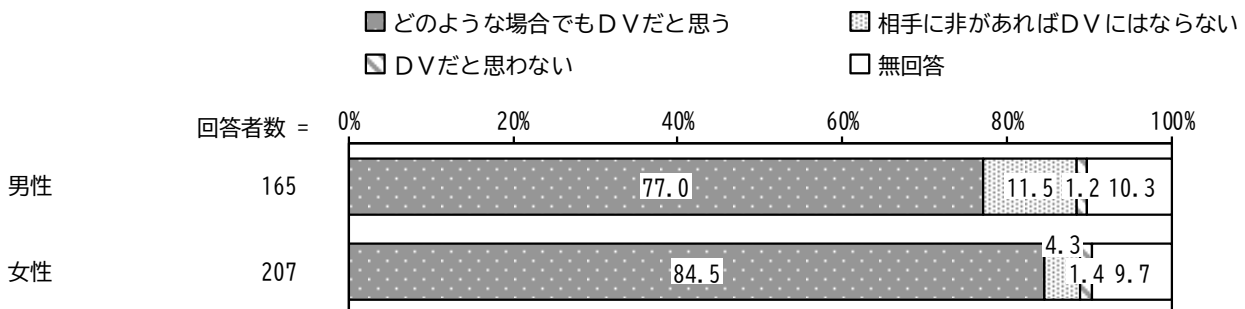
### 【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、「相手に非があればDVにはならない」の割合は、令和2年度調査が4.2%であるのに対し、令和7年度調査が7.3%と、3.1ポイント増加しています。



### 【性別】

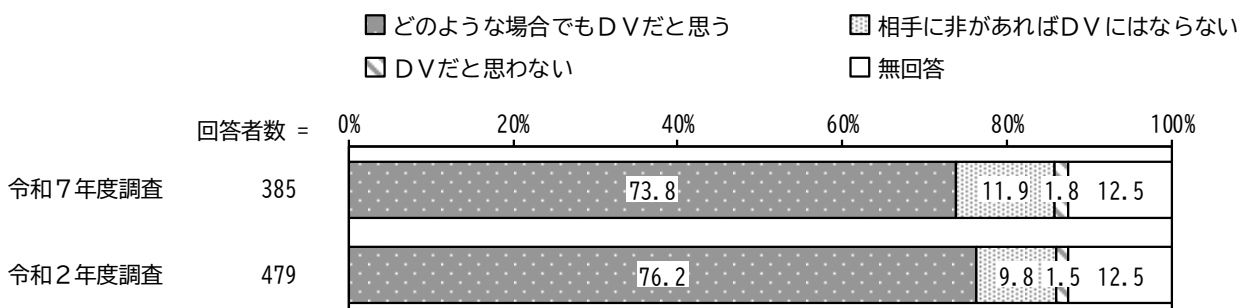
性別にみると、「相手に非があればDVにはならない」の割合は、男性が11.5%、女性が4.3%と、男性の方が7.2ポイント多く、「どのような場合でもDVだと思う」の割合は、男性が77.0%、女性が84.5%と、女性の方が7.5ポイント多くなっています。



## ②大声でどなられる、命令される、脅されるなど、恐怖を感じる言葉を言われた

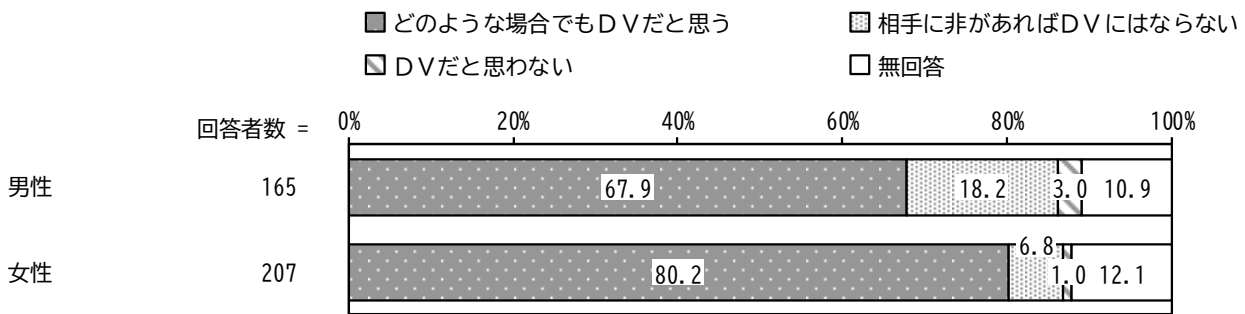
### 【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

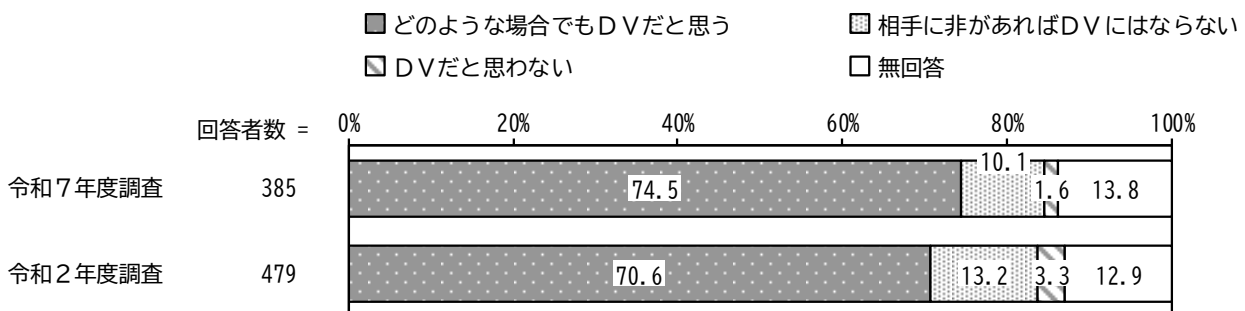
性別にみると、「相手に非があればDVにはならない」の割合は、男性が 18.2%、女性が 6.8%と、男性の方が 11.4 ポイント多く、「どのような場合でもDVだと思う」の割合は、男性が 67.9%、女性が 80.2%と、女性の方が 12.3 ポイント多くなっています。



③ 「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」など、傷つく言葉を言われた

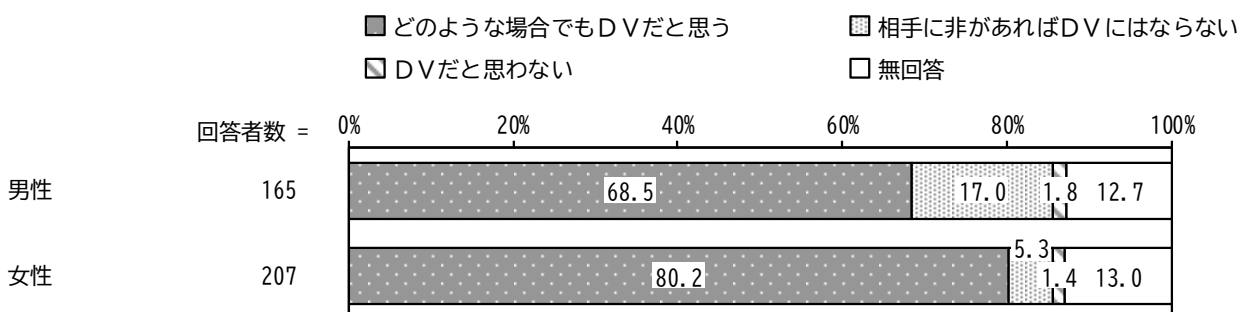
【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、「どのような場合でもDVだと思う」の割合は、令和2年度調査が 70.6%であるのに対し、令和7年度調査が 74.5%と、3.9 ポイント増加しています。一方、「相手に非があればDVにはならない」の割合は、令和2年度調査が 13.2%であるのに対し、令和7年度調査が 10.1%と、3.1 ポイント減少しています。



【性別】

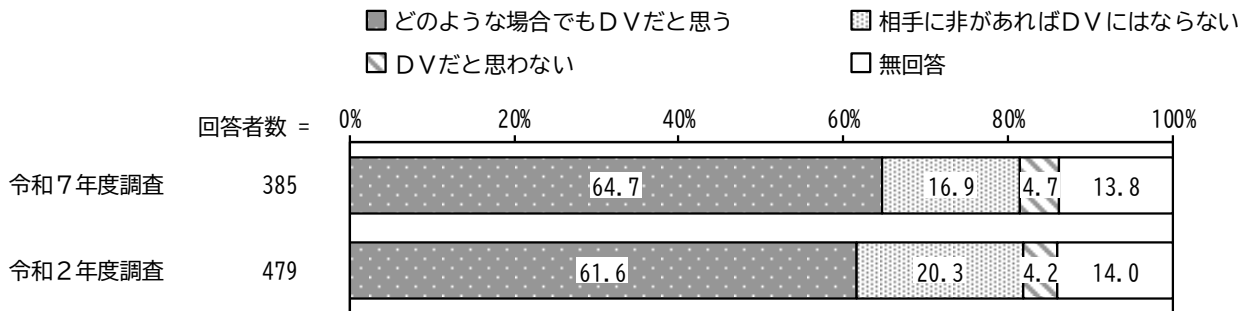
性別にみると、「相手に非があればDVにはならない」の割合は、男性が 17.0%、女性が 5.3%と、男性の方が 11.7 ポイント多く、「どのような場合でもDVだと思う」の割合は、男性が 68.5%、女性が 80.2%と、女性の方が 11.7 ポイント多くなっています。



#### ④長期間に渡って無視し続けられた

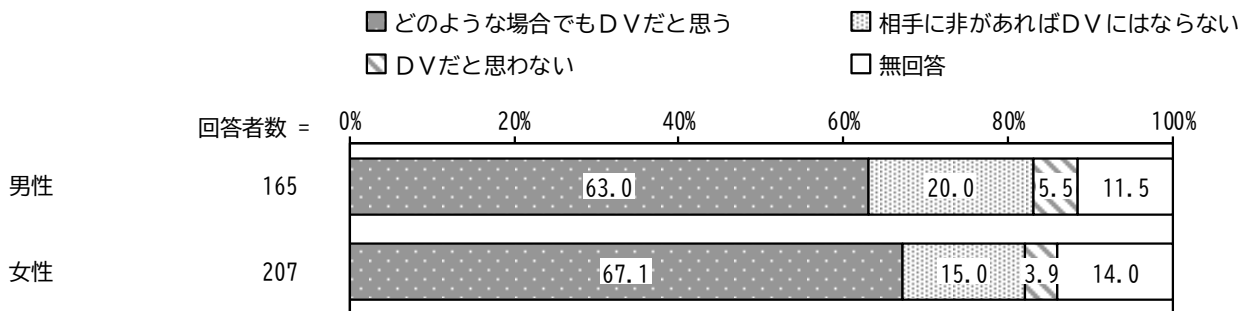
##### 【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、「どのような場合でもDVだと思う」の割合は、令和2年度調査が61.6%であるのに対し、令和7年度調査が64.7%と、3.1ポイント増加しています。一方、「相手に非があればDVにはならない」の割合は、令和2年度調査が20.3%であるのに対し、令和7年度調査が16.9%と、3.4ポイント減少しています。



##### 【性別】

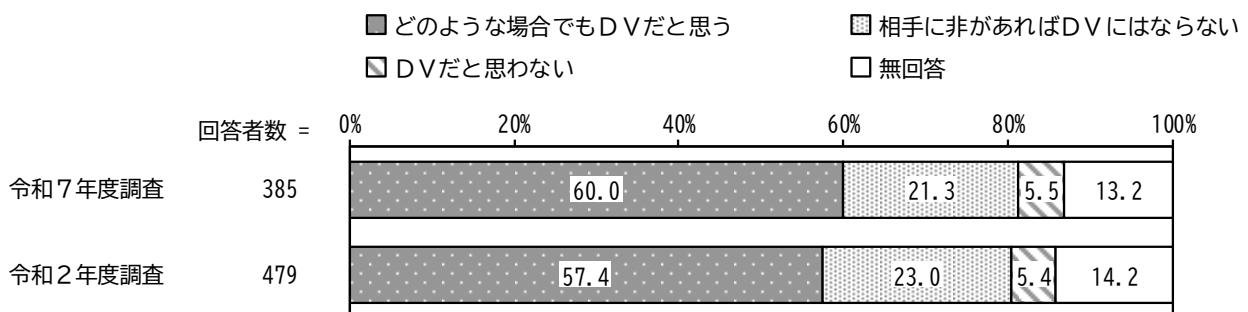
性別にみると、「相手に非があればDVにはならない」の割合は、男性が20.0%、女性が15.0%と、男性の方が5ポイント多くなっています。



#### ⑤家族や友人との関わりや、通勤・通学・遊びのため外出するのを制限された

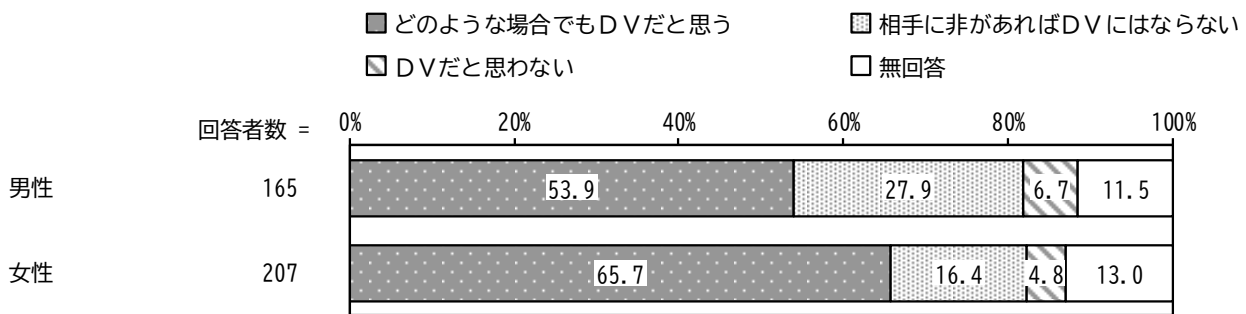
##### 【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

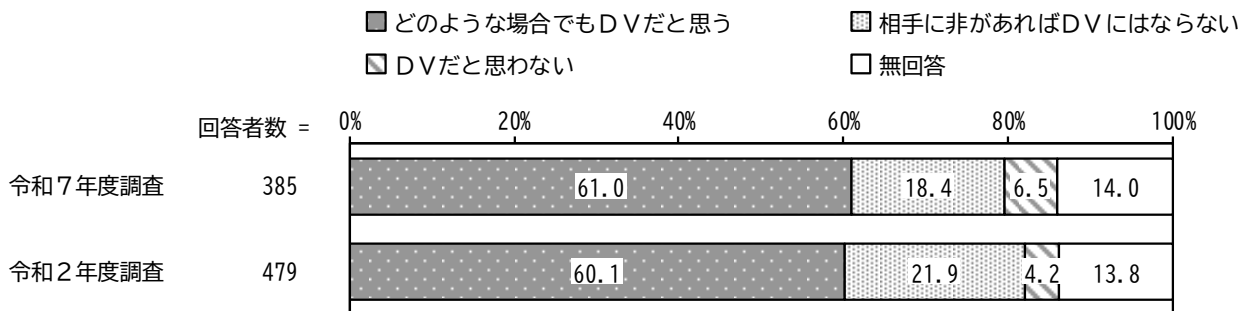
性別にみると、「相手に非があればDVにはならない」の割合は、男性が27.9%、女性が16.4%と、男性の方が11.5ポイント多く、「どのような場合でもDVだと思う」の割合は、男性が53.9%、女性が65.7%と、女性の方が11.8ポイント多くなっています。



⑥交友関係や電話・メールなどを細かく監視された

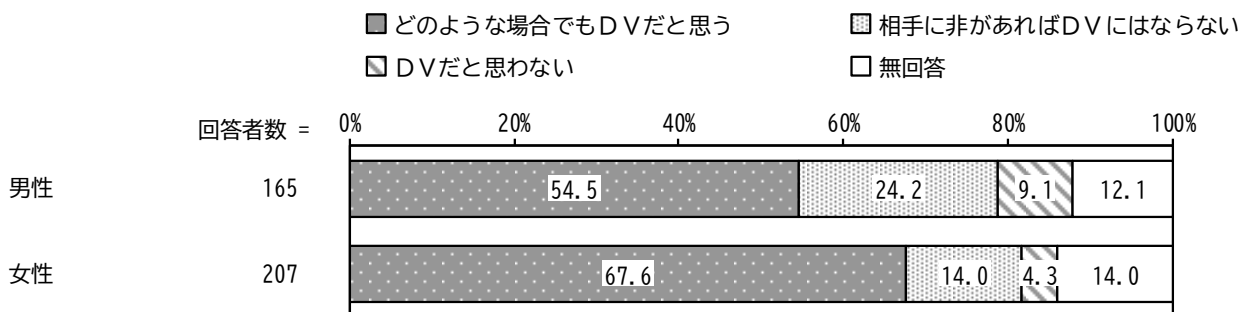
【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、「相手に非があればDVにはならない」の割合は、令和2年度調査が21.9%であるのに対し、令和7年度調査が18.4%と、3.5ポイント減少しています。



【性別】

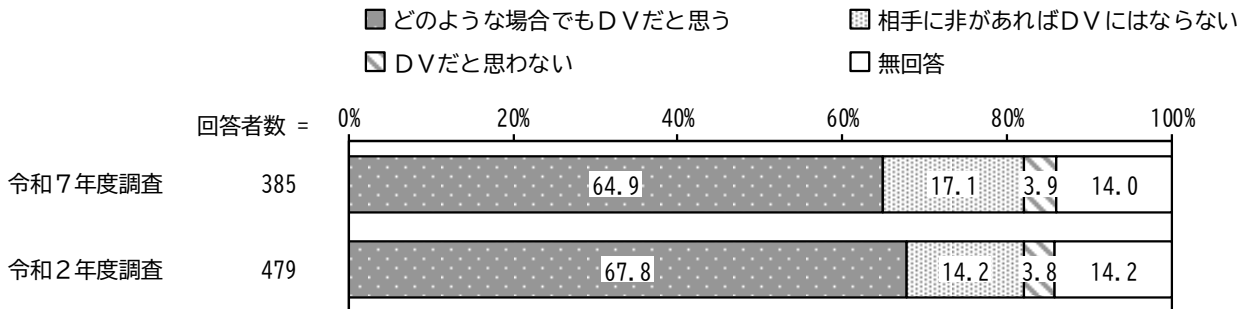
性別にみると、「相手に非があればDVにはならない」の割合は、男性が24.2%、女性が14.0%と、男性の方が10.2ポイント多く、「どのような場合でもDVだと思う」の割合は、男性が54.5%、女性が67.6%と、女性の方が13.1ポイント多くなっています。



⑦必要な生活費を渡されなかったり、自由にお金を使えないようにされた

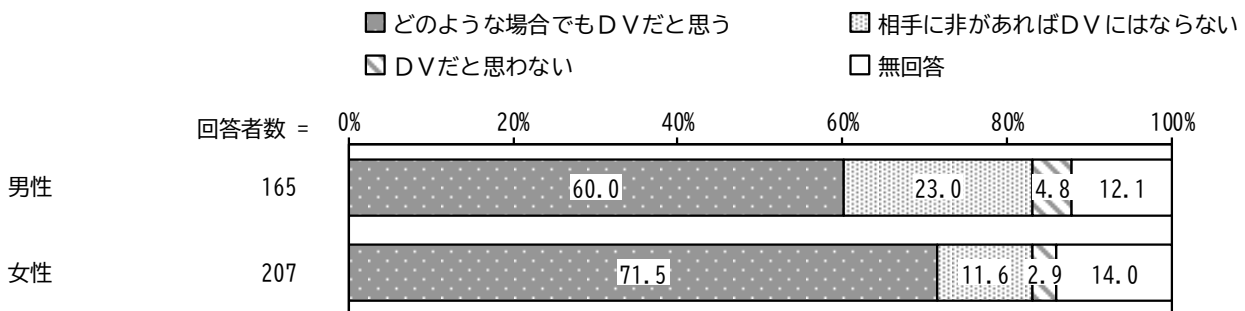
【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

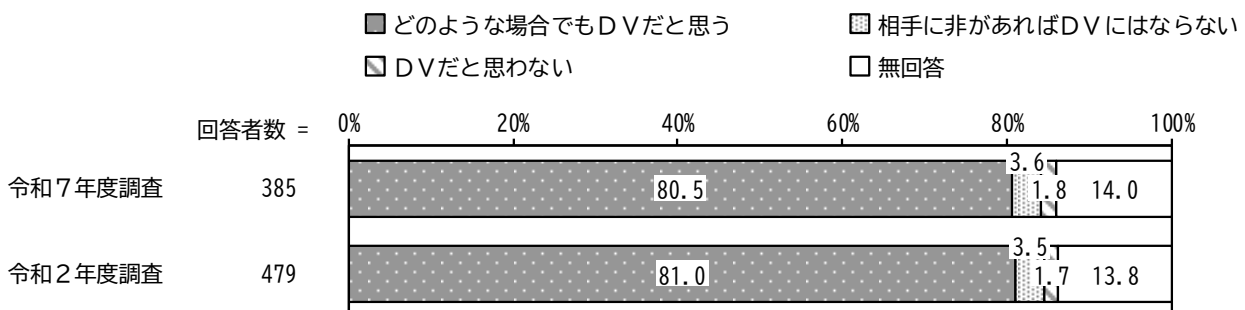
性別にみると、「相手に非があればDVにはならない」の割合は、男性が23.0%、女性が11.6%と、男性の方が11.4ポイント多く、「どのような場合でもDVだと思う」の割合は、男性が60.0%、女性が71.5%と、女性の方が11.5ポイント多くなっています。



⑧いやがっているのに性的な行為を強要されたり、避妊に協力してもらえなかった

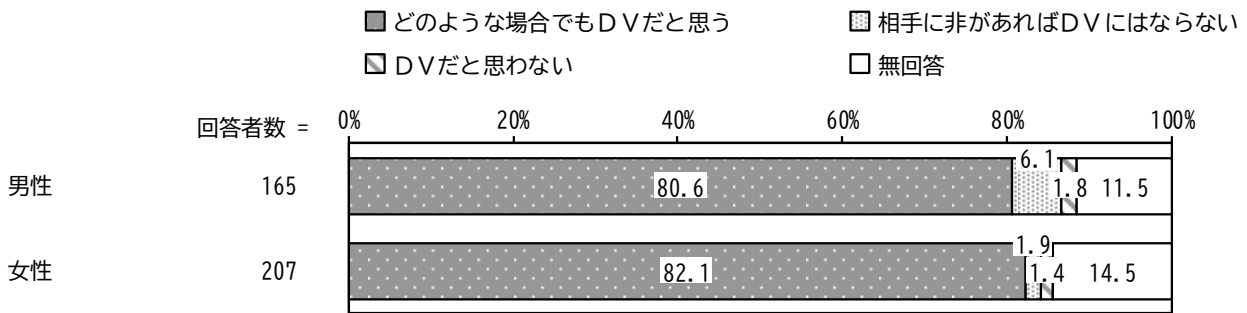
【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

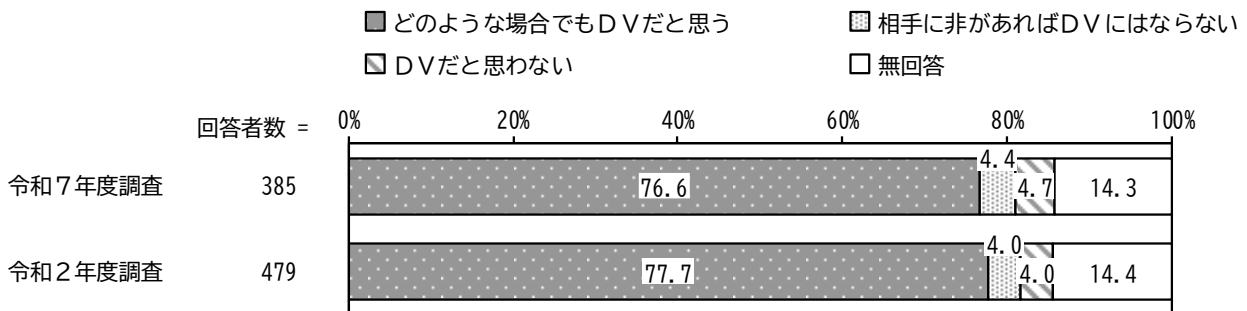
性別にみると、大きな差はみられません。



⑨アダルトビデオやポルノ雑誌を無理に見させられた

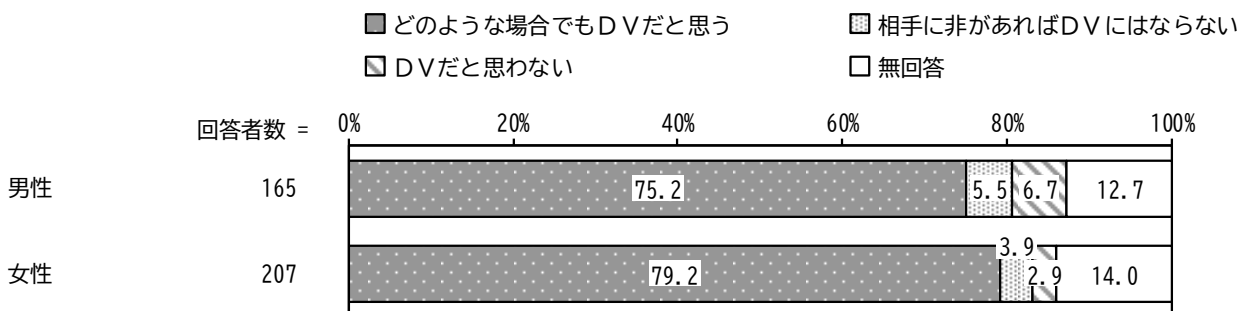
【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

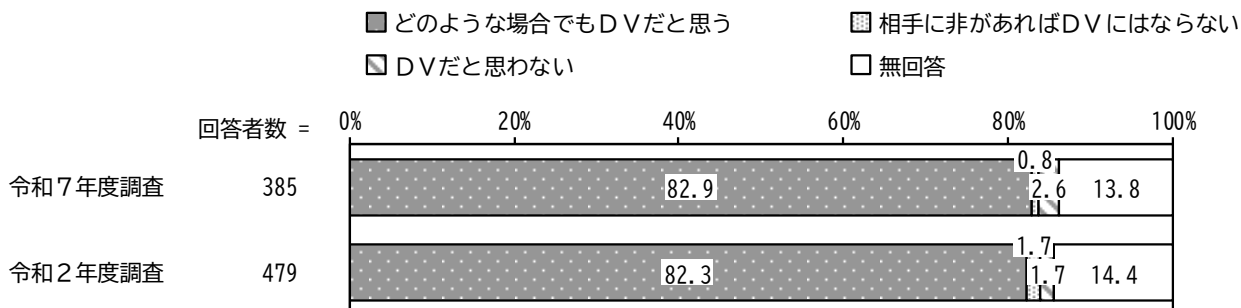
性別にみると、大きな差はみられません。



⑩別れた恋人や配偶者に対する報復として、わいせつな写真や映像を、インターネットなどで不特定多数に配布・公開された

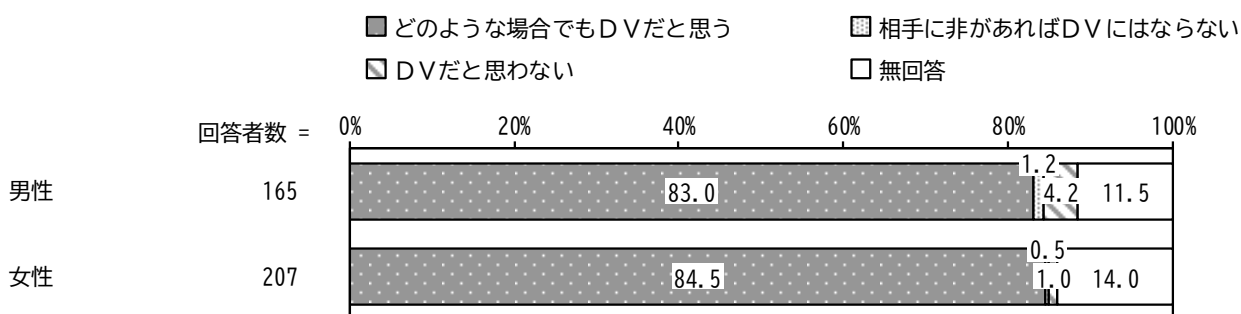
「どのような場合でもDVだと思う」の割合が82.9%、「相手に非があればDVにはならない」の割合が0.8%、「DVだと思わない」の割合が2.6%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

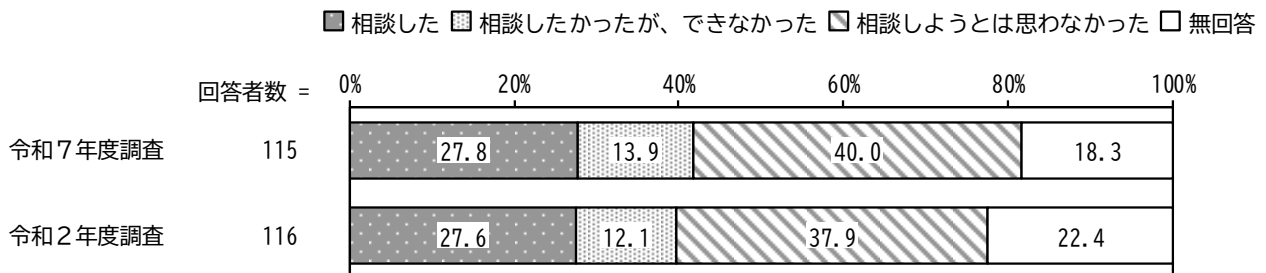


問 21（ア）のいずれかの項目で「自分がされたことがある」を選択した方にお聞きします。

付問 21－1 あなたは、問 21 の項目①～⑩のような行為をされたことを誰かに相談したり、打ち明けたりしましたか。（○は 1 つ）

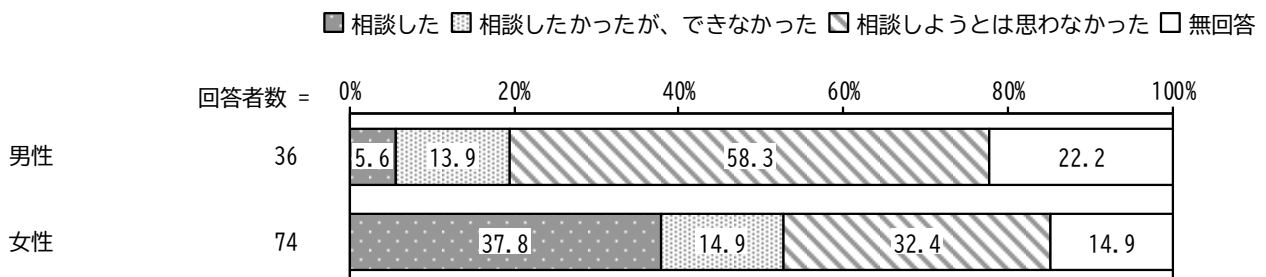
「相談した」の割合が 27.8%、「相談したかったが、できなかった」の割合が 13.9%、「相談しようとは思わなかった」の割合が 40.0%となっています。

令和 2 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



### 【性別】

性別にみると、「相談しようとは思わなかった」の割合は、男性が 58.3%、女性が 32.4%と、男性の方が 25.9 ポイント多く、「相談した」の割合は、男性が 5.6%、女性が 37.8%と、女性の方が 32.2 ポイント多くなっています。

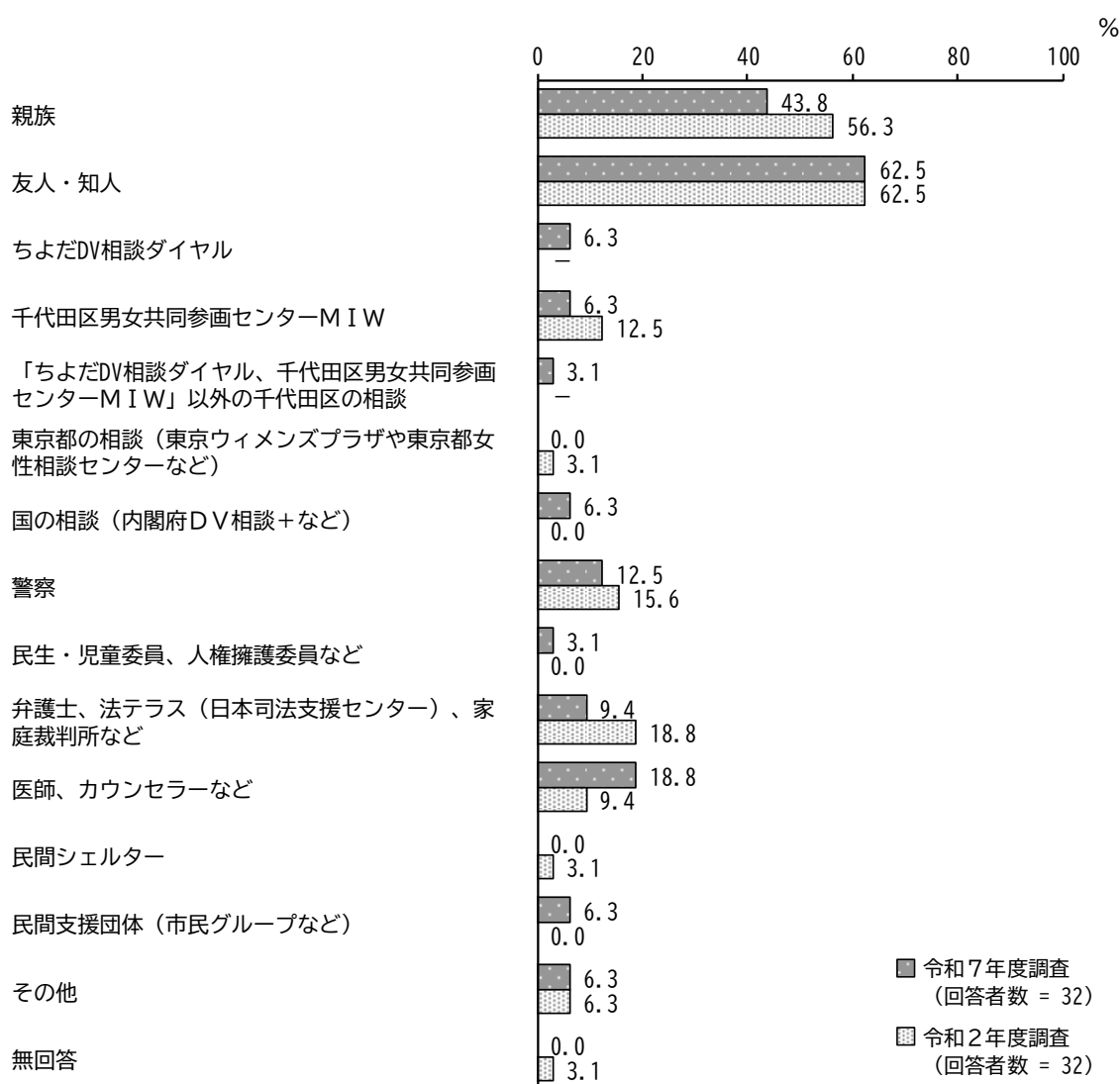


付問 21-1 で「相談した」を選択した方にお聞きします。

付問 21-2 あなたが相談した相手はどなたですか。(〇はいくつでも)

「友人・知人」の割合が 62.5%と最も高く、次いで「親族」の割合が 43.8%、「医師、カウンセラーなど」の割合が 18.8%となっています。

令和 2 年度調査と比較すると、「国の相談（内閣府 DV 相談+など）」の割合は、令和 2 年度調査が 0.0%であるのに対し、令和 7 年度調査が 6.3%と、6.3 ポイント増加、「医師、カウンセラーなど」の割合は、令和 2 年度調査が 9.4%であるのに対し、令和 7 年度調査が 18.8%と、9.4 ポイント増加、「民間支援団体（市民グループなど）」の割合は、令和 2 年度調査が 0.0%であるのに対し、令和 7 年度調査が 6.3%と、6.3 ポイント増加しています。一方、「親族」の割合は、令和 2 年度調査が 56.3%であるのに対し、令和 7 年度調査が 43.8%と、12.5 ポイント減少、「千代田区男女共同参画センター MIW」の割合は、令和 2 年度調査が 12.5%であるのに対し、令和 7 年度調査が 6.3%と、6.2 ポイント減少、「弁護士、法テラス（日本司法支援センター）、家庭裁判所など」の割合は、令和 2 年度調査が 18.8%であるのに対し、令和 7 年度調査が 9.4%と、9.4 ポイント減少しています。



※令和 2 年度調査では、「ちよだ DV 相談ダイヤル」、「ちよだ DV 相談ダイヤル、千代田区男女共同参画センター MIW」以外の千代田区の相談がありませんでした。

【性別】

単位：％

区分	回答者数 (件)	親族	友人・知人	ちよだま相談ダイヤル	千代田区男女共同参画センターMIW	「ちよだま相談ダイヤル、千代田区男女共同参画センターMIW」以外の千代田区の相談	東京都の相談（東京ウイメンズプラザや東京都女性相談センターなど）	国の相談（内閣府DV相談+など）
全体	32	43.8	62.5	6.3	6.3	3.1	0.0	6.3
男性	2	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0
女性	28	46.4	60.7	0.0	3.6	3.6	0.0	0.0

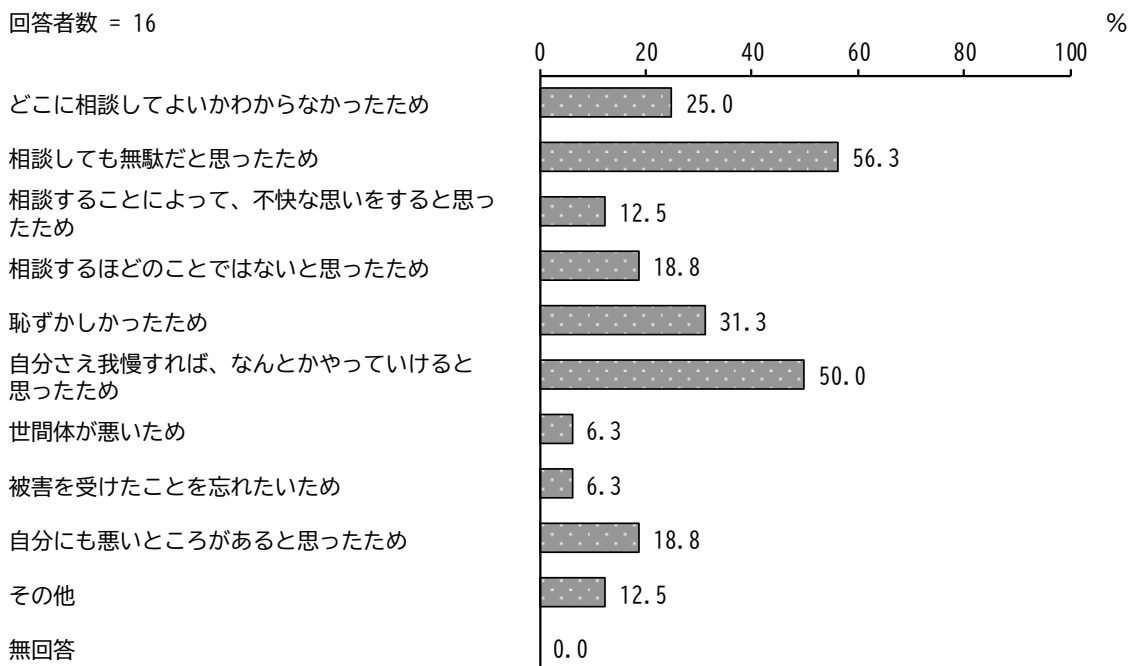
区分	警察	民生・児童委員、人権擁護委員など	弁護士、法テラス（日本司法支援センター）、家庭裁判所など	医師、カウンセラーなど	民間シエルトー	民間支援団体（市民グループなど）	その他	無回答
全体	12.5	3.1	9.4	18.8	0.0	6.3	6.3	0.0
男性	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
女性	10.7	0.0	7.1	14.3	0.0	7.1	7.1	0.0

付問 21-1 で「相談したかったが、できなかった」を選択した方にお聞きします。

付問 21-3 相談しなかった（できなかった）理由は何ですか。（○は3つまで）

「相談しても無駄だと思ったため」の割合が 56.3%と最も高く、次いで「自分さえ我慢すれば、なんとかやっていけるといったため」の割合が 50.0%、「恥ずかしかったため」の割合が 31.3%となっています。

回答者数 = 16



【性別】

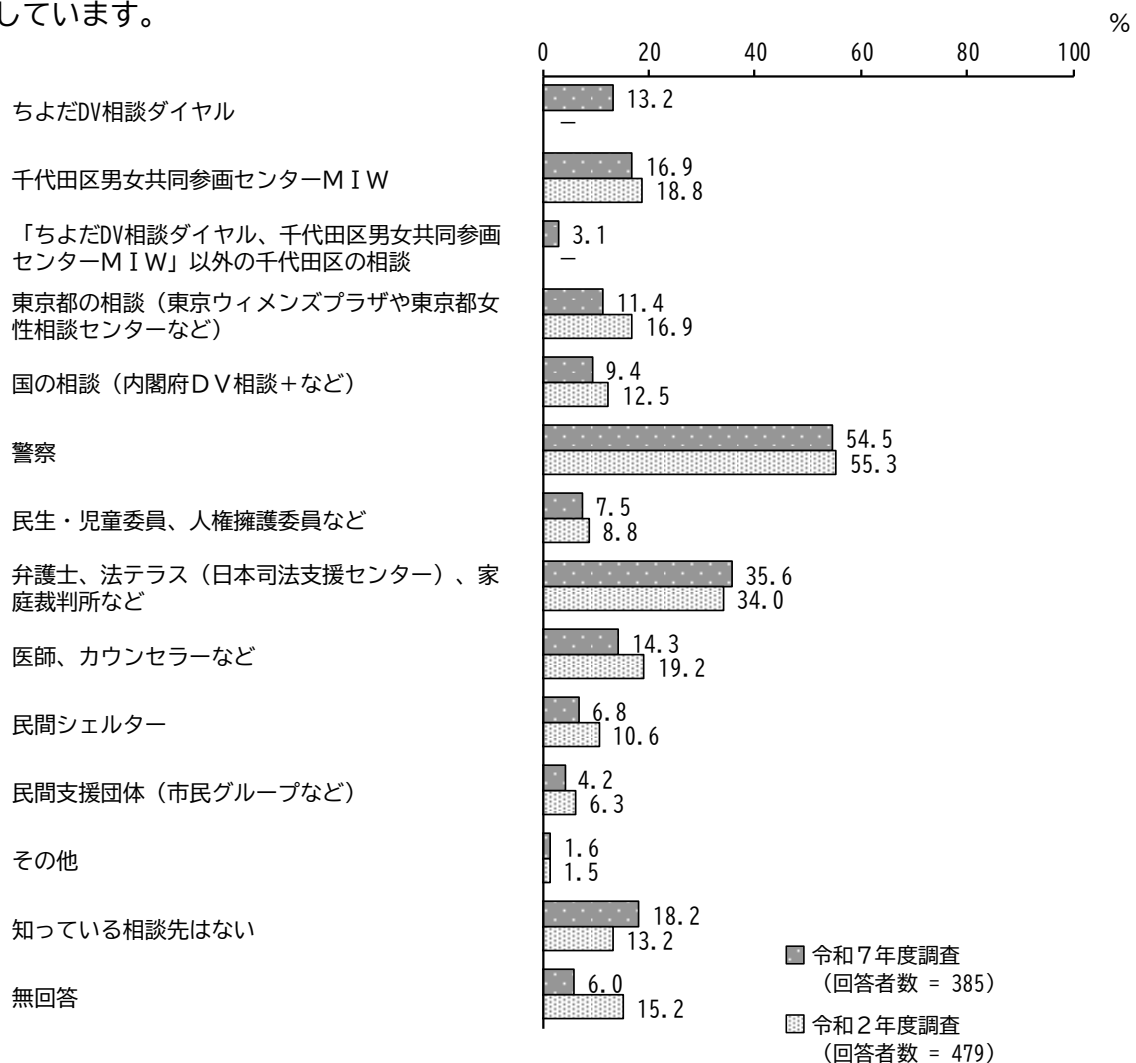
単位：％

区分	回答者数(件)	どこに相談してよいかわからなかったため	相談しても無駄だと思っただけ	相談することによって、不快な思いをす	相談することによつて、相談するほどのことではないと思っただけ	恥ずかしかったため	自分さえ我慢すれば、なんとかやっていけると思っただけ	世間体が悪い	被害を受けたことを忘れたため	自分にも悪いところがあると思っただけ	その他	無回答
全体	16	25.0	56.3	12.5	18.8	31.3	50.0	6.3	6.3	18.8	12.5	0.0
男性	5	60.0	40.0	0.0	20.0	60.0	40.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0
女性	11	9.1	63.6	18.2	18.2	18.2	54.5	0.0	9.1	18.2	18.2	0.0

問 22 次のうち、あなたが知っているDVに関する相談先はどこですか。(〇はいくつでも)

「警察」の割合が 54.5%と最も高く、次いで「弁護士、法テラス（日本司法支援センター）、家庭裁判所など」の割合が 35.6%、「知っている相談先はない」の割合が 18.2%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「東京都の相談（東京ウィメンズプラザや東京都女性相談センターなど）」の割合は、令和2年度調査が 16.9%であるのに対し、令和7年度調査が 11.4%と、5.5ポイント減少しています。



※令和2年度調査では、「ちよだDV相談ダイヤル」、「ちよだDV相談ダイヤル、千代田区男女共同参画センターMIW」以外の千代田区の相談」がありませんでした。

【性別】

性別にみると、「警察」の割合は、男性が60.0%、女性が50.7%と、男性の方が9.3ポイント多く、「東京都の相談（東京ウィメンズプラザや東京都女性相談センターなど）」の割合は、男性が6.7%、女性が14.5%と、女性の方が7.8ポイント、「民間シェルター」の割合は、男性が3.6%、女性が9.2%と、男性の方が5.6ポイント多くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	ちよだろ相談ダイヤル	千代田区男女共同参画センターMIW	「ちよだろ相談ダイヤル、千代田区男女共同参画センターMIW」以外の千代田区の相談	東京都の相談（東京ウィメンズプラザや東京都女性相談センターなど）	国の相談（内閣府DV相談+など）	警察	民生・児童委員、人権擁護委員など
全体	385	13.2	16.9	3.1	11.4	9.4	54.5	7.5
男性	165	12.7	13.9	3.6	6.7	9.1	60.0	8.5
女性	207	13.5	18.8	2.4	14.5	9.7	50.7	6.8

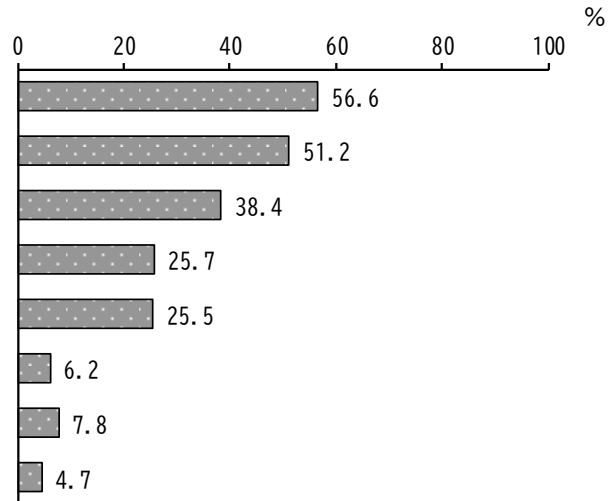
区分	弁護士、法テラス（日本司法支援センター）、家庭裁判所など	医師、カウンセラーなど	民間シェルター	民間支援団体（市民グループなど）	その他	知っている相談先はない	無回答
全体	35.6	14.3	6.8	4.2	1.6	18.2	6.0
男性	37.6	11.5	3.6	2.4	1.8	20.0	4.2
女性	34.3	16.4	9.2	4.8	1.4	17.4	6.3

問 23 あなたは、配偶者からの暴力の防止や被害者支援のために、どのような支援や対策が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「家庭内でも暴力は犯罪であるという意識の啓発・理解促進のための対策」の割合が 56.6%と最も高く、次いで「緊急避難場所（シェルター）の整備や住居や就職のあっせんなど、自立して生活するための支援」の割合が 51.2%、「カウンセリングや相談など、精神的に自立するための支援」の割合が 38.4%となっています。

回答者数 = 385

- 家庭内でも暴力は犯罪であるという意識の啓発・理解促進のための対策
- 緊急避難場所（シェルター）の整備や住居や就職のあっせんなど、自立して生活するための支援
- カウンセリングや相談など、精神的に自立するための支援
- 加害者へのカウンセリングなど更生のための支援
- 家庭や学校におけるお互いの性を尊重する教育の支援
- その他
- わからない
- 無回答



【性別】

性別にみると、「家庭内でも暴力は犯罪であるという意識の啓発・理解促進のための対策」の割合は、男性が 60.6%、女性が 54.6%と、男性の方が 6 ポイント多く、「家庭や学校におけるお互いの性を尊重する教育の支援」の割合は、男性が 21.8%、女性が 29.0%と、女性の方が 7.2 ポイント多くなっています。

単位：%

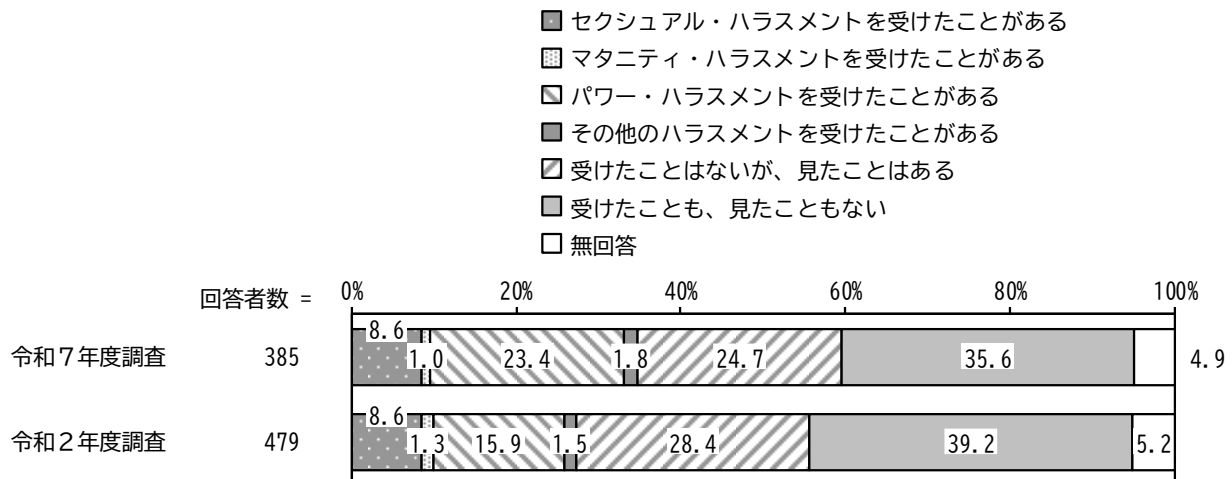
区分	回答者数 (件)	家庭内でも暴力は犯罪であるという意識の啓発・理解促進のための対策	緊急避難場所（シェルター）の整備や住居や就職のあっせんなど、自立して生活するための支援	カウンセリングや相談など、精神的に自立するための支援	加害者へのカウンセリングなど更生のための支援	家庭や学校におけるお互いの性を尊重する教育の支援	その他	わからない	無回答
全体	385	56.6	51.2	38.4	25.7	25.5	6.2	7.8	4.7
男性	165	60.6	50.3	36.4	24.8	21.8	6.1	9.1	3.0
女性	207	54.6	52.2	39.6	26.6	29.0	6.8	6.8	4.8

## (7) ハラスメントについて

### 問 24 あなたは職場などでハラスメントを受けたことはありますか。(○は1つ)

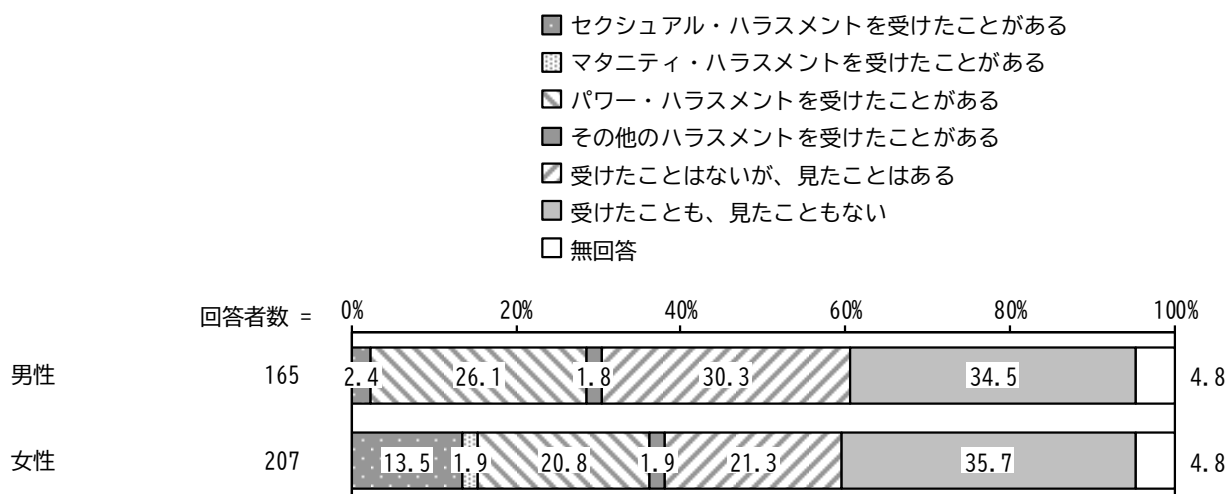
「受けたことも、見たこともない」の割合が 35.6%と最も高く、次いで「受けたことはないが、見たことはある」の割合が 24.7%、「パワー・ハラスメントを受けたことがある」の割合が 23.4%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「パワー・ハラスメントを受けたことがある」の割合は、令和2年度調査が 15.9%であるのに対し、令和7年度調査が 23.4%と、7.5ポイント増加しています。



### 【性別】

性別にみると、「パワー・ハラスメントを受けたことがある」の割合は、男性が 26.1%、女性が 20.8%と、男性の方が 5.3ポイント、「受けたことはないが、見たことはある」の割合は、男性が 30.3%、女性が 21.3%と、男性の方が 9ポイント多く、「セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある」の割合は、男性が 2.4%、女性が 13.5%と、女性の方が 11.1ポイント多くなっています。

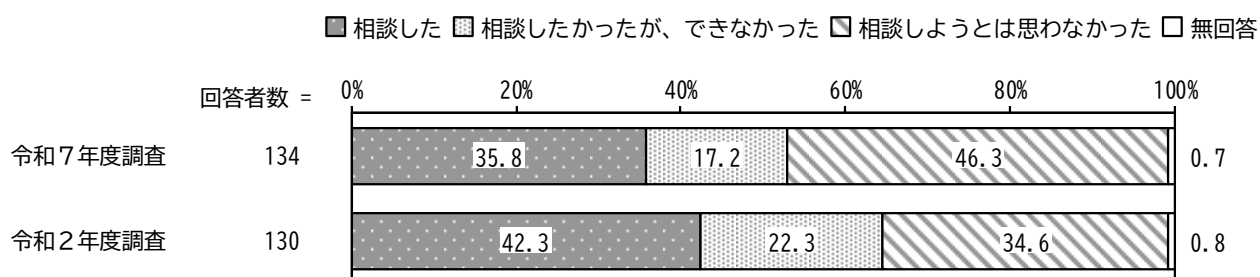


問 24 で「セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある」～「その他のハラスメントを受けたことがある」を選択した方にお聞きします。

付問 24-1 あなたは、問 24 の「セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある」～「その他のハラスメントを受けたことがある」のような行為をされたことを誰かに相談したり、打ち明けたりしましたか。(○は1つ)

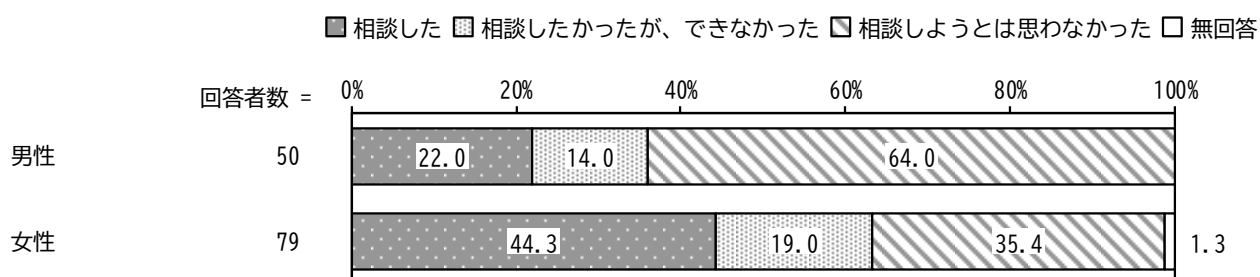
「相談した」の割合が 35.8%、「相談したかったが、できなかった」の割合が 17.2%、「相談しようとは思わなかった」の割合が 46.3%となっています。

令和 2 年度調査と比較すると、「相談しようとは思わなかった」の割合は、令和 2 年度調査が 34.6%であるのに対し、令和 7 年度調査が 46.3%と、11.7 ポイント増加しています。一方、「相談した」の割合は、令和 2 年度調査が 42.3%であるのに対し、令和 7 年度調査が 35.8%と、6.5 ポイント、「相談したかったが、できなかった」の割合は、令和 2 年度調査が 22.3%であるのに対し、令和 7 年度調査が 17.2%と、5.1 ポイント減少しています。



### 【性別】

性別にみると、「相談しようとは思わなかった」の割合は、男性が 64.0%、女性が 35.4%と、男性の方が 28.6 ポイント多く、「相談した」の割合は、男性が 22.0%、女性が 44.3%と、女性の方が 22.3 ポイント、「相談したかったが、できなかった」の割合は、男性が 14.0%、女性が 19.0%と、女性の方が 5 ポイント多くなっています。

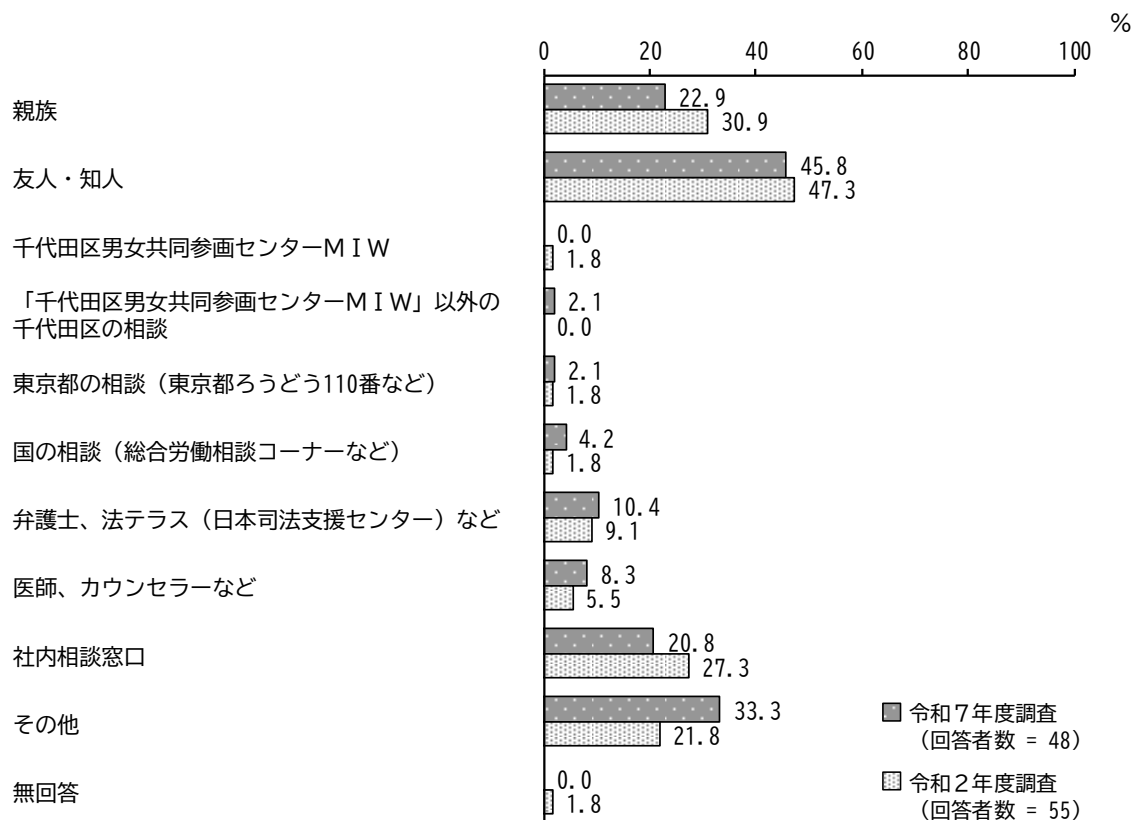


付問 24-1 で「相談した」を選択した方にお聞きします。

付問 24-2 あなたが相談した相手はどなたですか。(〇はいくつでも)

「友人・知人」の割合が 45.8%と最も高く、次いで「親族」の割合が 22.9%、「社内相談窓口」の割合が 20.8%となっています。

令和 2 年度調査と比較すると、「親族」の割合は、令和 2 年度調査が 30.9%であるのに対し、令和 7 年度調査が 22.9%と、8 ポイント、「社内相談窓口」の割合は、令和 2 年度調査が 27.3%であるのに対し、令和 7 年度調査が 20.8%と、6.5 ポイント減少しています。



【性別】

性別にみると、男性で「親族」(7.3 ポイント)、「国の相談（総合労働相談コーナーなど）」(6.2 ポイント)、「弁護士、法テラス（日本司法支援センター）など」(21.6 ポイント)の割合が多く、女性で「医師、カウンセラーなど」(11.4 ポイント)の割合が多くなっています。

単位：%

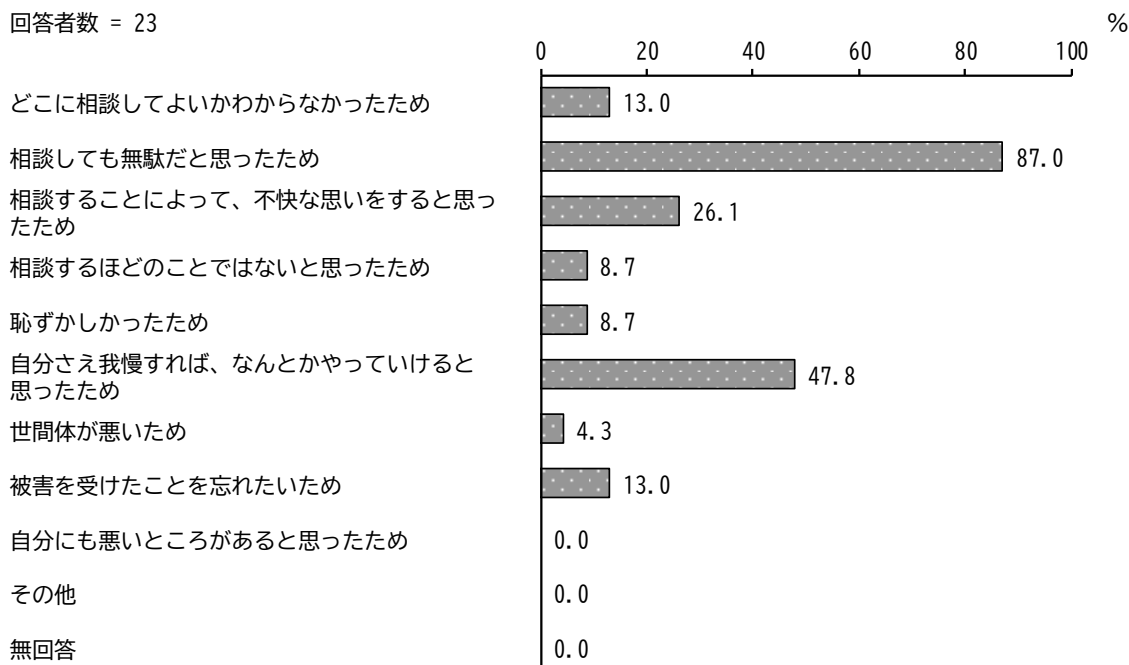
区分	回答者数 (件)	親族	友人・知人	千代田区男女共同参画センターMIW	「千代田区男女共同参画センターMIW」以外の千代田区の相談	東京都の相談（東京都ろうどう110番など）	国の相談（総合労働相談コーナーなど）	弁護士、法テラス（日本司法支援センター）など	医師、カウンセラーなど	社内相談窓口	その他	無回答
全体	48	22.9	45.8	0.0	2.1	2.1	4.2	10.4	8.3	20.8	33.3	0.0
男性	11	27.3	45.5	0.0	0.0	0.0	9.1	27.3	0.0	18.2	36.4	0.0
女性	35	20.0	48.6	0.0	2.9	0.0	2.9	5.7	11.4	22.9	34.3	0.0

付問 24-1 で「相談しなかったが、できなかった」を選択した方にお聞きします。

付問 24-3 相談しなかった（できなかった）理由は何ですか。（○は3つまで）

「相談しても無駄だと思ったため」の割合が 87.0%と最も高く、次いで「自分さえ我慢すれば、なんとかやっていけると思ったため」の割合が 47.8%、「相談することによって、不快な思いをすることになったため」の割合が 26.1%となっています。

回答者数 = 23



【性別】

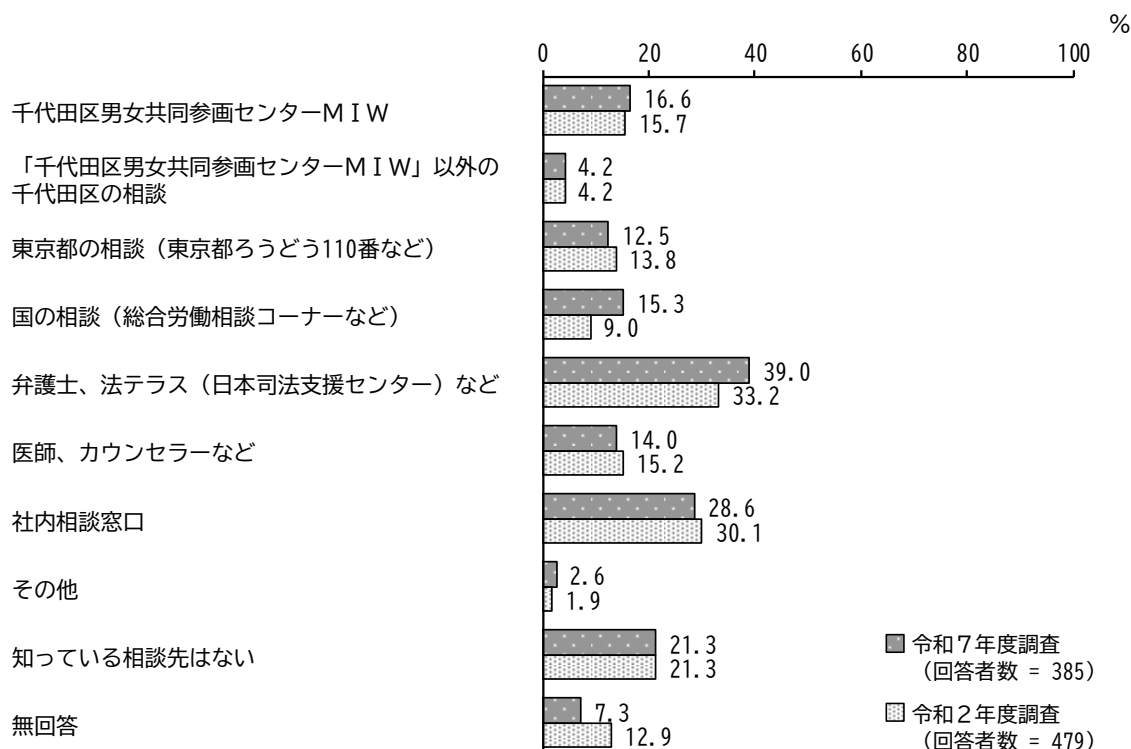
単位：%

区分	回答者数(件)	どこに相談してよいかわからなかったため	相談しても無駄だと思ったため	相談することによって、不快な思いをすることになったため	相談するほどのことではないと思ったため	恥ずかしかったため	自分さえ我慢すれば、なんとかやっていけると思ったため	世間体が悪いため	被害を受けたことを忘れたいため	自分にも悪いところがあると思ったため	その他	無回答
全体	23	13.0	87.0	26.1	8.7	8.7	47.8	4.3	13.0	0.0	0.0	0.0
男性	7	0.0	71.4	28.6	0.0	14.3	71.4	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0
女性	15	20.0	93.3	26.7	13.3	6.7	40.0	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0

問 25 次のうち、あなたが知っているハラスメントに関する相談先はどこですか。  
(○はいくつでも)

「弁護士、法テラス（日本司法支援センター）など」の割合が 39.0%と最も高く、次いで「社内相談窓口」の割合が 28.6%、「知っている相談先はない」の割合が 21.3%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「国の相談（総合労働相談コーナーなど）」の割合は、令和2年度調査が 9.0%であるのに対し、令和7年度調査が 15.3%と、6.3ポイント、「弁護士、法テラス（日本司法支援センター）など」の割合は、令和2年度調査が 33.2%であるのに対し、令和7年度調査が 39.0%と、5.8ポイント増加しています。



【性別】

性別にみると、「弁護士、法テラス（日本司法支援センター）など」の割合は、男性が 43.0%、女性が 35.7%と、男性の方が 7.3ポイント多く、「千代田区男女共同参画センターMIW」の割合は、男性が 13.3%、女性が 18.8%と、女性の方が 5.5ポイント、「医師、カウンセラーなど」の割合は、男性が 10.9%、女性が 15.9%と、女性の方が 5ポイント多くなっています。

単位：%

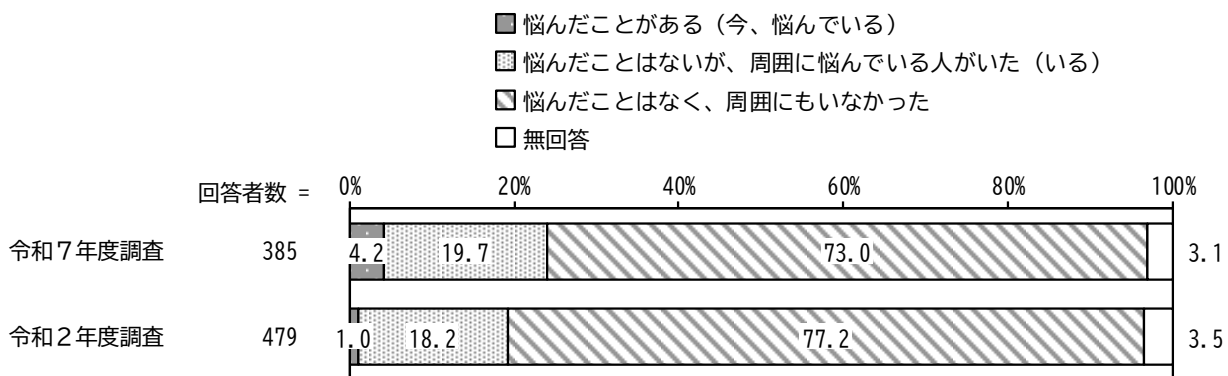
区分	回答者数 (件)	千代田区男女共同参画センターMIW	「千代田区男女共同参画センターMIW」以外の千代田区の相談	東京都の相談（東京都ろうどう110番など）	国の相談（総合労働相談コーナーなど）	弁護士、法テラス（日本司法支援センター）など	医師、カウンセラーなど	社内相談窓口	その他	知っている相談先はない	無回答
全体	385	16.6	4.2	12.5	15.3	39.0	14.0	28.6	2.6	21.3	7.3
男性	165	13.3	4.8	10.9	13.3	43.0	10.9	27.9	3.6	21.8	4.2
女性	207	18.8	3.9	13.5	16.9	35.7	15.9	29.5	1.9	21.7	8.7

## (8) LGBTQについて

問26 あなたは、今までに性的指向（好きになる性）や性自認（心の性）について悩んだことはありますか。または、周囲の人で悩んでいる人はいましたか。（○は1つ）

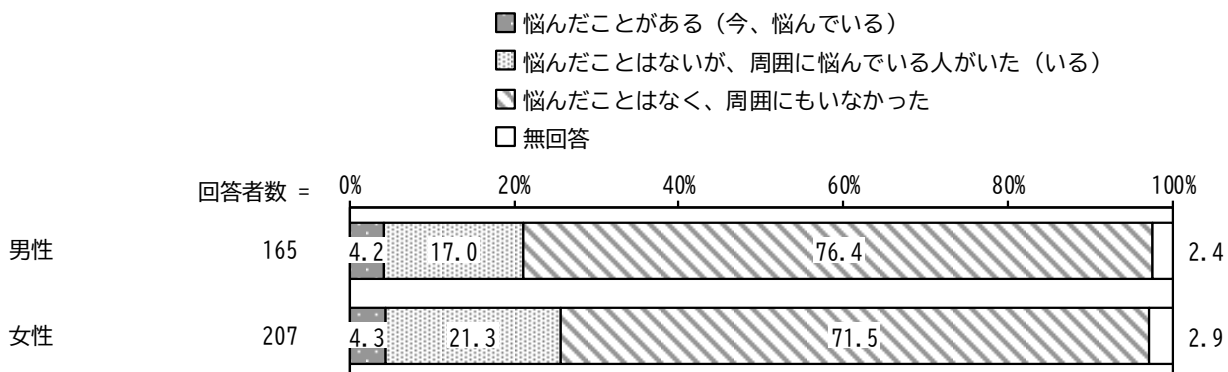
「悩んだことがある（今、悩んでいる）」の割合が4.2%、「悩んだことはないが、周囲に悩んでいる人がいた（いる）」の割合が19.7%、「悩んだことはなく、周囲にもいなかった」の割合が73.0%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「悩んだことがある（今、悩んでいる）」の割合は、令和2年度調査が1.0%であるのに対し、令和7年度調査が4.2%と、3.2ポイント増加しています。一方、「悩んだことはなく、周囲にもいなかった」の割合の割合は、令和2年度調査が77.2%であるのに対し、令和7年度調査が73.0%と、4.2ポイント減少しています。



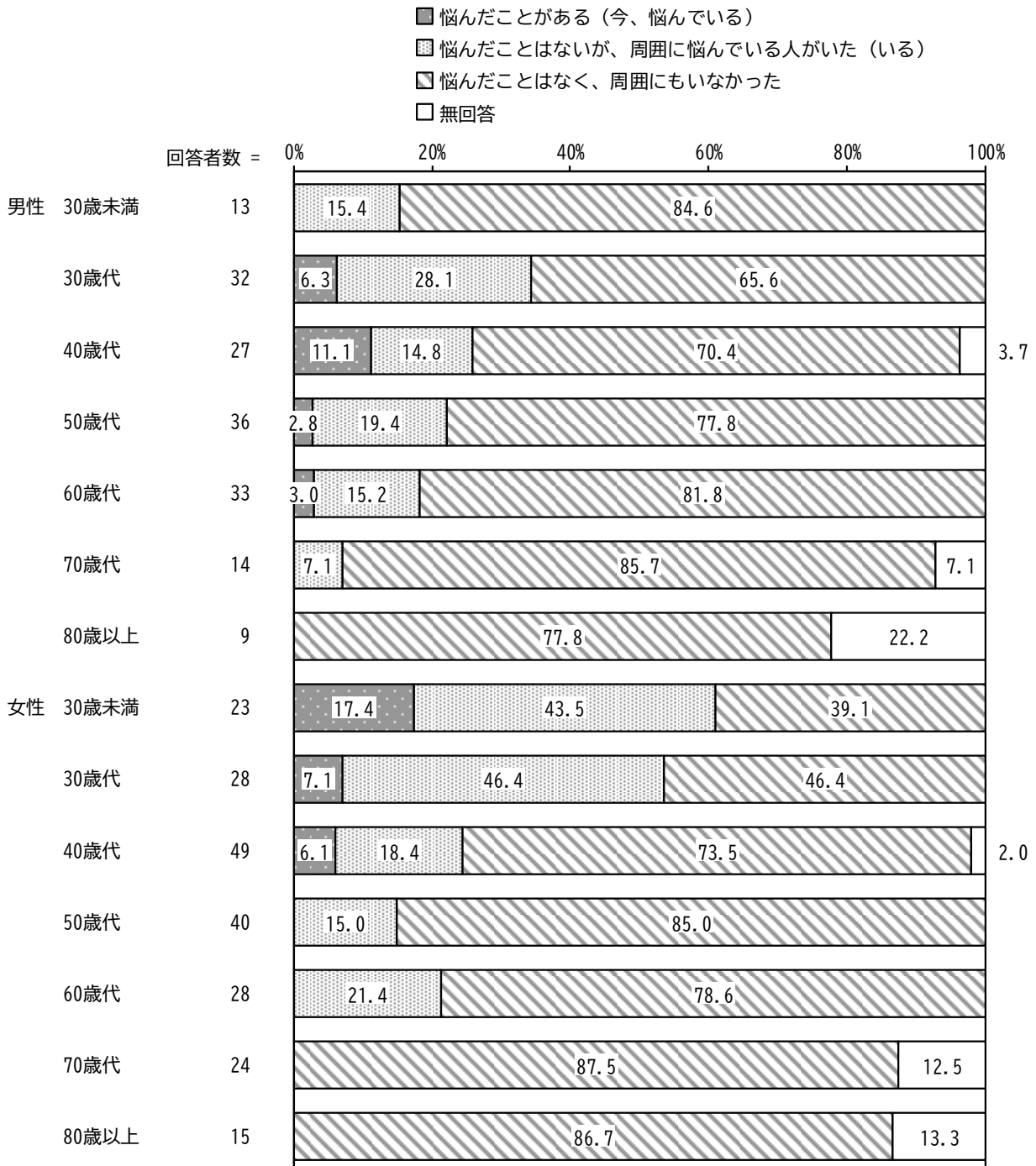
### 【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



【性・年代別】

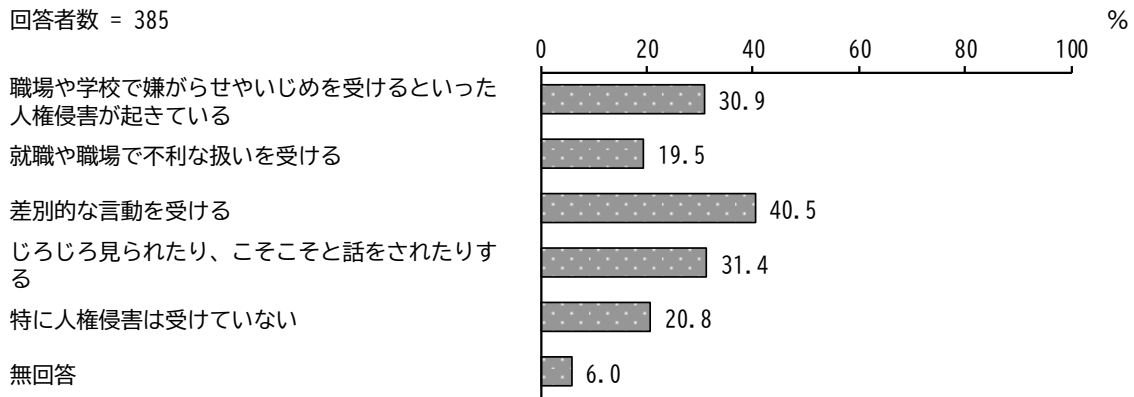
性・年代別にみると、男性では30歳代から70歳代まで年代が上がるほど「悩んだことはなく、周囲にもいなかった」の割合が高く、女性では40歳代から30歳未満まで年代が下がるほど「悩んだことがある（今、悩んでいる）」の割合が高い傾向にあります。また、「悩んだことはないが、周囲に悩んでいる人がいた（いる）」の割合は、全体が19.7%であるのに対し、女性30歳未満、女性30歳代で44.9%と、25.2%高くなっています。



問 27 あなたは、性的少数者の人に対し、特にどのような人権侵害が起きていると思いますか。(〇は2つまで)

「差別的な言動を受ける」の割合が 40.5%と最も高く、次いで「じろじろ見られたり、こそこそと話をされたりする」の割合が 31.4%、「職場や学校で嫌がらせやいじめを受ける」といった人権侵害が起きている」の割合が 30.9%となっています。

回答者数 = 385



【性別】

性別にみると、「特に人権侵害は受けていない」の割合は、男性が 29.1%、女性が 14.5%と、男性の方が 14.6 ポイント多く、「職場や学校で嫌がらせやいじめを受ける」といった人権侵害が起きている」の割合は、男性が 27.9%、女性が 33.3%と、女性の方が 5.4 ポイント、「じろじろ見られたり、こそこそと話をされたりする」の割合は、男性が 23.0%、女性が 39.6%と、女性の方が 16.6 ポイントそれぞれ多くなっています。

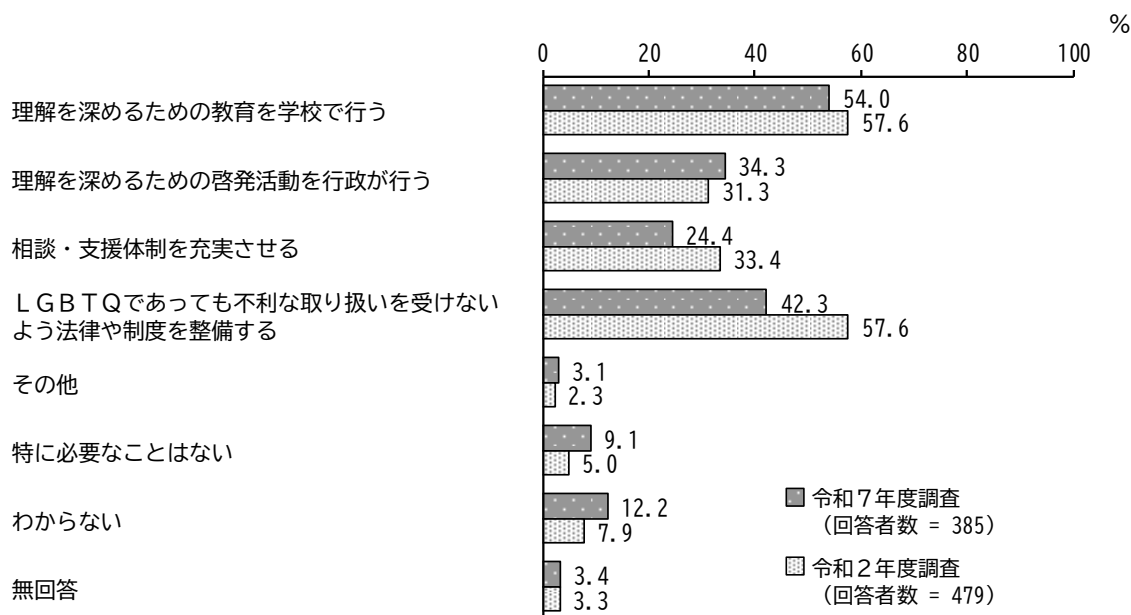
単位：%

区分	回答者数 (件)	職場や学校で嫌がらせやいじめを受ける	就職や職場で不利な扱いを受ける	差別的な言動を受ける	じろじろ見られたり、こそこそと話をされたりする	特に人権侵害は受けていない	無回答
全体	385	30.9	19.5	40.5	31.4	20.8	6.0
男性	165	27.9	21.2	41.2	23.0	29.1	1.8
女性	207	33.3	16.9	40.6	39.6	14.5	8.2

問 28 あなたは、LGBTQの方々の人権を守るために、特にどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇は3つまで)

「理解を深めるための教育を学校で行う」の割合が 54.0%と最も高く、次いで「LGBTQであっても不利な取り扱いを受けないよう法律や制度を整備する」の割合が 42.3%、「理解を深めるための啓発活動を行政が行う」の割合が 34.3%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「相談・支援体制を充実させる」の割合は、令和2年度調査が 33.4%であるのに対し、令和7年度調査が 24.4%と、9ポイント、「LGBTQであっても不利な取り扱いを受けないよう法律や制度を整備する」の割合は、令和2年度調査が 57.6%であるのに対し、令和7年度調査が 42.3%と、15.3ポイント減少しています。



※令和2年度調査では、「あなたは、LGBTQの方々の人権を守るために、特にどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。」が「あなたは、LGBTsの方々の人権を守るために、特にどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。」となっていました。

※令和2年度調査では、「LGBTQであっても不利な取り扱いを受けないよう法律や制度を整備する」が「LGBTsであっても不利な取り扱いを受けないよう法律や制度を整備する」となっていました。

【性別】

性別にみると、「理解を深めるための教育を学校で行う」の割合は、男性が 50.9%、女性が 56.5%と、女性の方が 5.6ポイント、「LGBTQであっても不利な取り扱いを受けないよう法律や制度を整備する」の割合は、男性が 36.4%、女性が 45.4%と、女性の方が9ポイント多くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	理解を深めるための教育を学校で行う	理解を深めるための啓発活動を行政が行う	相談・支援体制を充実させる	LGBTQであっても不利な取り扱いを受けないよう法律や制度を整備する	その他	特に必要なことはない	わからない	無回答
全体	385	54.0	34.3	24.4	42.3	3.1	9.1	12.2	3.4
男性	165	50.9	32.7	23.6	36.4	3.6	15.8	11.5	1.8
女性	207	56.5	35.7	25.1	45.4	2.9	3.9	13.5	4.3

## (9) 区政への女性の参画について

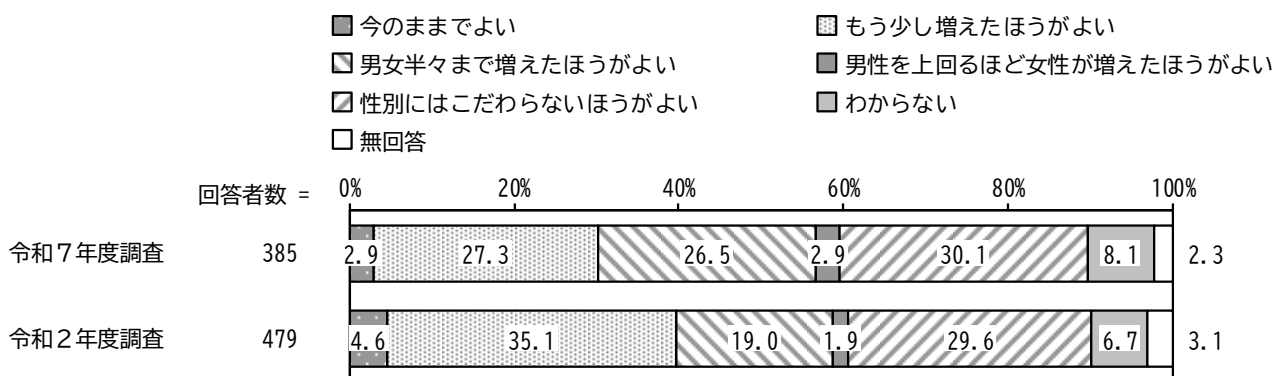
問 29 あなたは、千代田区の議会・審議会等に占める女性の割合や、区職員の管理職等に占める女性の割合について、どう思いますか。(それぞれの項目について○は1つずつ)

### ①区議会議員に占める女性の割合

・現状値(令和7年4月): 33.3%

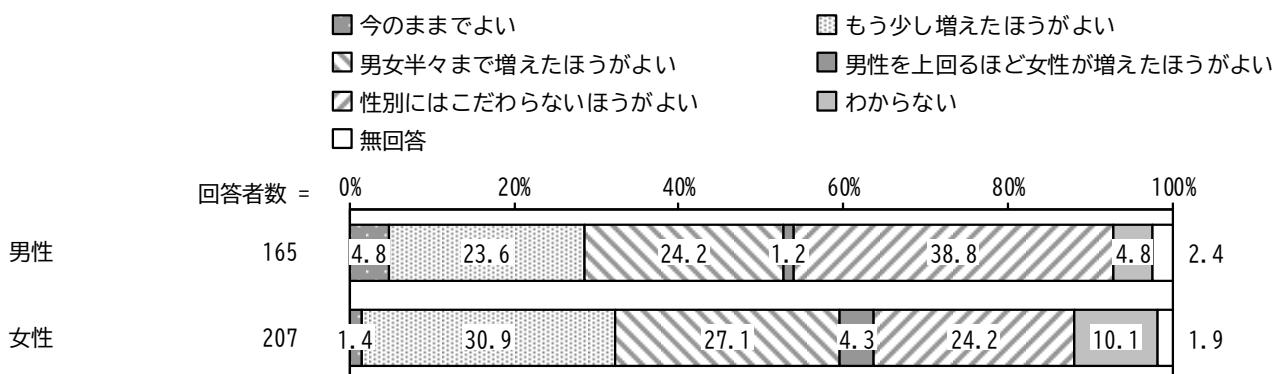
「性別にはこだわらないほうがよい」の割合が30.1%と最も高く、次いで「もう少し増えたほうがよい」の割合が27.3%、「男女半々まで増えたほうがよい」の割合が26.5%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「男女半々まで増えたほうがよい」の割合は、令和2年度調査が19.0%であるのに対し、令和7年度調査が26.5%と、7.5ポイント増加しています。一方、「もう少し増えたほうがよい」の割合は、令和2年度調査が35.1%であるのに対し、令和7年度調査が27.3%と、7.8ポイント減少しています。



### 【性別】

性別にみると、「性別にはこだわらないほうがよい」の割合は、男性が38.8%、女性が24.2%と、男性の方が14.6ポイント多く、女性で「もう少し増えたほうがよい」の割合は、男性が23.6%、女性が30.9%と、女性の方が7.3ポイント多くなっています。

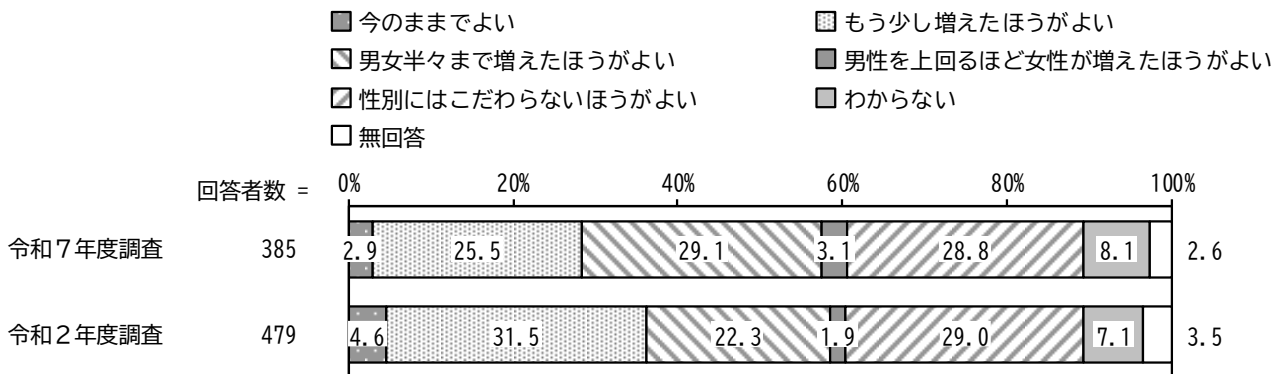


## ②区審議会等の委員に占める女性の割合

- ・目標値（令和8年度末）：40～60%
- ・現状値（令和7年4月）：30.9%

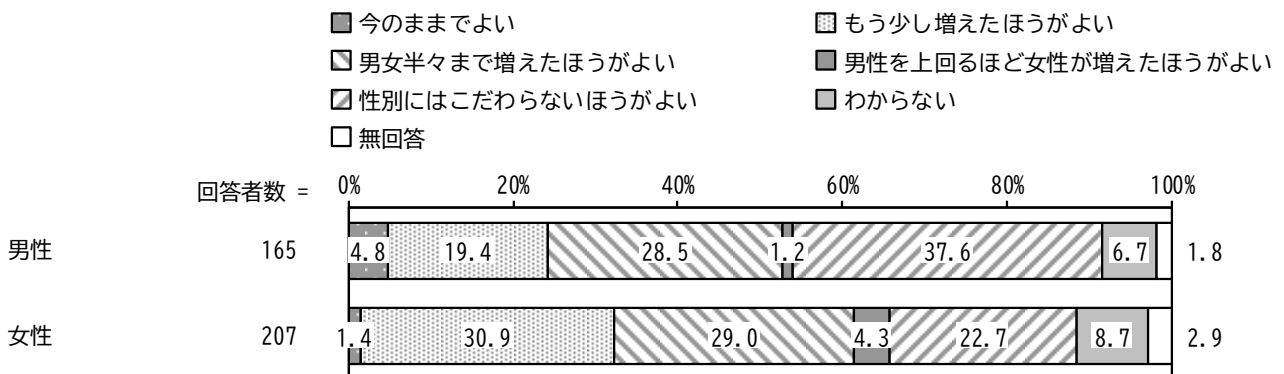
「男女半々まで増えたほうがよい」の割合が 29.1%と最も高く、次いで「性別にはこだわらないほうがよい」の割合が 28.8%、「もう少し増えたほうがよい」の割合が 25.5%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「男女半々まで増えたほうがよい」の割合は、令和2年度調査が 22.3%であるのに対し、令和7年度調査が 29.1%と、6.8ポイント増加しています。一方、「もう少し増えたほうがよい」の割合は、令和2年度調査が 31.5%であるのに対し、令和7年度調査が 25.5%と、6ポイント減少しています。



## 【性別】

性別にみると、「性別にはこだわらないほうがよい」の割合は、男性が 37.6%、女性が 22.7%と、男性の方が 14.9ポイント多く、「もう少し増えたほうがよい」の割合は、男性が 19.4%、女性が 30.9%と、女性の方が 11.5ポイント多くなっています。

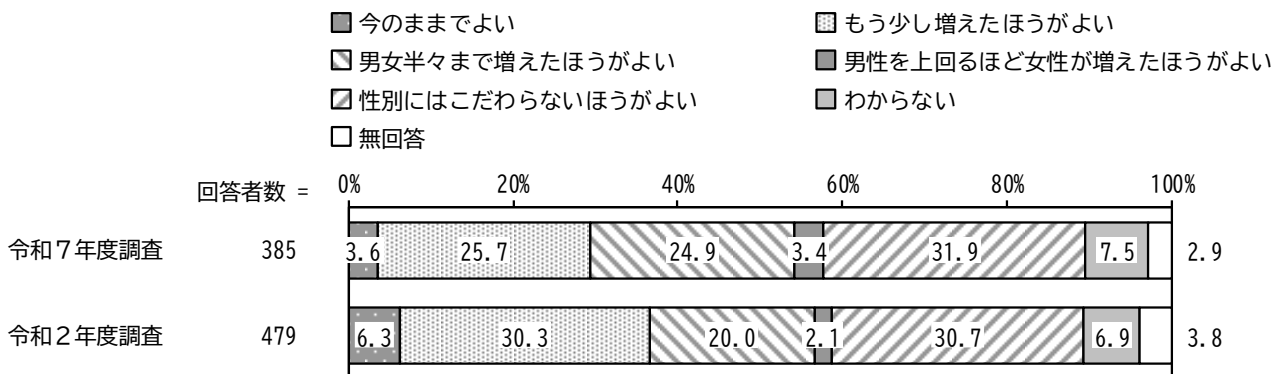


### ③区管理職等に占める女性の割合

- ・目標値（令和8年度末）：40.0%
- ・現状値（令和7年4月）：35.0%（管理職 25.5%・係長級 32.5%）

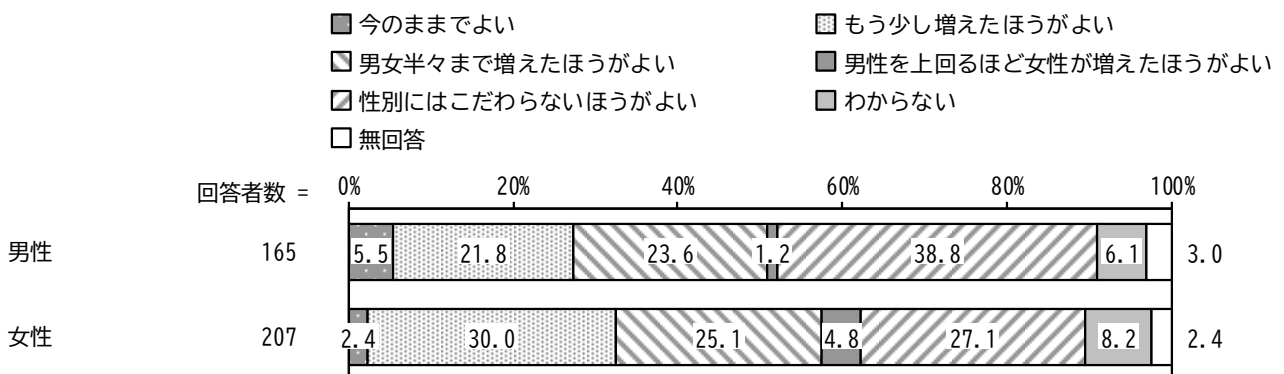
「性別にはこだわらないほうがよい」の割合が 31.9%と最も高く、次いで「もう少し増えたほうがよい」の割合が 25.7%、「男女半々まで増えたほうがよい」の割合が 24.9%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「男女半々まで増えたほうがよい」の割合は、令和2年度調査が 20.0%であるのに対し、令和7年度調査が 24.9%と、4.9ポイント増加しています。一方、「もう少し増えたほうがよい」の割合は、令和2年度調査が 30.3%であるのに対し、令和7年度調査が 25.7%と、4.6ポイント減少しています。



### 【性別】

性別にみると、「性別にはこだわらないほうがよい」の割合は、男性が 38.8%、女性が 27.1%と、男性の方が 11.7ポイント多く、「もう少し増えたほうがよい」の割合は、男性が 21.8%、女性が 30.0%と、女性の方が、8.2ポイント多くなっています。

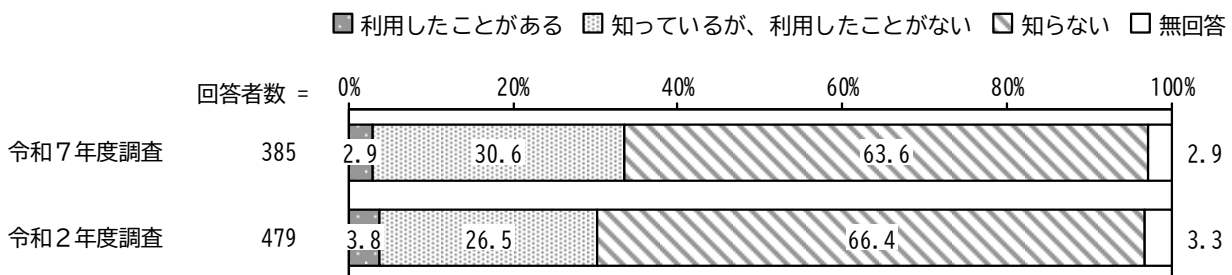


## (10) 男女共同参画社会の実現に向けた取組について

問 30 あなたは、千代田区男女共同参画センターMIW（ミュウ）を利用したことはありますか。（○は1つ）

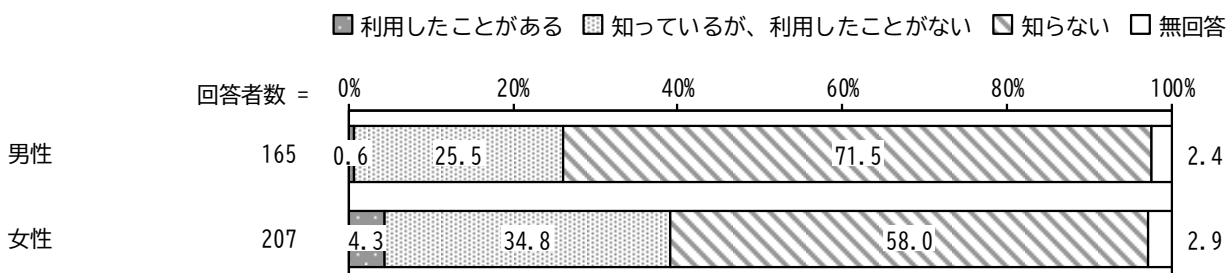
「利用したことがある」の割合が 2.9%、「知っているが、利用したことがない」の割合が 30.6%、「知らない」の割合が 63.6%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「知っているが、利用したことがない」の割合は、令和2年度調査が 26.5%であるのに対し、令和7年度調査が 30.6%と、4.1ポイント増加しています。



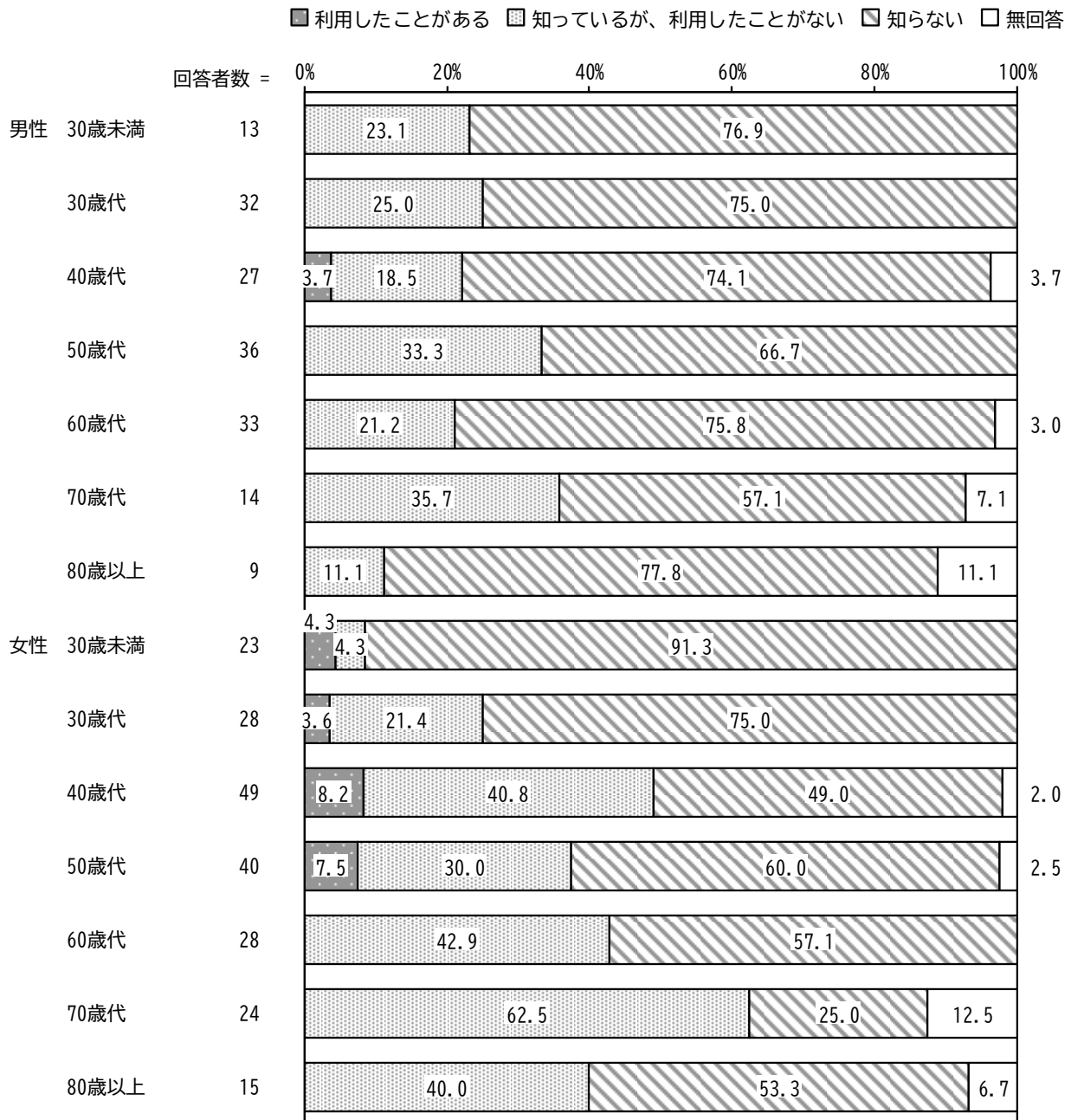
### 【性別】

性別にみると、「知らない」の割合は、男性が 71.5%、女性が 58.0%と、男性の方が 13.5ポイント多く、「知っているが、利用したことがない」の割合は、男性が 25.5%、女性が 34.8%と、女性の方が 9.3ポイント多くなっています。



【性・年代別】

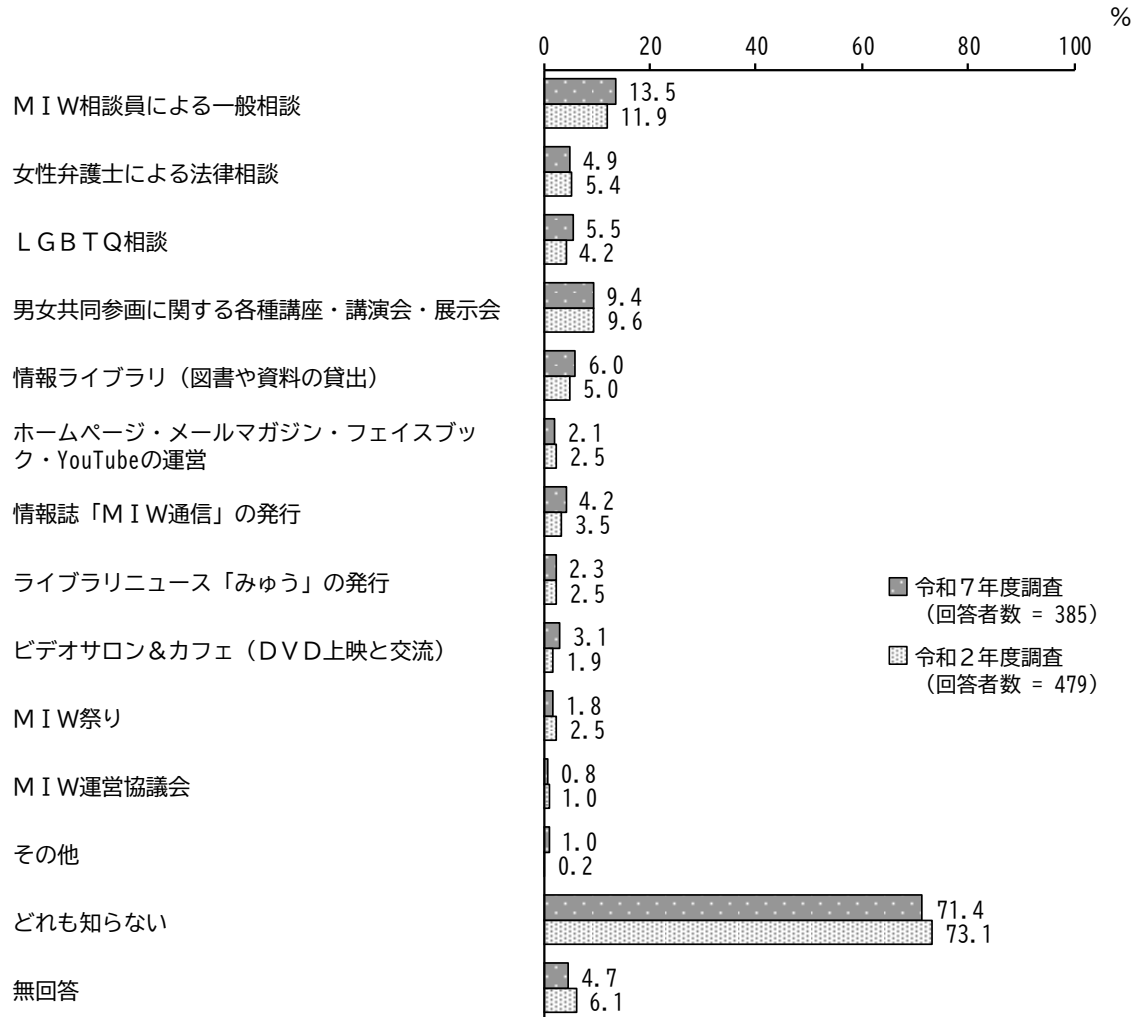
性・年代別にみると、男性では50歳代から30歳未満まで年代が下がるほど「知らない」の割合が高くなっています。また、「知っているが、利用したことがない」の割合は、全体が30.6%であるのに対し、女性70歳代が62.5%と、31.9ポイント多くなっています。



問31 あなたは、男女共同参画センターMIWで実施する次の事業を知っていますか。  
(〇はいくつでも)

「どれも知らない」の割合が71.4%と最も高く、次いで「MIW相談員による一般相談」の割合が13.5%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



※令和2年度調査では、「LGBTQ相談」が「LGBTs相談」、「ホームページ・メールマガジン・フェイスブック・YouTubeの運営」が「ホームページ・メールマガジン・フェイスブックの運営」となっていました。

【性別】

性別にみると、男性で「どれも知らない」(11.7ポイント)の割合が高く、女性で「MIW相談員による一般相談」(5.8ポイント)、「男女共同参画に関する各種講座・講演会・展示会」(8.2ポイント)、「ビデオサロン&カフェ(DVD上映と交流)」(5.3ポイント)の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	MIW相談員による一般相談	女性弁護士による法律相談	LGBTQ相談	男女共同参画に関する各種講座・講演会・展示会	情報ライブラリ(図書や資料の貸出)	ホームページ・メールマガジン・フェイスブック・YouTubeの運営	情報誌「MIW通信」の発行
全体	385	13.5	4.9	5.5	9.4	6.0	2.1	4.2
男性	165	9.7	4.2	5.5	4.8	4.8	0.6	3.6
女性	207	15.5	4.8	5.8	13.0	6.3	2.9	4.8

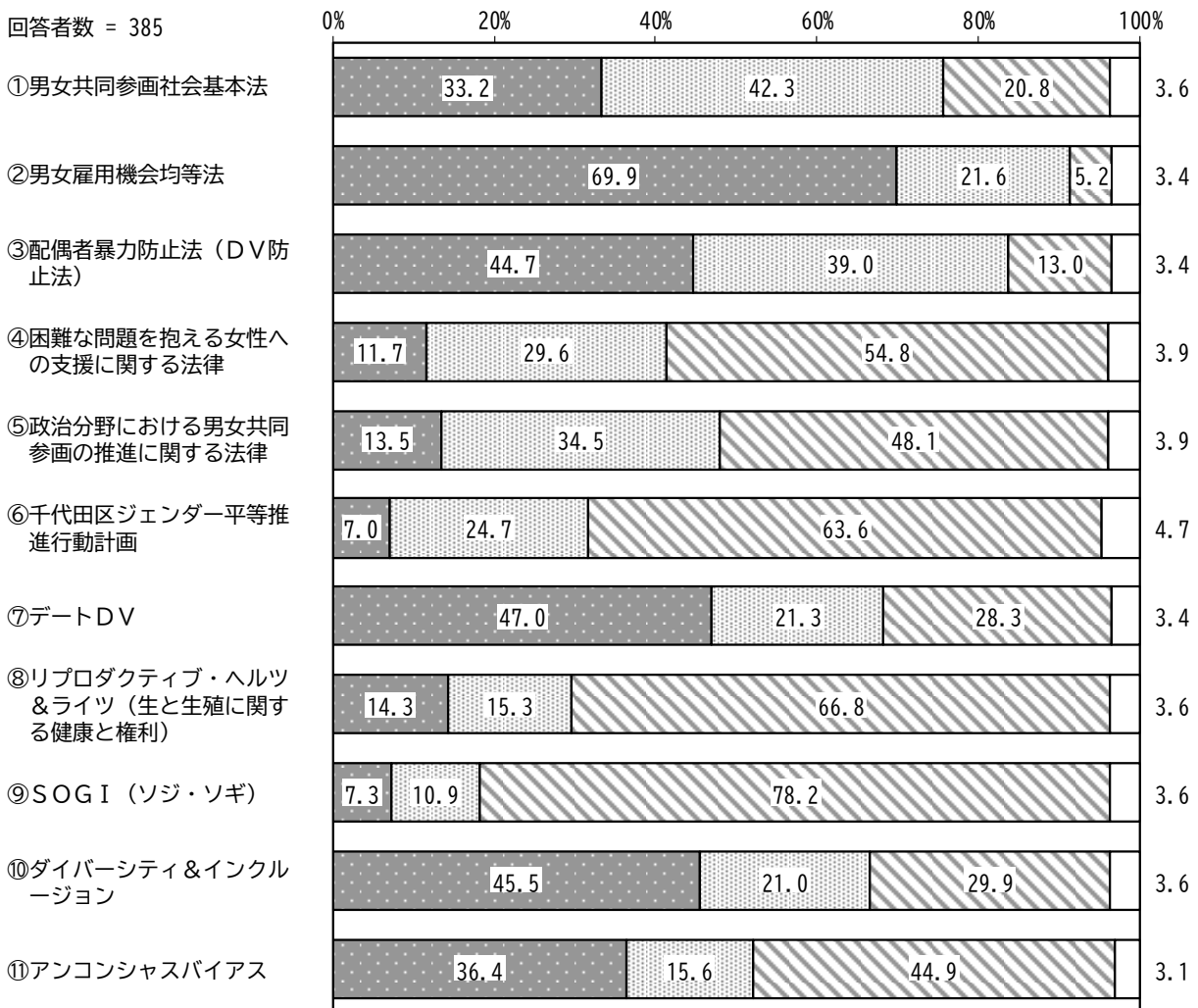
区分	ライブラリニュース「みゆこ」の発行	ビデオサロン&カフェ(DVD上映と交流)	MIW祭り	MIW運営協議会	その他	どれも知らない	無回答
全体	2.3	3.1	1.8	0.8	1.0	71.4	4.7
男性	0.0	0.0	1.2	1.2	1.8	78.8	3.6
女性	4.3	5.3	1.9	0.5	0.5	67.1	4.8

問 32 あなたは、次の言葉や取組を知っていますか。  
(それぞれの項目について○は1つずつ)

『②男女雇用機会均等法』で「意味（内容）を知っている」が、『①男女共同参画社会基本法』で「聞いたことはあるが、意味（内容）は知らない」が、『⑨SOGI（ソジ・ソギ）』で「聞いたことがない」が高くなっています。

- 意味（内容）を知っている
- ▨ 聞いたことはあるが、意味（内容）は知らない
- ▧ 聞いたことがない
- 無回答

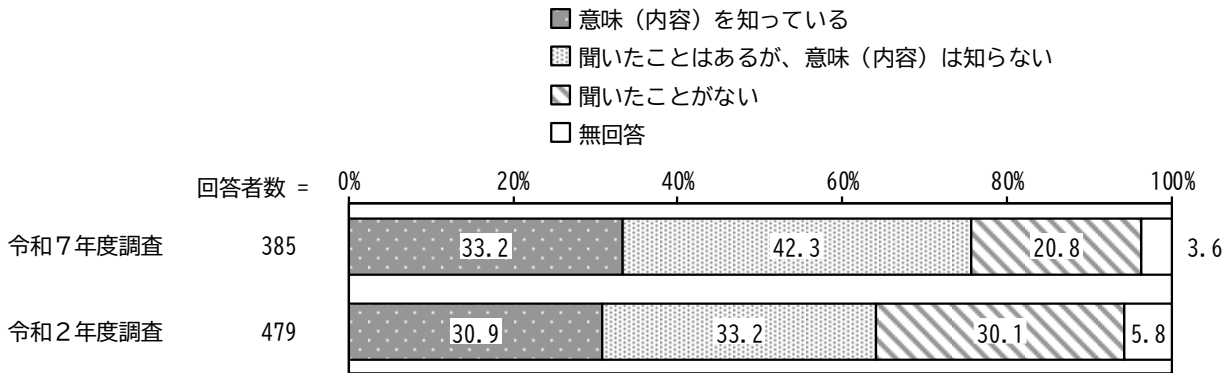
回答者数 = 385



①男女共同参画社会基本法

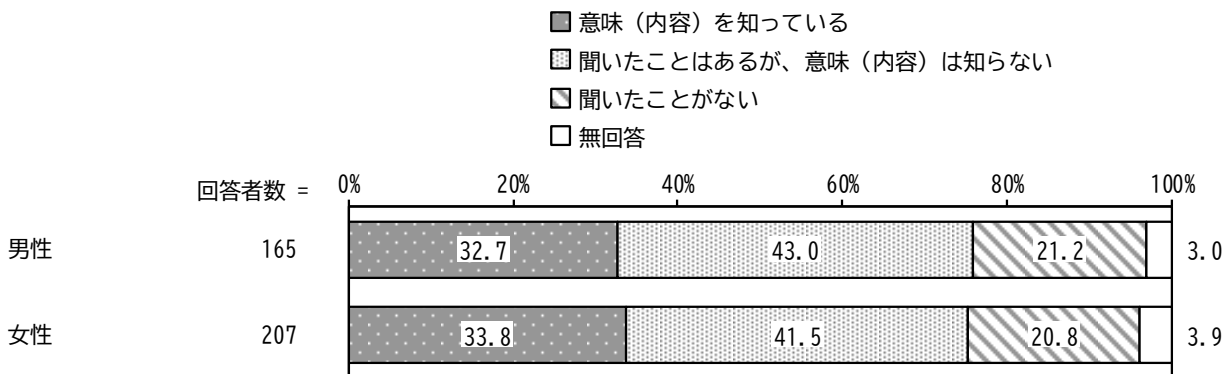
【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、「聞いたことはあるが、意味（内容）は知らない」の割合は、令和2年度調査が33.2%であるのに対し、令和7年度調査が42.3%と、9.1ポイント増加しています。一方、「聞いたことがない」の割合は、令和2年度調査が30.1%であるのに対し、令和7年度調査が20.8%と、9.3ポイント減少しています。



【性別】

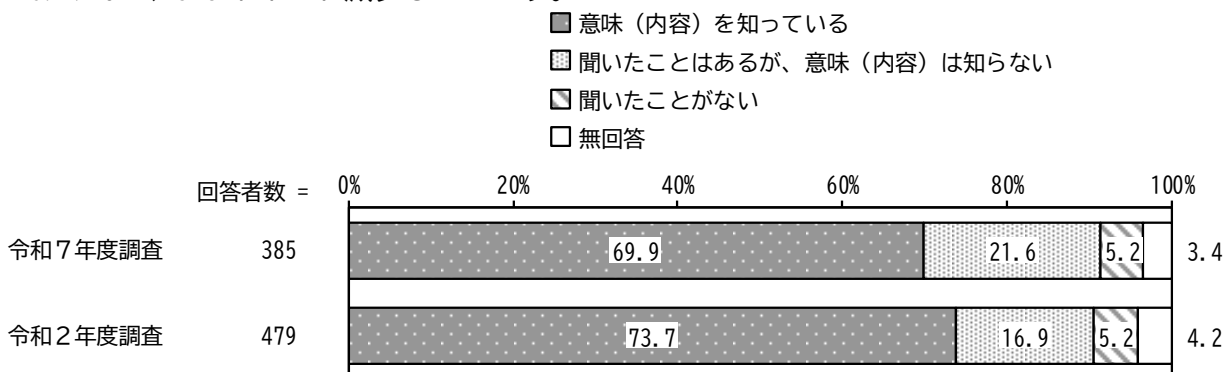
性別にみると、大きな差はみられません。



②男女雇用機会均等法

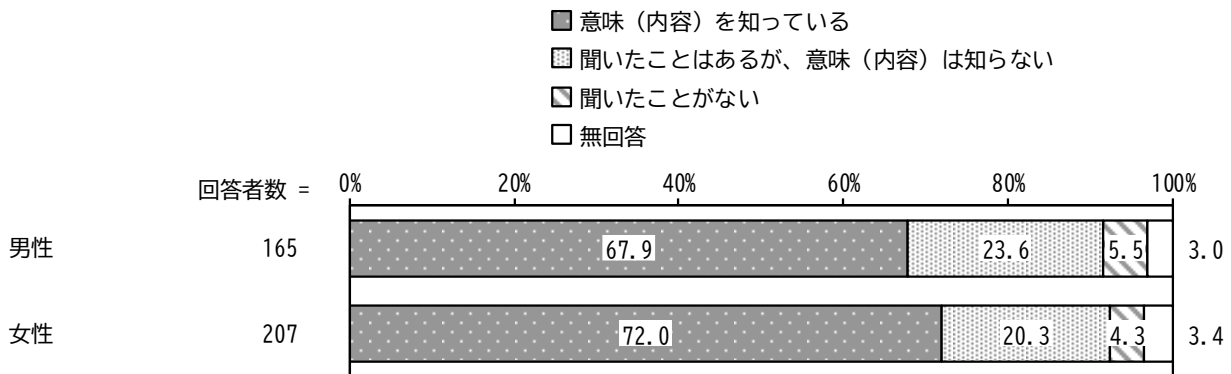
【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、「聞いたことはあるが、意味（内容）は知らない」の割合は、令和2年度調査が16.9%であるのに対し、令和7年度調査が21.6%と、4.7ポイント増加しています。一方、「意味（内容）を知っている」の割合は、令和2年度調査が73.7%であるのに対し、令和7年度調査が69.9%と、3.8ポイント減少しています。



【性別】

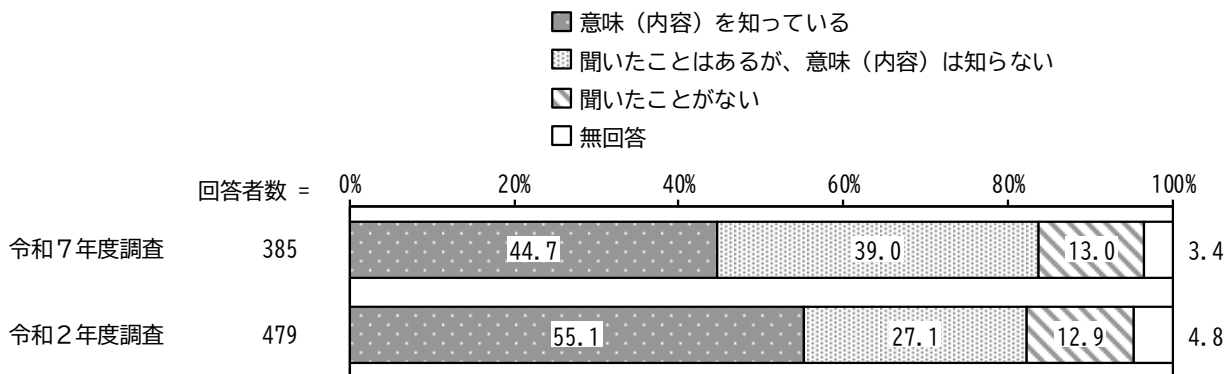
性別にみると、大きな差はみられません。



③配偶者暴力防止法（DV防止法）

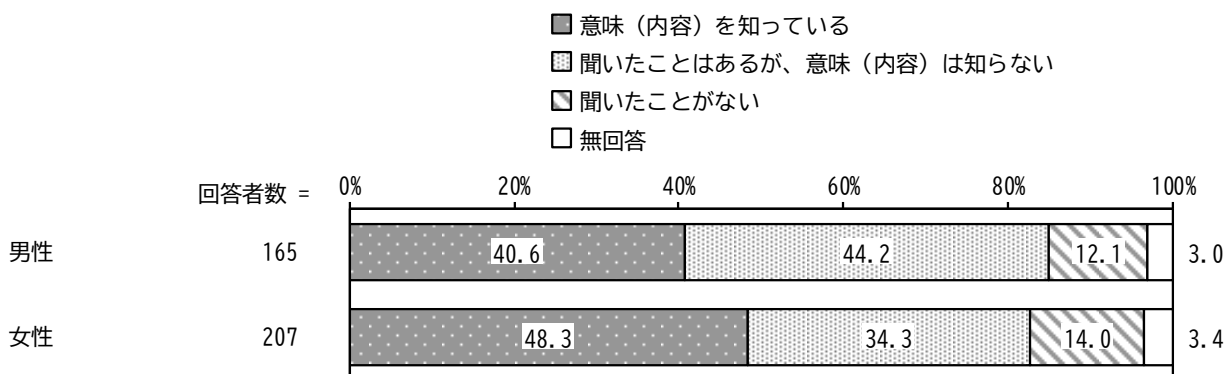
【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、「聞いたことはあるが、意味（内容）は知らない」の割合は、令和2年度調査が27.1%であるのに対し、令和7年度調査が39.0%と、11.9ポイント増加しています。一方、「意味（内容）を知っている」の割合は、令和2年度調査が55.1%であるのに対し、令和7年度調査が44.7%と、10.4ポイント減少しています。



【性別】

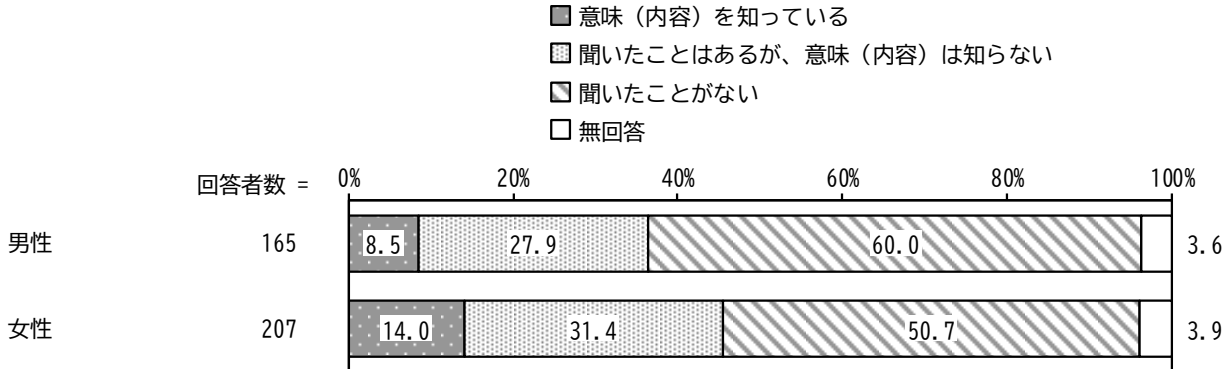
性別にみると、「聞いたことはあるが、意味（内容）は知らない」の割合は、男性が44.2%、女性が34.3%と、男性の方が9.9ポイント多く、「意味（内容）を知っている」の割合は、男性が40.6%、女性が48.3%と、女性の方が7.7ポイント多くなっています。



④困難な問題を抱える女性への支援に関する法律

【性別】

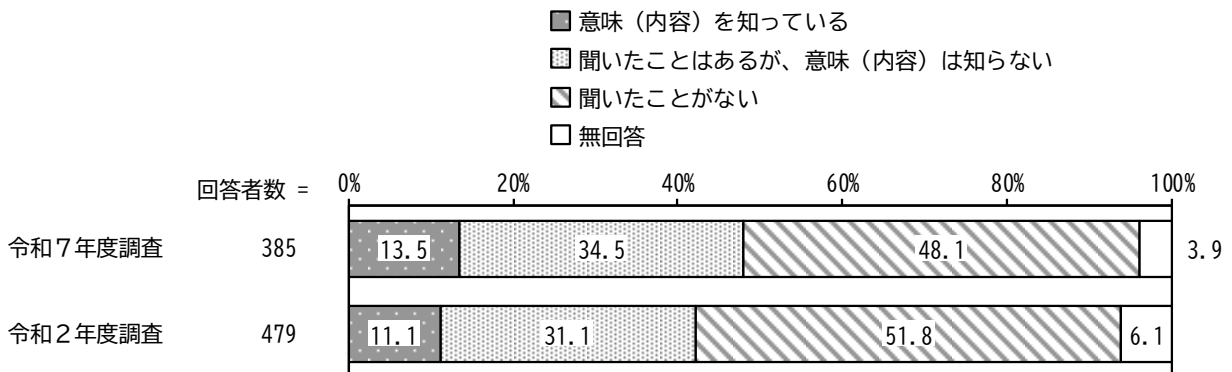
性別にみると、「聞いたことがない」の割合は、男性が60.0%、女性が50.7%と、男性の方が9.3ポイント多く、「意味（内容）を知っている」の割合は、男性が8.5%、女性が14.0%と、女性の方が5.5ポイント多くなっています。



⑤政治分野における男女共同参画の推進に関する法律

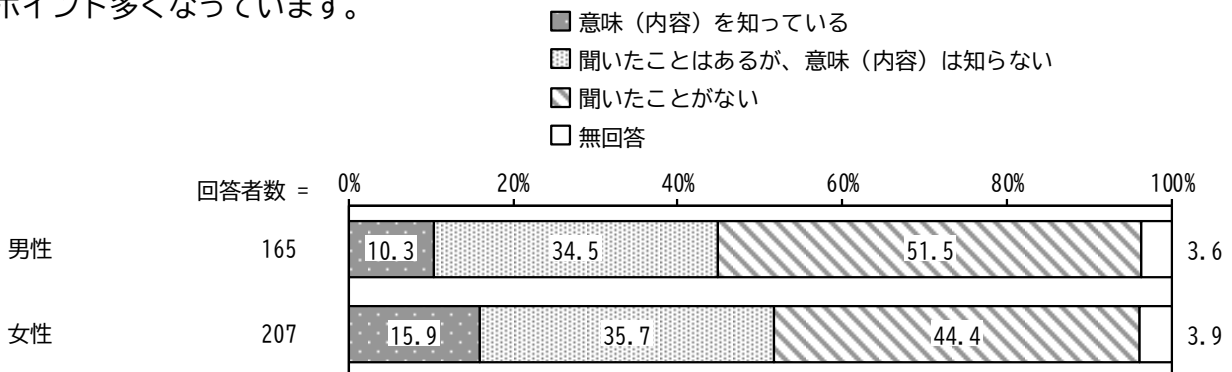
【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、「聞いたことはあるが、意味（内容）は知らない」の割合は、令和2年度調査が31.1%であるのに対し、令和7年度調査が34.5%と、3.4ポイント増加しています。一方、「聞いたことがない」の割合は、令和2年度調査が51.8%であるのに対し、令和7年度調査が48.1%と、3.7ポイント減少しています。



【性別】

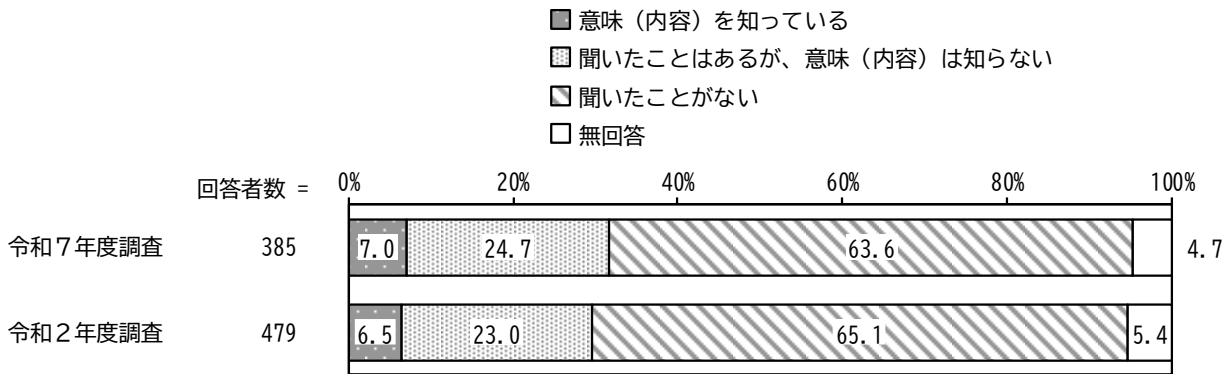
性別にみると、「聞いたことがない」の割合は、男性が51.5%、女性が44.4%と、男性の方が7.1ポイント多く、「意味（内容）を知っている」の割合は、男性が10.3%、女性が15.9%と、女性の方が5.6ポイント多くなっています。



## ⑥千代田区ジェンダー平等推進行動計画

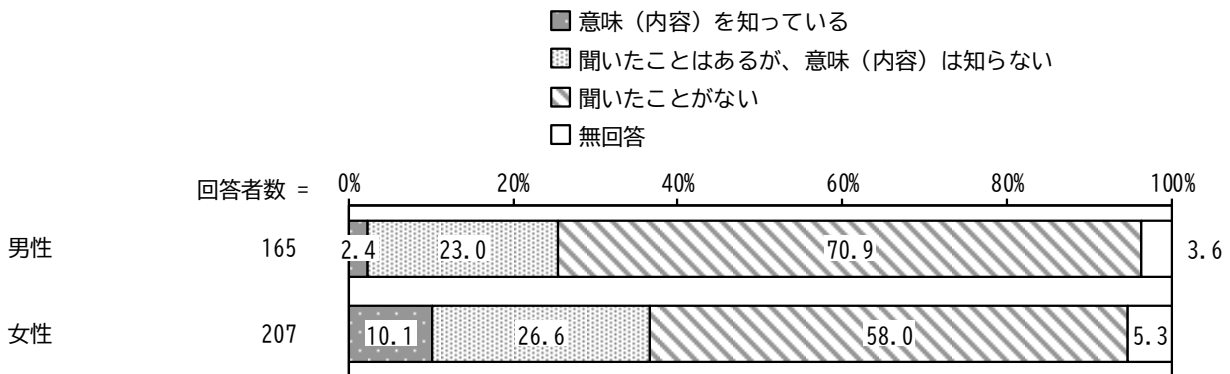
### 【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



### 【性別】

性別にみると、「聞いたことがない」の割合は、男性が70.9%、女性が58.0%と、男性の方が12.9ポイント多く、「意味（内容）を知っている」の割合は、男性が2.4%、女性が10.1%と、女性の方が7.7ポイント多くなっています。

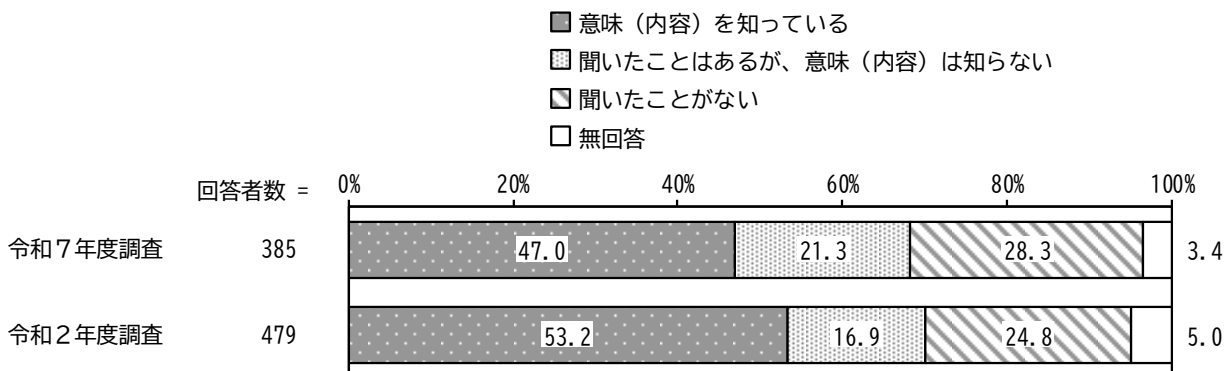


## ⑦デートDV

交際相手からの精神的・身体的・性的暴力

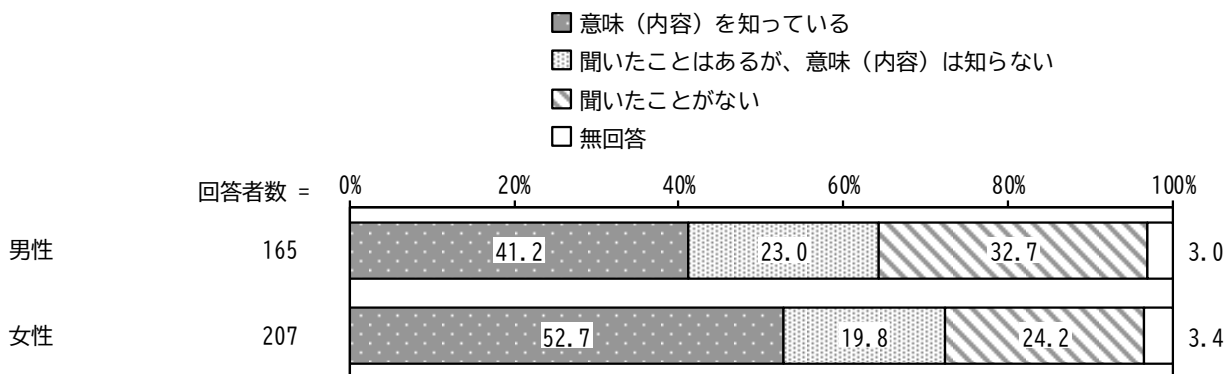
### 【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、「意味（内容）を知っている」の割合は、令和2年度調査が53.2%であるのに対し、令和7年度調査が47.0%と、6.2ポイント減少しています。



【性別】

性別にみると、「聞いたことがない」の割合は、男性が32.7%、女性が24.2%と、男性の方が8.5ポイント多く、「意味（内容）を知っている」の割合は、男性が41.2%、女性が52.7%と、女性の方が11.5ポイント多くなっています。

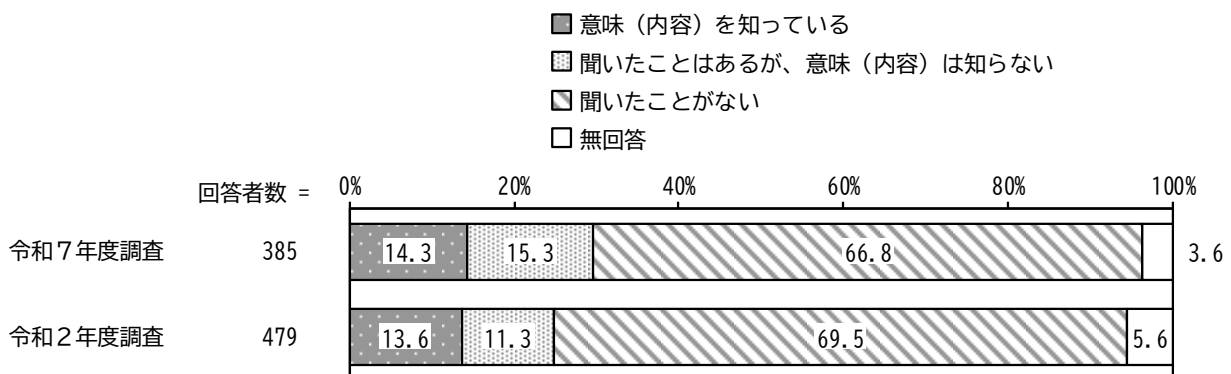


⑧リプロダクティブ・ヘルツ&ライツ（生と生殖に関する健康と権利）

自分の体に関することを自分自身で決められることができ、そのための健康を享受できること

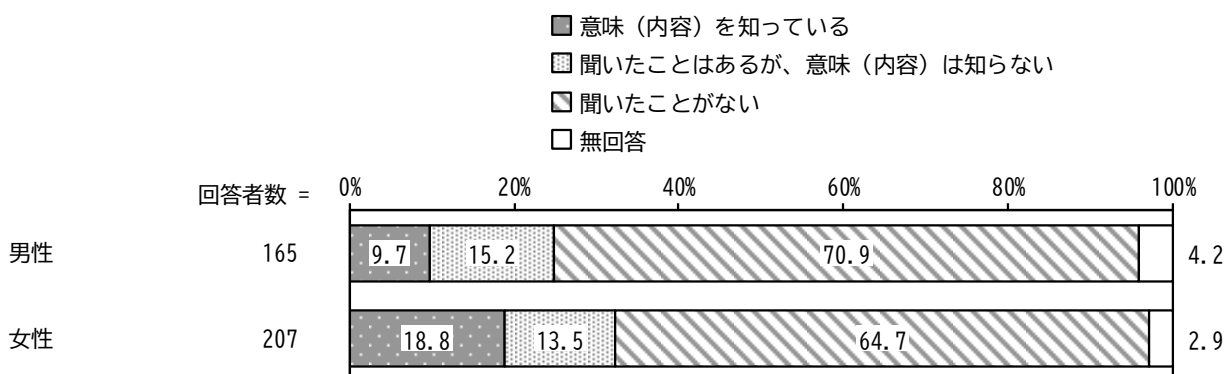
【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、「聞いたことはあるが、意味（内容）は知らない」の割合は、令和2年度調査が11.3%であるのに対し、令和7年度調査が15.3%と、4ポイント増加しています。



【性別】

性別にみると、「聞いたことがない」の割合は、男性が70.9%、女性が64.7%と、男性の方が6.2ポイント多く、「意味（内容）を知っている」の割合は、男性が9.7%、女性が18.8%と、女性の方が9.1ポイント多くなっています。

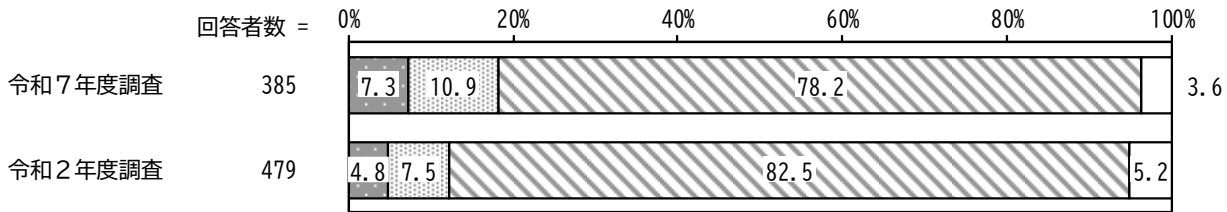


### ⑨ SOGI (ソジ・ソギ)

すべての人が持つ性的指向（好きになる性/SexualOrientation=SO）と性自認（心の性/GenderIdentity=GI）の略【経年比較】

令和2年度調査と比較すると、「聞いたことはあるが、意味（内容）は知らない」の割合は、令和2年度調査が7.5%であるのに対し、令和7年度調査が10.9%と、3.4ポイント増加しています。一方、「聞いたことがない」の割合は、令和2年度調査が82.5%であるのに対し、令和7年度調査が78.2%と、4.3ポイント減少しています。

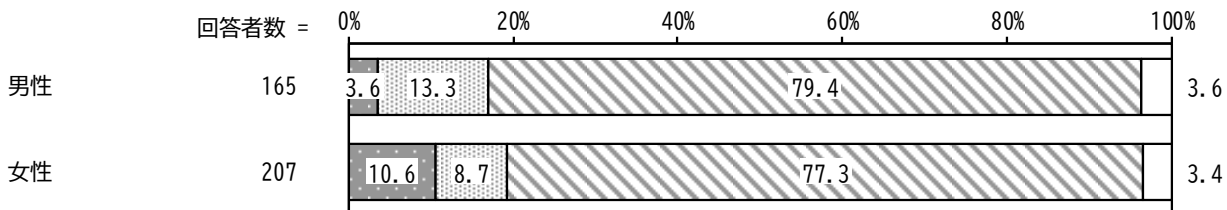
- 意味（内容）を知っている
- ▨ 聞いたことはあるが、意味（内容）は知らない
- ▧ 聞いたことがない
- 無回答



#### 【性別】

性別にみると、「意味（内容）を知っている」の割合は、男性が3.6%、女性が10.6%と、女性の方が7ポイント多くなっています。

- 意味（内容）を知っている
- ▨ 聞いたことはあるが、意味（内容）は知らない
- ▧ 聞いたことがない
- 無回答



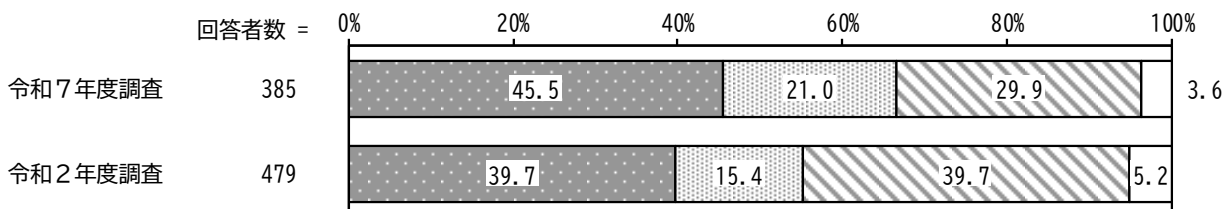
### ⑩ ダイバーシティ&インクルージョン

一人一人の多様性を受け入れ、認め合い、活かすこと

#### 【経年比較】

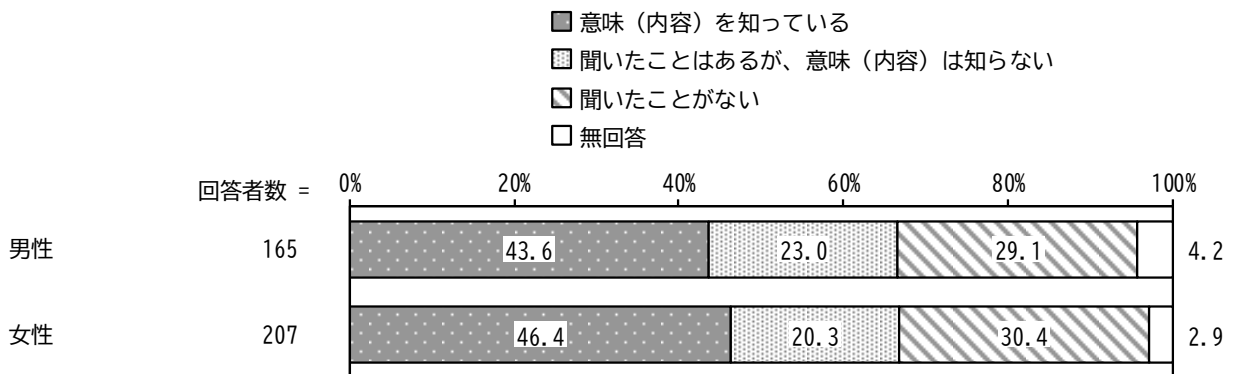
令和2年度調査と比較すると、「意味（内容）を知っている」の割合は、令和2年度調査が39.7%であるのに対し、令和7年度調査が45.5%と、5.8ポイント、「聞いたことはあるが、意味（内容）は知らない」の割合は、令和2年度調査が15.4%であるのに対し、令和7年度調査が21.0%と、5.6ポイント増加しています。一方、「聞いたことがない」の割合は、令和2年度調査が39.7%であるのに対し、令和7年度調査が29.9%と、9.8ポイント減少しています。

- 意味（内容）を知っている
- ▨ 聞いたことはあるが、意味（内容）は知らない
- ▧ 聞いたことがない
- 無回答



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

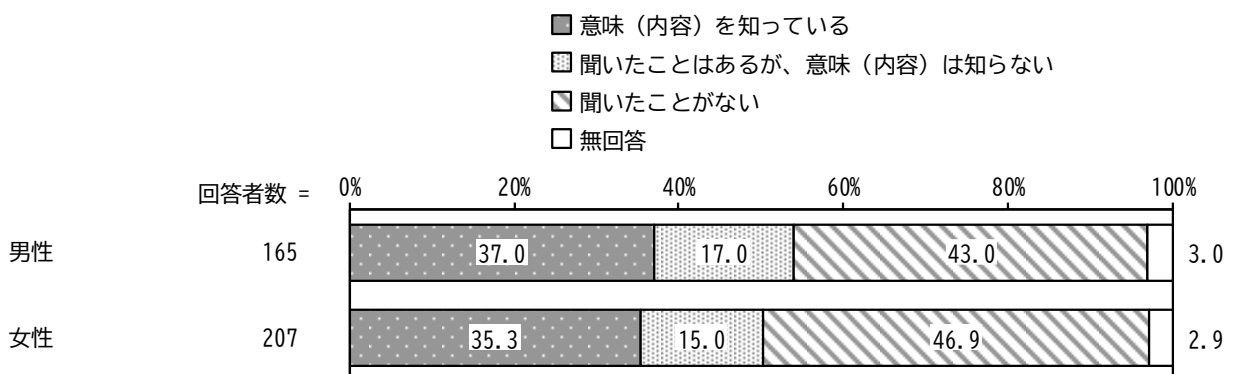


①アンコンシャスバイアス

無意識の偏見や思い込み

【性別】

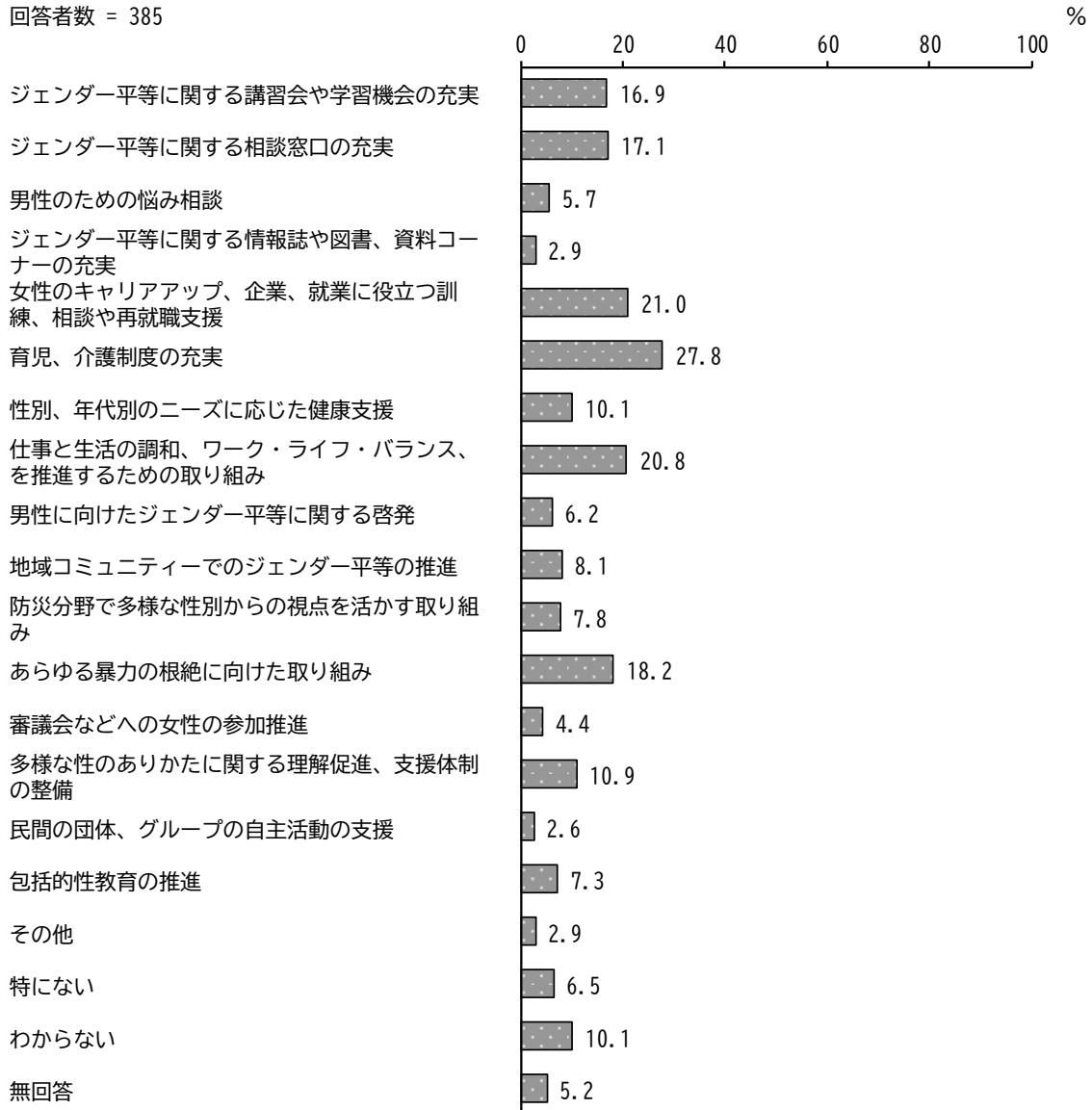
性別にみると、大きな差はみられません。



問 33 ジェンダー平等社会の形成のため特に区が取り組むべきこと（性的マイノリティ施策、DV 被害防止施策を含む）だと思えるものはどれですか。（○は3つまで）

「育児、介護制度の充実」の割合が 27.8%と最も高く、次いで「女性のキャリアアップ、企業、就業に役立つ訓練、相談や再就職支援」の割合が 21.0%、「仕事と生活の調和、ワーク・ライフ・バランス、を推進するための取り組み」の割合が 20.8%となっています。

回答者数 = 385



【性別】

性別にみると、「地域コミュニティでのジェンダー平等の推進」の割合は、男性が11.5%、女性が5.3%と、男性の方が6.2ポイント多く、「仕事と生活の調和、ワーク・ライフ・バランス、を推進するための取り組み」の割合は、男性が16.4%、女性が24.6%と、女性の方が8.2ポイント、「多様な性のありかたに関する理解促進、支援体制の整備」の割合は、男性が6.7%、女性が15.0%と、女性の方が8.3ポイント多くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	ジェンダー平等に関する講習会や学習機会の充実	ジェンダー平等に関する相談窓口の充実	男性のための悩み相談	ジェンダー平等に関する情報誌や図書、資料コーナーの充実	企業、就業に役立つ訓練、相談や再就職支援	女性のキャリアアップ、	育児、介護制度の充実	性別、年代別のニーズに応じた健康支援	仕事と生活の調和、ワーク・ライフ・バランス、を推進するための取り組み	男性に向けたジェンダー平等に関する啓発	地域コミュニティでのジェンダー平等の推進
全体	385	16.9	17.1	5.7	2.9	21.0	27.8	10.1	20.8	6.2	8.1	
男性	165	17.0	18.2	7.3	1.8	18.8	24.8	9.1	16.4	6.7	11.5	
女性	207	15.9	17.4	4.8	3.9	21.7	29.0	11.6	24.6	5.3	5.3	

区分	防災分野で多様な性別からの視点を活かす取り組み	あらゆる暴力の根絶に向けた取り組み	審議会などへの女性の参加推進	多様な性のありかたに関する理解促進、支援体制の整備	民間の団体、グループの自主活動の支援	包括的性教育の推進	その他	特にない	わからない	無回答
全体	7.8	18.2	4.4	10.9	2.6	7.3	2.9	6.5	10.1	5.2
男性	5.5	17.0	3.6	6.7	2.4	4.8	3.0	12.1	9.7	4.2
女性	10.1	18.4	5.3	15.0	2.4	9.7	2.9	2.4	10.1	5.8